GOVERNMENT OF INDIA

ARCHÆOLOGICAL SURVEY OF INDIA

CENTRAL
ARCHÆOLOGICAL
LIBRARY

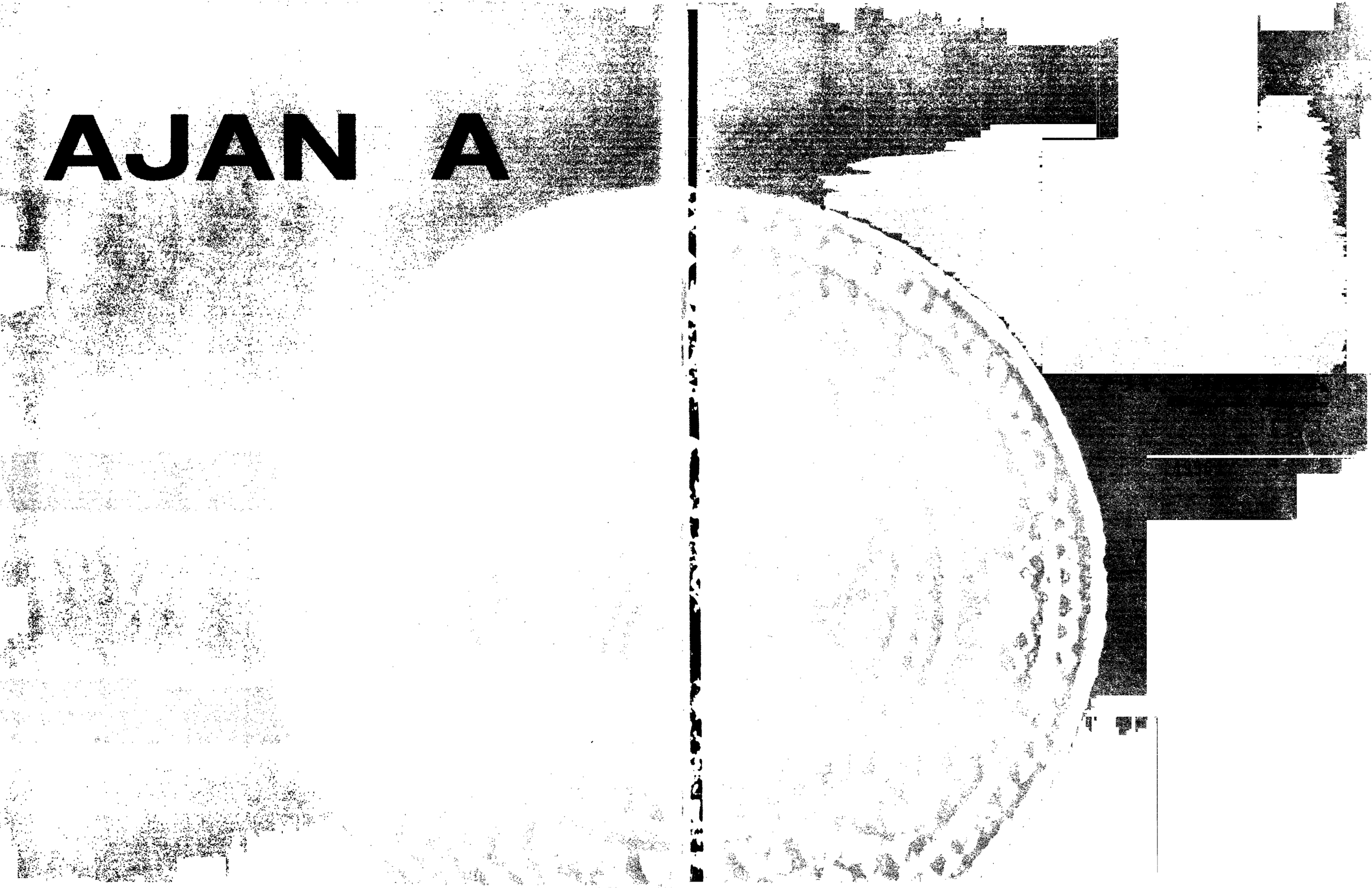
ACCESSION NO. 49964

CALL No. 751.730934/Tak/Tae

D.G.A. 79

アジャンタ

AJAN A



751.1094/Tak/Tae

© TEXT BY OSAMU TAKATA 1971
© PHOTOGRAPHS BY MIKIHIRO TAEDA 1971
PUBLISHED BY HEIBONSHA LTD., PUBLISHERS, TOKYO 1971

序

インド美術や佛教美術に関心を持つ人にはもちろん、インドの古跡を訪れる単なる観光旅行者にとっても、アジャンタはすばらしく魅力のある遺跡であるに相違ない。人里離れた山間の断崖に大小30もの石窟寺院が展開する景観は、まず目を奪うに十分であるが、近づいて見れば一つ一つの石窟が整然とした構成になる寺院建築であり、その内外には佛像以下多数の彫刻が刻まれていて、古代インド人が力と取り組んだ労作の跡に、誰しも驚嘆の眼をみはらすにはおれまい。しかもアジャンタの世界的に有名なゆえんはその壁画にあり、二千年のむかしに遡る一部の古画や、インド古典文化の最も発達した時期の制作にかかるきわめて水準の高い壁画を、インドではほかではほとんど見られない古代絵画を、豊富に保存しているのである。その貴重さはあらためていうを要しないであろう。

しかしこのアジャンタ石窟特にその壁画が世界の学者や画家の間で注目されるようになったのは、前世紀末にグリフィスの模写が刊行されてから以後である。そして今世紀の10年代にはハーリンガム女史の模写に続いて、わが日本画画家でその模写を試みた人のあったことも回想される。石窟が交通不便な山間に所在しているため、戦前では訪れる人も少なかったが、道路や設備の次第にととのってきた現在では、多数の観光客で賑わうようになり、それだけアジャンタがポピュラーになったことも否めない。

それにしてもアジャンタについては、その全貌を正しくとらえてこれを叙述した、手頃な依據するに足る書の少ないのかうらまれる。壁画を全面的に収載しているヤズダニの大冊4巻は、資料提供の点で最も大きな貢献をしており、われわれもその恩恵を常にこうむっているが、大冊にすぎて扱いにくい難がある。これに対して数年前にインド考古局の監修で出版されたゴーシュ編の書は、数人の学者の執筆に成るもので、アジャンタ全体の大要を行きとどこうとした、いわゆる手頃な書であるが、遺憾ながら壁画のカラー印刷がまずい。そのほかでは案内書的な小冊子を除き、内容的にも色彩でも見るべきものはほとんどないといいたい実情である。われわれが本書の出版を企てたのも、このような現状に対して、いささかでも学問的に寄与したいと念願したからにほかならない。

本書は田枝君が昨年の初め約2ヵ月にわたって撮影してきた写真を基礎とし、これに従来の研究成果や私自身の現地調査ないし考察に基づく本文を附し、寺院建築と彫刻とそして壁画とからなるこのアジャンタの全貌、少なくともその大要を、図と文とによって明らかにするとともに、多数の原色図版を通

して特にアンコール遺跡のたたずまいを再現し、これが鑑賞にも資そうとしたものである。

図版については、全体の景観から各部の細部にわたり、努めてまんべんなく石窟の全体を見通しうるように心掛けたが、ことに壁面の豊富に富む四つの僧院窟や、彫刻による荘厳の賑やかな二つの石室窟には特に重点をおいたほか、従来はとんど全く紹介されなかった浮彫や仏像彫刻をも多く示すことができた。しかし唯一に関しては、勿論損傷がひどいことはいうまでもなく、ほぼ豊富で且つ大型にわたっているため、撮影上の事情や制約も多く、必ずしも満足とはいかなかったが、重要な論点はおおいて入れられており、なお一部は別図を加えて補足した。最近の化学的保存処置により、往年の色調をとりもどしつつある壁画の現状は、本書の色彩図版がよくこれを示すであろう。

本文では4章に分けて記述し、この石窟寺院の全貌に関する正しい理解に役立つことを期した。序説では、アンコール石窟の地理的な概要を記述し、この地への案内をも兼ねるとともに、特にその建築のイントロとしては東洋の大寺院上における位置づけを試みたほか、第Ⅰ章では、石窟の前後2期にわたるこの寺院を寄進者などの文献から探り、ひいては発見から現以後における調査、また史学や考古学上にまで及び、さらに石窟寺院の成立過程についても眺めた。第Ⅲ・第Ⅳの2章においては本論で、第Ⅲ章では、ヒンドゥー教の神々のイコノロジーに基づき、主要な石窟の造営動機を考察したほか、第1節においてはその概説として第1期と第2期の間における変化のことを、第2節第5節から第7節までは個別的に見た特色のことにも触れ、また諸窟に特有な多数の彫刻に関しても考察した。

第Ⅳ章では、その石窟に刻まれた[illegible]を個別的に考察したのに続いて、壁面の主題内容に関し、[illegible]に役割を果たすことのあるように、その建築・装飾・造型[illegible]のことを、それらの[illegible]起源と相互に表示するとともに、[illegible]における[illegible]を考察した。[illegible]は、従来[illegible]の建築[illegible]アンコール石窟[illegible]考察[illegible]特に[illegible]第4節[illegible]・[illegible]の場合については、[illegible]年第16、17、1、2[illegible]の[illegible]を提案した。[illegible]

アジャンタを全体的に把握してこれを妥当に記述することは、なかなか容易ではないが、豊富な図版を伴うことにより、本文の記述も補われるところはなはだ大であり、互いに相依ってその真髄を伝達するのに役立つものと信じる。写真が鮮明であり、ことに原色図版が壁画の真を伝えるのに近いことは、従来の出版と比較すれば自ら明らかであろう。本書の執筆は私にとって労多い仕事であったが、この図版を生かして学界にいささかでも寄与したい念願にかられて、ようやくその業を終えることができた。ここにこの出版の促進に努力された平凡社の担当各位に厚謝し、且つ敬意を表する次第である。

なお附載として壁画の材質に関する専門家としての一文を寄せられた名古屋大学の山下善教授、および別図の３分の１以上の写真を提供して頂いた木下シゲコ氏に、厚くお礼を申し述べたい。

１９７１年９月

高田　　修

目　次

序 …… 高田　修

図　版　1　179

別　図　1　29 …… 56

本　文

I　序　説 …… 3

1　アンティンタ石窟群 …… 3

2　[illegible] …… 5

II　沿　革 …… 7

1　石窟の造営 …… 7

2　発見以後 …… 11

1)　発見 …… 11

2)　壁画の配列と図様 …… 12

3)　保存 …… 14

III　石　窟 …… 16

1　第1大窟 …… 16

2　第2大窟 …… 18

1)　[illegible]窟 …… 18

2)　僧院窟 …… 19

3　彫刻 …… 21

IV　壁　画 …… 26

1　各窟壁画の配置 …… 26

1)　[illegible]の壁画 …… 26

第10窟 (26)　第9窟 (27)　第19窟 (27)

2)　僧院窟の壁画 …… 28

第16窟 (28)　第17窟 (30)　第1窟 (33)　第2窟 (36)　その他の窟 (40)

2　[illegible] …… 41

1)　[illegible] …… 42

[illegible] (42)　[illegible] (43)　その他 (43)

2) 仏教説話画 …… 44
本生図・雪嶺物語図 (45)　仏伝図 (48)
3) 説話画の描写形式 …… 51
3 様式と技法 …… 54
4 インド絵画史とアジャンタ …… 65
V 結　び …… 69
註　記 …… 71
附載　アジャンタ壁画の材質 …… 山竹　一集 … 76
図版解説　附・別図解説 …… 79
参考文献 …… 104
撮影雑感 …… 田枝幹宏 …106
図版・別図・挿図目録 …… 109
索　引 …… 113
折込図版（石窟平面図・撮影見取図）

装丁・レイアウト　平凡社編集部

凡　例

1 [illegible]

2 [illegible] 1 [illegible], [illegible] 2 [illegible] 4 [illegible] 16, 17, 1, 2 [illegible]

3 [illegible]

4 [illegible]

5 [illegible]

6 [illegible]

7 [illegible]

図　　版

1 石窟群中央部 [illegible] Central Part of the Caves (*Ref* Pl 27)

2 第10窟 左側廊　Left Aisle, CAVE 10

3 第10窟(祠堂窟) 内部 身廊と佛塔 Nave and Caitya Interior, CAVE 10 (Caitya Cave)

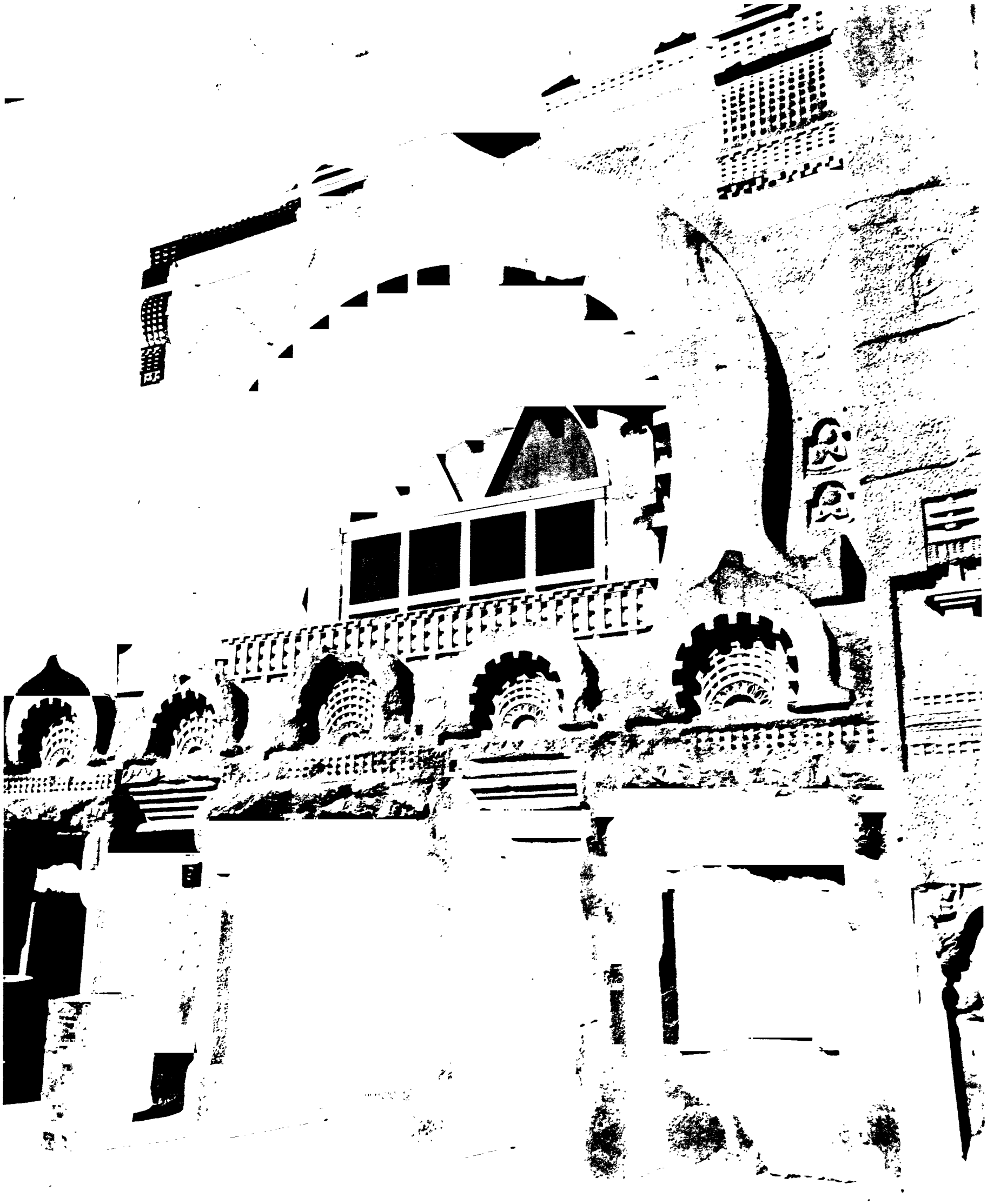
4 第8～10窟間 正面壁と佛像彫刻 Sculptured Façades of CAVES 8-10

5 第10窟 左列柱の柱絵 仏陀像 Buddhas Painted on Octagonal Pillars, Left Row, CAVE 10

6　第10窟　佛塔背後の柱絵　佛と片目の比丘　Preaching Buddha One-eyed Monk. Painted on a Pillar behind the Caitya, CAVE 10

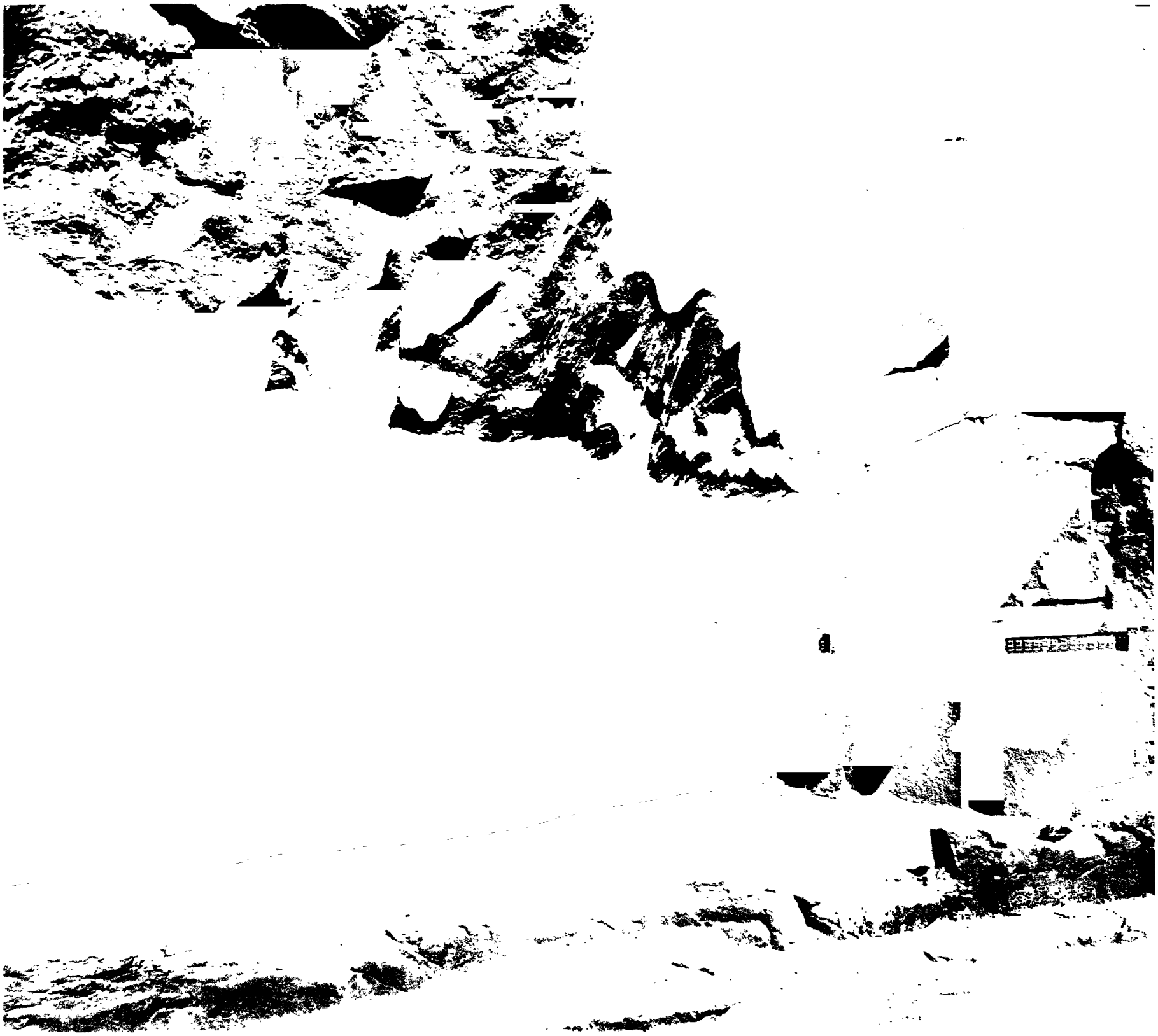
7 第10窟 左側廊 佛塔供養 部分（模写） Worship of Stūpa, Part (Copy) Left Aisle, CAVE 10
8 第10窟 左側廊 菩提樹供養 部分（模写） Worship of Bodhi-tree, Part (Copy) Left Aisle, CAVE 10

9 第9窟 祠堂窟 内部 身廊と佛塔 Nave and Caitya Interior, CAVE 9 (Caitya Cave)



10 第9窟 正面 Façade, CAVE 9

11 第9窟 正面右上部　Upper Right of the Façade, CAVE 9



12 第12窟:僧院窟 CAVE 12 (Vihāra Cave)

13 第16窟 僧院窟 内部 Interior, CAVE 16 (Vihāra Cave)

14 第16窟 佛堂本尊 佛倚坐像（彫刻） Buddha Seated with Legs down (Sculpture) Inner Shrine, CAVE 16

15 第16窟 前廊天井 Ceiling of the Front Corridor CAVE 16

16 第16窟 前廊天井 男女の飛天（彫刻） A Flying Celestial Couple (Sculpture) Ceiling, Front Corridor, CAVE 16

17 第16窟 前廊天井 男女の飛天（彫刻） A Flying Celestial Couple (Sculpture) Ceiling, Front Corridor, CAVE 16

18 第16窟 左廊 飛天 A Flying Apsaras Left Corridor, CAVE 16

19 第16窟 左廊 ナンタ出家物語 部分(1) Story of the Conversion of Nanda, Part (1) Left Corridor, CAVE 16

20 第16窟 左廊 ナンダ出家物語 部分(2) Story of the Conversion of Nanda, Part (2). Left Corridor, CAVE 16

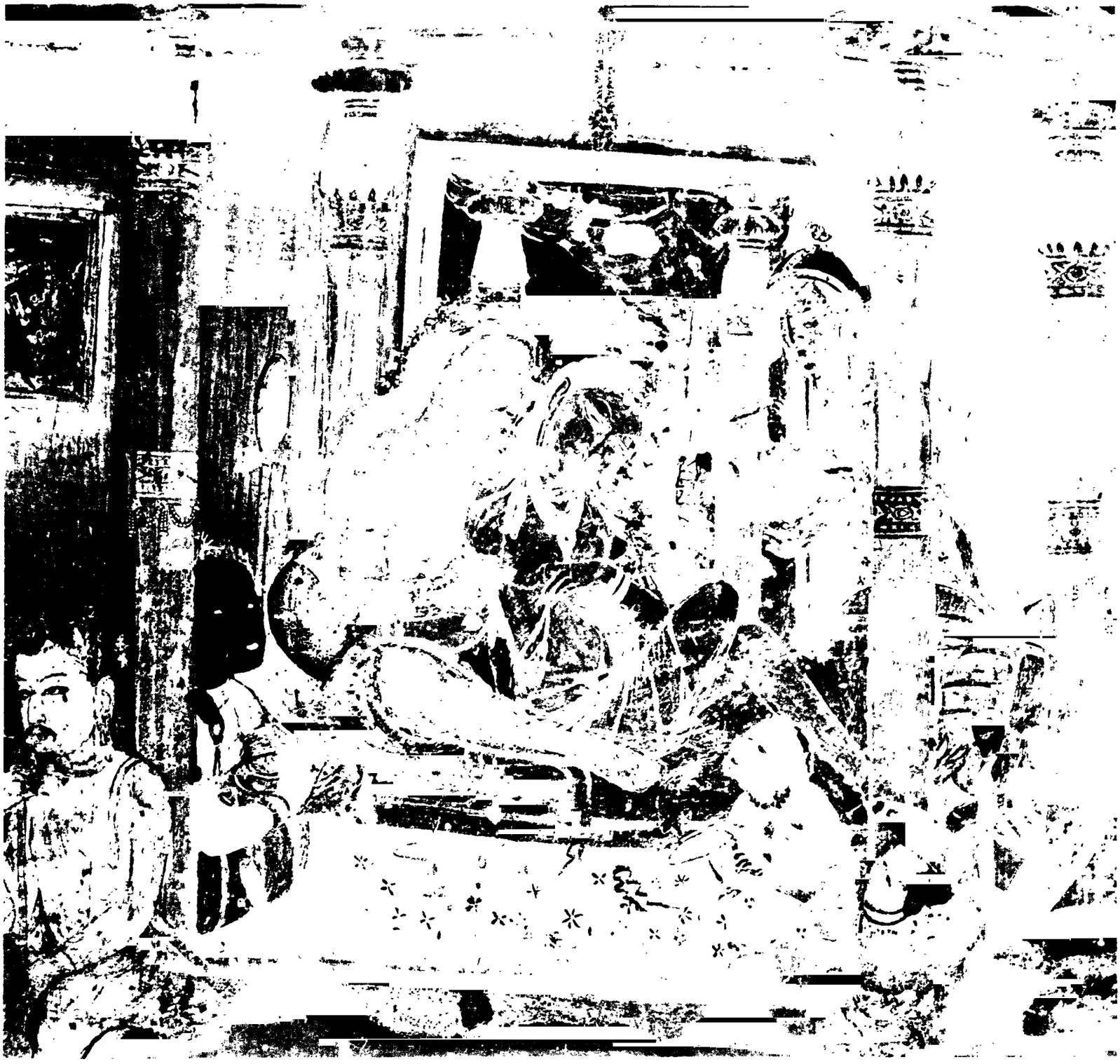
21 第17窟（僧院窟）中央入口右上部　Upper Right of the Main Entrance, CAVE 17 (Vihāra Cave)

22 第17窟 中央入口上部 過去七佛とミトゥナ 部分 Seven Past Buddhas and Couples, Part Above the Main Entrance, CAVE 17

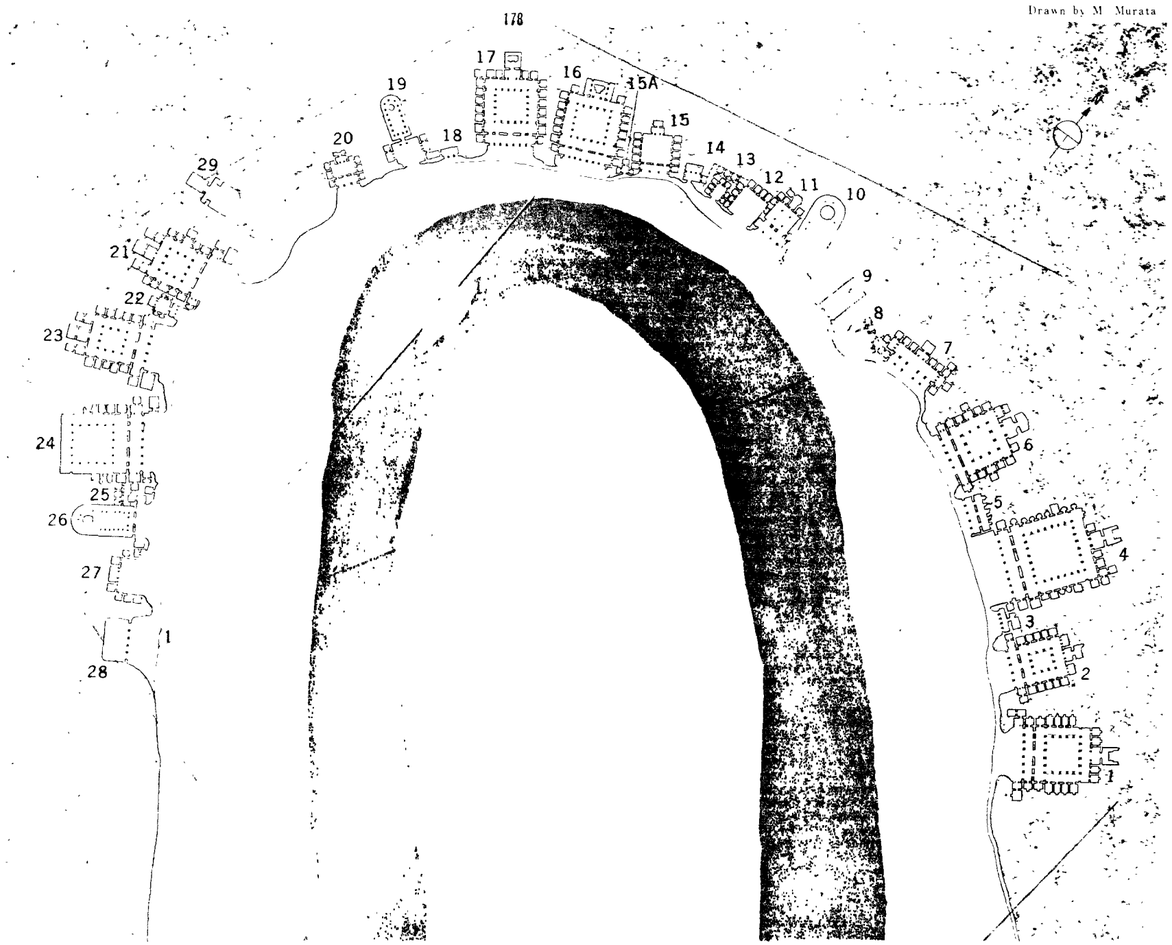
23 第17窟 正面廊 酔象降伏 Subjugation of the Mad Elephant Verandah, CAVE 17

24 第17窟 正面廊 飛天の群れ Flying Deities Verandah, CAVE 17

25 第17窟 正面廊 王の行列 A Royal Procession Verandah, CAVE 17

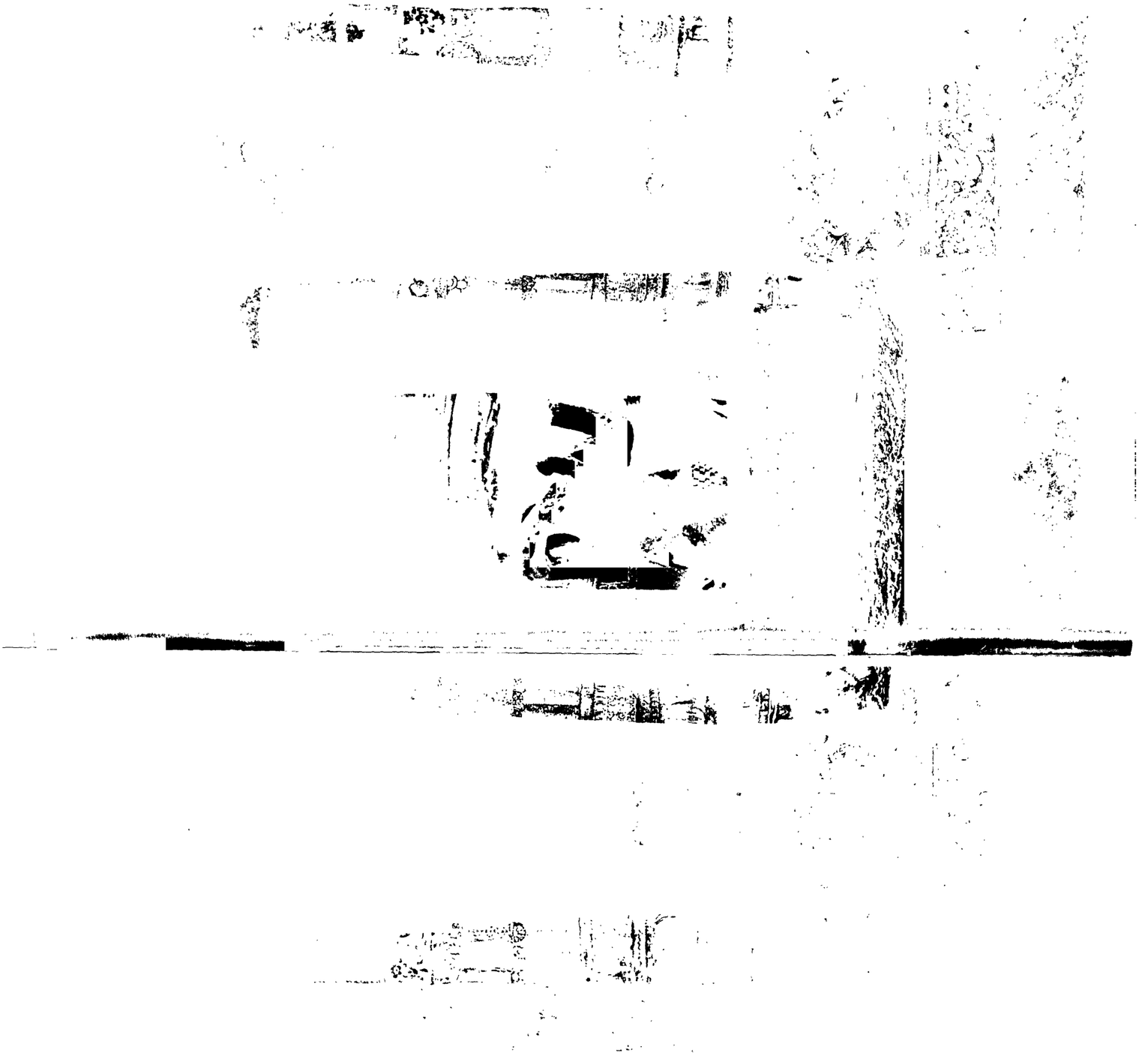


26 第17窟 正面廊 後宮の恋 A Royal Love Scene Verandah, CAVE 17.



29 The *Viśvantara Jātaka*(?), Part Verandah, CAVE 17

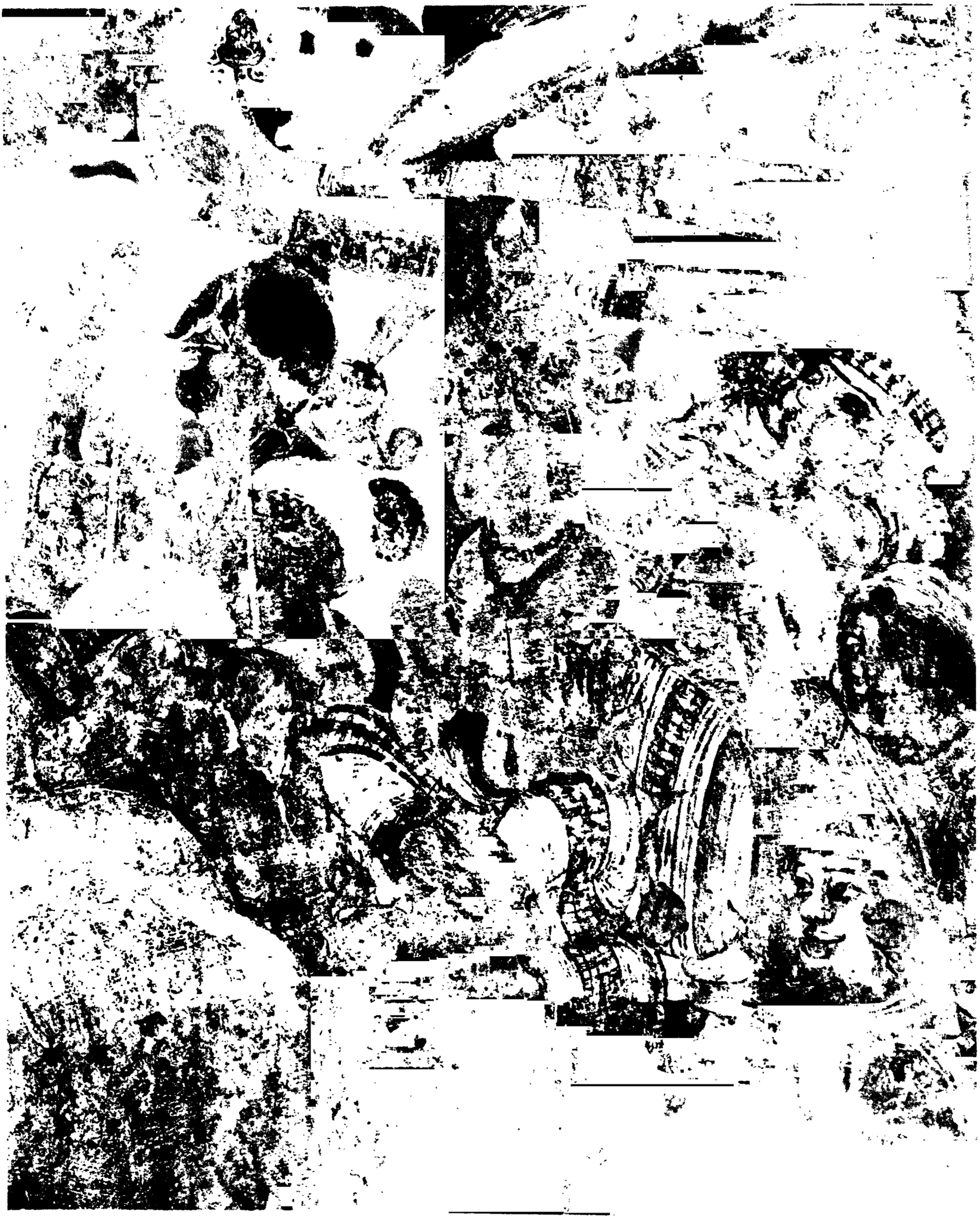
30 第17窟 佛堂本尊 佛三尊 彫刻 Buddha Triad (Sculpture) Inner Shrine CAVE 17



32 第17窟 佛堂と前室　Inner Shrine and Antechamber, CAVE 17

33 第17窟 佛堂前室後壁 佛と母子の供養 Buddha Receiving Alms flom a Mother with a Child Back Wall, Antechamber, CAVE 17

34 第17窟 佛堂前室左柱 鼓腹のヤクシャ2人 Two Corpulent Yaksas A Left Pillar, Antechamber, CAVE 17



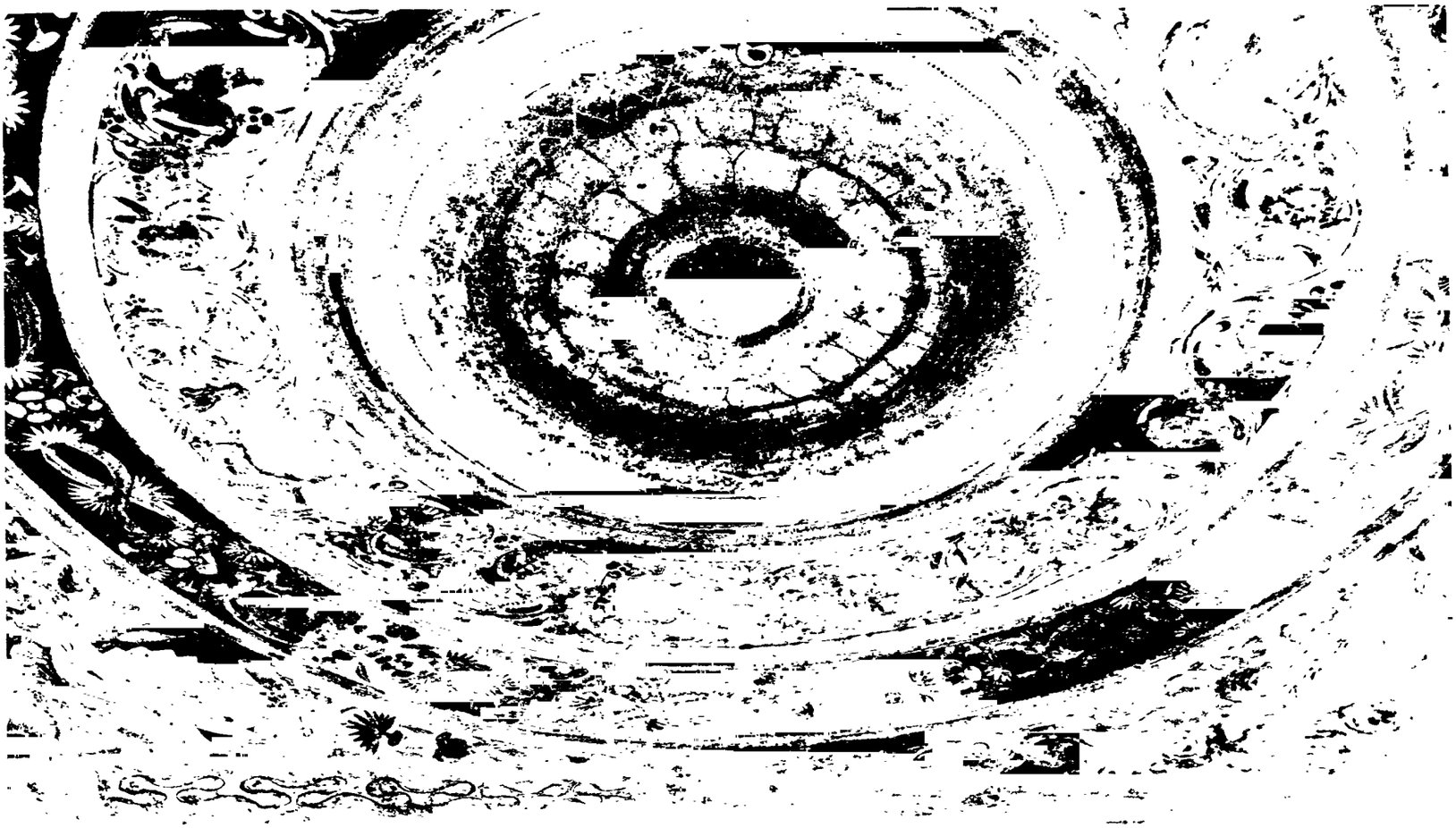
35 第17窟 (佛堂前室左壁 三道宝階降下 部分) Descent from the Heaven, Part (1) Left Wall, Antechamber, CAVE 17

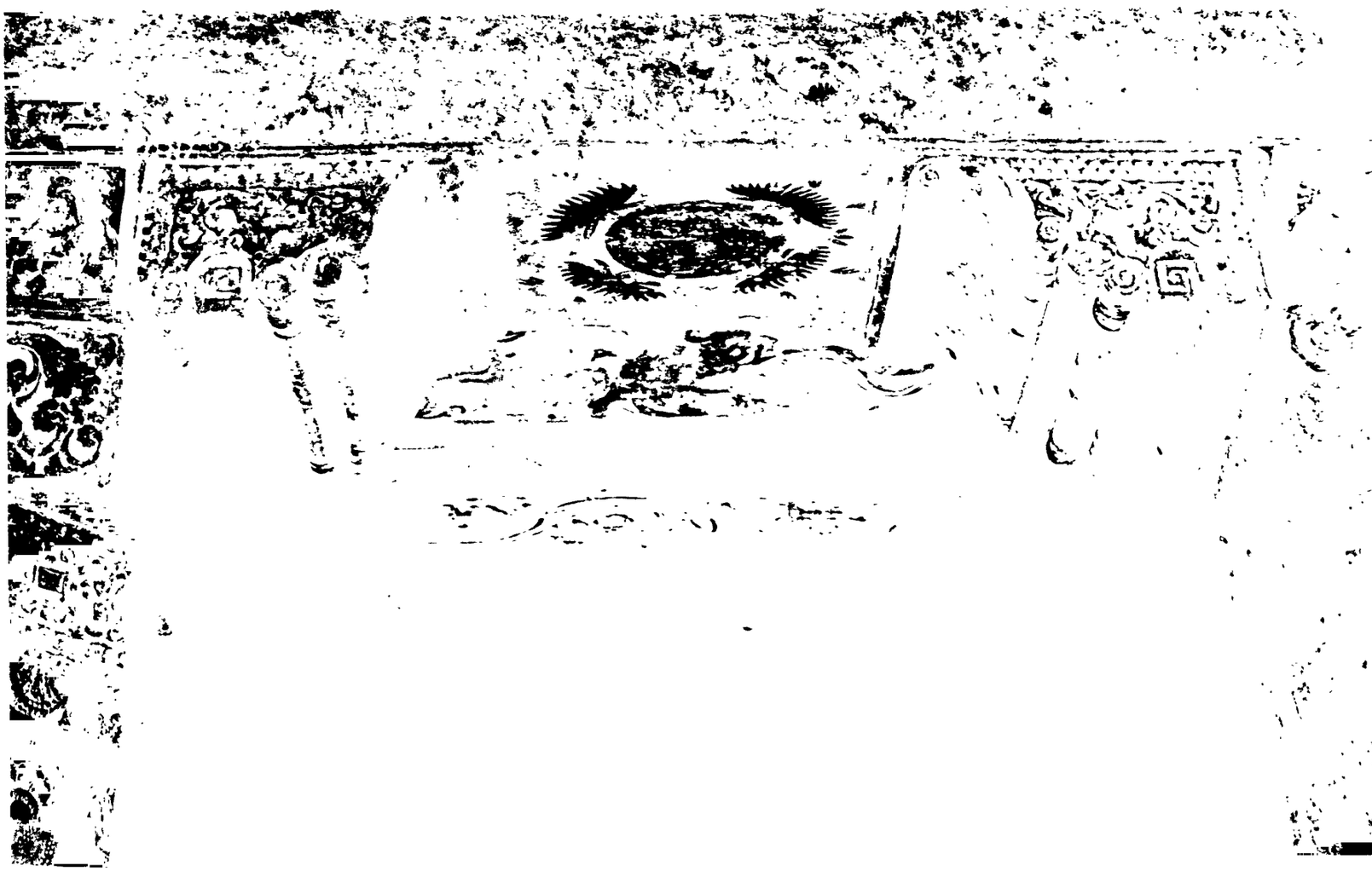
36 第17窟 佛堂前室左壁 三道宝階降下 Descent from the Heaven. Left Wall, Antechamber, CAVE 17

37 第17窟 佛堂前室左壁 三道宝階降下 部分12 Descent from the Heaven, Part (2) Left Wall, Antechamber, CAVE 17

38 第17窟 佛堂前室左壁 三道宝階降下 部分 3 Descent from the Heaven, Part (3) Left Wall, Antechamber, CAVE 17

39　第17窟 佛堂前室右壁　舎衛城の大神変　部分　The Great Miracle at Śrāvastī, Part. Right Wall, Antechamber, CAVE 17



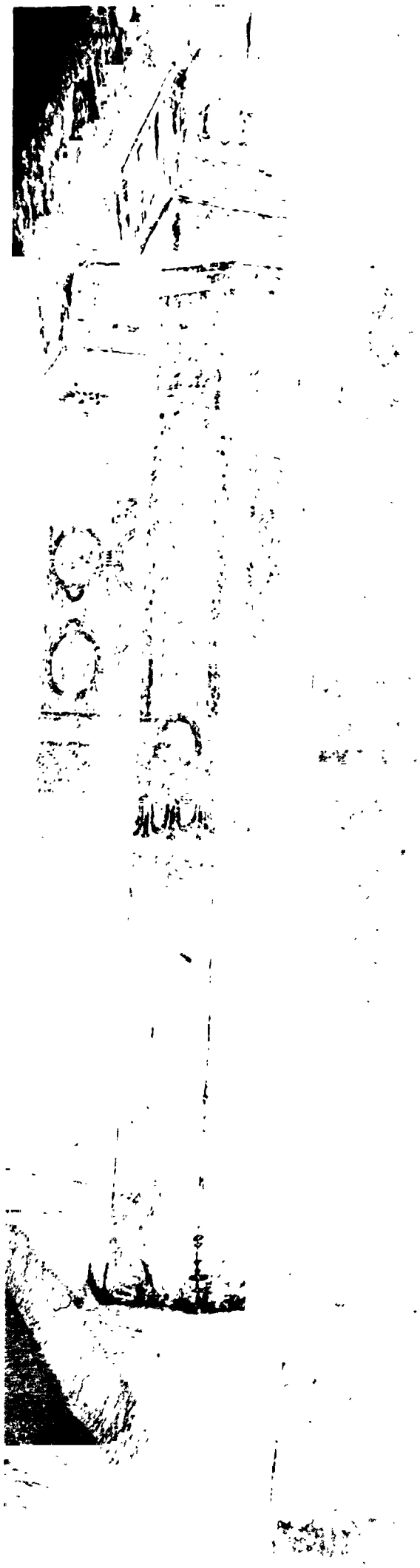


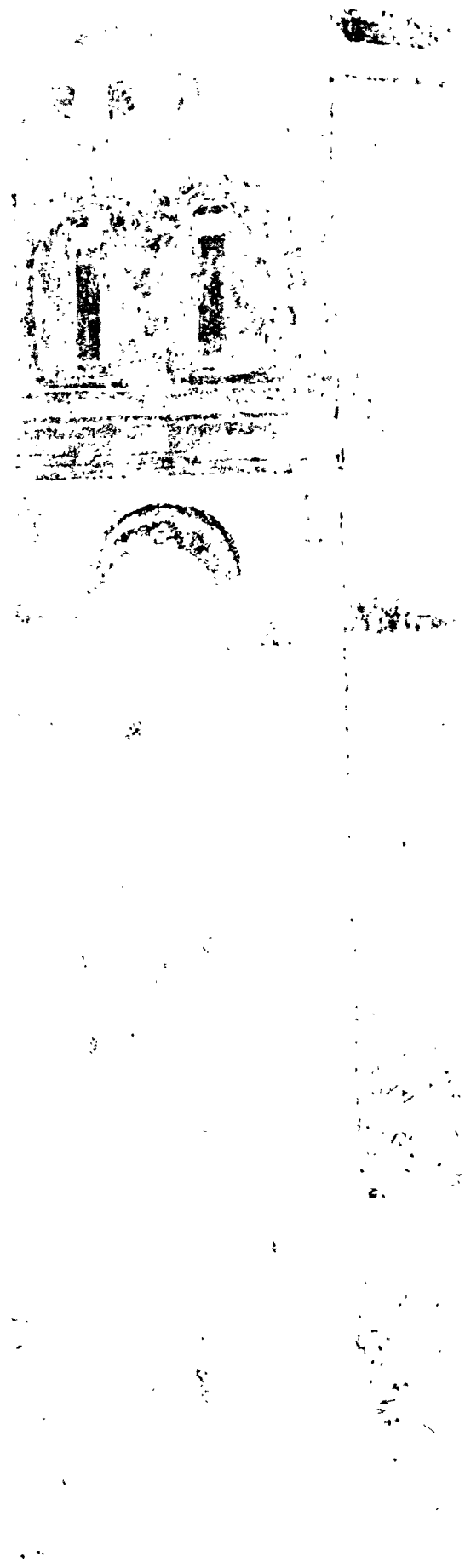
40 第17窟 前廊中央 天井装飾（中央入口側より） Ceiling Decoration Central Part, Front Corridor, (From the Main Entrance), CAVE 17

41 第17窟 広間 天井装飾 1　　Ceiling Decoration (1)　Hall, CAVE 17

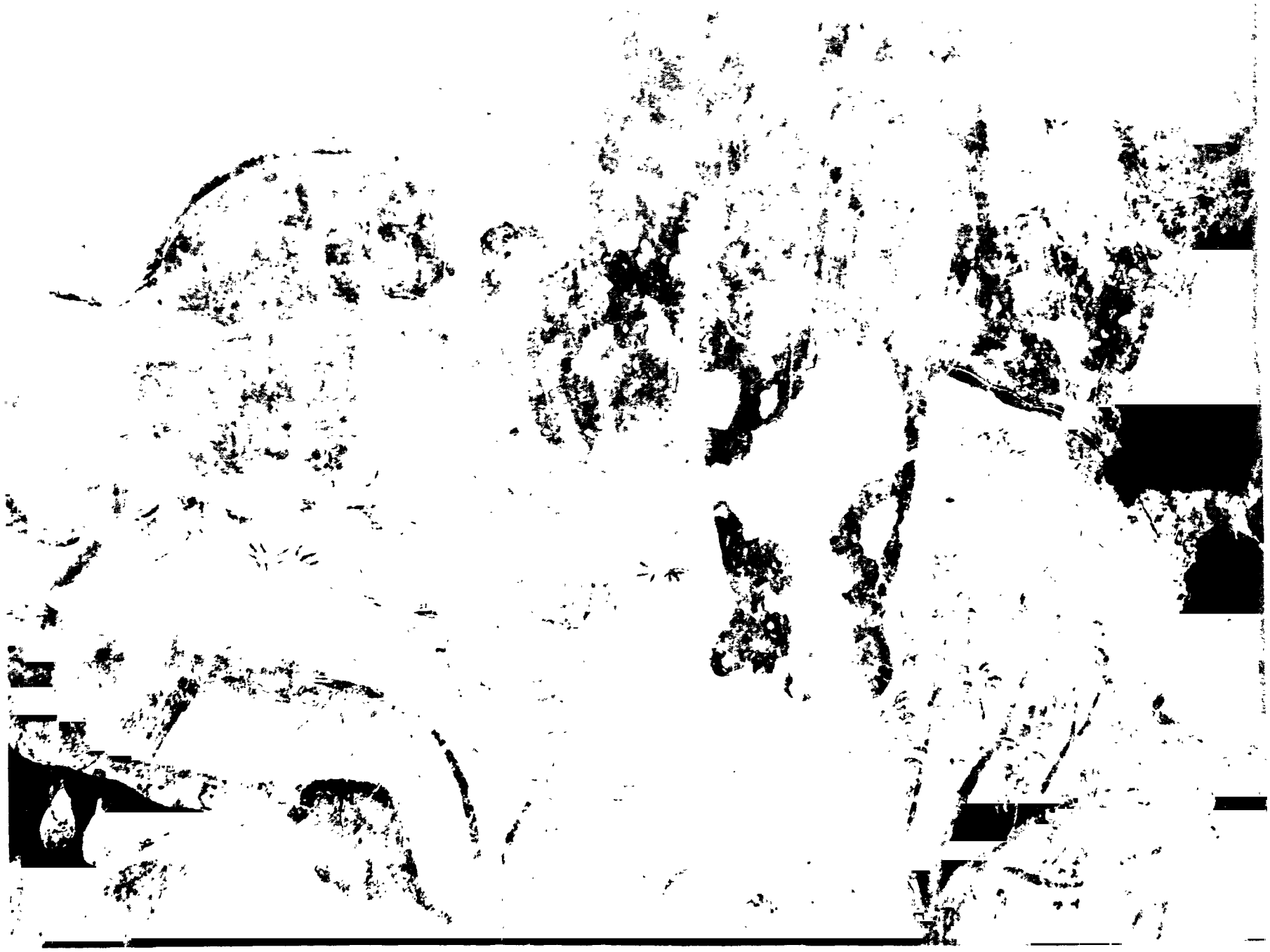
42 第17窟 広間 天井装飾 (2) Ceiling Decoration (2), Hall, CAVE 17

43 第17窟 広間 天井装飾 3　Ceiling Decoration (3)　Hall, CAVE 17





44 第17窟 広間右側列柱 Right Row of Pillars, Hall, CAVE 17



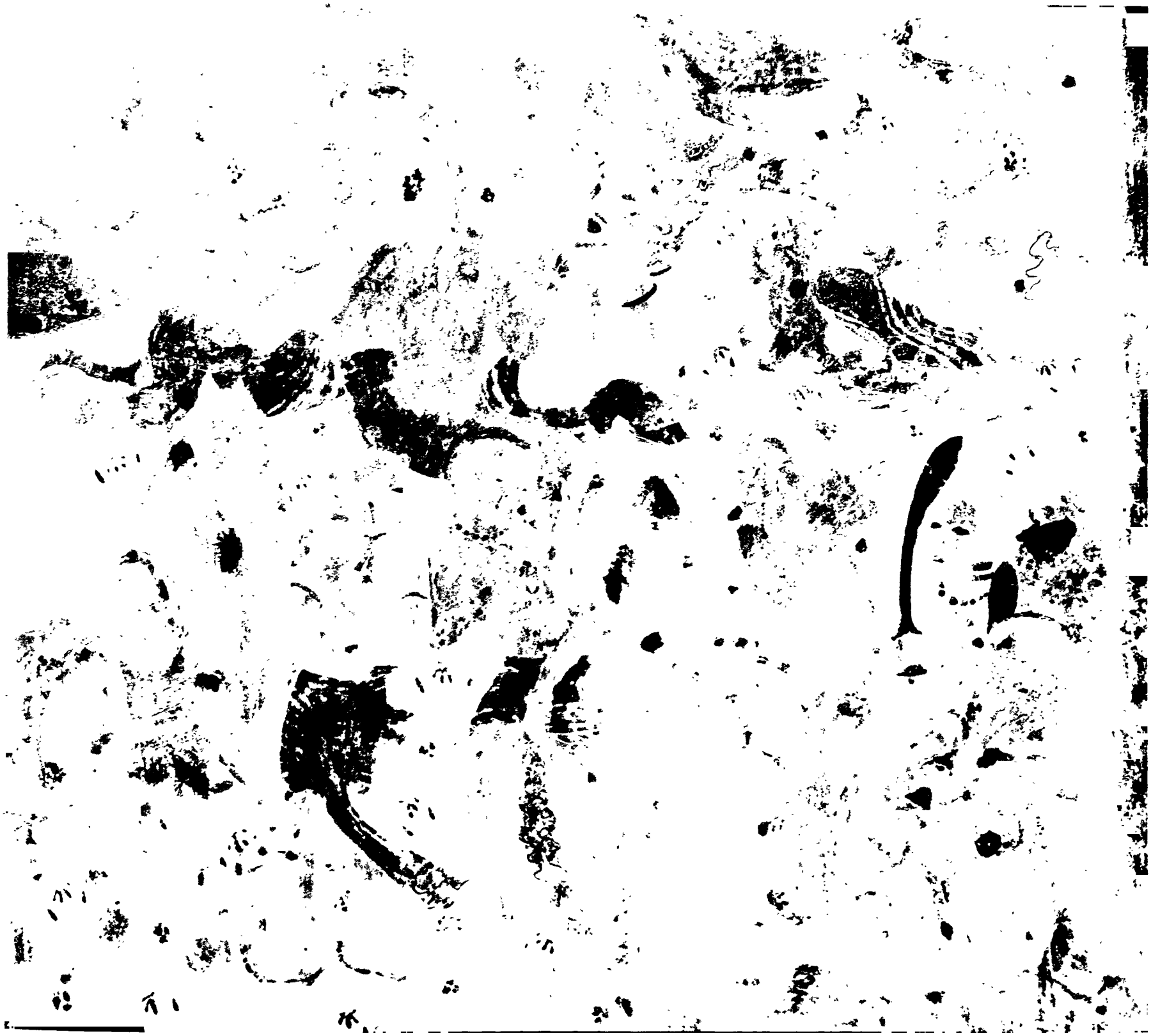
45 第17窟 前廊左部 六牙白象本生 部分 The *Saddanta Jātaka*, Part Left Part, Front Corridor, CAVE 17

46 第17窟 前廊左壁 ハンサ本生 部分 The *Hamsa Jātaka*, Part Left Wall, Front Corridor, CAVE 17

47 第17窟 左廊 ウィシュヴァンタラ本生 部分(1) The *Viśvantara Jātaka*, Part (1). Left Corridor, CAVE 17

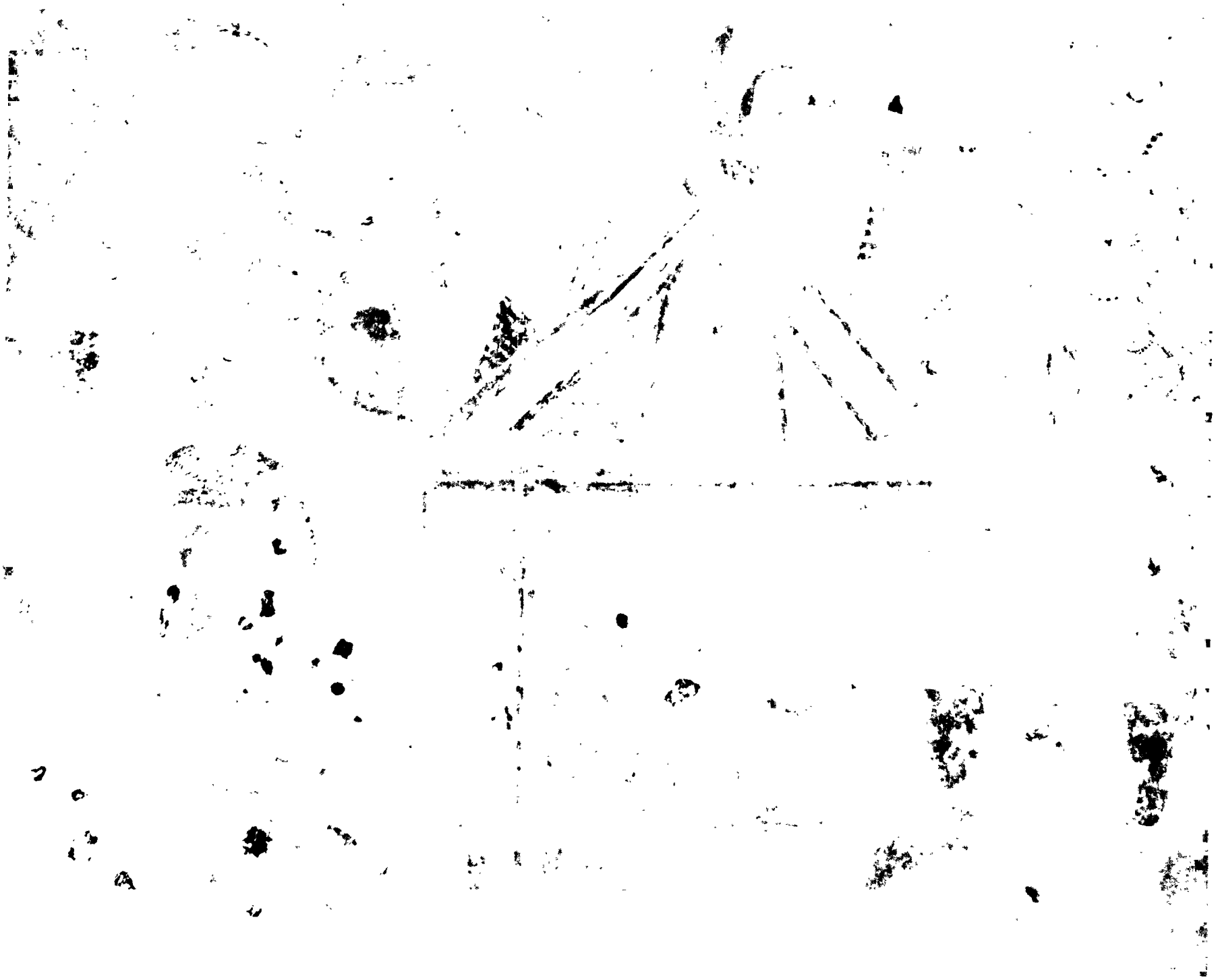
48 第17窟 左廊 ウ・シュウーンタラ本生 部分(2) The *Viśvantara Jātaka*, Part (2) Left Corridor, CAVE 17

49 第17窟 後廊左部 スタソーマ本生 部分 The *Sutasoma Jātaka*, Part Left Part, Back Corridor, CAVE 17

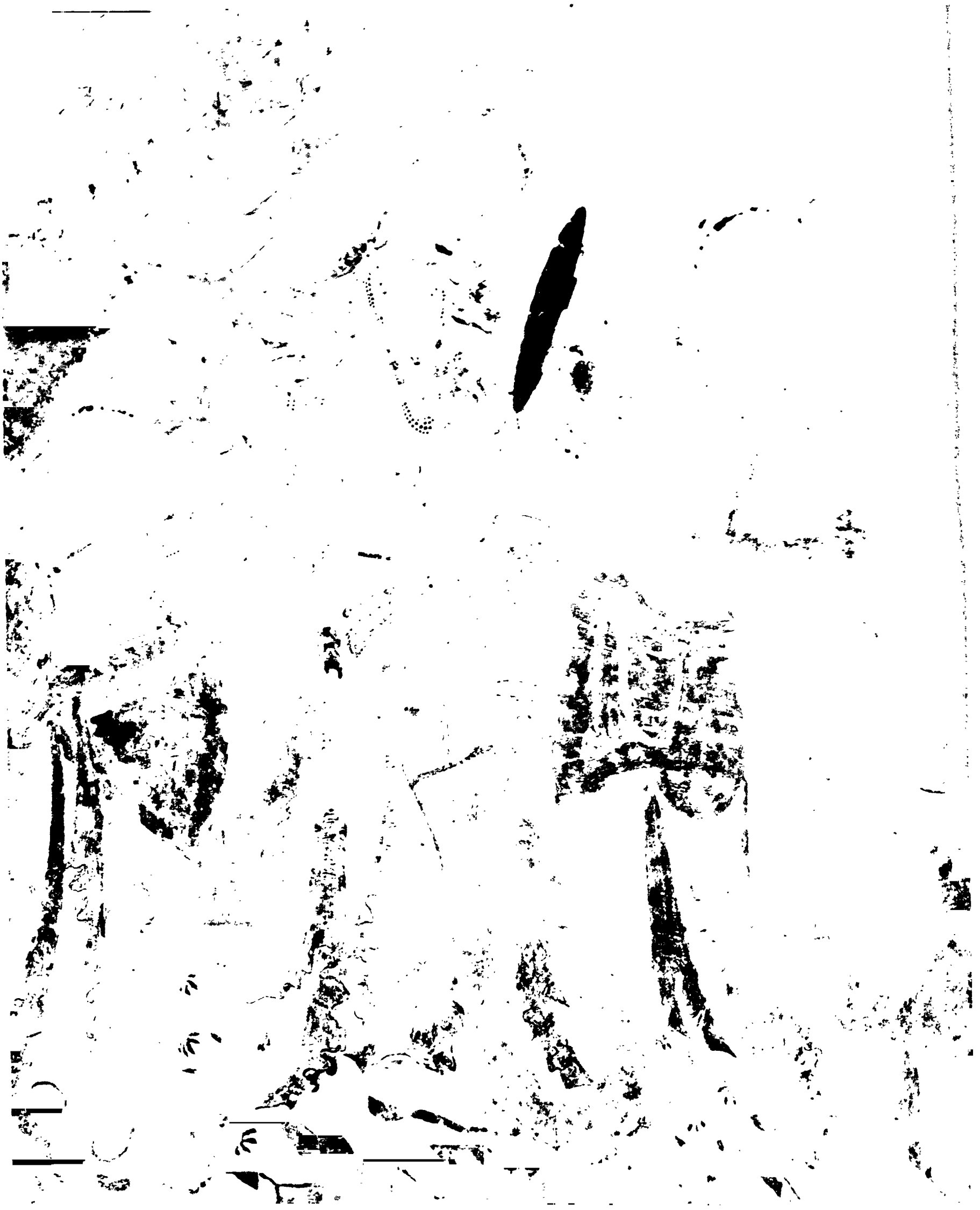


50 第17窟 右廊 シンハラ物語 部分1　The *Simhala Avadāna*, Part (1) Right Corridor, CAVE 17

51 第17窟 右廊 シンハラ物語 部分 2　The *Simhala Avadāna*, Part (2)　Right Corridor, CAVE 17

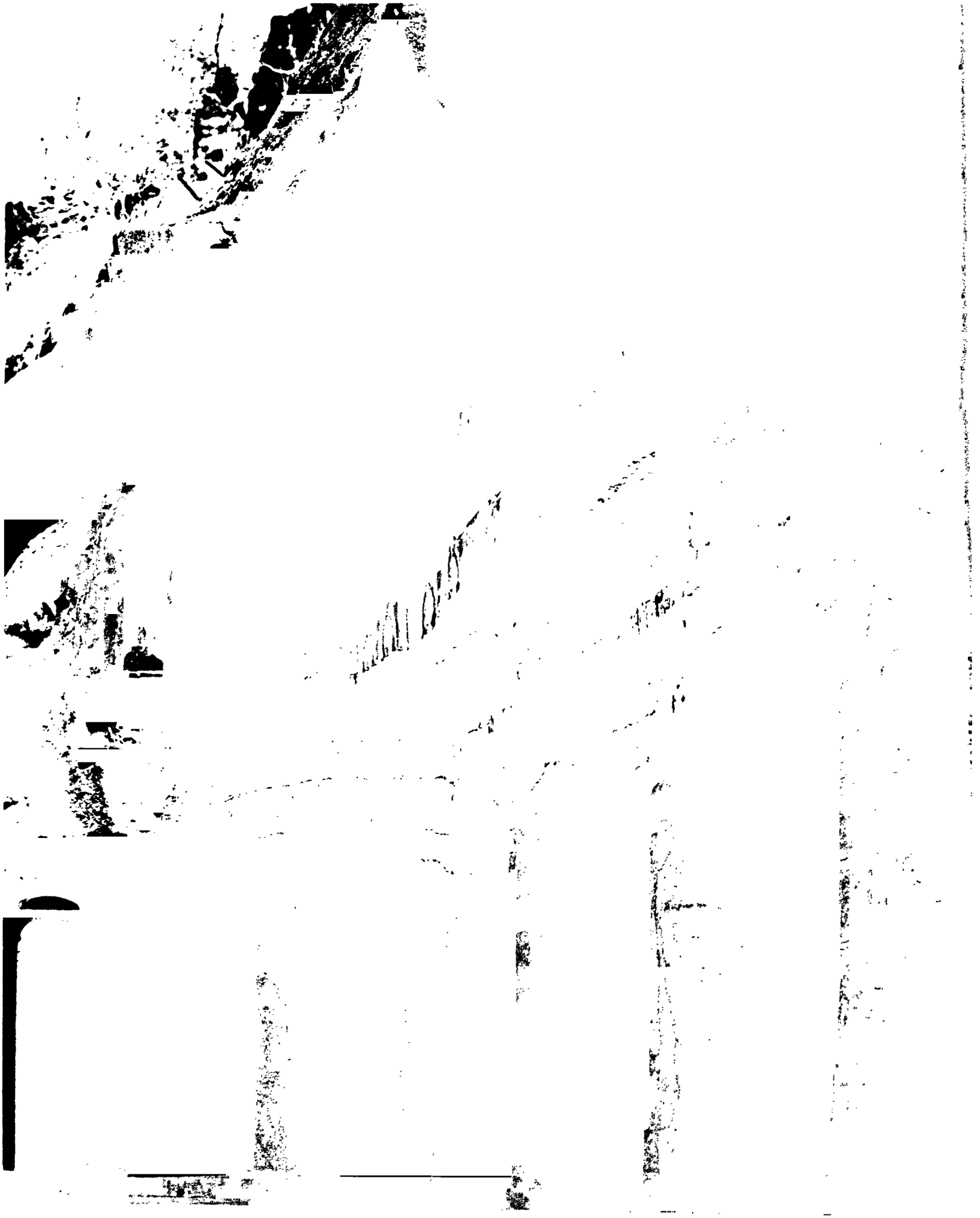


52 第17窟 右廊 シンハラ物語 部分 3 The *Simhala Avadāna*, Part (3). Right Corridor Wall, CAVE 17

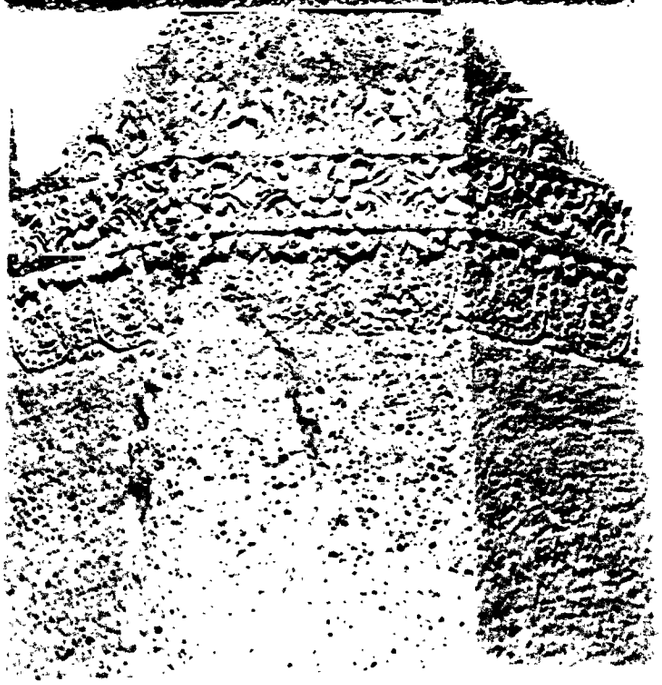


53 第17窟 右廊壁柱 化粧 Toilet Scene Pilaster, Right Corridor, CAVE 17

54 第17窟 前廊右壁 或る説話図 部分 A *Jātaka* or *Avadāna* Scene, Part Right Wall, Front Corridor, CAVE 17

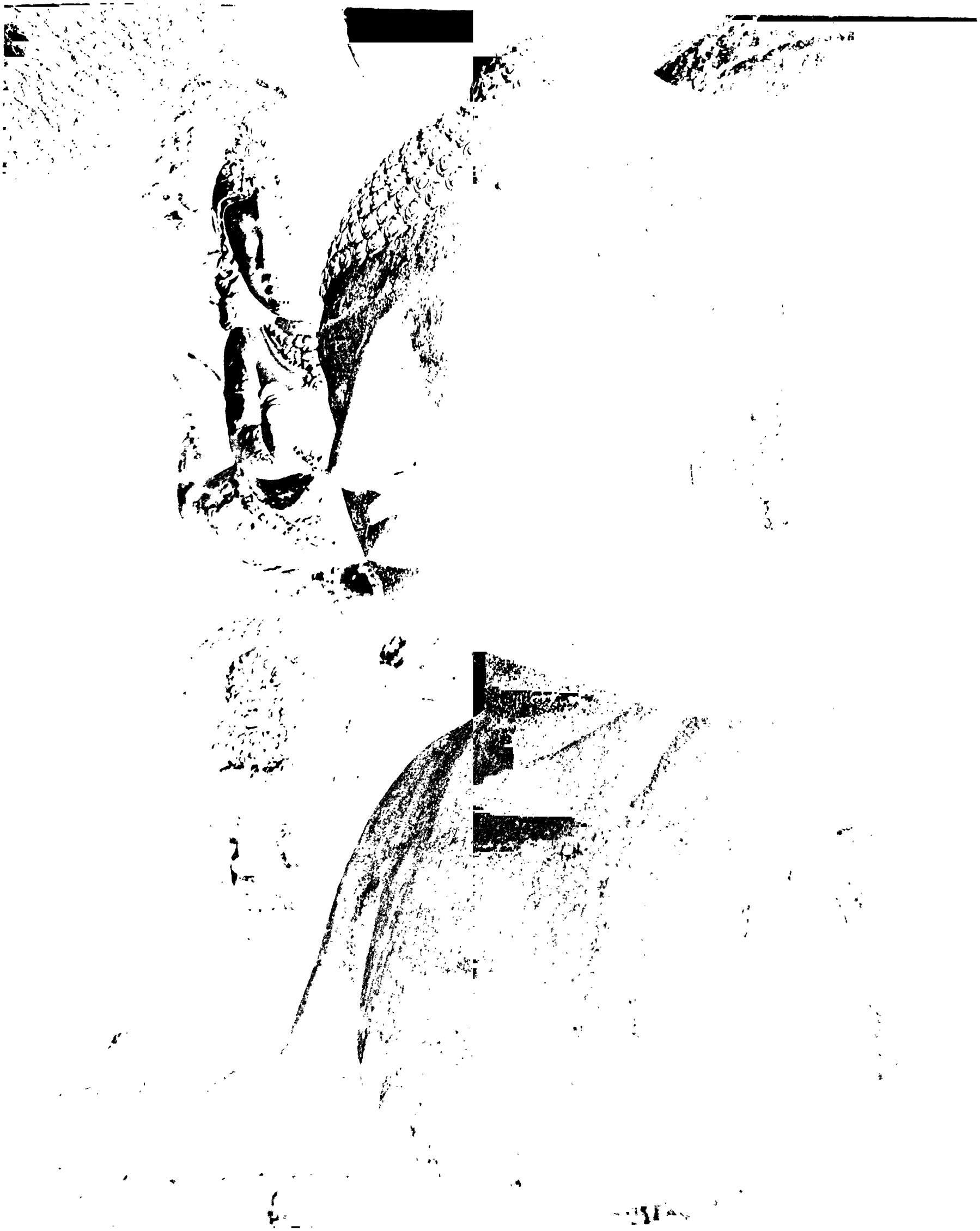


55 第1窟 僧院窟 正面左部 Left Part of the Façade, CAVE 1 (Vihāra Cave)



56 第1窟 正面柱上部 装飾浮彫 降魔 Decorative Reliefs (Māra's Attack) Capital and Brackets of a Pillar, Façade, CAVE 1

57 第1窟 佛堂本尊 佛三尊 彫刻 Buddha Triad (Sculpture) Inner Shrine, CAVE 1



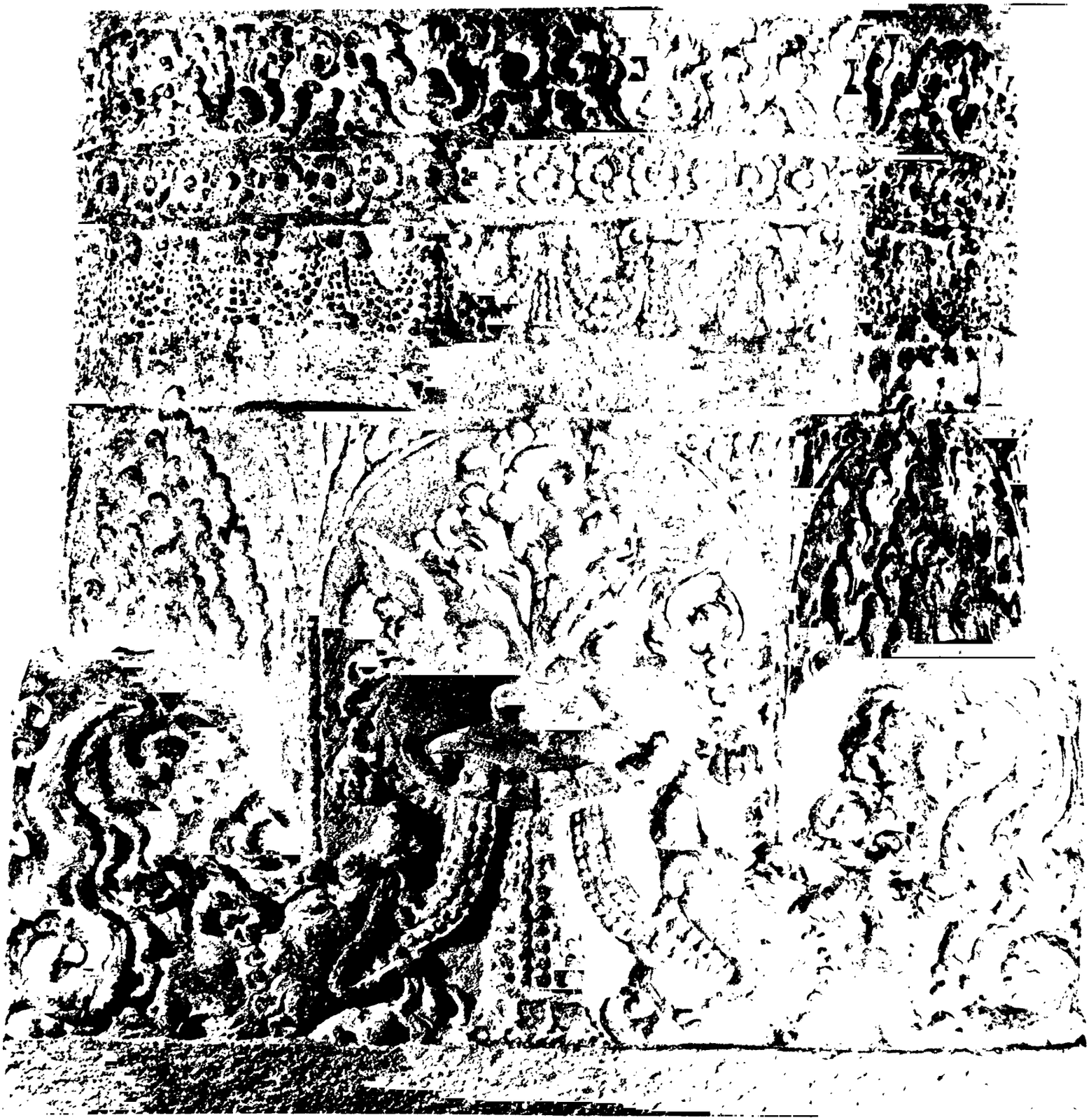
58 第1窟 佛堂本尊 佛坐像 彫刻 部分 Seated Buddha (Sculpture), Part Inner Shrine, CAVE 1

59 第1窟 佛堂前室 天井装飾 Ceiling Decoration. Antechamber, CAVE 1

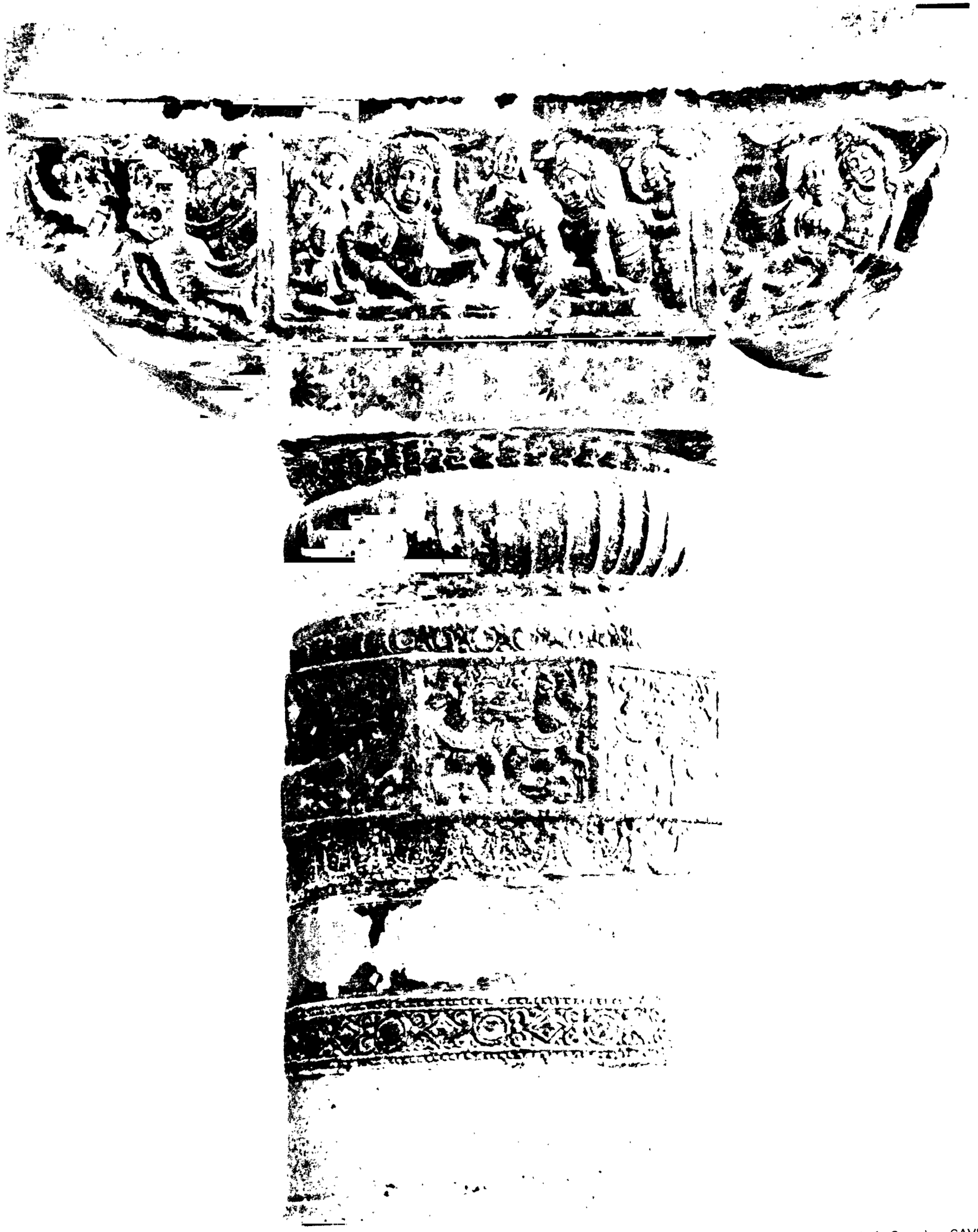
60 第1窟 正面柱および軒蛇腹浮彫 Decorative Reliefs. Upper Part of a Pillar and Part of Entablature, Façade, CAVE 1.

61 第1窟 正面列柱　Row of Pillars, Façade, CAVE 1

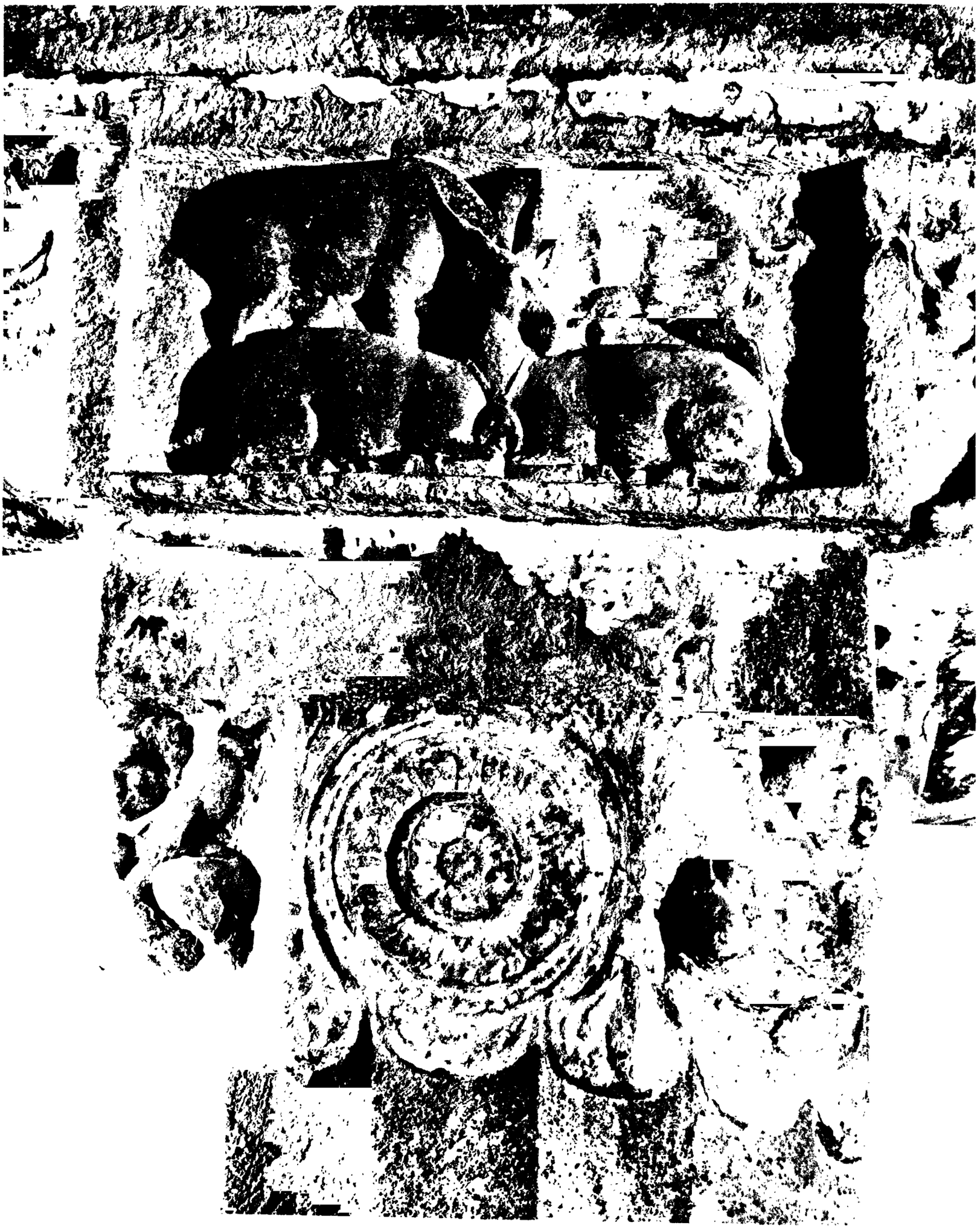
62 第1窟 中央入口左部 装飾浮彫 Decorative Reliefs Left Part, Main Entrance, CAVE 1.



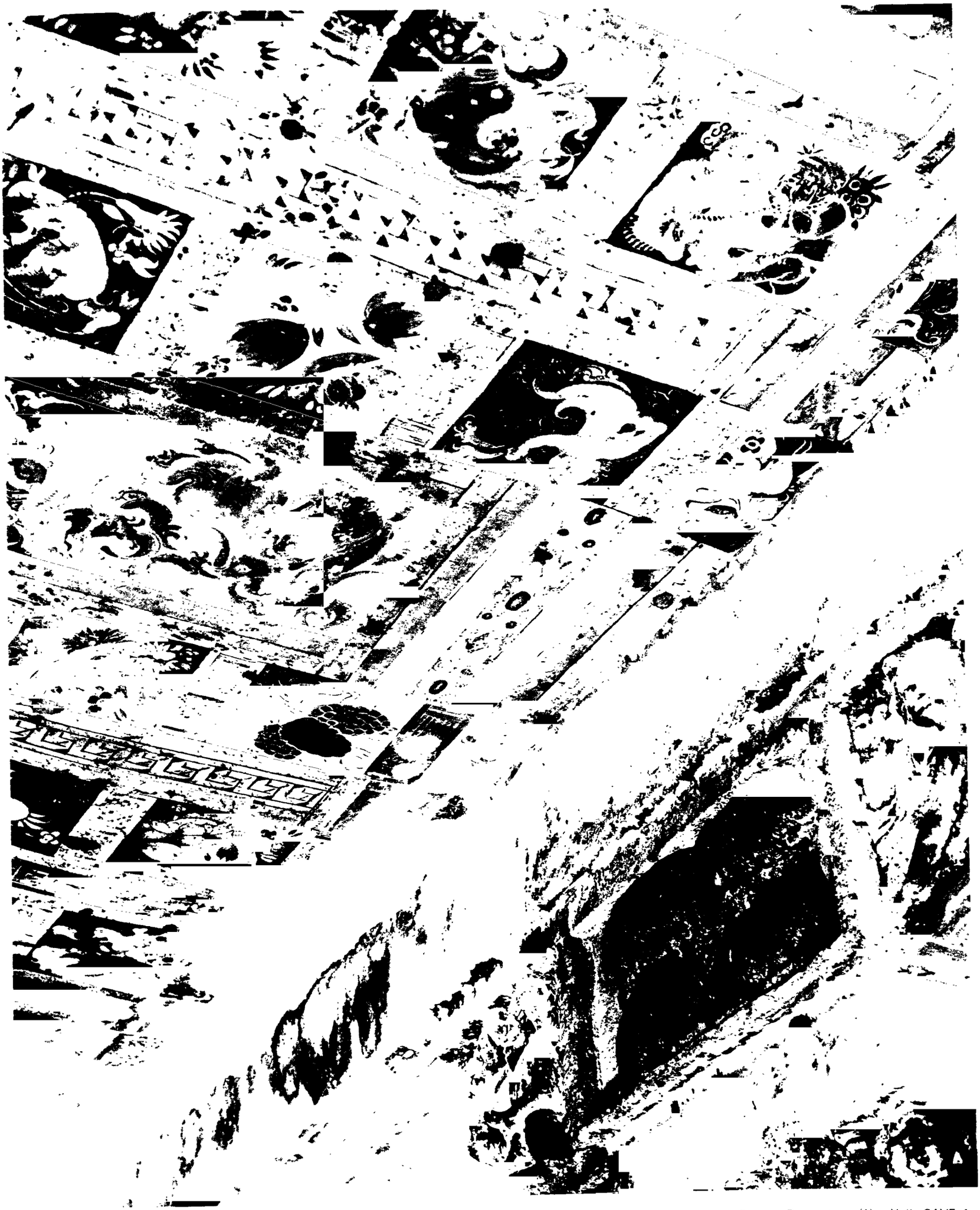
63 第1窟 後廊柱下部 装飾浮彫（鬼面） Decorative Reliefs (Kirtimukha) Lower Part of a Pillar, Back Corridor, CAVE 1



64 第1窟 左廊柱上部 装飾浮彫 Decorative Reliefs Upper Part of a Pillar, Left Corridor, CAVE 1



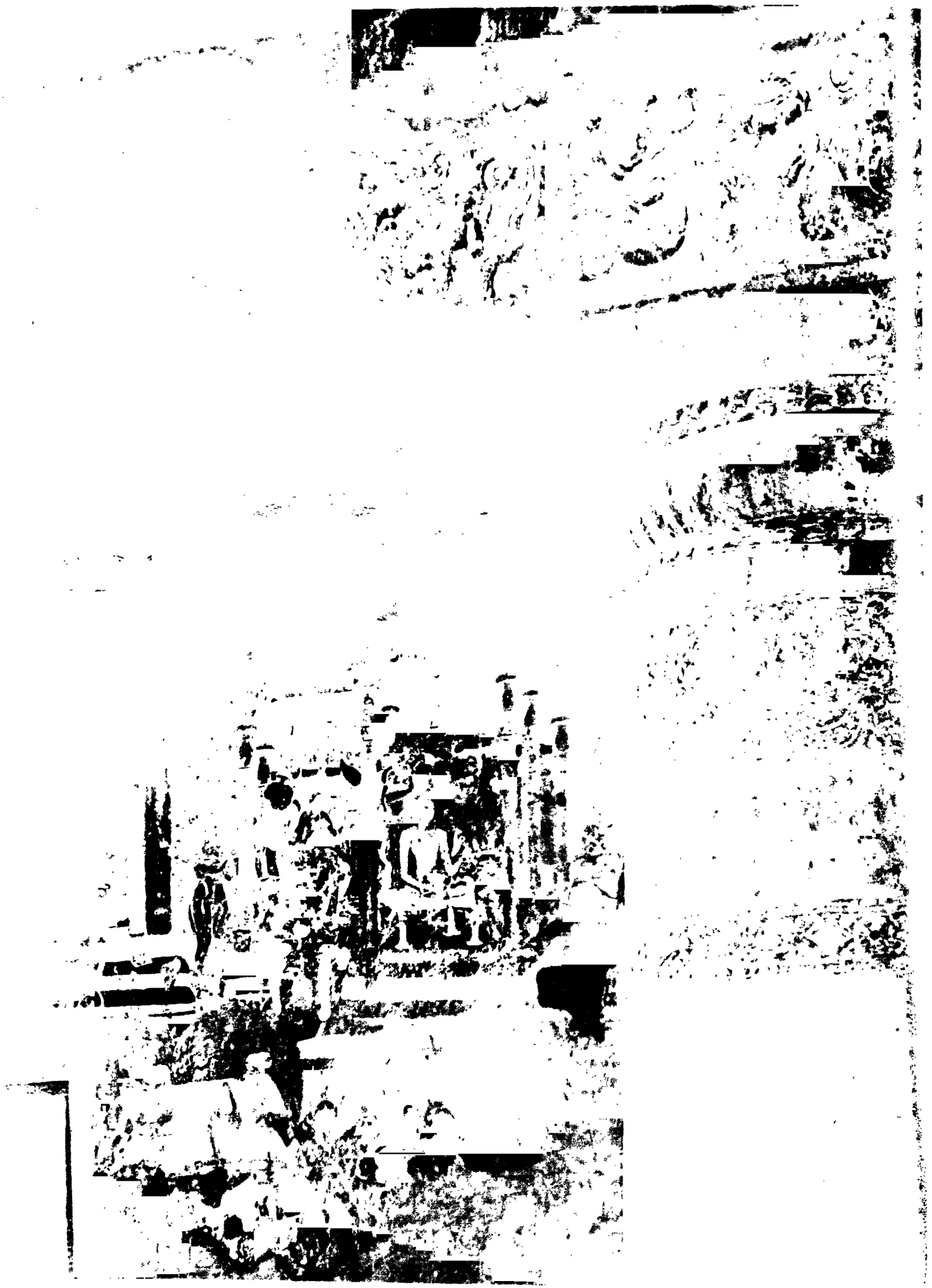
65 第1窟 右廊柱上部 装飾浮彫 一頭四鹿 Decorative Reliefs (Four Deer with a Common Head) Upper Part of a Pillar, Right Corridor, CAVE 1



66 第1窟 広間 天井装飾(1) Ceiling Decoration (1) Hall, CAVE 1

67 第1窟 広間 天井装飾(2)(飲酒) Ceiling Decoration (2) (Drinking Scene) Hall, CAVE 1

68 第1窟 広間 天井装飾(3) Ceiling Decoration (3). Hall, CAVE 1



69 第1窟 後廊左部(1)　Left Part (1), Back Corridor, CAVE 1

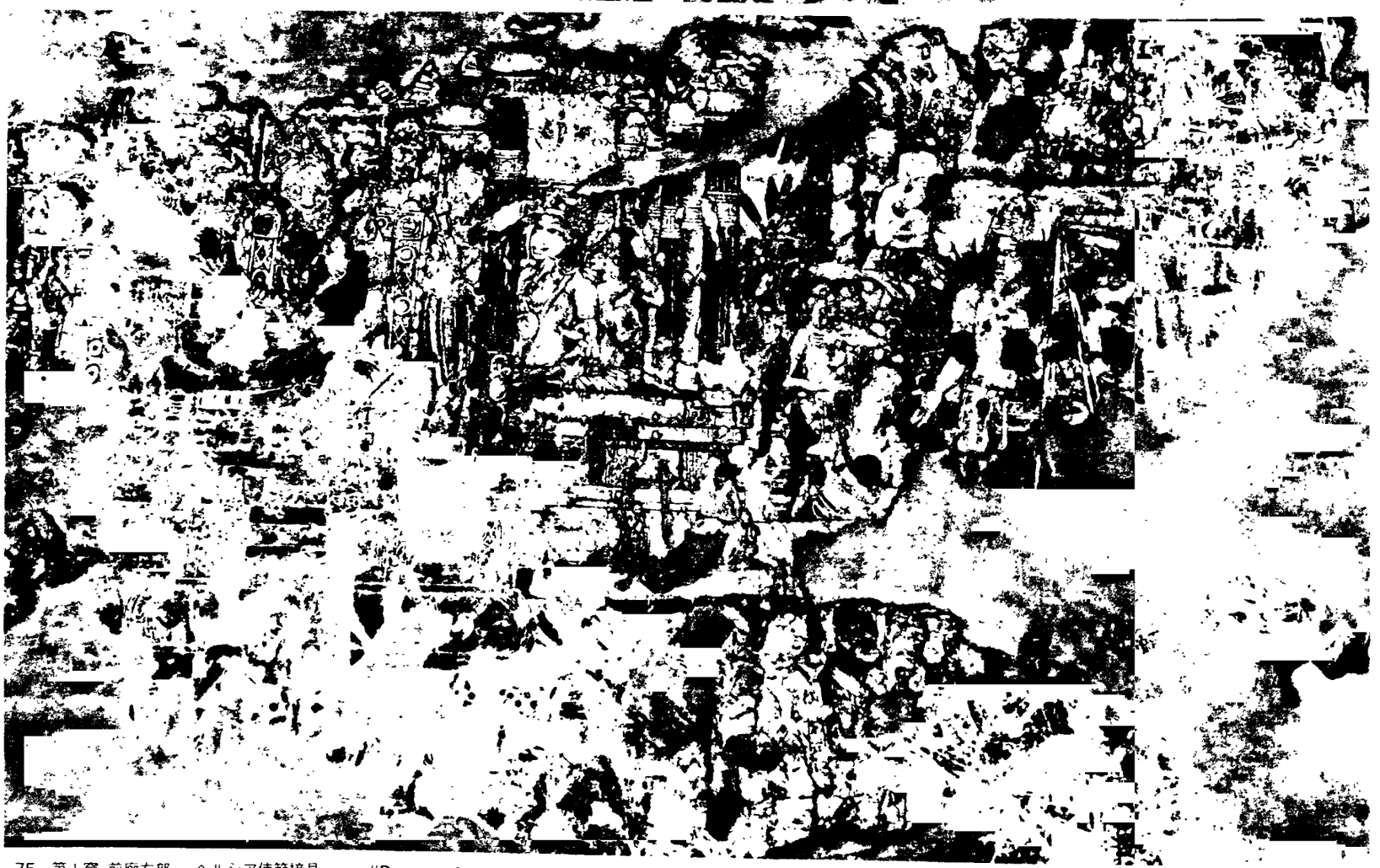
70 第1窟 後廊左部(2)　Left Part (2), Back Corridor, CAVE 1

71 第1窟 後廊左部 蓮華手(観音)菩薩 (1) Padmapāni (1) Left Part, Back Corridor, CAVE 1.

72 第1窟 後廊右部 蓮華手(觀音)菩薩 (2) Padmapāni (2). Right Part, Back Corridor, CAVE 1.

73 第1窟 後廊左部 蓮華手(観音)菩薩 1 部分 Padmapāni (1), Part Left Part, Back Corridor, CAVE 1

74 第1窟 後廊右部 蓮華手(観音)菩薩(2) 部分 Padmapāni (2), Part Right Part, Back Corridor, CAVE 1



75 第1窟 前廊右部 ペルシア使節接見 "Persian Ambassador." Right Part, Front Corridor, CAVE 1

76 第1窟 前廊左部 シビ本生 The *Śibi Jātaka* Left Part, Front Corridor, CAVE 1

77 第1窟 前廊左部 或る説話図 Scenes from an *Avadāna* or the Buddha's Life Left Part, Front Corridor, CAVE 1

78 第1窟 左廊 サンカパーラ本生 The *Sankhapāla Jātaka* Left Corridor, CAVE 1

79 第1窟 前廊左部 シビ本生 部分 図76参照 The *Śibi Jātaka*, Part Left Part, Front Corridor, CAVE 1 (*Ref* Pl 76)

80 第1窟 左廊 マハーシャナカ本生 部分1 図81参照 The *Mahājanaka Jātaka*, Part (1) Left Corridor, CAVE 1 (*Ref* Pl 81)

81 第1窟 左廊 マハーシャナカ本生 部分(2) The *Mahājanaka Jātaka*, Part (2) Left Corridor, CAVE 1

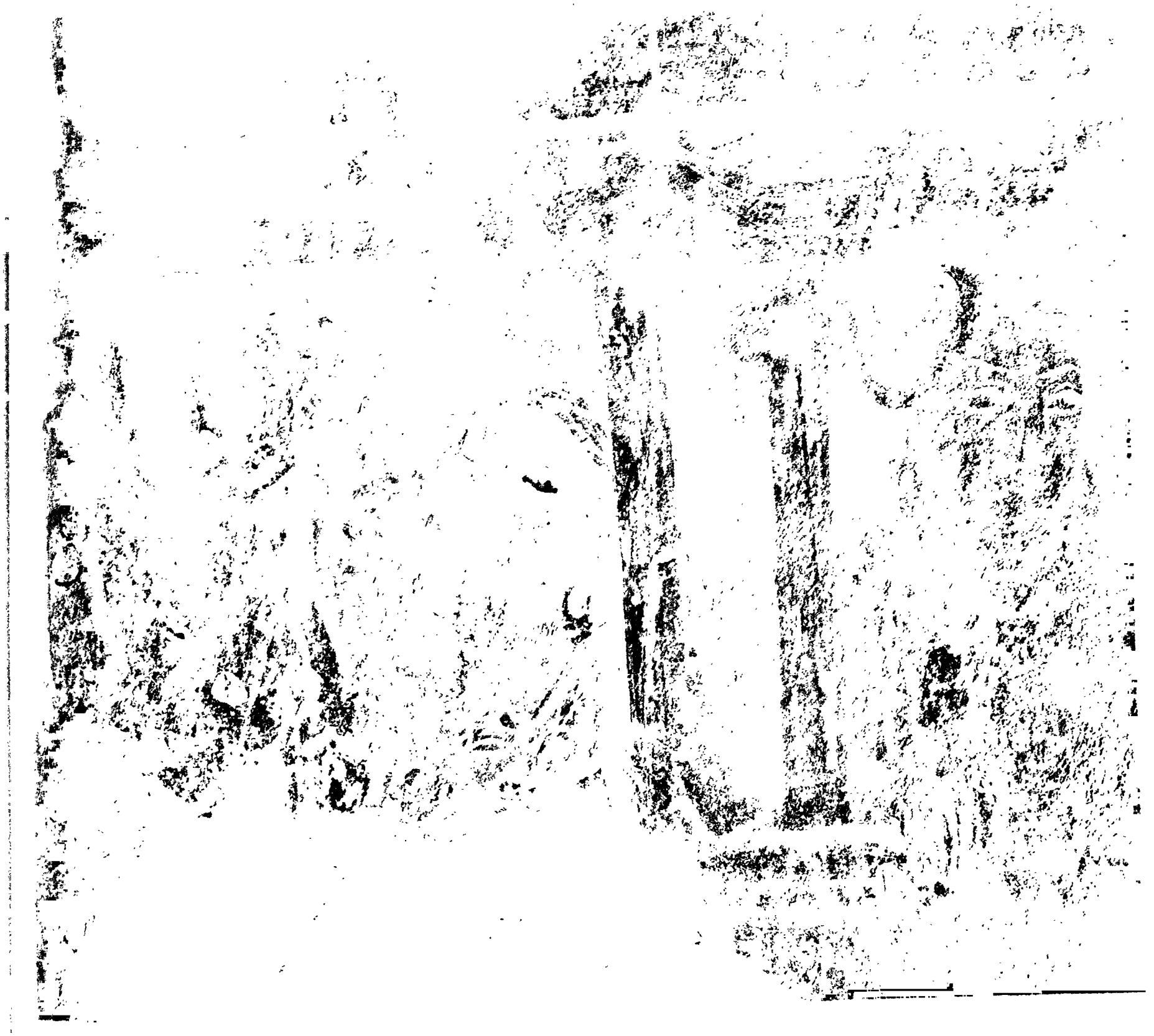
82 第1窟 左廊 マハーシャナカ本生 部分 3 五色参照 The *Mahājanaka Jātaka*, Part (3) Left Corridor, CAVE 1 (*Ref* Pl 81)

83 第1窟 左廊 マハーシャナカ本生 部分(4) (図81参照) The *Mahājanaka Jātaka*, Part (4) Left Corridor, CAVE 1. (*Ref* Pl 81)

84 第1窟 後廊左部　上 マハーンャナカ本生？　下 アマラー物語　図69参照
(Upper) The *Mahājanaka Jātaka* (?)　(Lower) Story of Amarā.　Left Part, Back Corridor, CAVE 1　*Ref* Pl 69)

The *Mahājanaka Jātaka* Part (5) Left Corridor CAVE 1 *Ref* Pl 81)

86 第1窟 左廊 マハーン・ナカ本生 部分6 The *Mahājanaka Jātaka* Part (6) Left Corridor CAVE 1



87 第1窟 後廊左端 マハーシャナカ本生？ 部分(1) The *Mahājanaka Jātaka* (?), Part (1) Left End, Back Corridor, CAVE 1

38 [illegible] The *Mahājanaka Jātaka* (?), Part (2) Left Part Back C[illegible] CAVE 1 [illegible]

89 The *Mahājanaka Jātaka* Part 3 Left Part Back Corridor CAVE 1 Ref P 84

90 第1窟 後廊右部 チャンペーヤ本生 部分 (第44巻図4) The *Campeyya Jātaka* Part Right Part Back Corridor CAVE 1 *B* (PL 94)

91 第1窟 前廊右壁 或る説話図 部分 図版参照 A *Jātaka* or *Avadāna* Scene, Part Right Wall Front Corridor, CAVE 1 *Ref* Pl 95)

 Māra's Attack Left Wall Antechamber, CAVE 1

93　第1窟 佛堂前室右壁　舍衛城の大神変　The Great Miracle at Śrāvastī　Right Wall, Antechamber, CAVE 1

94 第1窟 後廊右部 チャンペヤ本生 The *Campeyya Jātaka* Right Part, Back Corridor, CAVE 1

95 第1窟 前廊右壁 或る説話図 A *Jātaka* or *Avadāna* Scenes Right Wall, Front Corridor, CAVE 1

96 第二窟 僧院窟 正面廊右半 Right Half, Verandah, CAVE 2 (Vihāra Cave)

97 第2窟 前廊の2柱　Two Pillars, Front Corridor, CAVE 2

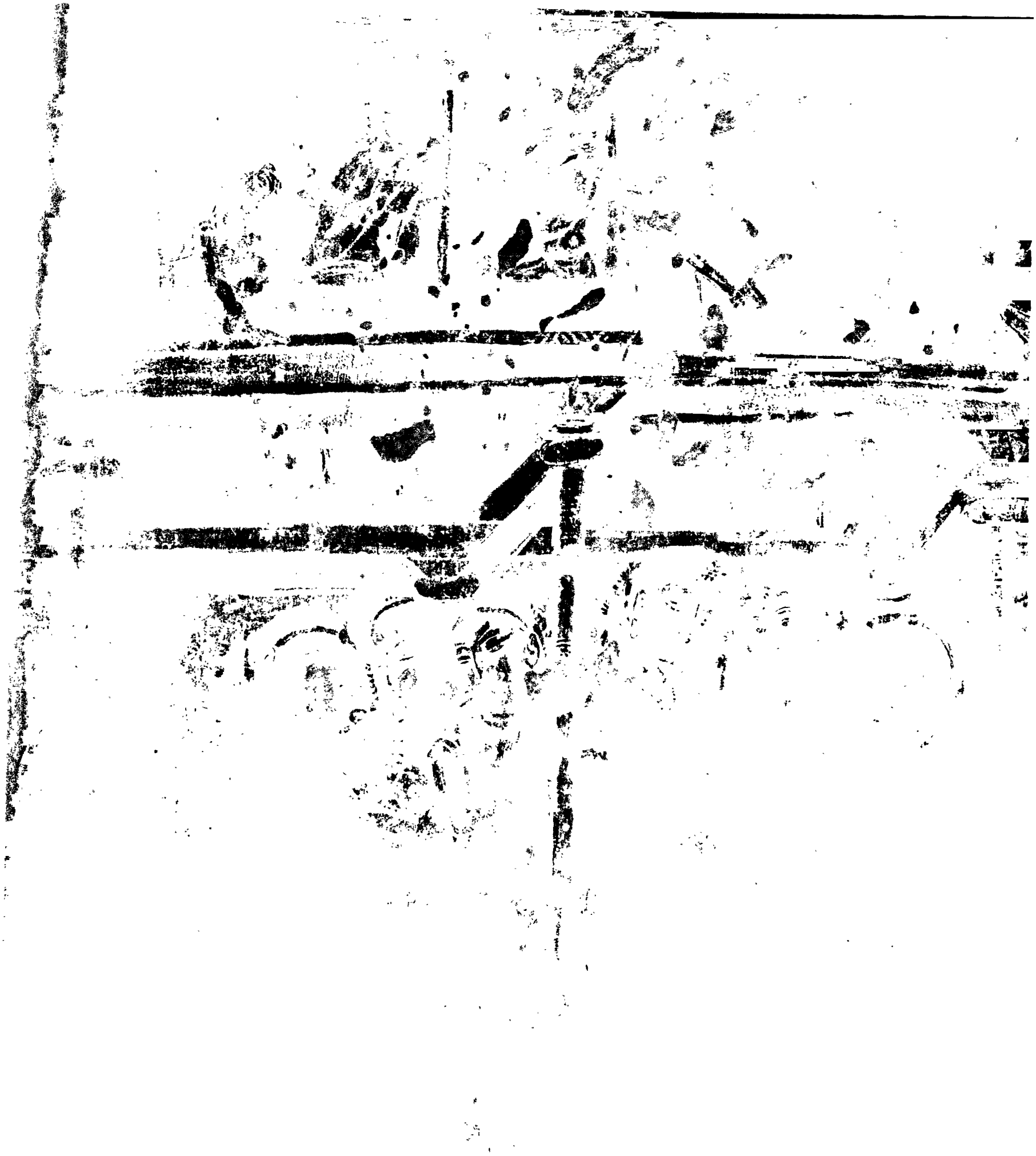
98 第二窟 六間 右廊より　　Hall, (from the Right Corridor), CAVE 2

99 第2窟 広間 前廊より　Hall, (from the Front Corridor), CAVE 2

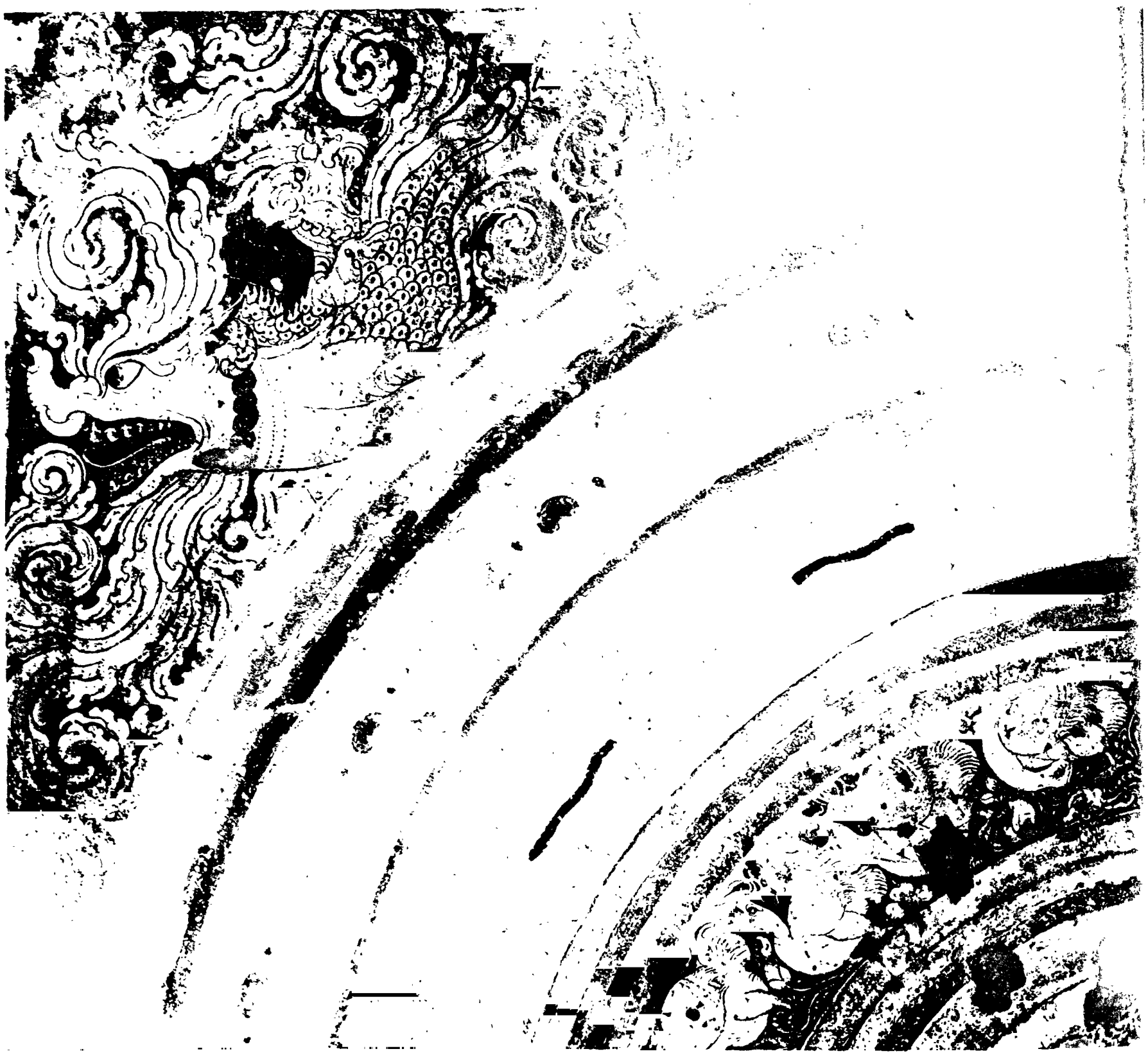
100　第2窟 奥右祠堂　パンチカとハーリティー　彫刻　図版参照　Pañcika and Hāriti (Sculpture)　Right Inner Chapel　CAVE 2　(*Ref.* Pl. 98)

101 第2窟 奥右祠堂 ハーリティー 彫刻 部分 Hāritī (Sculpture), Part Right Inner Chapel, CAVE 2

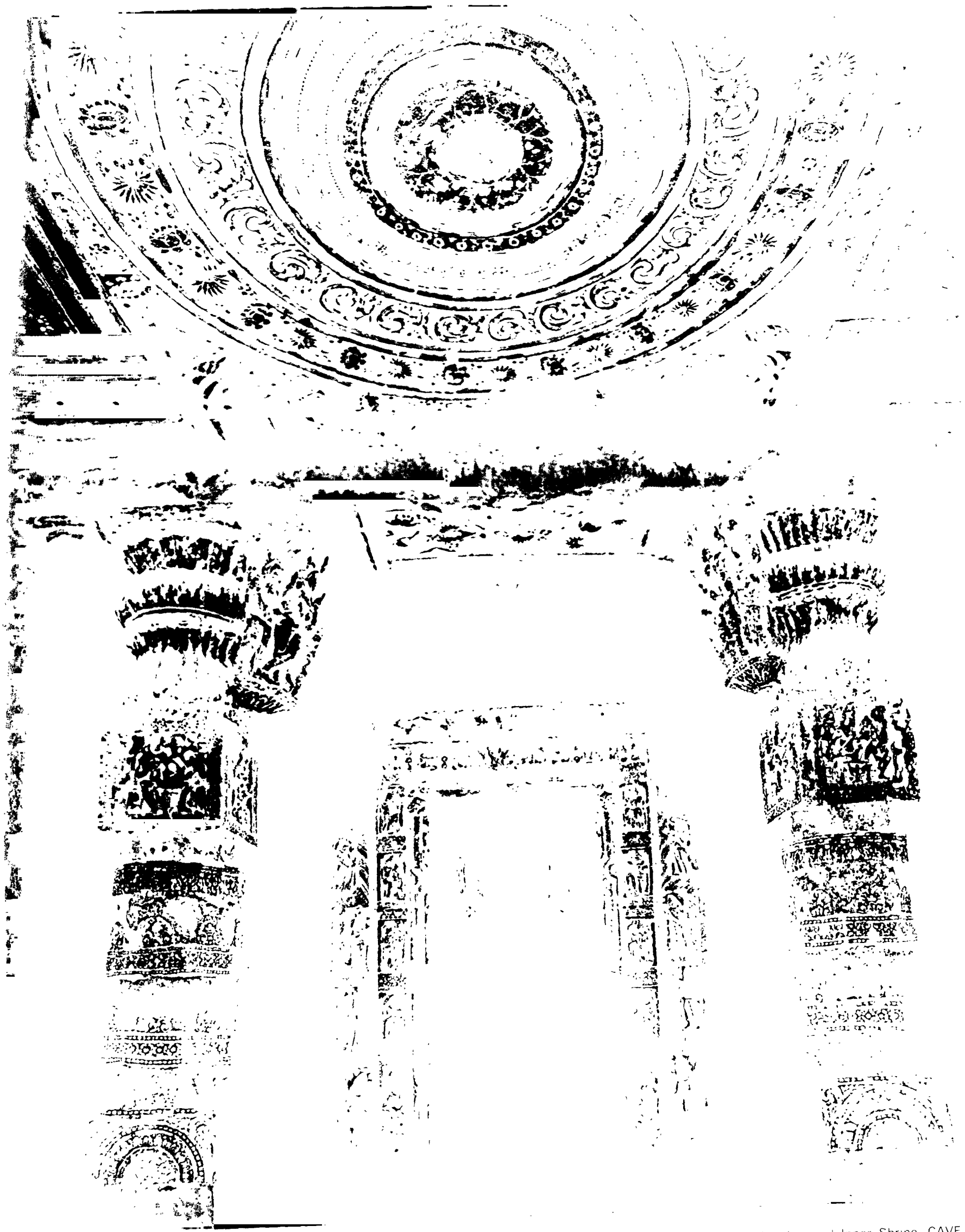
102 第二窟 奥左祠堂 並坐するヤクシャ神 彫刻 Two Seated Yaksas (Sculpture) Left Inner Chapel, CAVE 2



103 第2窟 奥左祠堂左壁 供養する女性群 Female Worshippers Left Wall, Left Inner Chapel, CAVE 2.



104 第二章 左内室 天井装飾 部分 Ceiling Decoration Part Left Inner Chapel, CAVE 2



105 第二窟佛龕上部室　Antechamber and Inner Shrine, CAVE 2

106 第2窟 佛堂前室と佛堂本尊　Antechamber and Buddha in the Inner Shrine, CAVE 2

107 第二窟 佛堂本尊 佛三尊 彫刻 部分 Buddha Triad (Sculpture), Part Inner Shrine, CAVE 2

108 第2窟 佛堂 天井装飾 部分 Ceiling Decoration, Part Inner Shrine, CAVE 2

109 第2窟 佛堂内部 Interior, Inner Shrine, CAVE 2

110 第二窟 佛堂前室右部 佛堂より　Right Part, Antechamber, (from the Inner Shrine), CAVE 2

111 第2窟 佛堂前室右壁 千佛 部分 Thousand Buddhas, Part Right Wall, Antechamber, CAVE 2.

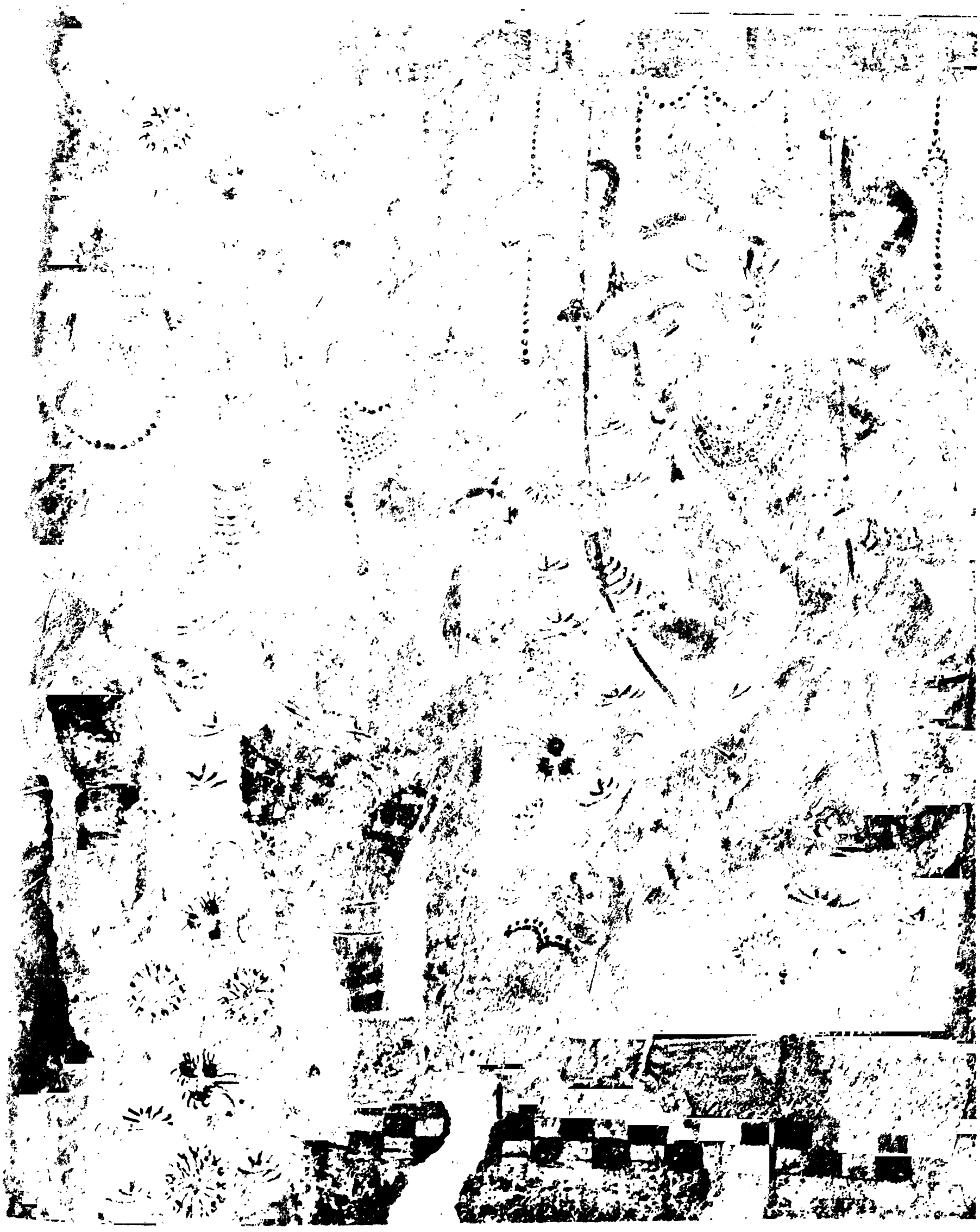
112 第2窟 左廊 兜率天上の菩薩 Bodhisattva in the Tusita Heaven Left Corridor, CAVE 2.

113 第2窟 左廊 占夢 Interpretation of Māyā's Dream Left Corridor, CAVE 2.
114 第2窟 左廊 佛誕 Buddha's Birth. Left Corridor, CAVE 2

115 第2窟 右廊 ウィドゥラ賢者本生 部分1 The *Vidhura-pandita Jātaka*, Part (1) Right Corridor, CAVE 2

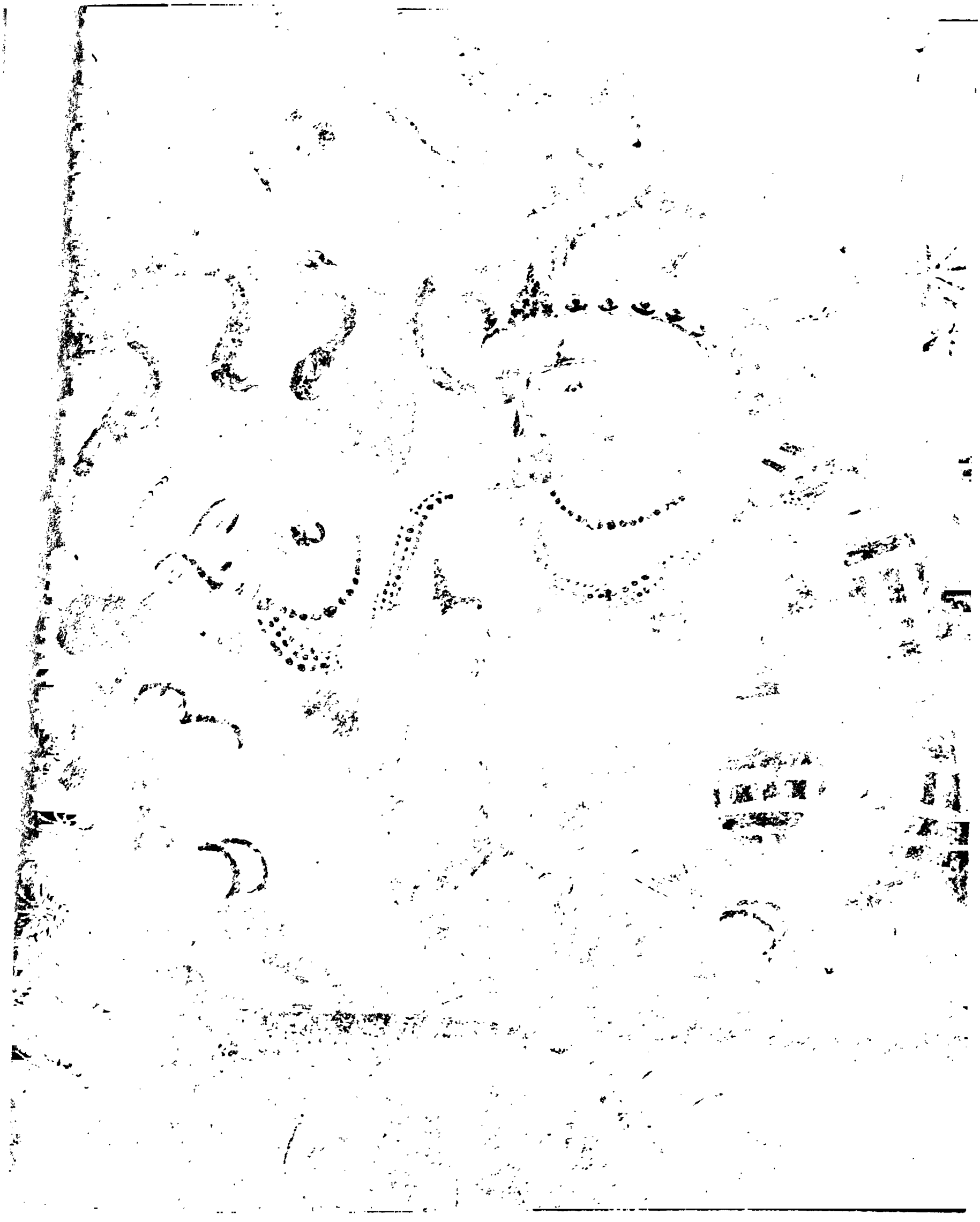
116 第二窟 右廊 ウィドゥラ賢者本生 部分 2　The *Vidhura-pandita Jātaka*, Part (2)　Right Corridor, CAVE 2

117 第2窟 前廊右壁 或る説話図　A *Jātaka* or *Avadāna* Scene　Right Wall, Front Corridor, CAVE 2

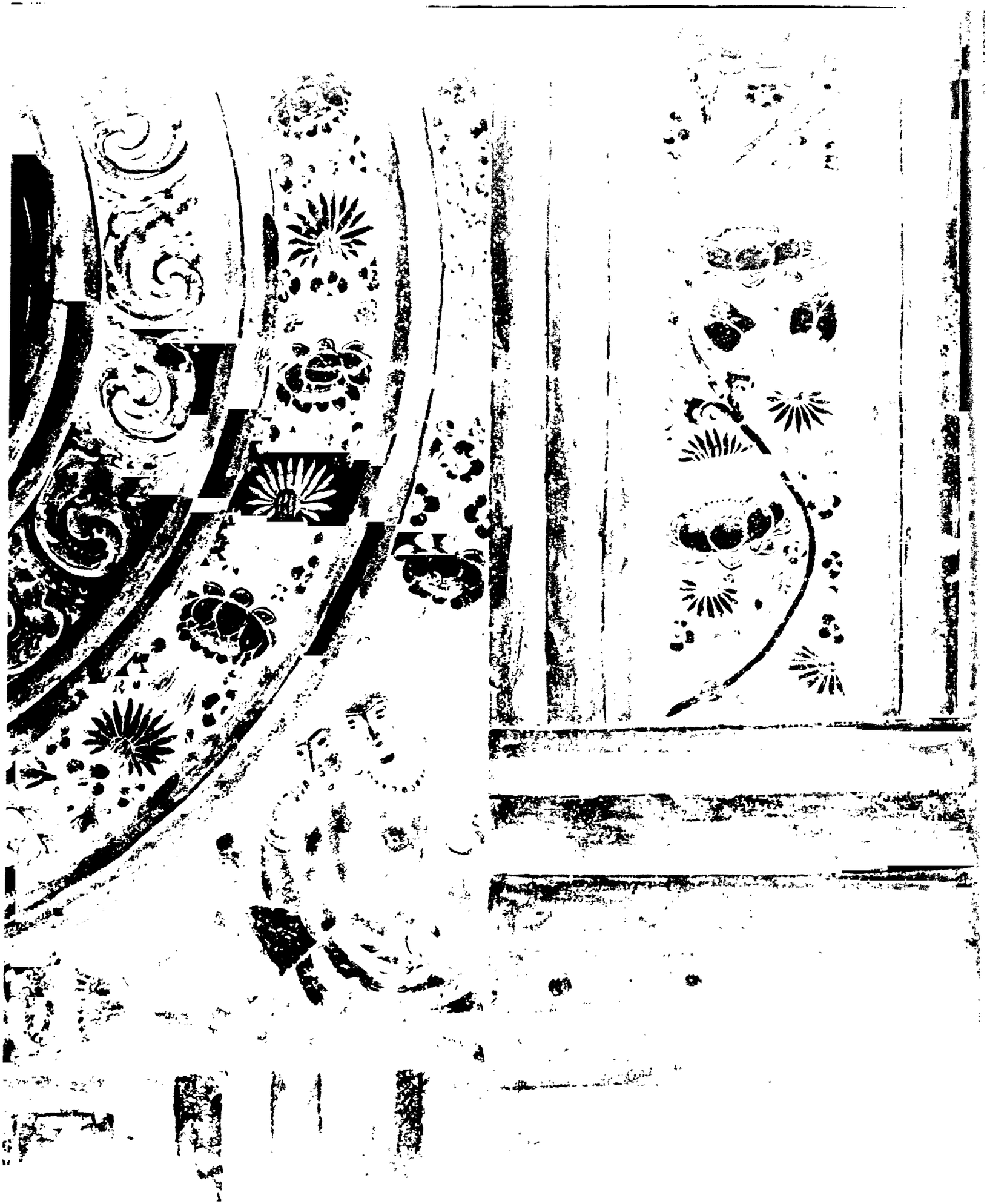


118 第2窟 右廊 ウィドゥラ賢者本生 部分(3) The *Vidhura-pandita Jātaka*, Part (3) Right Corridor, CAVE 2.

119 第2窟 右廊 ウィドゥラ賢者本生 部分 4　The *Vidhura-pandita Jātaka*, Part (4)　Right Corridor, CAVE 2

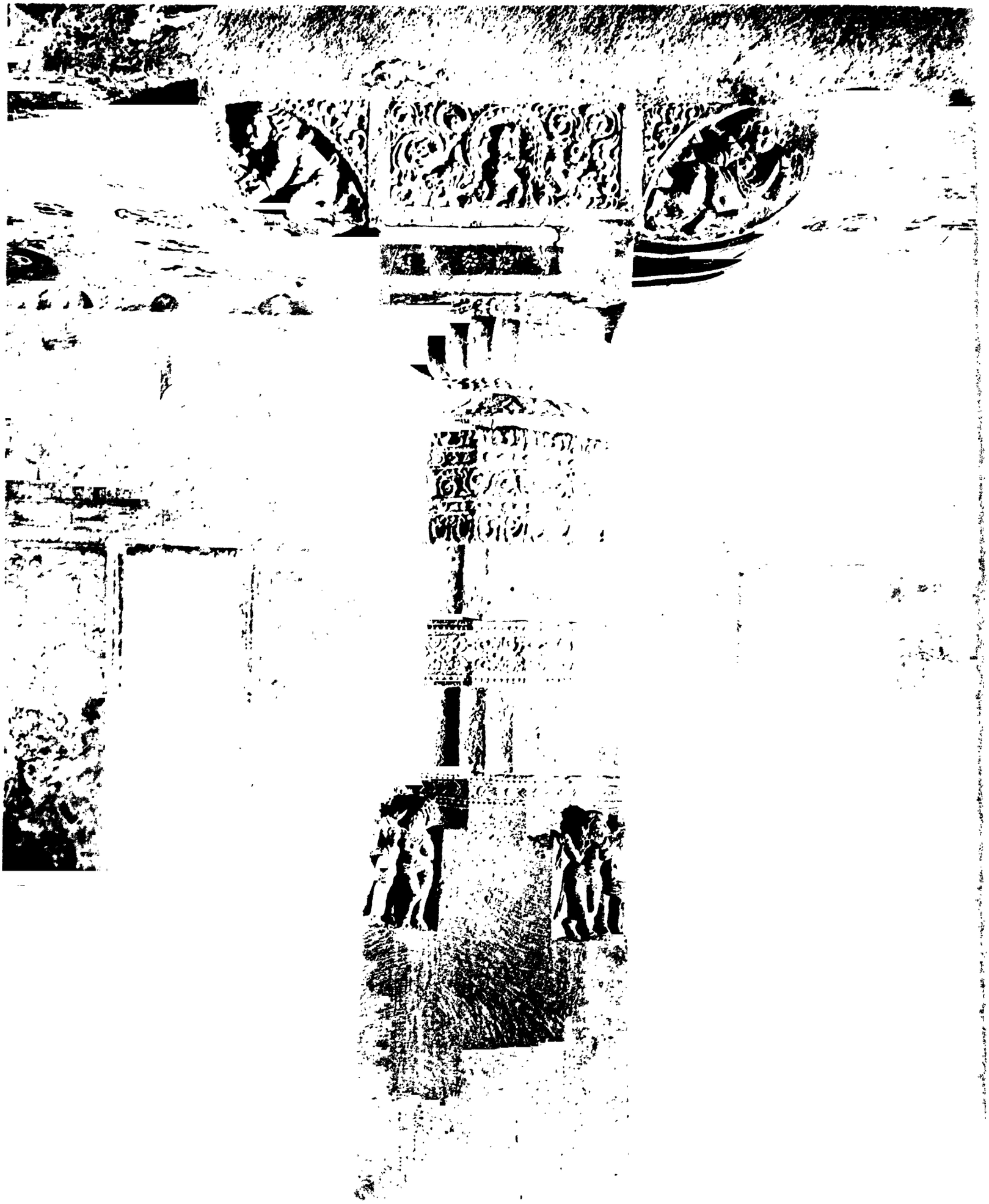


120 第2窟 右廊 ウィドゥラ賢者本生 部分(5) The *Vidhura-paṇḍita Jātaka*, Part (5) Right Corridor, CAVE 2.

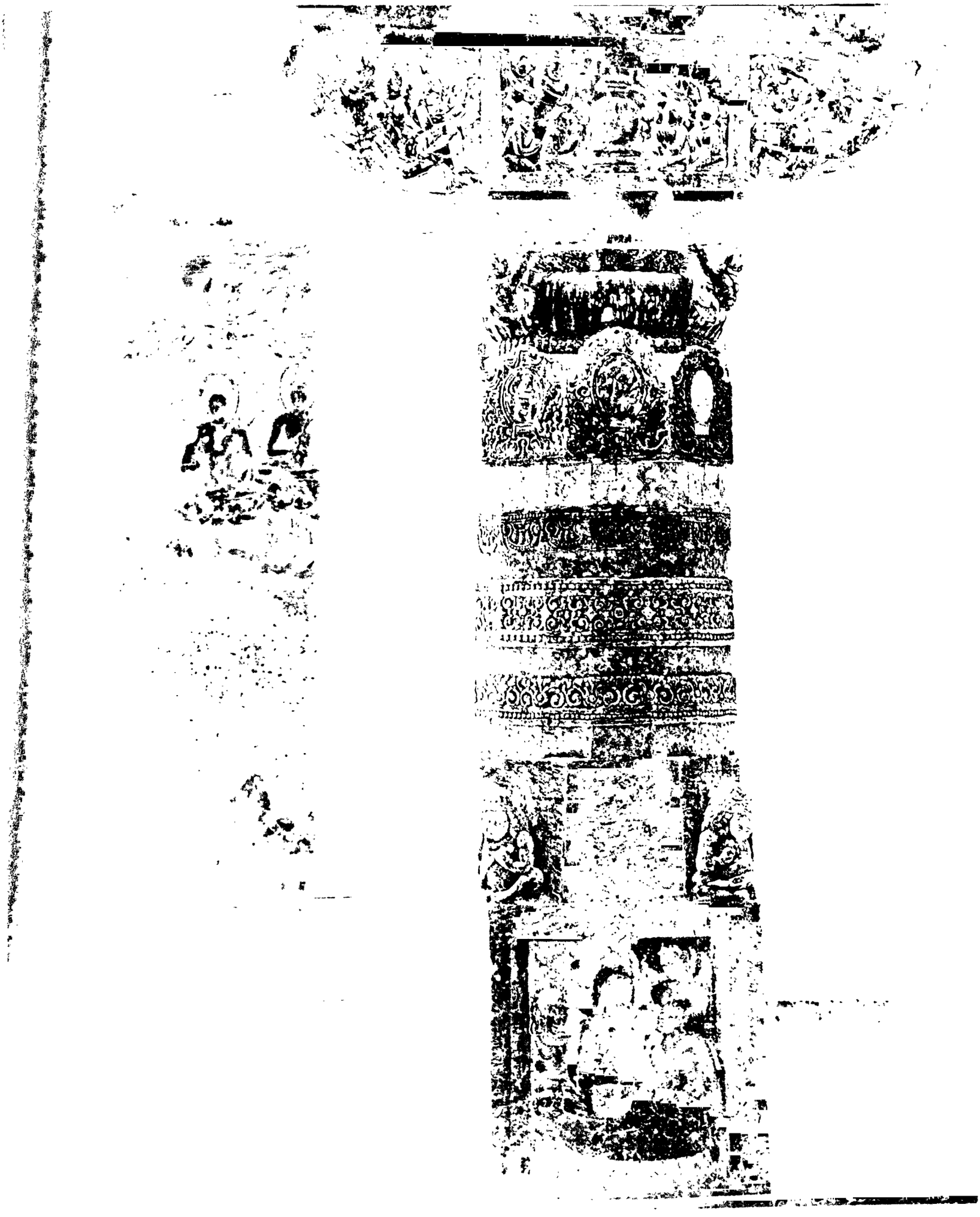


121 第2窟 後廊 天井装飾 Ceiling Decoration Back Corridor, CAVE 2

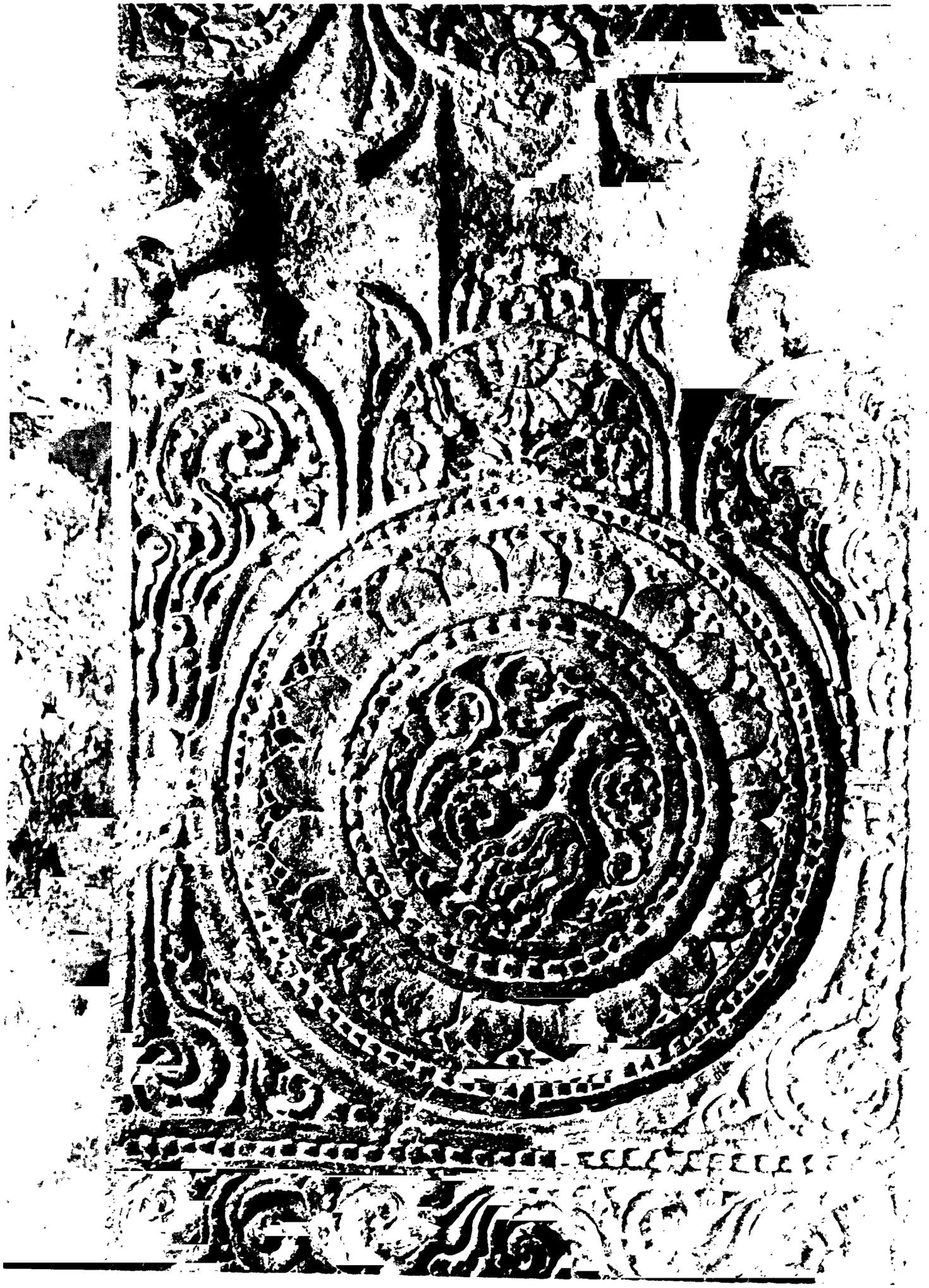
122 第2窟 前廊 天井装飾 Ceiling Decoration Front Corridor, CAVE 2



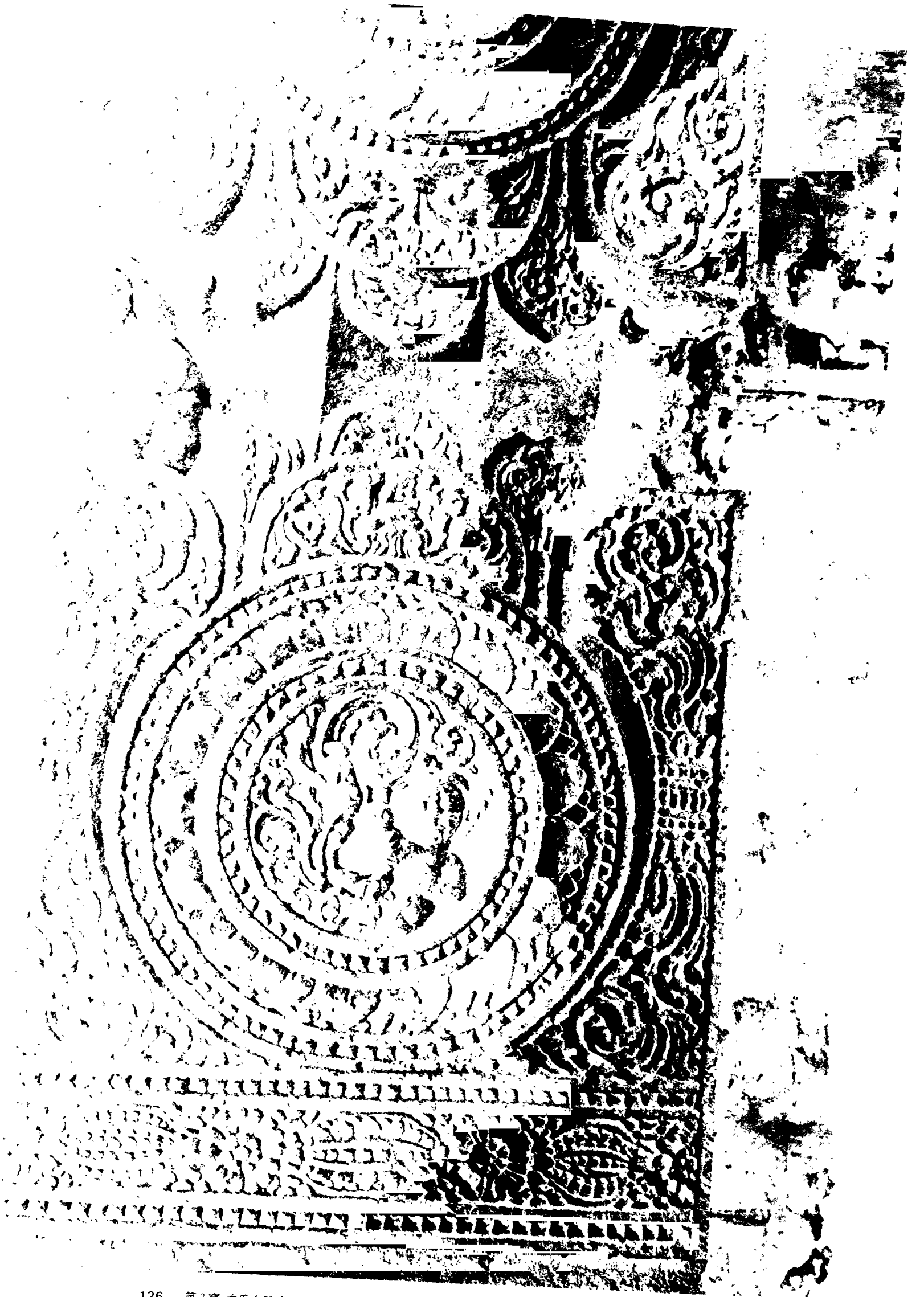
123　第2窟 右廊と柱（広間より）　Right Corridor and a Pillar, (from the Hall), CAVE 2



124 第二窟 後廊と柱 (堂間より) Back Corridor and a Pillar (from the Hall), CAVE 2

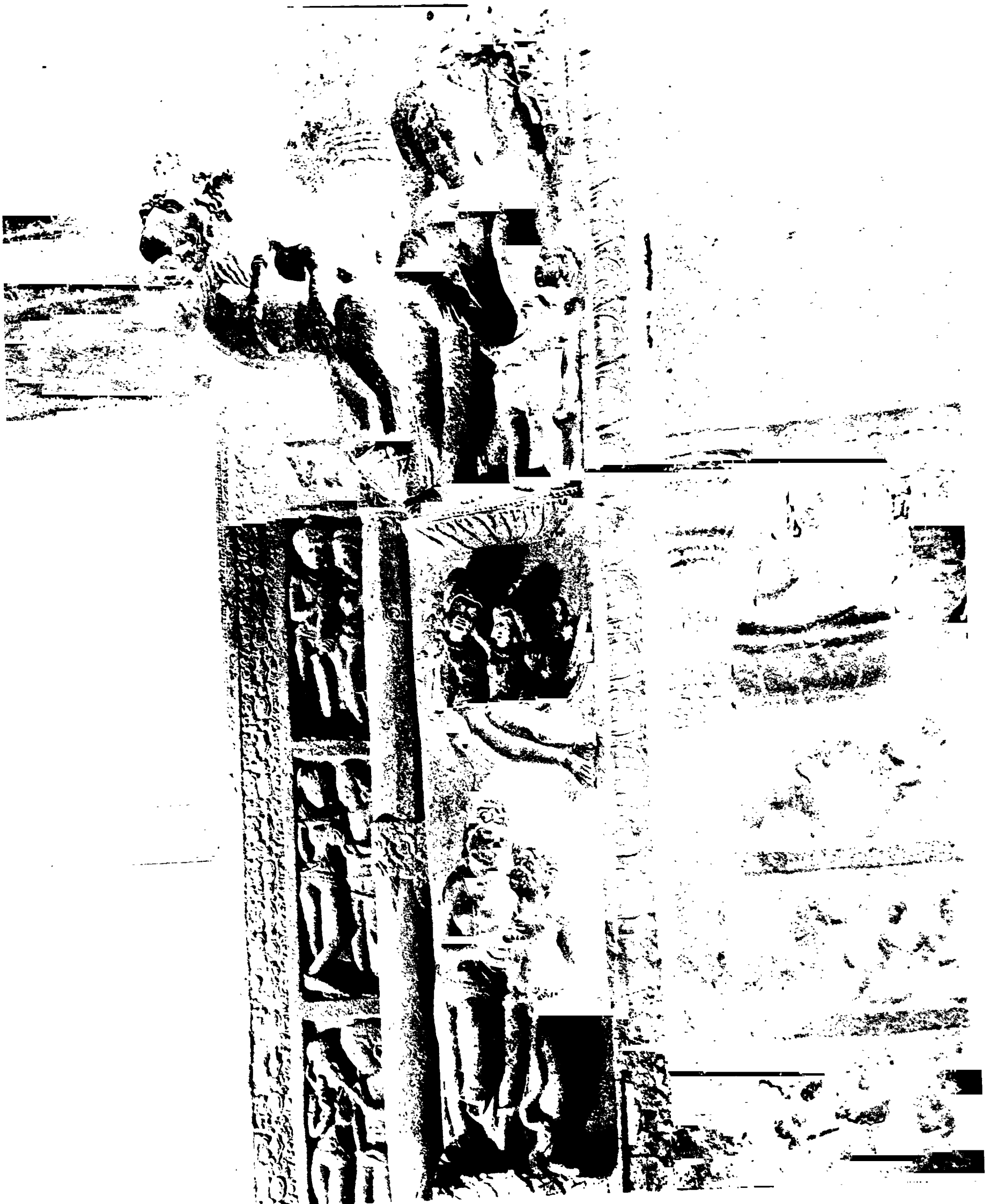


125 第2窟 左廊左壁柱の装飾浮彫 部分 Decorative Reliefs, Left Pilaster, Part Left Corridor, CAVE 2



126　第2窟 右廊左壁柱の装飾浮彫 部分　Decorative Reliefs, Left Pilaster, Part. Right Corridor, CAVE 2.

127 第4窟(僧院窟) 中央入口左部 浮彫 Reliefs Left Part of the Main Entrance, CAVE 4

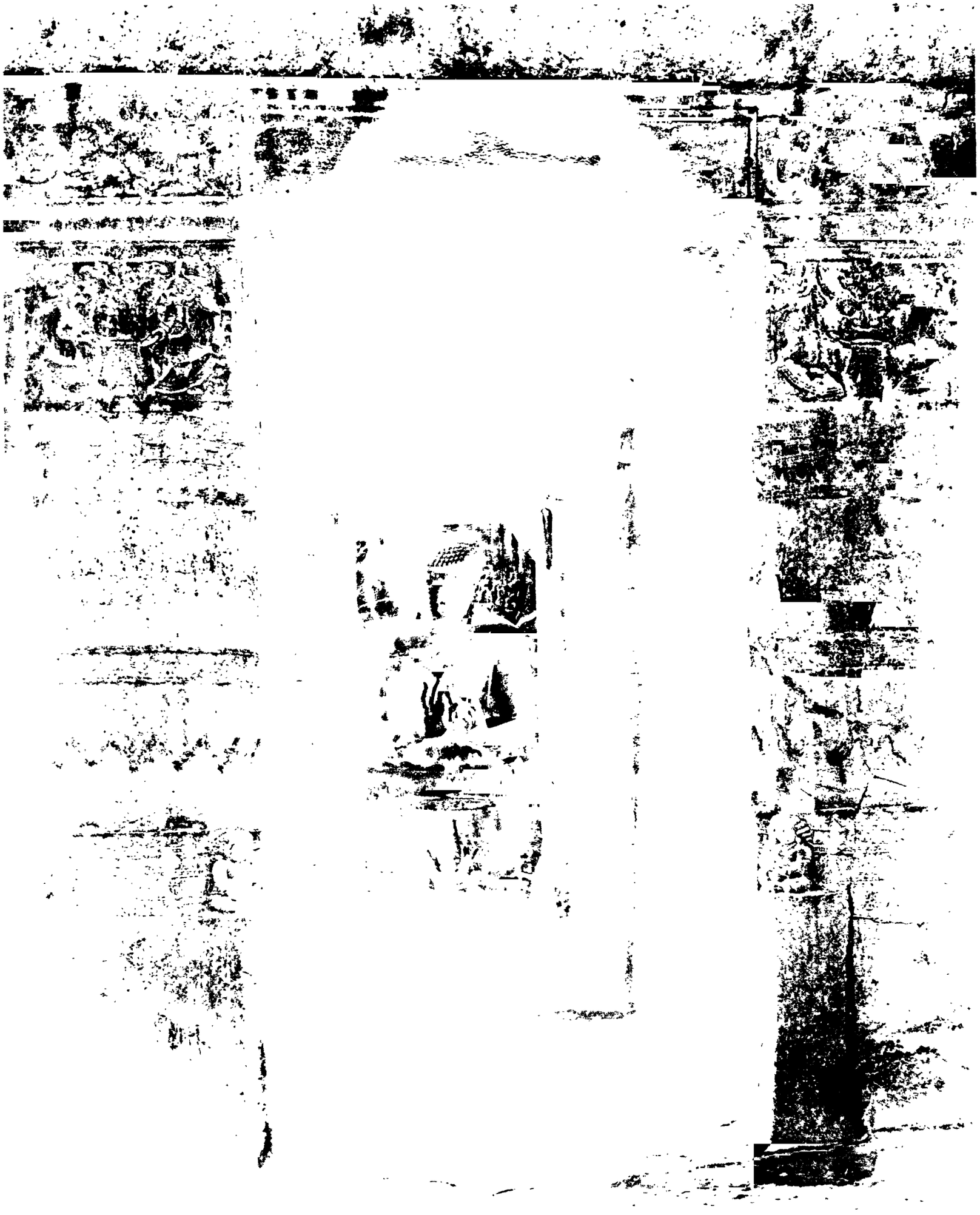


128 第4窟 中央入口右部 浮彫 Reliefs Right Part of the Main Entrance, CAVE 4

129 第4窟 内部 Interior, CAVE 4

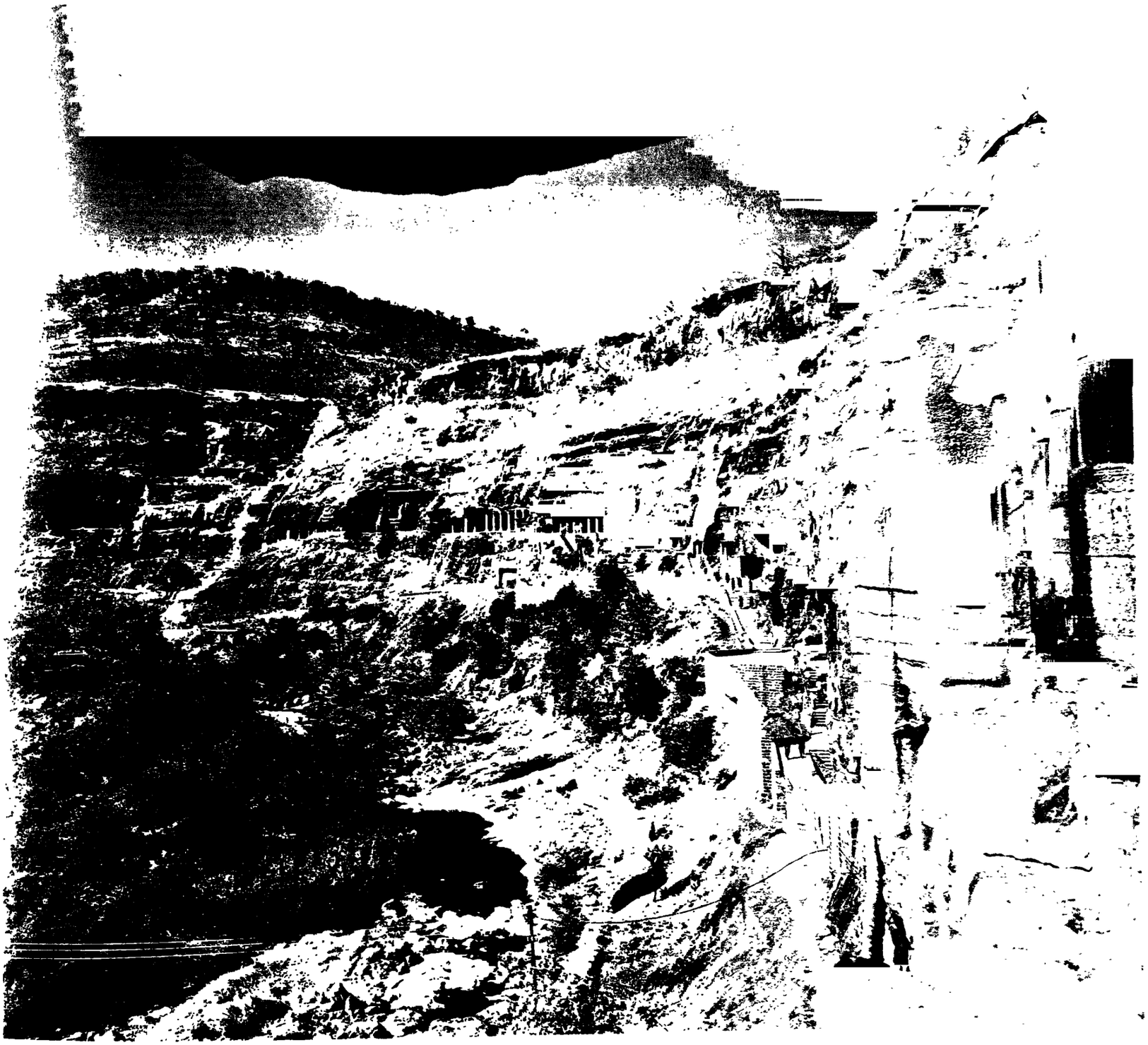
130 第4窟 佛堂前室左壁 佛立像2体（浮彫） Two Standing Buddhas (Relief) Left Wall, Antechamber, CAVE 4.

131 第4窟 佛堂本尊 佛三尊〔彫刻〕部分 Buddha Triad (Sculpture), Part Inner Shrine, CAVE 4



132 第4窟 佛堂本尊 佛坐像（彫刻）（広間より） Seated Buddha (Sculpture) Inner Shrine, (from the Hall), CAVE 4

133 第6窟(僧院窟) 正面列柱　Row of Pillars, Façade, CAVE 6 (Vihāra Cave)



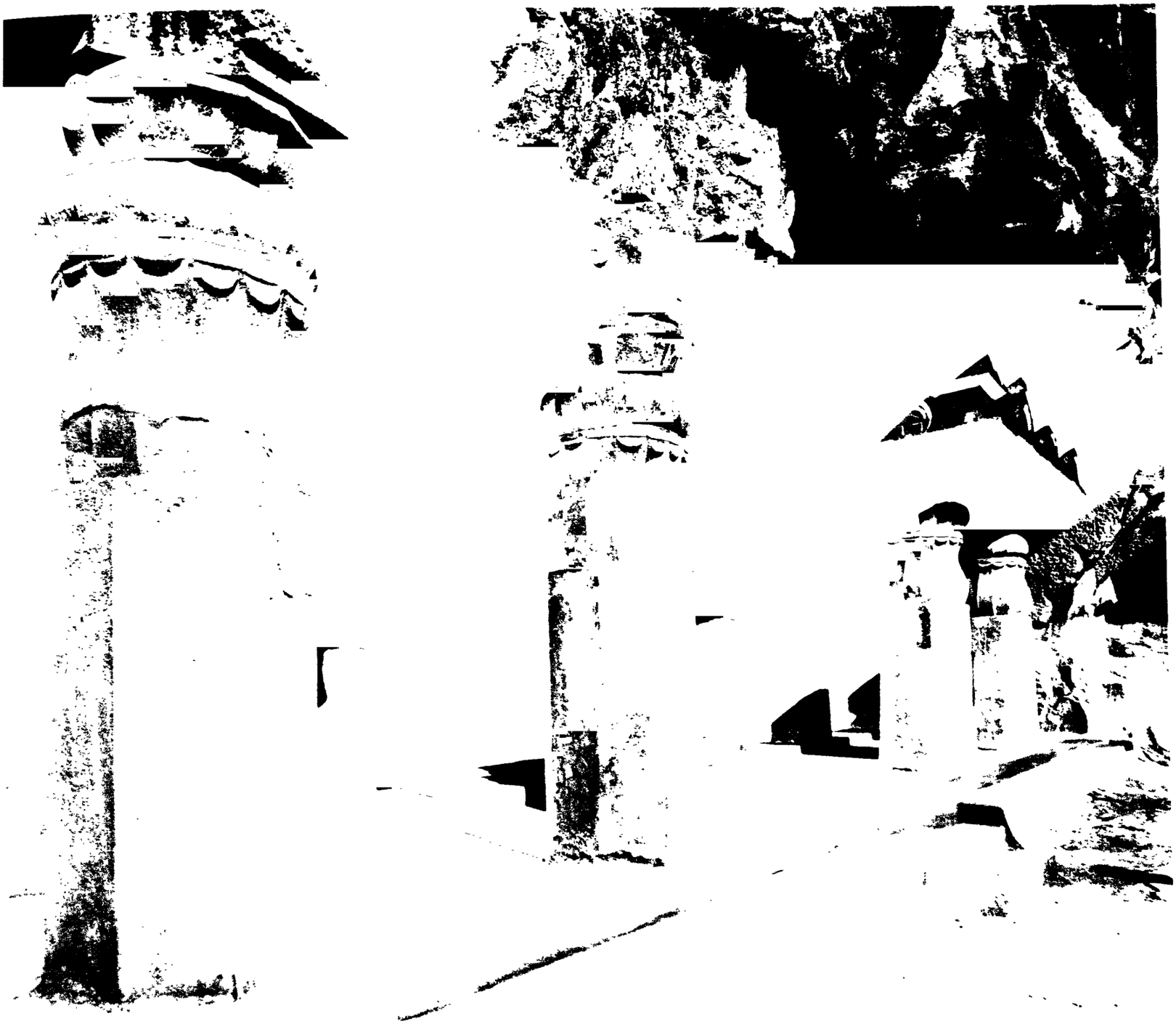
134 第6窟前から石窟群を望む　A View of the Caves from CAVE 6

135 第6窟 上階後廊と佛堂〔広間より〕 Sculptured Back Corridor and Inner Shrine, (from the Hall), Upper Story, CAVE 6

136 第6窟 上階佛堂本尊 佛坐像その他（彫刻） Seated Buddha, etc (Sculpture) Inner Shrine, Upper Story, CAVE 6

137 第6窟 上階左廊（広間より） Left Corridor, (from the Hall), Upper Story, CAVE 6

138 第6窟 上階前廊右洞堂 三佛（彫刻） Buddha and Two Attendant Buddhas (Sculpture) Right Chapel, Front Corridor, Upper Story, CAVE 6



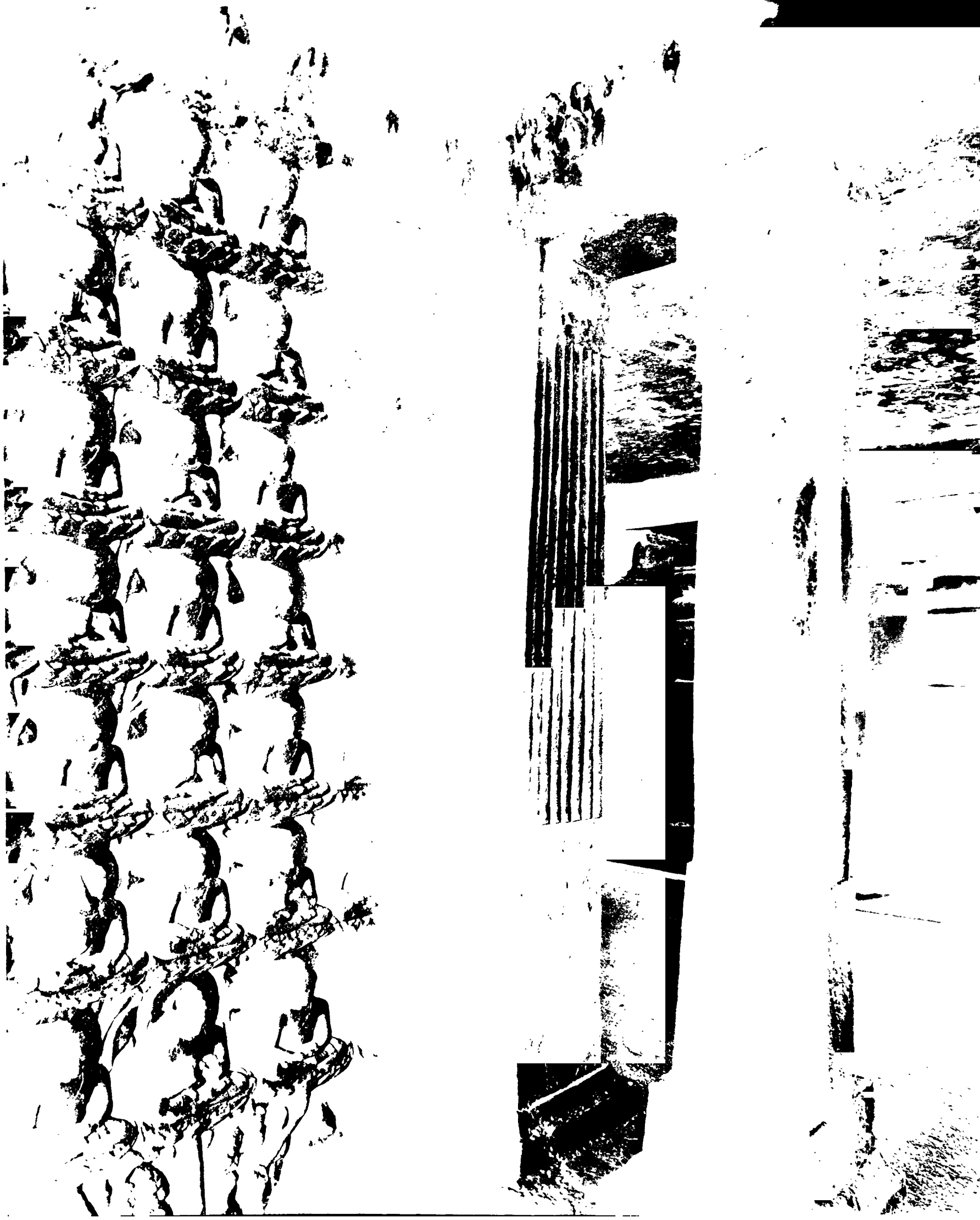
139 第7窟(僧院窟) 正面列柱 Row of Pillars, Façade, CAVE 7 (Vihāra Cave)

Thousand Buddhas (Relief), Part. Left Wall, Antechamber, CAVE 7

140 第7窟 佛室前室左壁 千佛（浮彫） 部分

141　第7窟 佛堂前室左部　　Left Part, Antechamber, CAVE 7.

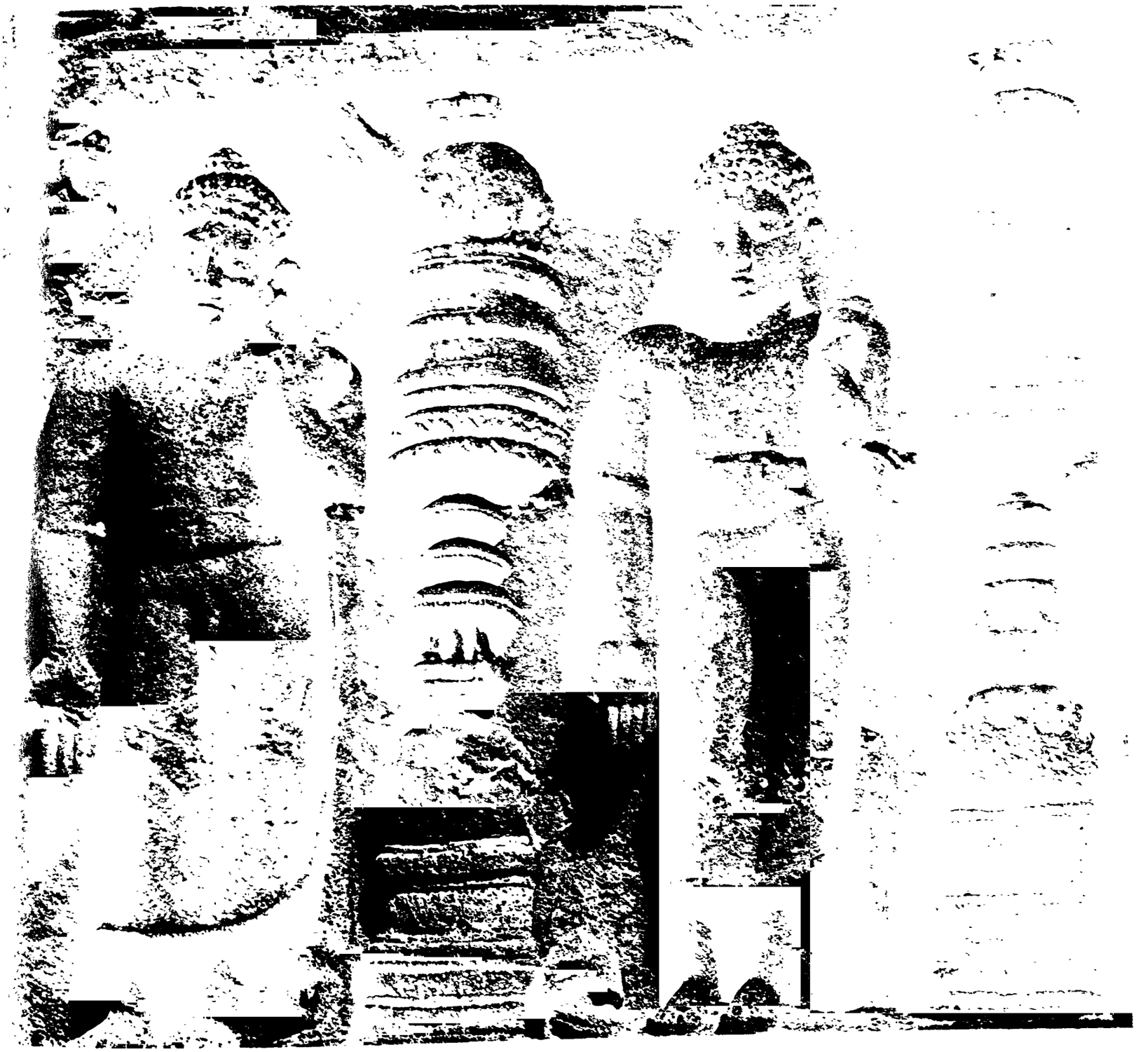
142 第7窟 佛堂本尊 佛坐像および脇侍佛・菩薩像（彫刻） Seated Buddha and Attendant Buddhas and Bodhisattvas (Sculpture) Inner Shrine CAVE 7



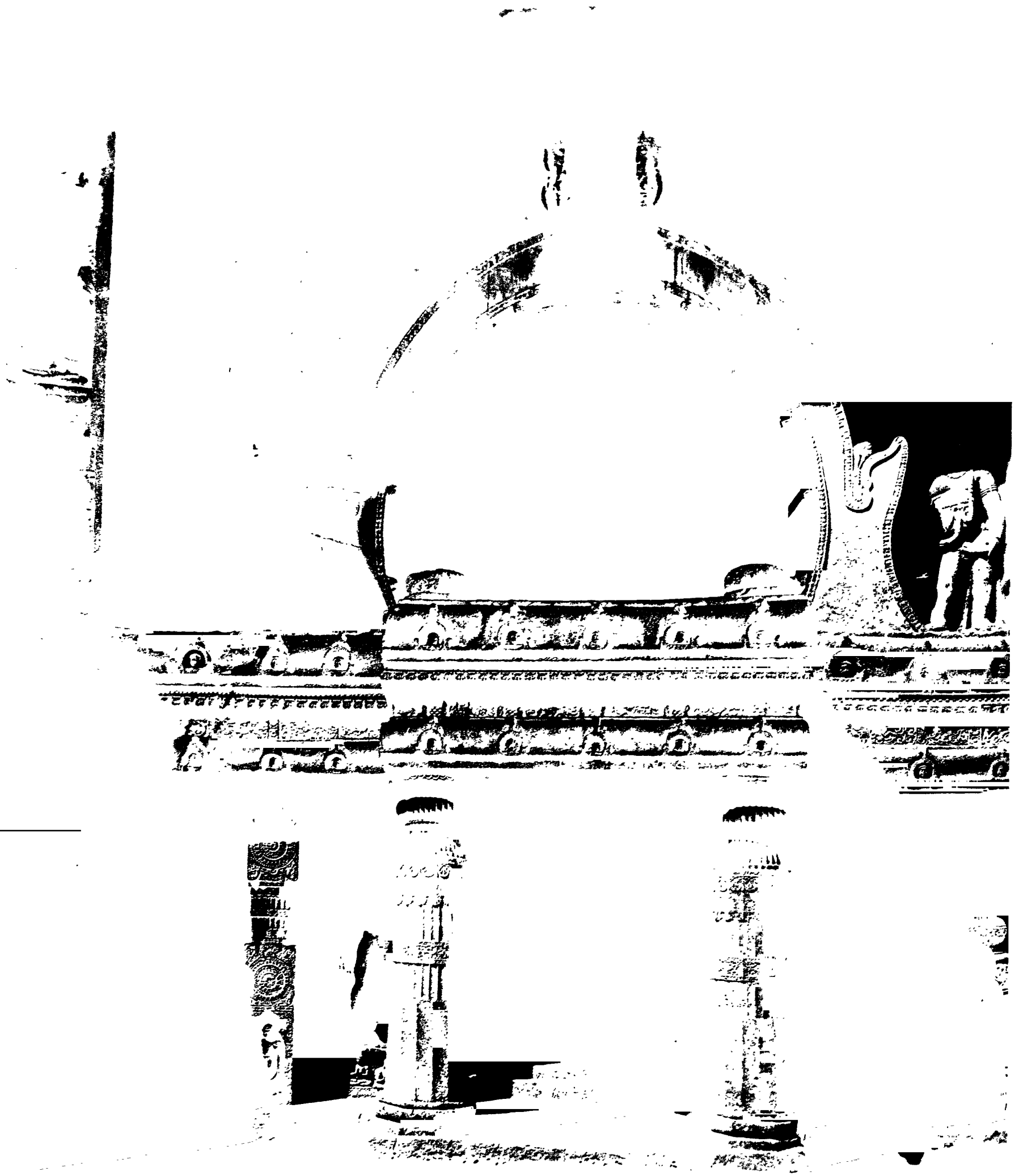
143 第7窟 佛堂前室右部　Right Part, Antechamber, CAVE 7

144 第11窟(僧院窟) 佛堂本尊 佛坐像 彫刻 Seated Buddha (Sculpture) Inner Shrine, CAVE 11 (Vihāra Cave)

145 第11窟 正面廊右壁 佛三尊3種 (浮彫 Three Varieties of Buddha Triad (Relief). Right Wall, Verandah, CAVE 11



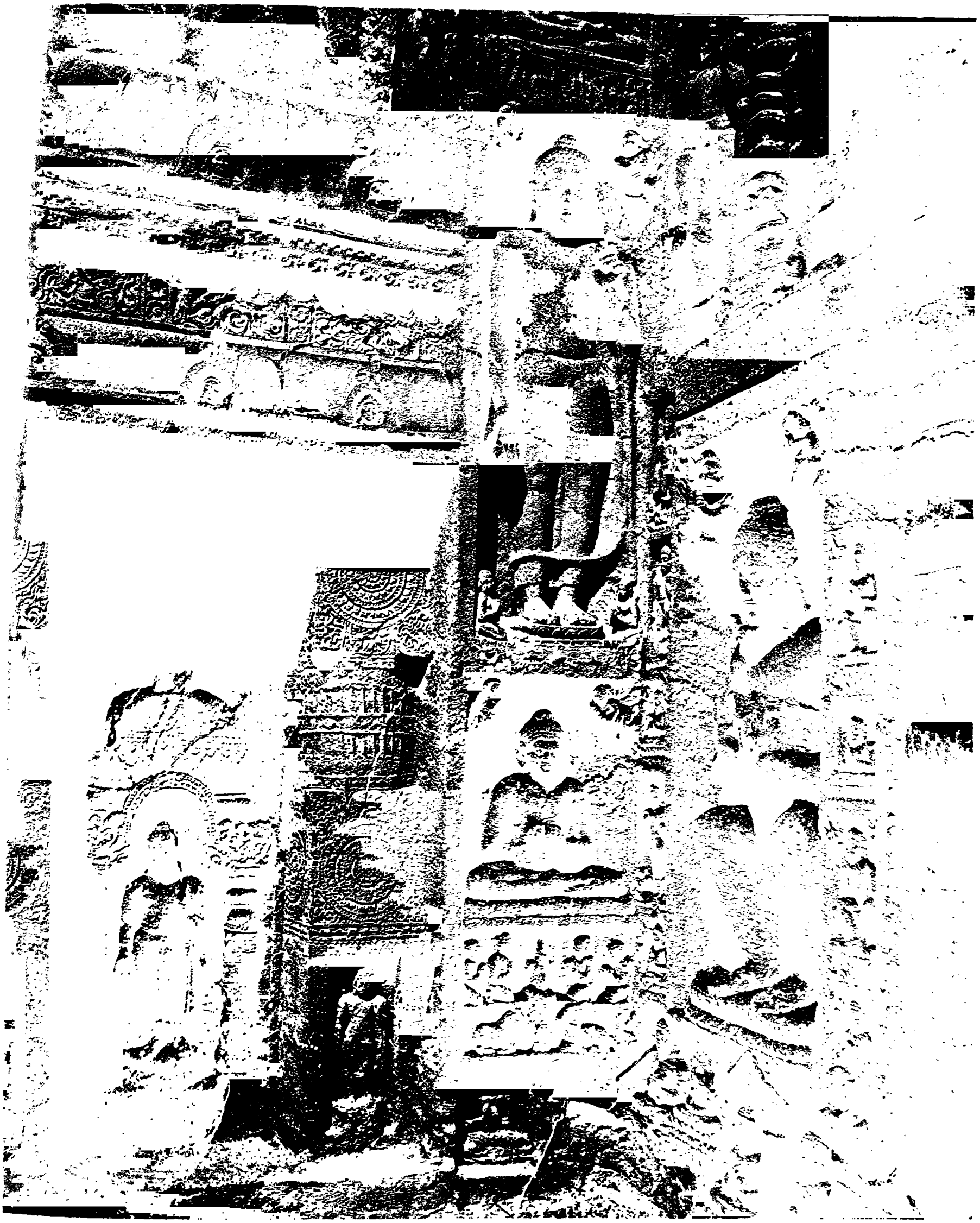
146 第19窟 前庭右壁 佛立像2体 浮彫 Two Standing Buddhas (Sculpture) Right Wall, Court, CAVE 19



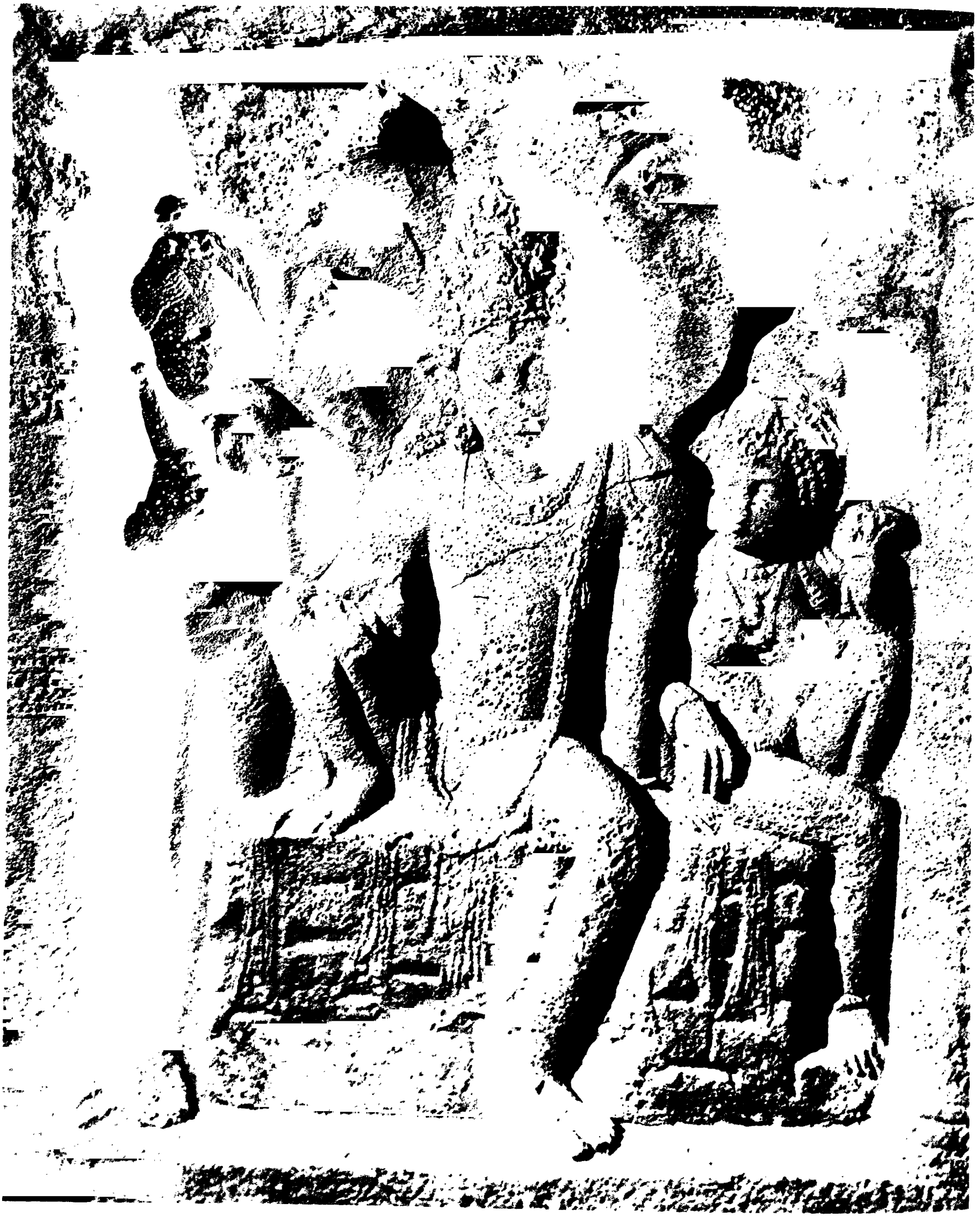
147 第19窟(祠堂窟) 正面 Façade, CAVE 19 (Caitya Cave)

148 第19窟 内部 佛塔と列柱 Caitya and Rows of Pillars Interior, CAVE 19

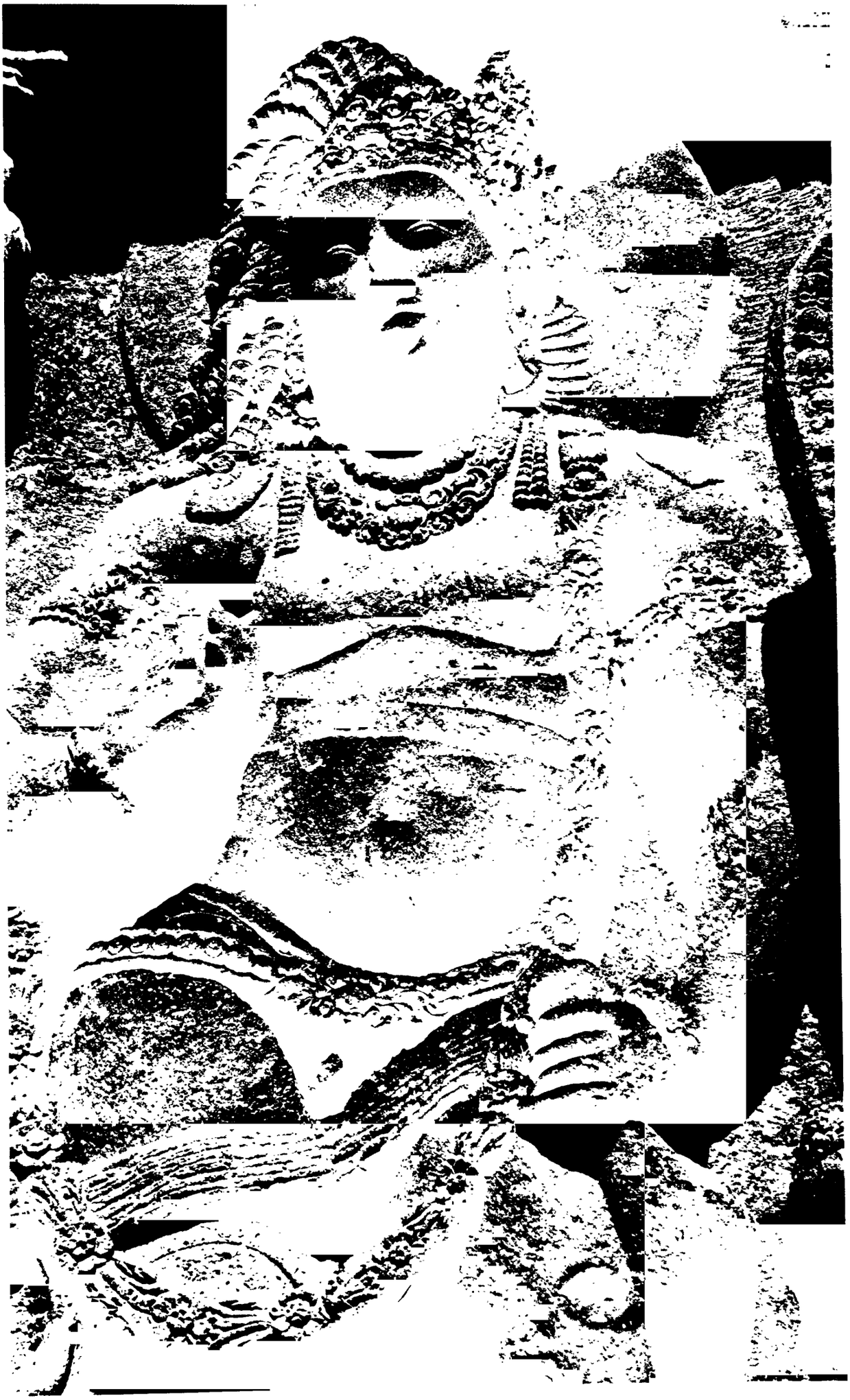
149 第19窟 正面右上部 ヤクシャおよび諸佛の像（彫刻） Yaksa and Multiple Buddhas (Sculpture) Upper Right, Façade, CAVE 19



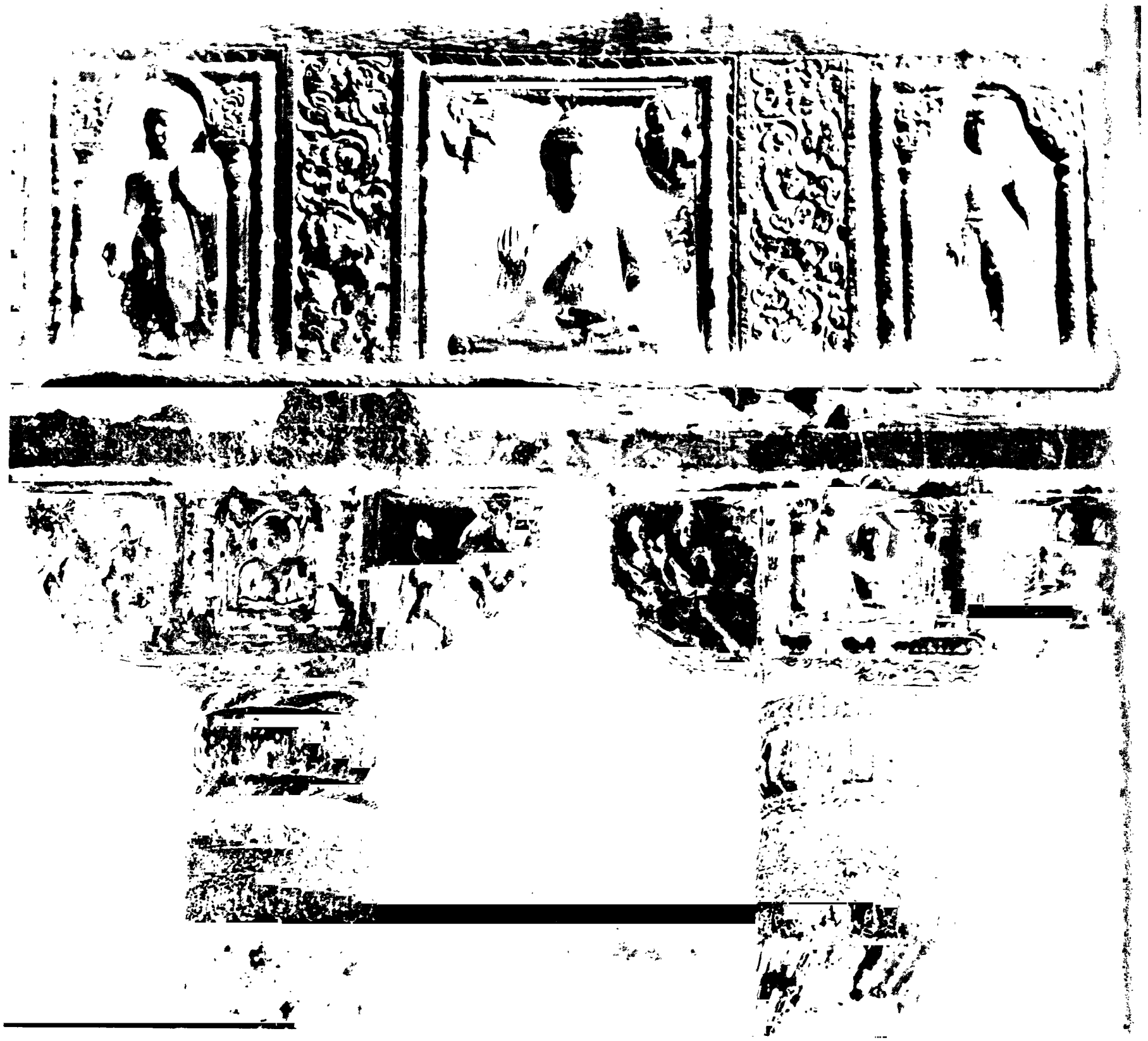
150 第19窟 正面右下部 諸佛の像（彫刻） Multiple Buddhas in Various Attitude (Sculpture) Lower Right, Façade, CAVE 19



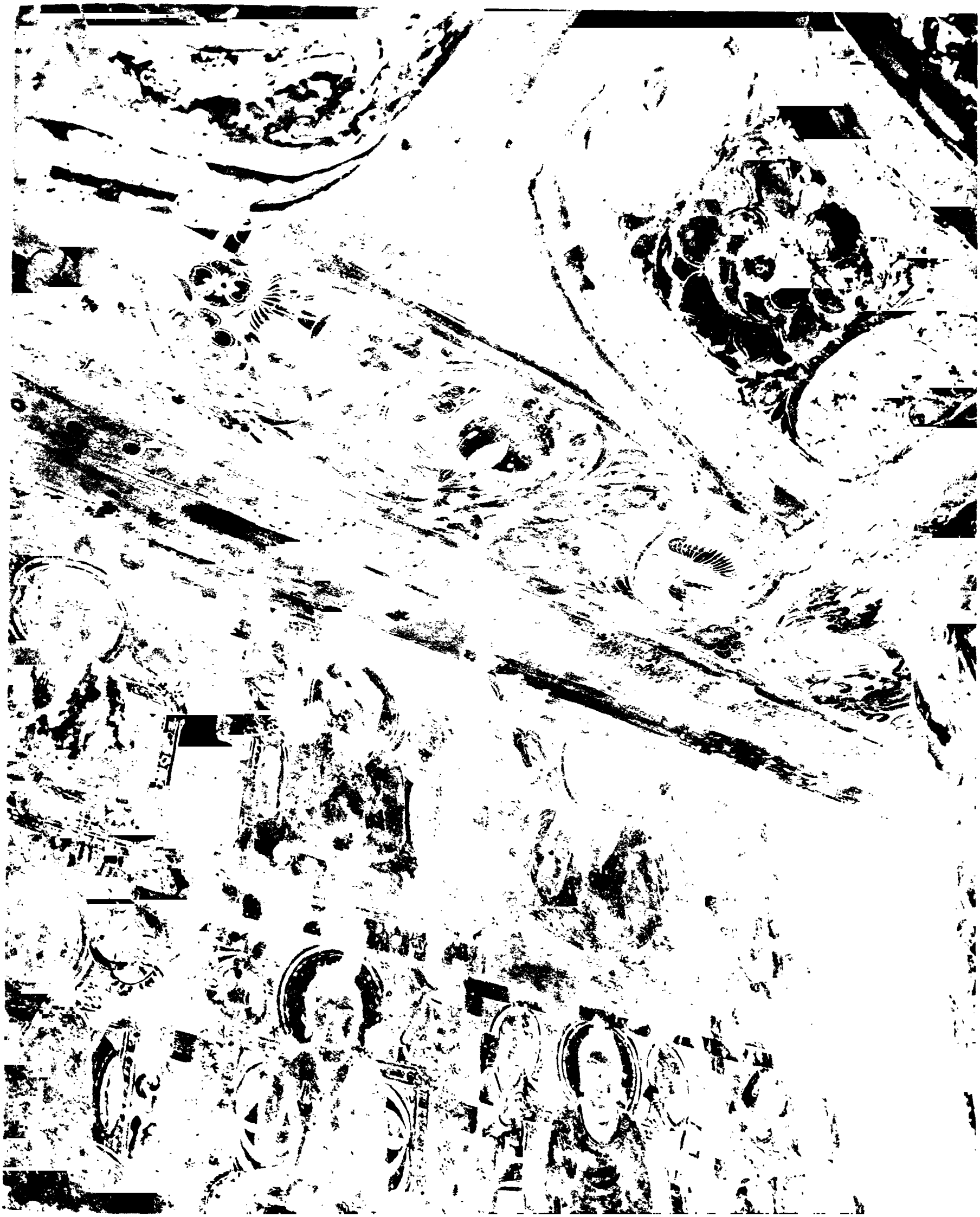
151 第19窟 前庭左壁 龍王と龍妃（彫刻） Nāga King and His Consort (Sculpture) Left Wall, Court, CAVE 19



152 第19窟 正面左上部 肥満したヤクシャ（彫刻） Corpulent Yaksa (Sculpture) Upper Left, Façade, CAVE 19.



153 第19窟 身廊右小壁の装飾浮彫 Decorative Reliefs of the Right Triforium Nave, CAVE 19



154　第19窟 左側廊壁と天井　　Wall and Ceiling Left Aisle, CAVE 19.

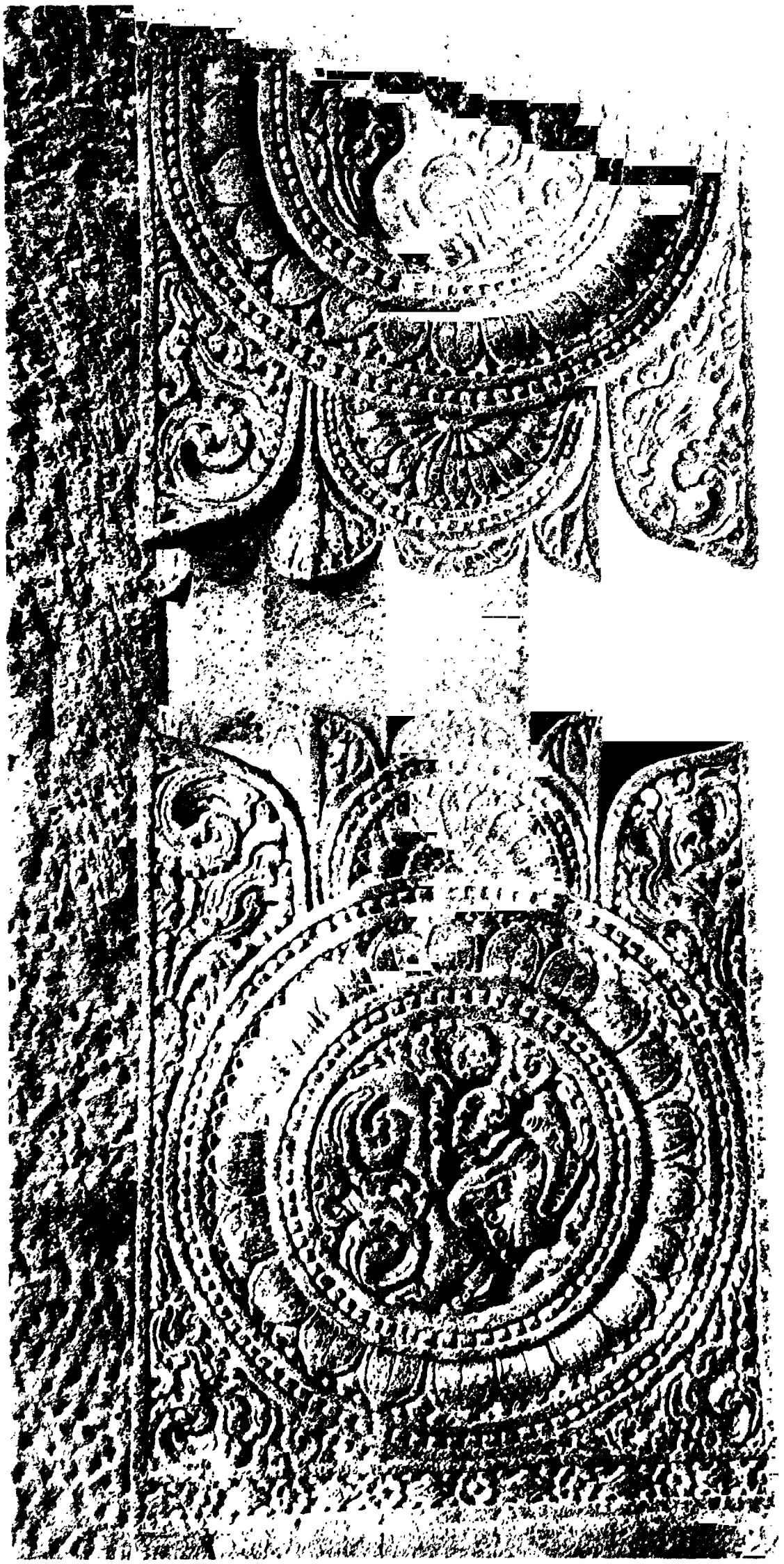
155 第20窟(僧院窟) 佛堂と前室 Inner Shrine and Antechamber, CAVE 20 (Vihāra Cave).

156 第20窟 佛堂前室正面左上隅 浮彫 Reliefs Upper Left Corner, Façade, Antechamber, CAVE 20

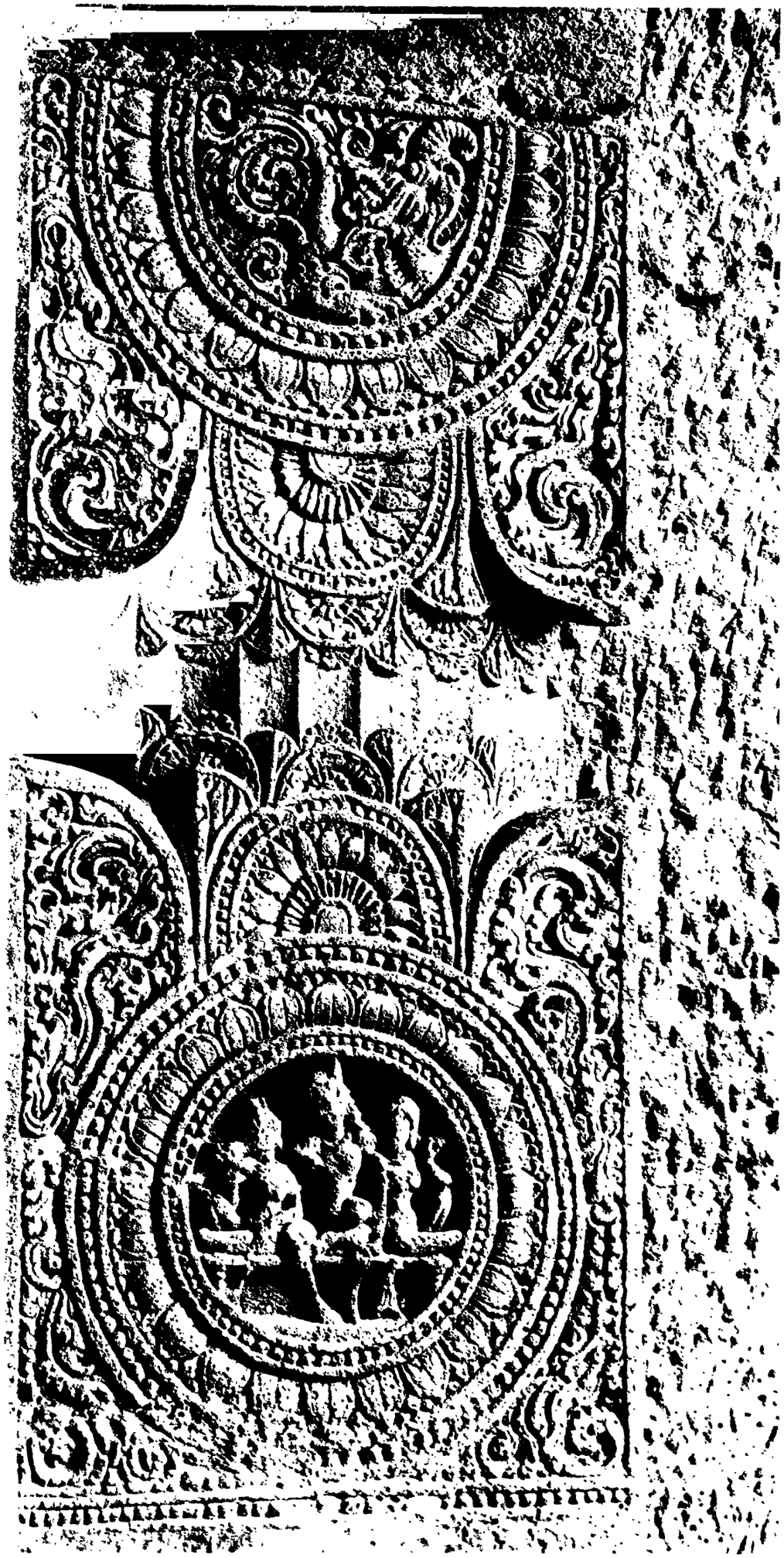
157 第21窟(僧院窟) 左廊 (広間より) Left Corridor, (from the Hall), CAVE 21 (Vihāra Cave)

158 第21窟 内部（左廊右隅より） Interior, (from the Right Corner, Left Corridor), CAVE 21

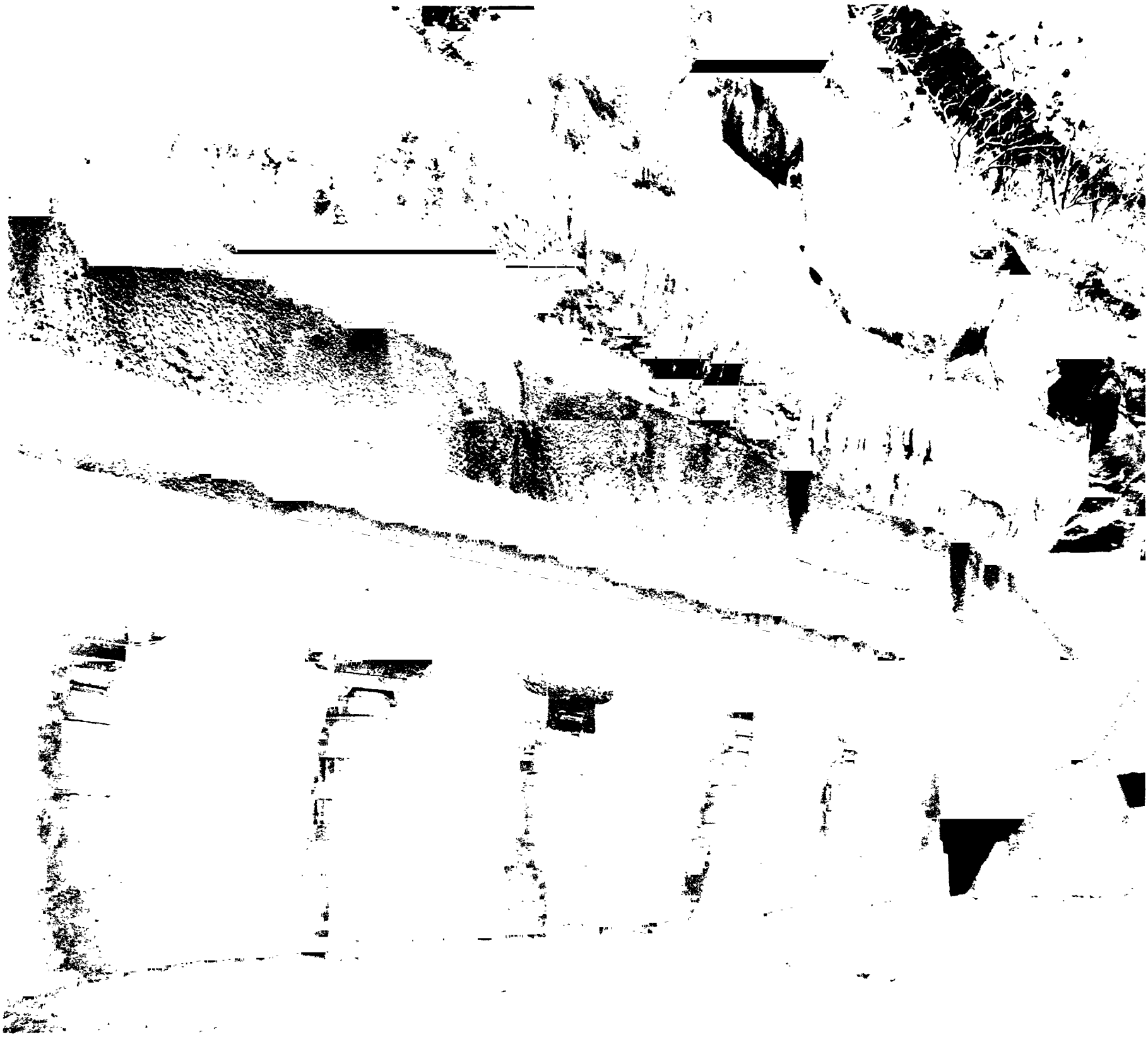
159 第23窟(僧院窟) 前廊右部 Right Part, Front Corridor, CAVE 23 (Vihāra Cave).



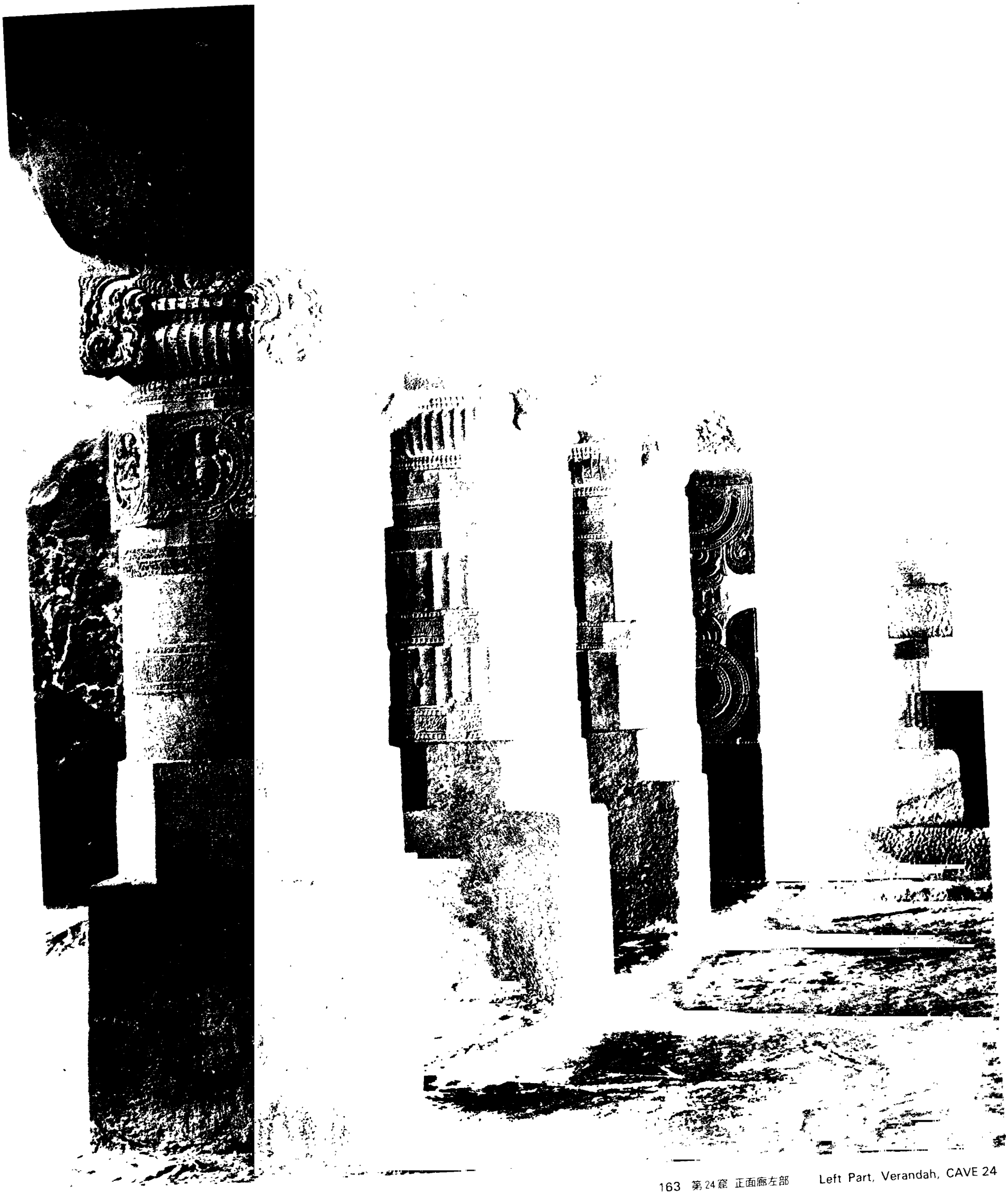
160 第23窟 左廊左壁柱の装飾浮彫 部分 Decorative Reliefs, Left Pilaster, Part Left Corridor, CAVE 23



161　第24窟 正面廊右壁柱の装飾浮彫　部分　Decorative Reliefs, Right Pilaster, Part　Verandah, CAVE 24



162 第24窟 僧院窟 正面 Façade, CAVE 24 (Vihāra Cave)



163 第24窟 正面廊左部 Left Part, Verandah, CAVE 24

164 第24窟 広間床未完成部 前廊より Unfinished Part of the Floor, Hall, (from the Front Corridor), CAVE 24

165 第26窟 前廊柱持送り 樹下美人 彫刻 Woman under Tree of a Pillar Bracket, Front Corridor, CAVE 26

166 第26窟(祠堂窟) 正面 Façade, CAVE 26 (Caitya Cave)

167 第26窟 内部 身廊と佛塔 Nave and Caitya Interior, CAVE 26.

168 第26窟 佛塔左背面 Left Rear Side of the Caitya, CAVE 26

169 第26窟 身廊右小壁の装飾浮彫　Decorative Reliefs (Row of Seated Buddhas) of the Right Triforium, Nave, CAVE 26

170 第26窟 左側廊の浮彫　Reliefs, Left Aisle, CAVE 26.

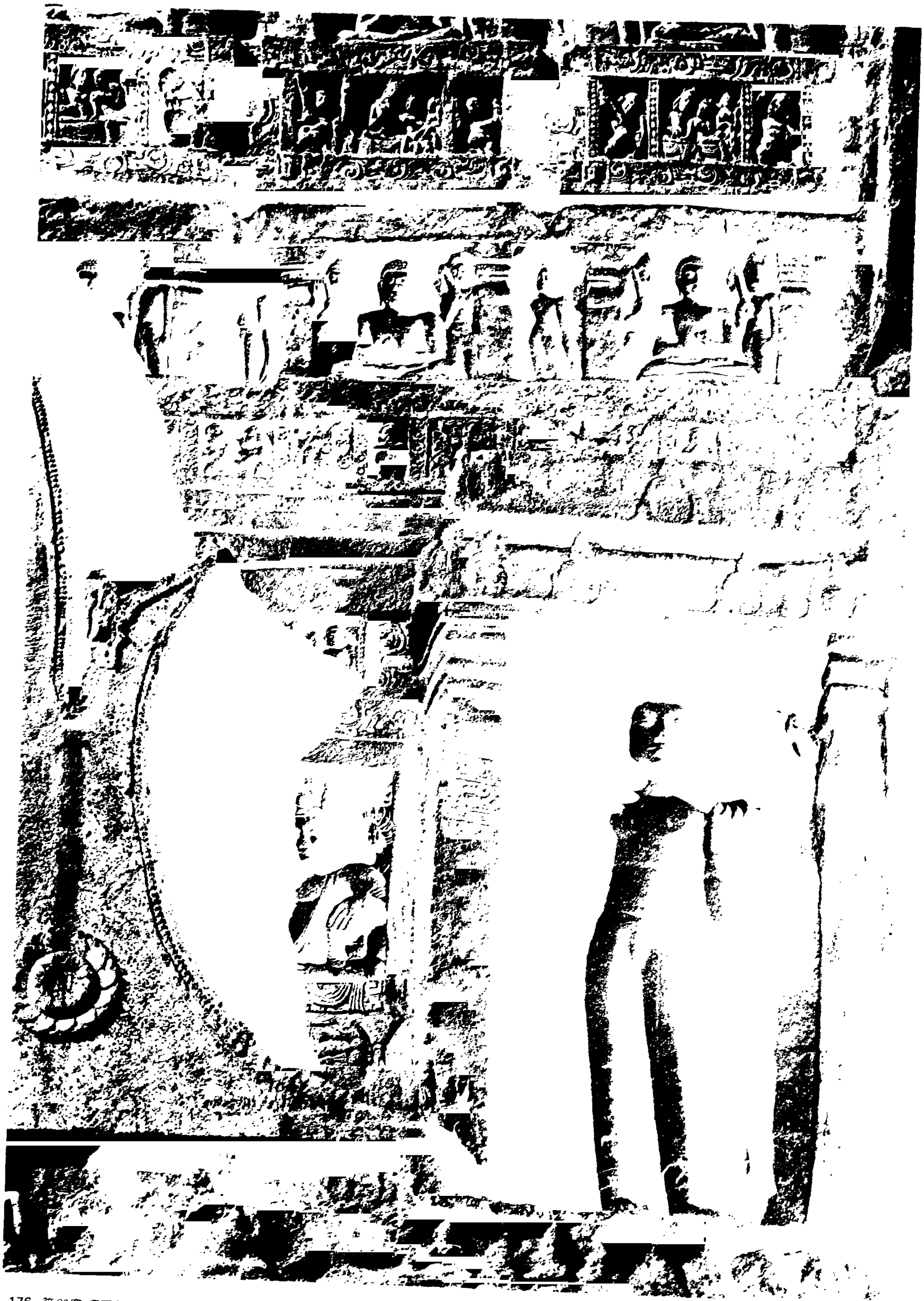
171 第26窟 左側廊の浮彫 1 涅槃像 部分 Buddha in Nirvāna, Part Reliefs (1), Left Aisle, CAVE 26

172 第26窟 左側廊の浮彫 2・降魔 Māra's Attack Reliefs (2), Left Aisle, CAVE 26

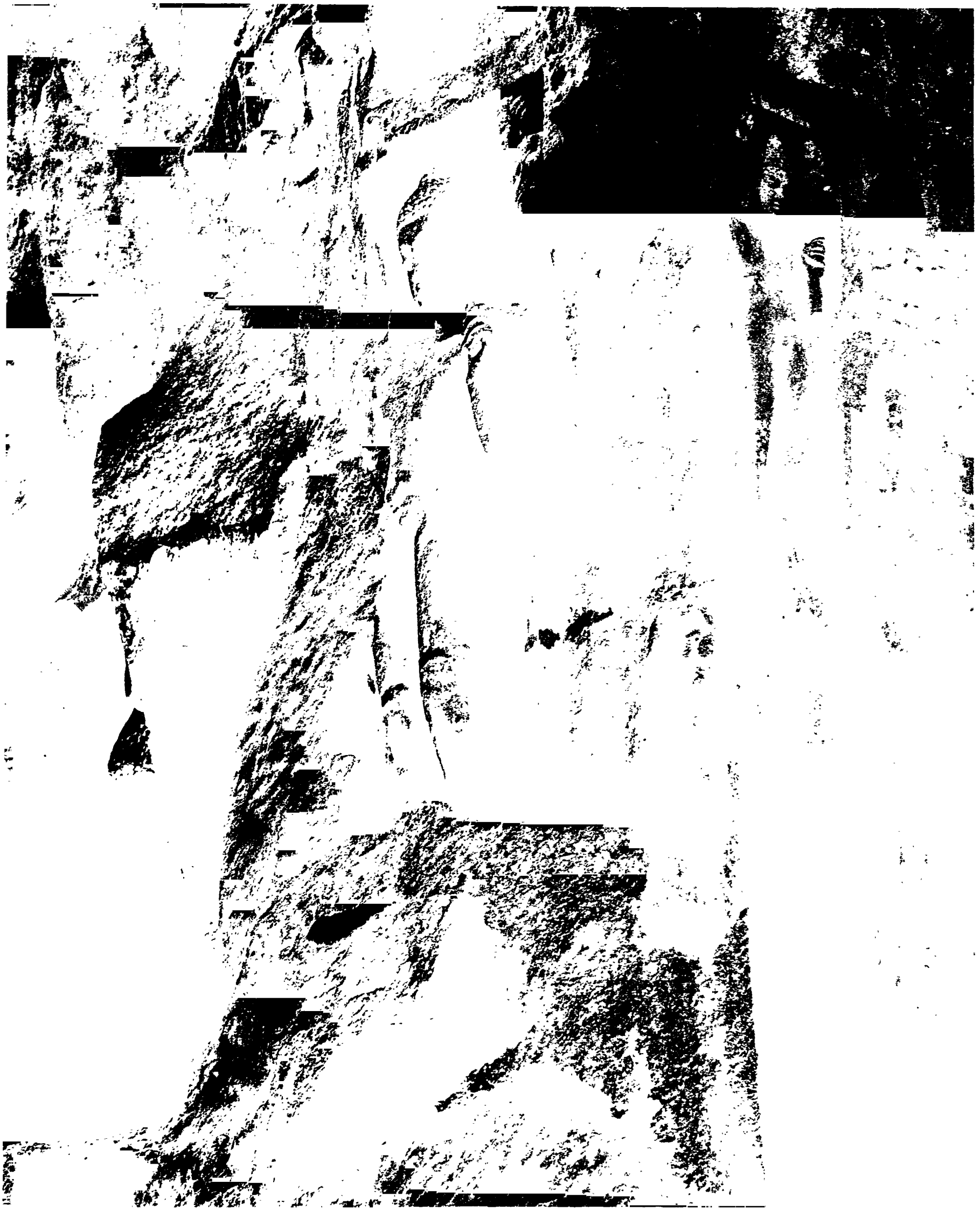
173 第26窟 右側廊の浮彫（1） 佛龕2種 Two Niches with Buddha Triad Reliefs (1), Right Aisle, CAVE 26

174 第26窟 右側廊の浮彫（2） 諸佛の像 Multiple Buddhas Reliefs (2), Right Aisle, CAVE 26.

175 第26窟前から石窟群の左端を望む A View of the Leftmost Caves beyond CAVE 26



176 第26窟 正面右上部 佛像その他（浮彫）（図166参照） Buddhas, etc. (Relief). Upper Right, Façade, CAVE 26. (*Ref.* Pl. 166)



177 第26窟 正面左上部 諸佛の像（浮彫）（図166参照） Multiple Buddhas (Relief). Upper Left, Façade, CAVE 26. (*Ref* Pl.166)

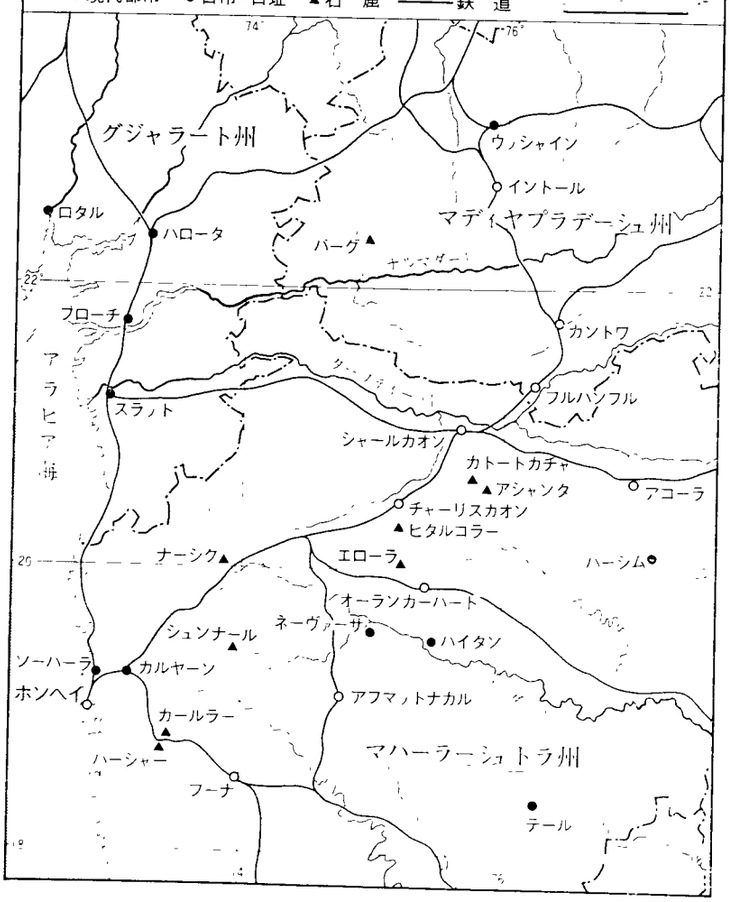
178 石窟群遠望 三ヶ寺 A Distant View of the Caves *Ref* Pl 27)

179 レーナープル村(「石窟村」) ワコラー川上流
Lenāpur Hamlet along the Source of the Waghorā River

本　　文

アジャンタ附近要図

○現代都市　●古市・古址　▲石　窟　——鉄　道



I 序　説

1　アジャンタ石窟群

アジャンタは世界的にあまりにも有名である。東洋の古い文化や美術に関心を持つほど、人ならば、誰ひとりアジャンタの名を、またその壁画のことを知らないものはあるまい。アジャンタ、それはインド西部、デカン高原の西北隅に位置する、それ自身というに足りない小さな町にすぎない。しかもこの町の名を一躍世界的に知れ渡らせたゆえんのものは、ほかでもない、その近くの山間に佛教の古い石窟寺院群があり、中に貴重な壁画を豊富に存しているからである。おそらくこの石窟には、かつては当然固有の名称が付されていたであろう。しかし一部の石窟に刻まれている開掘当時の銘文にも、また多数伝わる佛教文献の中にも、その名は全然記されておらず、放棄されてしまってからすでに年久しいゆえもあってか、これを伝えるものは一つも見当たらない。そのためこの石窟群が発見されて以来、近くにある最もめぼしいアジャンタの町の名で呼ばれるようになっている。

アジャンタ、正しくは Ajaṇṭā または Ajiṇṭhā と書かれる[1]。インド西部、今のマハーラーシュトラ州オーランガーバード Aurangabad 県にあり、以前にはハイデラーバード Hyderabad 藩王国に属した(北緯 20°30′、東経 75°45′)。石窟群はこの町から直線距離で 11 km のところにある。それは東カンデーシュ Khandesh 地方の南辺、デカン高原の西北を画して東西に延びる連丘、いわゆるアジャンタ連丘(Sahyadri Range)の中に位置し、タープティー Tāptī 川に注ぐワゴラー Waghorā 川の侵蝕によってできた、馬蹄形に大きくえぐれる大渓谷に掘られている。断崖はデカン高原特有の噴出岩である球顆状輝緑岩(amygdaloid trap)から成り、高さ約 80 m。その中腹下寄りに大小新古合わせて30窟が並び、一般に川の下流から順次第1窟、第2窟……と番号でよぶことになっている。

このアジャンタ石窟群の全体的な景観は、対岸に突き出ている小山の上からも容易にうかがわれるが*、展望台から俯瞰するのがよりよい眺望にまさるものはない*。展開する壮大な自然の中に、スタティアムのように半円形を形成する大渓谷や、その中腹にはほぼ一線をなして並ぶ石窟の列、またその下方を蛇行してながれるワゴラーの川筋などが、そっくりそのまま収められるであろう。山も谷も草や木に覆われてはいるがまばらで丈が低く、予想されるような熱帯樹林のたくましい繁茂は全然見られない。ことに乾季に好適な冬の季節にしかられないものの眼には、木々の葉という葉は枯れ、黄色い土肌がこっぱこっぱとなって露出しているように見え、ふだんは一帯に荒涼とした景観を呈している。その中で石窟群の並ぶ大きな崖面だけが、黒紫色にくっきりと浮き出ているのは、はなはだ印象的である。アジャンタ附近の地形は、起伏のほとんどない一様なデカン台地が続き、展望台のあるところも

*1, 178

*27

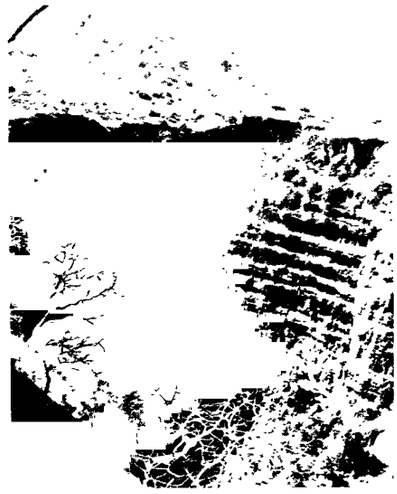
1 アジャンタ石窟

石窟群のある馬蹄の上の辺縁も、みなりた道路、台地のきに属する。したがって眼下に展開する渓谷は、その底をながれる川の侵蝕によって生じたものにほかならないが、平坦なまわりの台地、ふそこだけが急に深く落ちくぼんでいて、上から近づき眺めたいきりでは、日本で普通見られるような、山また山を分け入って見出す幽谷とは全く趣きを異にしたものである。

アジャンタへ、道は、オーランガーバードからの道によるのが最も便利である。道は舗装されており、車でも1時間半を要する。アジャンタの町は少し手前から左折する道をとり、まず展望台(View-point)に立ち寄って眼下に展開する渓谷の景観を眺めたのち、迂回して石窟群の下手にある入口へとまわるのが順路である。しかしこのコースでは、ムガール時代遠征の拠点とされたアジャンタの町*を通らないことになる。一方、北方から近づくには、セントラー～ボンバイ間の鉄道(Central Railways)によって、東カンデーシュ地方のジャールガオン Jālgaon 駅で下り、オーランガーバードに通ずるバス道路を南下すれば、約55km でファルダープル Fardāpur という小村に達する。バスはここから石窟まで更に約7km を迂回して走ってくれる。

石窟群は最も下手の第1窟から始まって第27窟まで続くのであるが、各窟の壁に、近年石を削るなどして作られた落書きがあり、容易に一巡してみることもできるが、一般に高低があり、第8、9窟あたりが最も低く、第26窟以下の下流に近ずくほど高くなり、第29窟が第21窟の上方に孤立して残されており、自由には登ることが不可能である。アジャンタの渓谷は、石窟群の見える上手のあたりから、対岸のゆるやかな山腹をたどるようにしてくねり、やがて平坦な台地となる。サトクンド Sat-kund とかいう名の小村、これを少し過ぎるとレーナープル Lenāpur 石窟群という小村に達する。この村を除いて密集した数kmの間、人民の住む家は全然見当たらない。

アジャンタ石窟は、ちょうどもっとも多くの人が集まる夏の一日を選んで、まず第1番目から後1回目までの間、古い窟(第1期窟)を、後5～6回目から7番目列までにかけて第2期窟、第10窟から、第26窟までの数窟が古い部分にあたる。第1窟がなにから古い列に属するかの窟に属するかは、ただ後半に年代のある第2期に属するものが、建築的にみて、壁画を含めて、ほぼ一致していることが、ただちに、わかる。石窟には2種の異なったものがある。一種は、僧侶の住居を目的とした僧房(caitya cave)、他の一種は、礼拝を目的とした祭堂(vihāra cave)である。[illegible]数は、[illegible]寺院[illegible]である。アジャンタの場合、第9、10、19、26、29の5窟が[illegible]第2期、[illegible]第1期、中期に[illegible]



2 [illegible]

展があり、詳しくは後章に譲る。

2　壁画とその重要性

次に壁画は、約半数の石窟に多少とも描かれていた形跡を残しており、紀元前後に遡る古色さえ、神秘的ながら見られるのは幸いといわなければならない。全体に剥落や損傷が多いが、見栄的保存状態の壁画もすくなくない。中でも特に豊富に壁画が残っているのは第1、2、16、17、4窟で、これらの窟では、大きい壁面をすべて描かれている説話画や尊像画が圧倒的に多く、それらを通して、インドでいう色あざやかな「美」のようすをしのぶことができる。石窟内は、入口や窓を大きく開けた柱廊窟、礼拝堂、僧房、大体まっくらで、扉なしには壁画も仏像内の壁画もほとんど見ることができない。しかし、記録した4窟だけには、現在2個、大きい電燈で照射できる設備があり、近く蛍光燈が設置される模様である。

さて、アジャンタが発見以来大きい関心を集め、世界的に知られるようになったのは、いうまでもなく豊富に壁画を保存していることにある。元来、インドは、すでに早い時代から高度な文化とすぐれた造形美術とを発展させたところであり、これを具体的に示す建築、遺構遺跡や彫刻、遺品は多数存している。しかし絵画に関しては、遺憾ながら高温多湿の風土のゆえもあって、古代に遡るべき遺品はほとんどなく、アジャンタを除けばごくわずかの壁画断片が、1～2、石窟・院内で発見されるにすぎない。したがってアジャンタに古代壁画が豊富に存しているということは、ともかくいわなければならない。しかもそれは、新旧2時期にわたる壁画を擁し、古いのは紀元前後にまで遡るきわめて珍重すべき遺品である。さて第2巻は、本書に収録した大部分の写真がこれであるが、インド古典文化、殊に高揚した時代、グプタ時代後期の制作になり、古代インド絵画を代表するに値する優秀作であるばかりでなく、インドの壁画に存するかぎりで、インドの古代に展開した絵画のありかたを、ある程度まで推測し、それに関し、具体的な知識を得ることのできる、唯一の資料、貴重な遺産である。それゆえ、当時、すぐれた彫刻を残すことのできたアジャンタ壁画、インド美術史上に占める重要性、ないしは、インドにおける意義は、まさに、ここにあるであろう。

いうまでもなく、アジャンタ壁画は、仏教石窟寺院、内部装飾であり、したがって、広く東アジアでおこなわれた仏教絵画、特に寺院内部装飾、ないしは、仏教的な雰囲気を持つ住宅、きわめて密接な関連を持つものである。インドの場合、石窟寺院が、特に長期に渡って、数百年、ないしは千年、ないしは、それ以上にわたって、ヴァカタカ王朝の中央アジアに、さらに東方、遠隔の地にまで、壁画内部装飾に欠かせない

仏説や、壁画に描かれている寺院の砂に埋まった数などが多数見出されている。アジャンタの例から見ても明らかなように、それらはインドの源泉になるものともいえるが、わが法隆寺の壁画にしても、直接アジャンタと結びつくものではないが、インドから中央アジア・中国へと伝播した、仏教絵画の系譜に属することは明らかで、その意味では源流インドを代表するアジャンタとも関連させて論じられるべきであろう。

以上のように、アジャンタの重要性は主としてその壁画にあるが、さらにそれに加えて、石窟寺院という特殊な形態において、建築・彫刻・絵画の三つの造形芸術を形成している最も古い遺例であることも忘れてはならない。インドでは石窟寺院の開掘は、ごく古くから、特に西代では仏教の石窟が多数開かれ、顕著な発達を見るに至った。石窟を掘るのは取りも直さず石の塊りであるが、仏教窟の場合は、ブランも正面に内部の構造も、野外に建てられた本造寺院建築のそれのようになって、空間を作られるのが常であり、全くそれに倣った寺院建築をかたどっているのである。したがって、インド古代の仏教窟は、いずれも彫刻であると同時に建築でもあり、なお各部を飾る装飾的な彫刻が多くの部を占めている。しかるにアジャンタではそれに加えて、四面壁画を全面にわたる内部で装飾されていたのであり、その点でも総合造形的な要素を形づくっていたということができる。もちろん、その石窟は、建築と彫刻とさらに絵画という総合的な結合のもとに、最初から造られたものではなかったが、とにかく造形美術のこのジャンルをもっとも遺例、インドではまったくアジャンタにのみ見られるのであり、それだけに特に重視されるべきである。

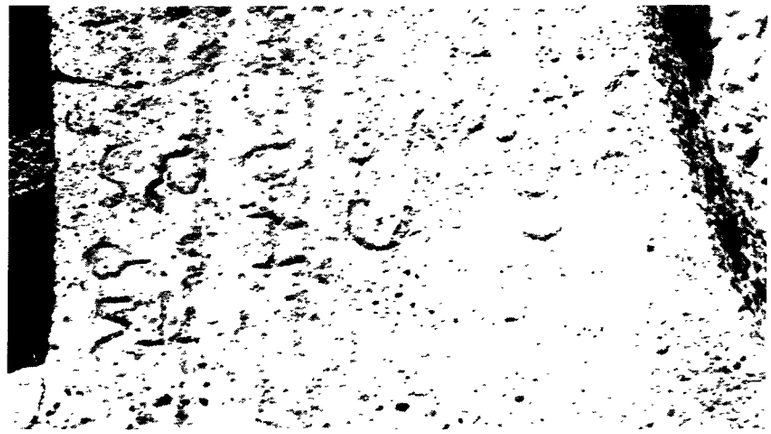
II 沿　　革

1　石窟の造営

アジャンタ石窟の歴史は最も古い第10窟の開掘から始まる。それは大体紀元前100年頃まで遡ると推定されるが、当時の西インドの事情についてはほとんどわからない。仏教の伝播については、仏教がすでに前3世紀アショーカ Aśoka 王のとき、この地方に伝播されたといい、南伝によると[2]、そのとき有力な僧の布教した地方として、西インドではソーパーラ Sopāra を中心とした西海岸地方に当たるアパラーンタ Aparānta と、ゴーダーヴァリー Godāvarī 川上流地方を指すマハーラッタ Mahāraṭṭha(～Mahārāṣṭra)とかぞえられている。アジャンタ以下幾つかの古い第1期寺院が、そこにいう地域に多数分布しているのも、仏教が早く浸透し、熱心で有力な信者を少なからず確保するに至っていたからに相違ない。しかしアジャンタの場合、最も古い第10窟の銘*および第12窟の銘に見える寄進者がどの程度の有力者であったかは不明で、ただ第12窟の寄進者が商人であったことがわかるにすぎない[3]。一方西インドにおける初期の支配者として、前1世紀から登場してくるものにアンドラ Andhra(または Śātavāhana)王朝がある。ゴーダーヴァリー川上流、アジャンタの南方約130kmのパイタン Paithan(～Pratiṣṭhāna)を首都とし、後2世紀前期を頂点に強勢を誇った王朝で、その盛期には王または王妃の関係者によって、幾つかの重要な仏教石窟が造営されたことも知られている[4]。アジャンタの第10窟以下第1期に属する石窟の開掘も、あるいはこの王朝の支配となんらかの関係があった可能性さえ考えられるが、いまいちこれを実証することはできない[5]。

アジャンタではその後数世紀間の不明時代をおいて、5世紀後期から再び石窟の造営が始まり、大体7世紀前半頃までの間に、既述第1期窟を除くすべての石窟が開かれるに至った。この第2期の盛んな造営活動は、当地方を支配していたヴァーカータカ Vākāṭaka 王朝の有力者による開掘と密接に関連していたもので、そのことはそこの重要窟に残る長文の寄進銘によって知ることができる。しかし開掘事情の知られるのは3～4の窟にすぎず、それ以後のことについてはほとんど資料がない。なおこれらにアジャンタに関する記事を思われるものが欠如している。『大唐西域記』に見えない。参照されたい。

さて、第2期の造営活動は寄進者が、第16、17、26の3窟に残されており、いずれも韻文で書かれた長文のサンスクリット語で、風化や磨損・欠失の箇所は多いが、おおむね読み取ることができる。これらは第1期と第2期、ヴァーカータカ王朝のハリシェーナ Hariṣena 王(在位475～500A.D.)のとき、それぞれ大臣および諸侯のだれかが寄進したことを記したもので、時代資料としてもたいへん重要である。これに対して第3



3 [illegible]

[illegible]における仏教僧が造営を企図したことを示すものとみなすことができよう。碑文の記事は、仏教の聖地として[illegible]

[illegible]第16窟の[illegible]は、[illegible]に[illegible]ました。初めには現在の主ハンシャーナに至るまでのヴァーカータカ王朝、系譜を記し、[illegible]ハスティボージャ Hastibhoja [illegible]ヴァラーハデーヴァ Varāhadeva [illegible]仏教教団に寄進した田を述べたものであり、その窟に関しては、[illegible]スヴィトゥ(suvīthi)・ヴェディカー(vedikā)・祠堂の主〔に仕える〕[illegible]なとして[illegible]奥なる本堂(antara-caitya-mandira)をそなえていることが、[illegible]ナーガ nāga [illegible]住居(nāgendra-veśma)[illegible]と[illegible]第16窟にはここに記されている[illegible]

[illegible]第17窟[illegible]ヴァーカータカ朝ハンシャーナ[illegible]Sahya [illegible]ムニラージャ・チャイティヤ(munirāja-caitya)[illegible]マンダパ mandapa [illegible]ガンダクティー gandhakuṭī [illegible]第17窟[illegible]第19窟[illegible]第16、17、2窟[illegible]ヴァーカータカ朝ハンシャーナ[illegible]第16窟[illegible]2窟[illegible]175[illegible]ヴァーカータカ王朝[illegible]ヴァトサ(Vatsa)[illegible]

ラクプタ Candragupta 2 世(紀375～414A.D.)の王女をその子に迎えて、この都国と姻戚関係にあったことによる。アジャンタの銘文に見えるハリシェーナ王は、アジャンタの東南東方130km、今のハーシム Basim (Vatsagulma) に拠っていたこの王朝の傍系に属するが、正系の王家にとって代わり、四方の地を征し、栄えていたらしく、そのことはアジャンタの銘からも窺われる。当時はクプタ文化の最高潮に達し、サーンチーやマトゥラーのグプタ様式で代表されるクプタ美術の黄金期を迎えていたときに当たる。ここでこの地方もまた、その同じ高い文化を享受していたことは疑いない。この王朝の諸王は仏教に好意的であったようで、ハリシェーナ王の大臣や諸侯のなかには、石窟の院を造営して寄進するほどの篤心な仏教徒がいたことが知られる。仏教の当地方における弘通は推して知るべきであろう。とにかくこの王の時代に、アジャンタでは第16、17、19の少なくとも3窟が、高揚したクプタ文化を背景に、隆盛を極めた時期であったと思われる。そしておそらくこれを契機として、当地の第2期諸窟の造営が始められておこなわれるようになったのである。

最後に第26窟(祠堂窟)の銘は、正面壁の後壁、ちょうど右入口の上方にあたるところに刻まれている。それは、この窟に対する讃詞を記したもので、アチャラ Acala 上座が(ここにおいてここに)造ったために石窟を作ったことを述べ、次にブッダバドラ Buddhabhadra 比丘が両親のために、また後、亡夫であるアシュマカ Aśmaka(ゴーダー[illegible]ール[illegible]側)の王に仕えた大臣バヴィラージャ Bhavvirāja のために、[illegible](阿毘)の仕事を作ったことを述べ、このバヴィラージャおよび(その子の)大臣デーヴァラージャ Devarāja に対する[illegible]長期[illegible]を祈り、さらにこの[illegible]掘者たちにはたらいた比丘の援助を呼びかけていることを記している。この[illegible](石窟)は、[illegible]ように、[illegible]に[illegible]が、[illegible]大な[illegible]、住[illegible]山、中に[illegible]造営されたものである。これは、アチャラ上[illegible]が[illegible]発願になるもので、ブッダバドラ比丘がこの祠堂窟の造営[illegible]ことを述べたと解されるが、[illegible]碑文の書風は大体450～525年の間と見られることから、それより2窟[illegible]掘[illegible]ということになり、[illegible]的にもやや年代が下がることを示している。[illegible]ハリシェーナ王[illegible]後のことが知られます。[illegible]王朝[illegible]Kalacuri 朝[illegible]初期チャールキヤ Cālukya 朝の領有[illegible]

ここで、7世紀[illegible]ここ[illegible]を旅した玄奘[illegible]マハーラーシュトラ(Mahārāstra)国の[illegible]

国の東境に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

"Fragment of Fresco" from Ajanta. Courtesy, Museum of Fine Arts, Boston. Clara Bertron Kimball Fund

4 剥ぎ取られた壁画の一部（ボストン美術館）

れたり、壁画が剥落したりするなどして、それが自然の摩耗や風雨にさらされるがままになってきたのであるが、しかしそれでもなおかつ幸いにも、発見されたときにはそれは比較的保存のよい状態にあったように思われる。

2 発見以後

1) 発　見

このアジャンタ石窟が初めてヨーロッパ人の眼にとまったのは1819年のことで、マドラス連隊の一士官が狩猟に来て、偶然これを発見したという。[10] 以来この石窟に関する紹介や研究が出始め、それにともなって強制されたこともあって公開に関心が高まり、これまで来る人もまばらで、多くを知られずにいたこの遺跡は、それとともに、損傷しやすい壁画は最も被害を被ることとなり、連日心ない観光客の落書きで汚されたり、名をみこんだ行者等、数人ずつでかかってそこなわれたりもしたほか、自然の剥落の度を早める結果をもたらしたのである。[11] 中に第10窟は、正面が大きく開けて明るく且つ広い空間であったため、観光客の落書や落書で全面、ことごとくされてしまい、今では、それらの痕きを定めてなぞることもできない。[12] （図7～8に落書を避けて撮写したもの）　さらに、第17窟は、[13] 第17窟正面　[illegible]　[illegible]　[illegible]

2) 壁画の模写と図録

アジャンタ壁画の模写は、大小いろいろな[illegible]数におこなわれ、ほかに調査による任意の部分模写も試みられている。アジャンタの場合のように、古代の昔、それも人里離れた石窟内に豊富に描かれていて保存管理のむずかしい壁画においては、その現状を忠実に模写することは、いたみやすい壁画の安全の時点でとらえて後世に残し、また大勢の鑑賞に供するのはもちろん、研究や保存に役立てるためにもきわめて必要かつ不可欠のことであるにはちがいない。それはカラー写真の発達した今日でも常に要請されるところ、まして百世紀のことであれば、これ以外に採るべき方法はなかったはずである。

さてアジャンタ壁画の模写は、壁画の重要さを強調したファーガスンの主張を契機として、東インド会社の事業の特[illegible]として、ギル少佐 Major Robert Gill に命じてこれに手をつけたのが最初である。ギルは1849～55年の間に大半の30点ほどの模写を完成した。それで保存の最もよい状態を写したものとはいえ、[illegible]であったが、1866年、これを展示しようとしてロンドンのシデンハム Sydenham の水晶宮に出すべく、その大部分を失ってしまい、写真のみが残されるに終わった。

第2に[illegible]インド政庁の[illegible]で、ボンベイ美術学校長のグリフィスによってなされた一度に多くの[illegible]が[illegible]、1872年から85年にかけて長期間にわたって3年間の中断をはさんだ125枚、サンハスを仕上げたものを含めると[illegible]模写をした。1885年6月、これを[illegible]したサウス・ケンジントン South Kensington インド博物館で公開したが、大半(87枚)を[illegible]した。[illegible]アジャンタ壁画の模写をふくめた[illegible]グリフィスの[illegible]は、学生等の援助によって1887～92年の間に、[illegible]ものを含めて159枚の模写を完成した。[illegible]58点を色彩[illegible]これにおいて[illegible]アジャンタ模写は、大部分[illegible]。2度目の[illegible]1896～97年の[illegible]度、壁画、現状模写[illegible]見解を除いて[illegible]アジャンタ[illegible]最初に[illegible]

[illegible]1909～11年[illegible]Lady Herringham[illegible]第3回目の模写[illegible]インド協会(Indra Society)[illegible]アジャンタ壁[illegible]2度[illegible]1915年[illegible]15点[illegible]

色で27図が掲げられている。このときの模写はその[illegible]時にも指摘されたように、主観的な役割や省略があって実際とは違うところが少なくなく、運筆も彩色も粗雑で原画の趣きをあまり伝えていない。[15]

わが国でアジャンタ壁画に関心を寄ふようになったのはその直後のことで、日本画の[illegible]による[illegible]写しの部分模写も相次いでおこなわれた。その第1は1917～18年国華社の派遣による荒井寛方・朝倉[illegible]・野生司香雪3氏の模写で、合わせて9点を写し、そのうちの5点が[illegible]木版色刷として多[illegible]「国華」に発表された。[16]このこの日本の模写も1923年の関東大震災にあい、[illegible]英人[illegible]、模写[illegible]災厄を被って滅失した。そのほか日本[illegible]でインドに渡り一部の模写を残した人に、堀谷[illegible]・[illegible]・[illegible]等の諸氏があり、下って1937～38年の移[illegible]氏もそのひとりである。[17]

次の模写は、アジャンタを領内に持つハイデラーバード藩王国政府が1915年から始めたもので、サイド・アーマッド Syed Ahmad がこれに当たった。この模写は政府の保存作業の一環として、毎年[illegible]にわたり進められたが、いずれも情景の一部分や好みの人物などを選んで写す部分模写にすぎなかったようである。[illegible]おこれを行って後述するように、[illegible]政府による[illegible]写真撮影がおこなわれた。最後に独立後の中央政府が始めた現状模写は、保存事業と平行的に1956年から引き続きおこなわれており、すでに20数点[illegible]の大きさで[illegible]され、作品はニューデリー国立博物館に陳列されている。[18]

ここで壁画の写真撮影や図録[illegible]についても触れておこう。[illegible]参照。最初、1911年ごろ[illegible] Victor Goloubew が単色写真で試みたのがそれで最初で、[illegible]1号[illegible]に出版された(1927年)。次いで全面的な大がかりな撮影は、ハイデラーバード政府の依嘱[illegible] E. L. Vassey によって実施された。これは後述する[illegible]自の[illegible]撮影(1920～22年)が終わって[illegible]おこなわれたもので、[illegible]にヤスマニ[illegible]した人[illegible]図録「アジャンタ」4冊(1930、33、46、55年)の刊行[illegible]。[illegible]写真[illegible]数245、[illegible]ことに[illegible]420、[illegible]色刷図版68(89点)、サイド・アーマッドの同意[illegible]トレース[illegible]18頁(図版[illegible]、46)などを含み、[illegible]図録[illegible]最[illegible]大きく出[illegible]理的で、単[illegible]写真[illegible]大[illegible]。[illegible]色刷[illegible]分解写真[illegible]、色調[illegible]、[illegible]ー写[illegible]印刷[illegible]。印刷[illegible]単[illegible]。[illegible]、細部[illegible]写真[illegible]。[illegible]

[illegible]Madar-

Jeet Singh の写真によったと思われるユネスコ『世界各国絵画シリーズ』ポイント』（1954年）、デ・ハルポール David L. de Harport がインド政府並びにユネスコのために撮影した写真を原資として出版された2～3の書。[20] さらにレンタルの、細部の表現や色調を欠いたことに主眼をおいた『アジャンタ』（1965年）などといわれている。[21] インド考古局の新しい写真によったコーシュ A. Ghosh 編の『アジャンタの壁画』（1967年）は今のところ最も新しい出版で、色彩図版85、白黒図版20点、白黒の彩色写真16点を収め、最近の書では最もすぐれた内容である。そこにみられた図版は、カラーがない撮影条件とも関連してはいるが細部にまきあい、その選択にもよるであろう、遠慮なしの、即物的な関係で、ほぼ原画の色調を伝えていることはたしかである。

3) 保　　存

アジャンタ石窟は開掘以来、古いものでは2世紀以上、新しいものでも千数百年を経ているが、これまでに耐久性のある石窟や石の彫刻であるとはいえ、その長い年月に自然の破壊を被り、内壁の一部崩壊や彫刻の破損、または彩色の剥損などが生じているものである。まして内部のみやすい壁画においては、剥落・変色・汚損に絶えず進行していたことは容易に推測できる。それが発見以後では、観覧者の増大による人為的な破壊をも加えるに至り、ことにそれら壁画の被害は、ほぼ毎年のように損傷行為にも見られるものである。しかし発見されてから約1世紀の間、これらはインド各地の寺院などに比べ、明らかに、もっとも放置されたままであった。それゆえにこそ、その壁画にかけては、当時にはフニスを塗ったことなどあり、これは壁面を凝固による保護であるが、その結果を巡るものを見ることもあり、それらはクリトファスの写真の際にはこれは外されたと推定されるが、それらの壁画の色調がこれにより、失きの著しい劣化をもたらしたかどうかは、今日の研究者に受けたにもかかわらず、そこにはなかった。

ところで、この保存事業は、ハイデラバード藩王国政府により、その管理のもとに実施されたものであり、1920～21、1921～22年の2年にわたり、イタリアのローマ国立修復研究所のローレンゾ Lorenzo Cecconi 氏の助手にあたるものが、インドに派遣され、彩色の一部の剥落を防ぐ目的で、ニカワ（gum dammar）に溶解したシェラック（shellac）とダンマル（gum dammar）に溶解したシェラックを塗布した。その結果は、色彩の変化をもたらすものであるとの批判を受けたが、これは保存作業に関係のないものであるとされている。一方、石窟自体の保存については、剥損した壁面の修復、崩壊した柱の補強、また色彩部分の剥落による損傷については、蝋・ニカワ・ゴム・観光の加工品

5 [illegible]

るなどの施設を作るなど、「政府の保存事業はその後積極的におこなわれ、見るべきものがあった」[illegible]

インドの独立(1947年)以後のアジャンタ保存事業は、1951年アジャンタの国宝に指定されたことから、インド中央政府考古局の管轄下に移され、1953年からその作業を開始した。石窟については、[illegible]なども補修、崩れた箇所の発掘、[illegible]部や色褪せ部の加筆など、[illegible]ハイデラバード政府[illegible]におこなった[illegible]積層にもろくなった[illegible]修を改めて、[illegible]コンクリートの[illegible]に努め、また一部の石窟の大修復をおこなった。コンクリートで補強するなど、各所において事前の調査に基づいてきたため、壁画の損傷を防ぐ[illegible]ともに、考古局の年報に報告されている。壁画に関しては、[illegible]考古局の化学部がこれに当たり、壁画の[illegible]に溶かされた[illegible]ラックを化学的溶剤を用いて除去し、[illegible]やの料の浮き上がった箇所には透明な接着剤を[illegible]で[illegible]落止めし、また[illegible]の安全な色[illegible]で[illegible]ほこりやこれを[illegible]位、表面[illegible]物を除去することに努め、[illegible]な塗料・[illegible]・[illegible]・ターペン[illegible]・果[illegible]で[illegible]、[illegible]の実験を重ね、[illegible]な薬剤や[illegible]合わせることができたと、新しい化学的[illegible]について、壁画[illegible]や[illegible]などの[illegible]的におこなわれているが、[illegible]した壁[illegible]る諸石の壁面全体にたる化学的色[illegible]を移動できないうえ、一応、[illegible]が終わったところでは、[illegible]は減退やいき[illegible]果をもたらしている[illegible]

[illegible]除去されて、[illegible]において[illegible]色、色[illegible]もとの[illegible]した箇所をコンクリートで補[illegible]壁[illegible]経の付きとして保存できるように思われる。

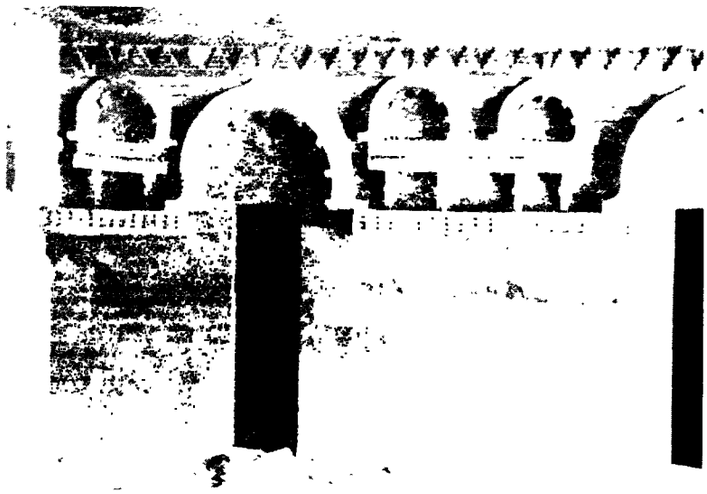
III 石　窟

アジャンタ石窟寺院は前にも触れたように、[illegible]造営による2[illegible]区別され、最も古いものでは100年頃までさかのぼり、おそくとも後7[illegible]までは下らないと推定されるポイントには仏教の石窟寺院が多数存し、ことに西ポイントに集中して存在する。アジャンタ、さらに、[illegible]代初[illegible]タプタ時代という2[illegible]にわたり開掘されていたことのあきらかにされた。[illegible]それらの石窟は他の石窟寺と比べて、全体に整然たるたたずまいに富み、第1[illegible]や、第2[illegible]大きな僧院であること、それぞれの時代における様式の典型を示すものとして評価されており、インド石窟寺院の表舞台に、きわめて重要な地位を占めているのである。以下本章では、この石窟寺院をめぐる問題点のいくつかを[illegible]ことにする。

1　第1期窟

アジャンタの[illegible]に初めて石窟が掘られたのは、[illegible]西端部の[illegible]やや下を望むところ、石窟群のほぼ中央部に位置する第8、9、10、12、13、15A[illegible]6窟がそれで、全体のなかでは最も低い位置にある。[illegible]第9、10[illegible]2窟は[illegible]最も保存がよく、[illegible]に対し、[illegible]僧院窟は破損しており、[illegible]崩壊しつつある。なお第15Aは[illegible]に遅れて[illegible]、最後になって発掘された小窟である。

まず第10窟から見ていくと、これは[illegible]プランをもつ[illegible]参詣の行方後[illegible]、仏教における祠堂（チャイティヤ窟）の[illegible]に属している。[illegible]平面[illegible]形をした決まり長方形のプランで、明、中央にチャイティヤ caitya（[illegible]）と呼ばれる礼拝の対象として、仏塔（stūpa）を置き、[illegible]塔をめぐらせ、[illegible]礼拝者は[illegible]入口に向かって長し、[illegible]前方部を[illegible]。[illegible]前方部の中央区画を身廊（nave）、左右の[illegible]側廊（aisle）とし、[illegible]堤を置いた後[illegible]部をアプス（apse）と見なし、[illegible]ローマ・バシリカ basilica の[illegible]。[illegible]第10窟は[illegible]大型で、アジャンタ[illegible]中[illegible]、幅12.57、奥行29.41、高さ19.97 m、内部[illegible]。[illegible]。[illegible]（[illegible]）側面[illegible]（[illegible]）、[illegible]内[illegible]傾き、[illegible]入口上部が大きく独特、馬蹄形（[illegible]）[illegible]。[illegible]、[illegible]入口[illegible]。[illegible]数[illegible]祠堂[illegible]西インドに多数存しており、[illegible]。[illegible]



6 [illegible]

とが指摘される。一方に建築様式から考えてバージャー Bhājā が最も古く、次にアジャンタ第10窟やピタルコーラー Pitalkhorā 第3窟などが挙げられている。しかしこれらを年代づけることは、なかなか難しい。今日、従来説では最も古いバージャーを紀元2世紀前半または中ごろとし、第1期石窟の発展の頂点であったとするカールラー Kārlā の祠堂窟を後1世紀中葉ないし後葉とするものが、多くのインド美術者による説である。[illegible]

[illegible]

[illegible]

7　2　[illegible]

14-26　[illegible]

2　第 2 期 窟

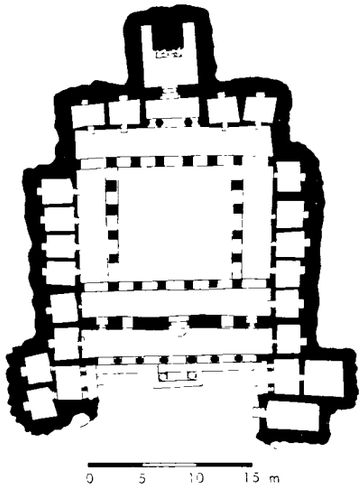
[illegible]

17　[illegible]

1)　制 堂 窟

[illegible]

17-18, 20-27　[illegible]



8 第1窟(マイトレーヤ窟)平面
(ハーフェスによる)

変な変化として、本尊である仏塔の正面に仏像を安置することが各窟に影響を与えたことは、[illegible]ないが、これは、仏教徒の崇拝対象が従来の仏塔から仏像へと移行していったことを、[illegible]設けたり、祠堂窟の正面や内部を仏像彫刻で[illegible]したことからもうかがえる。

これら二つの祠堂窟のうち、第19窟は幅7.19、奥行14.12、高さ7.12 mと、[illegible]均斉のとれたすばらしい形態をこなす正面や、言葉でしか表現[illegible]一典型を示している点で最も注目されるのみならず、[illegible]や、浮彫また彫刻による草花などの文様が、ところ狭しとばかりに施されており、[illegible]同時に繁雑のそしりも免れないであろう。*一方第26窟は[illegible]間11.05、奥行20.68、高さ9.53m [illegible] 146〜151、28、718

建築的には正面の見付けほとんど全く崩壊し去っているにもかかわらず第19窟、[illegible]相似ている。しかしながら正面は幅広いゆえもあって第19[illegible]塔を焦点として、天井・小[illegible]・列柱の均衡を保っている。[illegible]仏像を多数浮彫し、さらに両側の壁を大きく[illegible]文の書体とも関連して、第19窟よりは多少古い、[illegible]。* [illegible] 146〜174、29、717

発掘されたまいで、第27窟と接していることも明らかにされ[illegible]。* [illegible] 175

第26〜27窟間の小部屋である。

2) 僧院窟

アジャンタの第2期で最も早く開掘されたとされている[illegible]造営されたとされる第16、17の2僧院窟である。僧院窟[illegible]数は[illegible]21窟に及ぶ。[illegible]第1、2、4、6、21、23、24窟は比較的規模の大きな僧院窟[illegible]。第16、17窟[illegible]中で第1窟が最も[illegible]。第2窟[illegible]

[illegible]中心とする[illegible]

第1窟、[illegible]に明らかなように、方[illegible]。第1 [illegible] 178

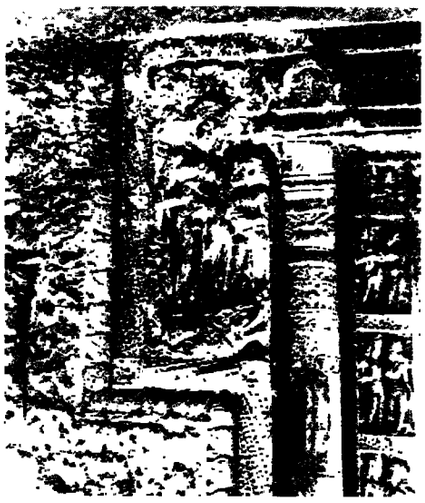
[illegible]中央に[illegible] 99、158

9 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[



10　第5窟入口上部

間柱に突き出た点例。プランにおいて、やや大きい立体的な僧院窟第21と23。中央部は、ほぼ一辺の広間(一辺15.54 m　155
四方)を持ち、支壁もなし、12基のみ残るが、すぐれた彫刻装飾を見せる。支壁はともにかなり高く欠かれ
ているきらいがある。特に第24窟では20年、広間を中心とする大(広間22.33×22.86 m)で、多くの彫像や装飾浮彫、　158,159
壁龕などがなかなか優秀であるが、明確で工事は放棄されているように思われます。特徴としては、ほかにも第3、　162~164
5、7、14、22、23、25、27、28窟などがあり、第28窟も造りかけで、おそらくこれらのテーマ　170
は、未完に終わったものであろう。

以上述べてきたように、第2期僧院窟は、[illegible]なものであることはすでに述べた通り、ただし、多数の[illegible]
つはなやかに建設され、第2期における特徴の中心となるものは、僧院窟の[illegible]
も、僧院[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

アンティーク[illegible]における[illegible]はいずれも第2[illegible]に属し、第1[illegible]に属されたものと[illegible]、第9[illegible]正[illegible]や第12[illegible]の[illegible]各人[illegible]生のポートレイトを[illegible]ことができます。[illegible]でしょうか。[illegible]それも第2[illegible]になれば[illegible]部分[illegible][illegible]において、[illegible][illegible]影と[illegible][illegible]、[illegible][illegible][illegible]影[illegible]、[illegible]内外を[illegible][illegible][illegible]、第9[illegible]正[illegible]。[illegible]、[illegible]第1[illegible]にまで[illegible]影[illegible]を進出させたものです。[illegible]

第2[illegible]部の中で影を[illegible][illegible][illegible]、[illegible][illegible]、[illegible][illegible][illegible]特色である第19、26、[illegible]、正[illegible]、[illegible]項や文[illegible]、[illegible]小[illegible]、[illegible]を多数影[illegible]、[illegible]に[illegible]配置[illegible]第[illegible]正[illegible]、[illegible]、[illegible]、

11 [illegible]

[illegible] 140

[illegible] 171

[illegible] 211

[illegible] 172

[illegible]

[illegible] 57 14

[illegible] 40 107 131

[illegible]

[illegible] 2 [illegible] 第17[illegible] Padmapāni [illegible] 第1 [illegible] 6 [illegible] 149 136

[illegible] 第7 [illegible] 142

[illegible]

[illegible] 6 [illegible] 135,137

[illegible] 7 [illegible] 138

[illegible] 140,113

[illegible] 2 [illegible]

12 第16窟 [illegible]

13 第16窟 [illegible]

14 第4窟 [illegible]

15 第26窟 [illegible]

[illegible]

100,104 [illegible] Hāritī(訶梨帝母、鬼子母神) [illegible] Pāñcika [illegible] Gandhāra [illegible] 1.73m [illegible]

[illegible]

[illegible] 第16窟 [illegible]

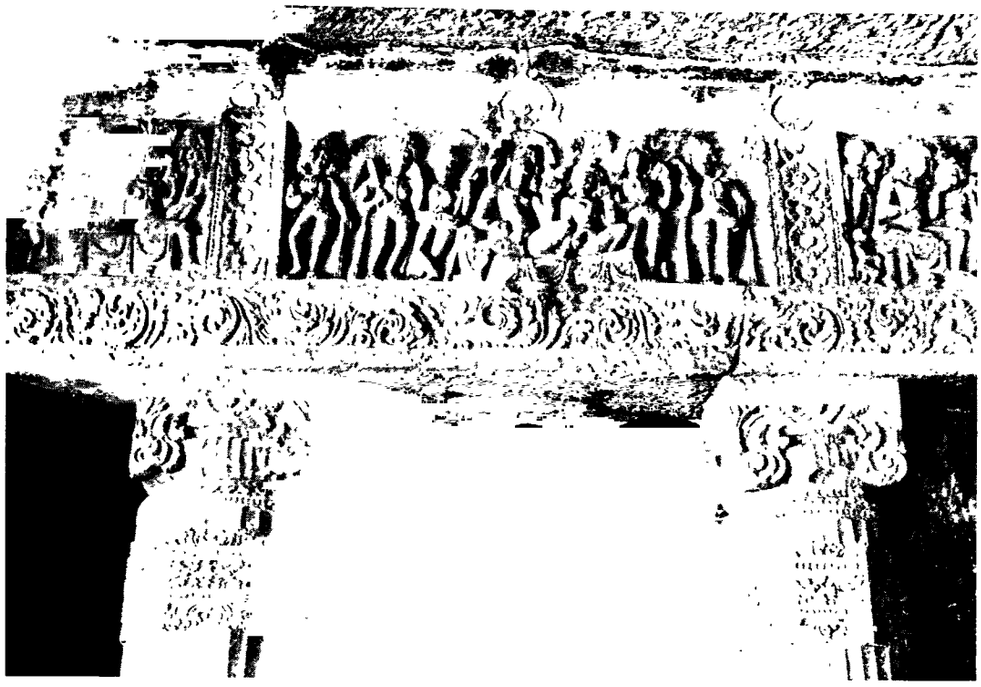
[illegible]

104,117 [illegible] Kimnara(緊那羅) [illegible] 第19窟 [illegible]

[illegible] 第26窟 [illegible] 第1窟 [illegible]

116,125 [illegible] 第26窟 [illegible]

[illegible]



16　第23窟　[illegible]

[illegible]く且つ克明に浮彫してある*、左右いっぱい上、フリースでは、明らかに[illegible]中、[illegible]数々を連ね　60,61
[illegible]に描いているのが見られる*。この第1[illegible]正[illegible]フリースにおける仏[illegible]なできるものとしてはもっとも古く、また、第23窟　55
[illegible]左右の祠堂の入口上部を飾るフリースにおける*、[illegible]尖天を中心としてこれに侍女を[illegible]配したもので、人物　[illegible]16
[illegible]姿態表現がことに楽しく、その下の[illegible]代表的[illegible]である。

なおアジャンタの彫刻で見逃せないのは、[illegible]入口や[illegible]入口に浮彫[illegible]である。入口[illegible]上と左右合わせて[illegible]方に、ちょうど2[illegible]3[illegible]、[illegible]にして、その帯状部分[illegible]実用的な女神[illegible]などの浮彫で飾ることは、クプタ時代[illegible]、[illegible]教建築にも[illegible]アジャンタの場合、[illegible]窟の中央入口だけについて見ても、各窟[illegible]それに異なっていたことがわかる。[illegible]第16、17、19窟では、浮彫は左右上隅にマカラ makara 像、[illegible]意味、河神ヤムナー Yaksī などを配するにとどまって、上と左右の帯状部を[illegible]で飾っている。[illegible]第17窟[illegible]ミトゥナ mithuna で埋め、上に過去七仏を配[illegible]　21,[illegible]9
彫で飾り、河神ヤムナー女神やミトゥナ[illegible]　62,127,128,[illegible]10
[illegible]窟入口や[illegible]において[illegible]、河神女神[illegible]　[illegible]32,155,156
[illegible]て、仏教彫刻[illegible]。ここアジャンタでは[illegible]入口左右上[illegible]
[illegible]、[illegible]の[illegible]頭部を飾りなどに用いられ*、[illegible]　[illegible]59,106,165,[illegible]28
[illegible]入口左右にヒンドゥー教の2[illegible]神、ガンガー Gangā とヤムナー Yamunā[illegible]女神で[illegible]例となる。アジャンタの左右2女神[illegible]単に河神[illegible]

IV 壁　画

1　各窟の壁画の概要

アジャンタ石窟は世界的に有名にしている理由は、絵画遺産や彫刻が多いことから、痕跡をも合わせて約二百数十の石窟によってなり、或と窟に存在している。第1、2、16、17の4窟であり、これらはほとんどアジャンタの代表として、知られる。そのほかには、第9、10、2窟が古代初期にあたり仏教を信奉者として作られ、また後期の窟には礼拝堂をもつものも保存されているものに、第6、7、11、19、21、22、26の諸窟があり、さらに彫像の痕跡のみのものに、第4、15、20の窟でもあるとされる。しかしながらこれら石窟が完成されたものとしてあるとしても、やはり全体では彩色にまで及んでいるものもあるとされる。なお第1窟の前室の右壁窟(第8、12、13、15A)の窟内にはその残存の形跡が認められる。

以下、壁画の主題と内容を各窟ごとに説明を加えるが、これについては本書の基本見解のほか、クリフィス編のヤスタニの説に、ゴーシュの説を参考と見て、説明がなされており、参照されたい。[4]

1)　祠堂窟の壁画

礼拝の対象であるチャイティヤ(ストーパ)をもつ祠堂窟は、第1窟でも第2窟でも、古期代の石窟にはいずれも後人に造られたものであるが、それらの内部もかならずしも豊富であったとはいえないとしても第1窟の場合は、祠堂窟はいずれも彩られていたとされ、第2窟の祠堂窟も第19窟および第26窟ともに、彫刻に豊富な装飾のほかに、彩色による壁や柱に装飾が施されていたのを見る。

第10窟

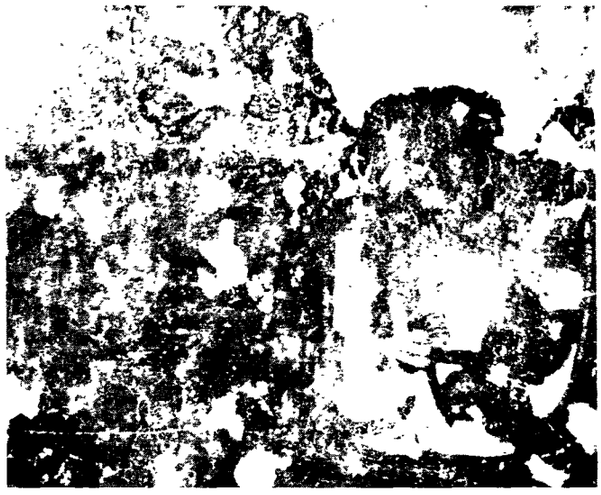
第1窟でも見られるように、祠堂の場合、ほとんど右旋礼拝の壁の主軸に沿って長く描かれていた跡が見られる。大部分が消滅しており、ほとんどの壁画は、風化されている。上に、説話文様等書きをしていたのは

1　ほとんどなくなっている。[5]しかしながら、第10窟はほとんど明らかにされているが、壁画の内容

7,8　については、ハイ・ハーハーは、釈迦がインドの菩提樹下で作仏した模様を[6]、ほかの人物を知ることができるが、[7]提婆が現れ、[8]ヤシャーの行列を描いており、古代初期の彫刻に対応しているが、

1　-17　ここにアジャンタの特徴がある。[9]　そこには右壁に、王宮内にシャーマ Śyāma (Sāma,梵) 本生、

17-2　右壁には六牙白象本生、長方形パネルに、これらは説話文様に属するものであり、シャーマ本生、



17　第10窟の[illegible]六牙白象本生（[illegible]）

の孝養の徳が天に通じ，もとどおり生き返ったという説話であり，また六牙白象本生は，国王の妃に生まれ変わったかつての象王の第2夫人が，嫉妬のために猟師を山中に派遣して，六牙を持つ白象を殺させるが，猟師の持ち帰った牙を見てたちまち悶絶し，地獄に落ちたという本生話である。これらの説話は，ともに古くバールフット Bhārhut（前2世紀）やサーンチー Sānchi（前1世紀後期）の浮彫にすでに扱われており（様式的にも後者とほぼ並行するであろう），下ってはグプタ時代のアジャンタ第17窟でも，同じ主題の場面を見ることができる（後述）。

なお第10窟には上記の壁画のほかに第2期の壁画もあり，列柱に描かれている仏像などとされている。八角柱の各面を数段に仕切り，そこに立坐の仏像を多数彫刻し，また側廊の天井にも仏坐像を描いており，さらに柱間の長押の下面にも蓮華文様などが認められる。これらの壁画はみな第2期すなわちグプタ時代の作品を示すもので，この時の盛んな作画活動の間に描かれたことを示している。右側廊の下辺にわずかの部分を残す仏伝図なども，剥落し去った前面の上に描き加えたものに相違ない。なお本窟であるこの堂（チャイティヤ）にも彩画を施した痕跡をとどめているが，これもまたおそらく第2期におけるものと思われる。

第　9　窟

この窟もまた第1期と第2期とに属する2種の壁画が，様式的に違った場所，例外をのぞいて，彩画されていた箇所は，左右両側廊の壁，ほぼ正面の内柱と思しき[illegible]方をかくす大井小屋，および[illegible]であるが，ここでも剥落が多く，図像[illegible]明らかでない。[illegible]である[illegible]変色，跡[illegible]正面の内柱（入口を挟んで左の柱）に描かれていたと思われ，[illegible]長いフリーズ，[illegible]である。ここに[illegible]第2期[illegible]で描かれていた図像で，彩色されていない[illegible]以上の2点は第10窟の[illegible]と同じ様式であって，やはり第2期の彩画と見なされてよかろう。これに対して第2期の場合は，[illegible]大井小屋やその[illegible]（[illegible]）ない[illegible]の作品の[illegible]1～2[illegible]上部大井小屋[illegible]間に，牧童に獅子・象・牛・兎などを追い[illegible]フリーズ[illegible]を表わしている。

第　19　窟

第2期制作の代表的な[illegible]内部[illegible]痕跡[illegible]118,151,[illegible]28

18・19 [illegible]

[illegible] 3つに分かれて、左右もしくは背後の壁にまで見えていたもので、数[illegible]の[illegible]2つは[illegible]を背にした坐像、最下段が多くは[illegible]歩く行像とし、[illegible]、[illegible]2つでは[illegible]なお上座を[illegible]ほぼ[illegible]の宝冠を持つなどの変化も見られる。[illegible]、154[illegible]も[illegible]、[illegible]で草の造型などで飾られ、また[illegible]の天井では木、[illegible]、[illegible]多数[illegible]ている。[illegible]第26窟にも[illegible]の天井に装飾[illegible]、[illegible]に[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]で[illegible]られる。

154

118

157

2) 僧院窟の壁画

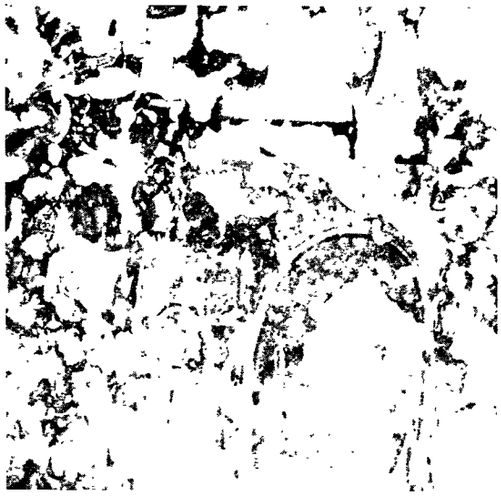
[illegible]窟で[illegible]存されている第2[illegible]に[illegible]されるが、[illegible]に第2[illegible]の僧院窟がすべて壁画で飾られたというわけではない。[illegible]窟では[illegible]窟に[illegible]、第1、2、16、17の4窟であることは前にも触れた。これらの4窟は[illegible]窟の中でも[illegible]、[illegible]ほぼ[illegible]のプランに従い、したがって[illegible]の[illegible]も大体同じである。すなわちこれらの[illegible]は、彫[illegible]（ただし第1窟を除く）、広間四隅の回廊、仏堂と仏像前室（ただし第16窟には[illegible]）、各[illegible]、[illegible]の各部屋の天井、出[illegible]、[illegible]などは、ほとんど内部の全面にわたっていたことが知られる。壁の高さ4m[illegible]後、広間の回廊壁にのっていたは、幅も奥行も約20m（第2窟はやや小さい）、その壁面には入口や窓、また奥の仏像室や[illegible]、[illegible]十数個の房室入口は開口してはいるが（[illegible]）、その広い壁面にほとんどすきまなく、上から下へ[illegible]に移画されていたのである。その当初の壮観は推して知るべきであろう。現在では保存のよい壁面でも、下段の壁画はたいてい剥落し失って跡をとどめているに、残っているのはおもに上部だけで、それも剥落や損傷が多い。壁画の主題に関しては[illegible]にも述べるが、大体説話画、[illegible]像その他の[illegible]装飾画の[illegible]のカテゴリーに分けられる。そして説話画における構成の実際から見ると、原則として、中央入口[illegible]に向って前壁を左へ、次いで左面を奥に進んで後壁に曲がり、後壁中央の[illegible]の右室の本尊にもどって、さらに後壁に沿って右折し、右室を通って前壁へと帰ってくる順序、すなわち右繞（右まわり）している壁画を理[illegible]ている順序に、大体従って構成されていたことが知られる。

118 [illegible]これらの4窟[illegible]、まず僧院窟における壁画[illegible]の[illegible]方について概観してゆこう。

第16窟

この窟は4窟中最も古く、且つ[illegible]も大体押されの重要窟であるが、壁画の剥落は4窟中最もひどい。[illegible]正面[illegible]、その後[illegible]も、さらに列柱[illegible]の長廊内側も、みな移画されていた形跡があり、しかしたい

169,123,129

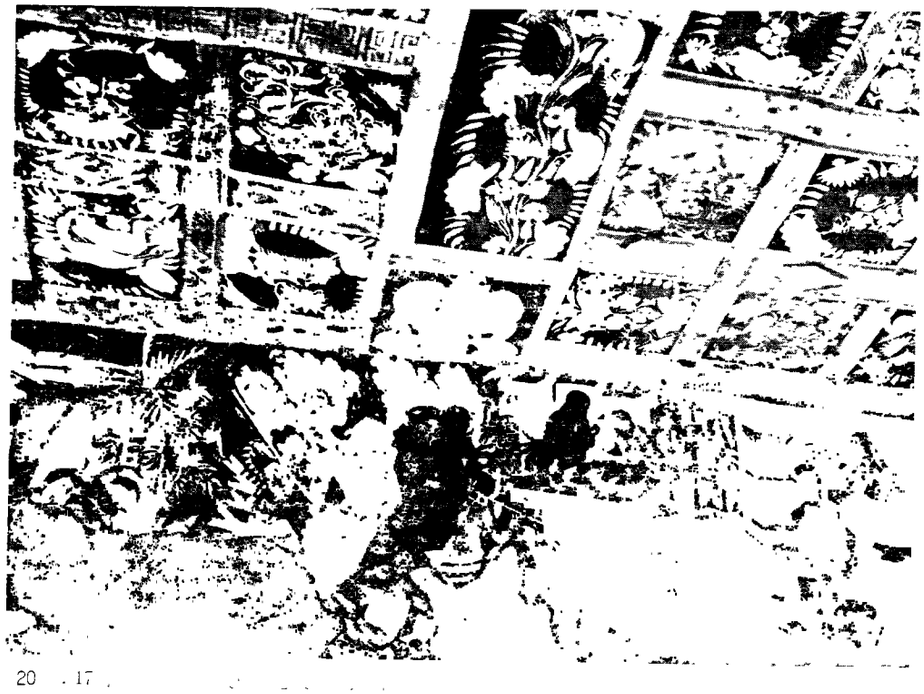


19 [illegible]16 [illegible]

ていは剝落して、図相のみる程度判別するのは、後壁左端部に描かれた、たぶん[illegible]天[illegible]下[illegible]宝階降下を図したらしい大きい場面の一部分と、長方内側に断片的に残るスタソーマ Sutasoma 太子(?)、[illegible] -19
くらいにすぎない。この正面主後壁の内部のなかで[illegible]の壁もまた剝落が多く、[illegible]主――国王に追放されて深い森の中を探索する[illegible]人を救うために、[illegible]した慈悲深い巨象の物語――に比定される[illegible]一部をのぞかせているにすぎない。[illegible]にかけて、幾つか散見される説話[illegible]、機智によって数々の難問奇問[illegible]マハウシャダ Mahauṣadha(～Mahosadha、大象)賢者[illegible](大乗仏教中の説話)を扱っている[illegible]多いために確かめることはむずかしい。

次に左壁ではまず、アジャンタ壁画の中でも特に傑出してきはだを誇るナンダ Nanda の出家を語る図があり、剝落や黒化が多いなかで、美女にはさまれ高いナンダの太い腕きや、ナンダが[illegible]に出家されたる場面など、感動的なシーンが巧みに描かれている。続いては過去七仏の並坐、さらに[illegible]を[illegible]これに続く飛天の図などが認められる。[illegible]して後壁の続には、中央の仏[illegible]を[illegible]、[illegible]仏(その坐る蓮華座の茎を2[illegible]が支え持っている)を中心とした説[illegible]、右側に[illegible]とをそれぞれ図しており、[illegible]を扱ったものとすることができる。[illegible]はたしい。 -19,20 18,1,4

転じて右壁に進むと、この壁面の全部が、[illegible]のシーンに充当されている。[illegible]この右壁に開口している[illegible]第3と第2の間には、下から上へ[illegible]、四門出遊らしい行列、樹下観耕を憂愁する父王夫妻、宮内で[illegible]する女、牧女の[illegible]、2[illegible]、各場面を描き、さて第2、第1の窟入口の間には、右右を[illegible]で仕切った中に、[illegible]・[illegible]・[illegible]および[illegible]4景を描いており、さらに[illegible]には、[illegible]ナンダ出家物語に関係するかぎれた宮廷内シーンが[illegible]、黒ずんで図相やや不鮮明であるが、貴人[illegible]宮内に坐して女性等に囲まれている[illegible]、美女([illegible]は[illegible]残っていない)の眠る深夜の寝室の情景[illegible]示されている。さらに摩耶(Māyā)夫人、托胎[illegible]、摩耶夫人に報告するようすを描いたものと解される。なお[illegible]方には[illegible]中の太子の修行などを扱っているものとも見たい。最後に[illegible]、右入口をはさんだ右隅部(つまり右壁部)では、剝落と損傷とではっきりとは[illegible]、跡のみとなった中に、長髪、[illegible]を[illegible]人物が[illegible]、自信ありげにヴィシュヴァンタラ Viśvantara 太子を描いたものとされている。



20　第17窟　[illegible]

21　第17窟　[illegible]（[illegible]）

[illegible]第1窟や第17窟などのように、[illegible]装飾文で彩色されていたようだが、その形跡をとどめている[illegible]に少しばかりの以外、ほとんどが[illegible]

24　[illegible]ストンの特徴の後法[illegible]の[illegible]*、様式的に見てこの窟から剥き取られたものに違いない。[illegible]に描かれている[illegible]出家物語の部分であった可能性も考えられる。これは前世紀に[illegible]もので、アジャンタ[illegible]の部分で窟外に放置されていた[illegible]物である。**

第17窟

第16窟と並んで5世紀の末頃に造営されたと見られる第17窟は現在に保存状態の良いアジャンタ随一であり、彩色も第1窟と並んでよく[illegible]。[illegible]*は、正後壁の上辺一帯に、ふっくらした彩画の比較的大[illegible]

29　[illegible]アジャンタ本生に相当する。これに続く群人の行列と後宮内

25,26,5　[illegible]中央人[illegible]

20　[illegible]第1窟の[illegible]描かれていることに[illegible]。*　左は主神

24,　8　[illegible]神、右は2頭の[illegible]*[illegible]

[illegible]後方に[illegible]アジャンタに[illegible]

[illegible]（大象）や[illegible]人、[illegible]樹木や草花[illegible]

[illegible]王舎城（Rājagṛha）における[illegible]

23,10　[illegible]群人[illegible]

21,22,9　[illegible]mithuna[illegible]*　[illegible]

22 第17窟 [illegible]

23 第17窟 [illegible]

24 第17窟 [illegible]

[illegible] Manibhadra [illegible] 30

[illegible] 34 [illegible] 2 [illegible] 17 [illegible]

[illegible] 5, 20

[illegible] 6, 7

[illegible] 10 [illegible] 15

[illegible] Hamsa [illegible] 2 [illegible] 16, 15, 34

[illegible] 17, 18, 33

[illegible] 19, 21, 22

[illegible]中に当たって[illegible]諸国王[illegible]99人を捕虜[illegible]最後に[illegible]としてスタソーマ王を捕らえた。この王の考えは[illegible]多数のシーンが[illegible]、一[illegible]明瞭[illegible]

[illegible]、左右[illegible]に伝説中の二つの大きな奇跡の事件が表わされている。左端[illegible]生誕降下、すなわち[illegible]

'35〜38, '11 [illegible]良好である。[illegible]

.39 [illegible]

[illegible]

2,33 [illegible]

34 [illegible]

[illegible]

1〜'21 12 [illegible]

'21 [illegible]

50〜52, '14 [illegible]

25 第17窟 [illegible]

[illegible]に同じく化身された人と母女神シヴァ[illegible]を指している。* 第53

最後に[illegible]右端の[illegible]入口をはさんで、左眼にシビŚibi王[illegible]、[illegible]第25

[illegible]行進と貧者[illegible]に対する[illegible]施食との2景を示している。[illegible]第54

[illegible]右半部では、上段一帯[illegible]Ruru mṛga[illegible]牡と、ニヤグローダ[illegible]Nyagrodha-mṛga[illegible]

[illegible]

[illegible]第17[illegible]第16[illegible]

[illegible]第17[illegible]第43[illegible]

[illegible]第41～42[illegible]第43

[illegible]第41, 42

[illegible]第40

[illegible]第41

[illegible]第34

第[illegible]1[illegible]

[illegible]第17[illegible]第55, 56, 60～62

[illegible]

75 [illegible] Sāsān [illegible] Khosrou [illegible]

76,79 [illegible]

77 [illegible]

78 [illegible] Śanl hapāla Śanl hapāla [illegible]

81 [illegible] Mahāmandala [illegible]

84,85 [illegible]

86 [illegible]

26　第1窟 [illegible] 全覆（全）

おぼえる。後壁壁左部の上辺に残る壁画*も、聖者への施食や珍しい灌頂の場面を含んでいて、やはり同じマハージャナカ王本生の一部ではないかとされるが、はたしてどうか。なお上記灌頂図の下方には、夫の不在中にいい寄った浮気男を次々と籠の中に閉じこめたという賢い妻アマラー Amarā の物語（大隆起本生または夫妻物語中の一挿話）に比定される図が部分的に残っている*。 [illegible]69,84,87～89 [illegible]84, [illegible]18

この後廊では仏堂前室に近い左右の壁を飾って、アジャンタ壁画中の白眉として有名な、やさしい若者の像1体ずつが描かれる*。ともに小さい睡蓮の花を手にしており、いわゆる蓮華手 (Padmapāni) 略称すなわち観音菩薩にほかならない。膝のあたりから下を失い、また諸所に剥落部分もあるが、若々しく、奇麗さを、彩色とともに比較的よく保存され、中央奥の本尊像に対する左右の脇侍菩薩として、ふさわしい、堂々たる風格を示している。しかも単独の像ではなく、両者ともに明らかな男女の伴侶や供養者らしい姿を*、またハーラを失った中の風景として、[illegible]3,17 [illegible]や樹々・草花の間に、飛天や寄り添う男女神を点在させ、さらに鳥獣や猿などを配しているその投げ方に注目したい*。次に仏堂前室にはいれば、その左壁にはアジャンタにはまれな本格的な中国風な[illegible]70～72 [illegible]。仏の左右にはお化けのような[illegible]を加えて[illegible]92, [illegible]16,[illegible]26 [illegible]婦像を示している。これと対して右壁には、[illegible]9[illegible]

後壁の右部では[illegible]Campeyya [illegible]*[illegible]90,94 [illegible]

27 [illegible] (Kāntvāch)

[illegible]

(91, 95 [illegible]

第1図にまだ見られるように、[illegible]、アンシュンタでも盛行していたが、[illegible]年頃から[illegible]25センチ以下に多く[illegible]、[illegible]

66〜68, 21 [illegible]

22 [illegible]

59 [illegible]

19,20 [illegible]

第2図

[illegible]

96 [illegible]

27 [illegible] Indra [illegible]

28 [illegible]

そこにおそらく第1窟後室[illegible]第17窟正[illegible]天供養[illegible]に対した[illegible]ことを推定させる。この正[illegible]左右の壁に[illegible]天に[illegible]が[illegible]、その中にも彩[illegible]ことに右[illegible]では、[illegible]における王、神[illegible]王妃([illegible])、[illegible]、山中における[illegible]このシーンが料[illegible]、本生[illegible]また比[illegible]に至っていない。一方[illegible]ほとんど全く剥落している[illegible]、[illegible]後室に[illegible] (Kṣāntivādin) 本生[illegible]、また右壁に[illegible]、マイトリーバー Maitribala(慈力) 王本生[illegible]、それぞれ[illegible]される[illegible]

[illegible]

後[illegible]、第17[illegible]左壁に、第17[illegible]に[illegible]ハンサ hamsa([illegible]) [illegible]、国王の前に連れ[illegible]。[illegible]、[illegible]、ハンサ[illegible]

[illegible]これに[illegible]、第2[illegible]。[illegible]シーンが述べ[illegible]、兜[illegible] (Tuṣita) 天[illegible]マヤー Māyā 夫人、托胎[illegible]、婆羅門[illegible]ルンビニー Lumbinī [illegible]

[illegible]第1、第2[illegible]

[illegible]

後[illegible]

[illegible]

後[illegible]

[illegible]

後[illegible]

[illegible]

29

[illegible] 26

[illegible] 102,103

[illegible] 35,36

[illegible] Vidhura paṇḍita [illegible] 29

[illegible] 115,116,118~120, 23

[illegible] Pūrṇa [illegible] 29

[illegible] Vyādha [illegible] 24

[illegible] 117

[illegible] 12

[illegible]

[illegible]

[illegible] 98,99,106,121 [illegible]

[illegible] 102,104 [illegible]

[illegible] 122 [illegible]

[illegible] 105,121 [illegible] (lirumulhar) [illegible] (mahara) [illegible]

104 [illegible]

108 [illegible]

[illegible] 124 [illegible]

[illegible]

[illegible] 18 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]第11窟では、正面奥の後壁、中央大仏の左右に、大きく1体ずつ[illegible]

像は左手に宝珠を持ち右手を胸[illegible]、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

2 壁画の主題

[illegible]

以下、[illegible]

1) 尊像画

[illegible]

第9図は[illegible]文献[illegible]1～2例を[illegible]

イ）（対象）

[illegible]

5,6,9,[illegible]8 [illegible]

15,151 5,7,18,7 [illegible]第19図[illegible]

9,93 [illegible]

106,110,111 [illegible]第2図[illegible]

26 [illegible]

112 [illegible]

21, 9 [illegible]第22[illegible]第16図[illegible]第16図[illegible]第7図[illegible]第21図[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

44　124　[illegible]

2）佛教説話画

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

1. [illegible]
2. [illegible]
3. [illegible] Y = Yazdani, Gr = Griffiths, H = Herringham India Soc., Gh = Ghosh [illegible]
4. [illegible] 1954 [illegible]
5. [illegible]

[illegible]

1 [illegible]

1 [illegible] Śibi (Śivi, [illegible] A [illegible] 78, 79, Y V, Gr. 9T [illegible] 64, [illegible] 1-6 [illegible] 24-2; [illegible] 2; [illegible] 2; Bodhisattvāvadānakalpalatā 25 Gandhāra, Mathurā, Amarāvatī.

2 [illegible] Y. X.a. [illegible] 3 [illegible]

3 [illegible] Sankhapāla [illegible] 1 [illegible] 78, Y.[1] XI; H. XXXVIII 15, Gh IX, fig. 3.

Jā. 524 (Sankhapāla); Cariyā 20

4 [illegible] Mahājanaka [illegible] 80~83, 85~86, Y XII~XIX, Gr. 6L, 13A', H. XIV~XV; Gh X~XV, figs 4~5

Jā. 539 (Mahājanaka) Bhārhut.

5 [illegible] 87 4 [illegible] 6 [illegible]

6 [illegible] 2 [illegible] 9, 84, 88~89, Gr 7 I 4, 5, 6 [illegible]

7 [illegible] Amarā [illegible] 2 [illegible] 69, 84 [illegible] 18, Y[1] XXIII.a, Gh XXI

Jā. 546 (Mahā ummagga [illegible] Mtu. II, p 84~89 Amarā karmārdhītā) [illegible] XXVIII [illegible] 16 4 2 [illegible] Bhārhut.

8 [illegible] Campeyya [illegible] 2 [illegible] 90, 94, Y XXXIV~XXXVI.a, Gr 16N, 17~18P, H XXVIII~XXIX, XL 5[illegible], Gh XXXI~XXX, 14, fig 10

Jā 503 (Campeyya), Cariyā 13

9 [illegible] 91, 95, Y XXXVII, Gr 19W, Gh XL

10 [illegible] 75, Y XXXVII', Gr 5S [illegible]

2

1 [illegible] Y XV~XVI, H XXXII 3

Jā. 502, 533, 534 Mahāhaṃsa . Jm. 22 Haṃsa : [illegible] V: [illegible] XXXVI. [illegible] XIX: [illegible] 101: [illegible] IV.—

Ajanta [illegible] 17 8 [illegible].

2 [illegible] Ruru [illegible] — Y: text, p. 33, n. 1 .

Jā. 482 Ruru : Jm. 26: [illegible] 58. [illegible] — Bhārhut, Gandhāra, Ajanta 17 22 .

3 [illegible] Vidhura [illegible] 115, 116, 118~120, 123. [illegible] 28, [illegible] 29: Y: XXXV~XLI, Gr. 33I

H. XL. 19 , Gb. LIII~LIV , ñ. 33~11

Jā. 545 Vidhurapaṇḍita . [illegible] 28. [illegible] 98. — Bhārhut

4 [illegible] Pūrṇa [illegible] 1 2 [illegible] 122. [illegible] 24, [illegible] 29. Y: XLII~XLIV, a. Gr. 34D

Divy. 2 Pūrṇa-avadāna . [illegible] III~IV. [illegible] 34.

5* [illegible] Y: XLV, b [illegible] Mahādeva [illegible] , MN. 83:

367: [illegible] : Jā. 9. 511 [illegible]

6* [illegible] 17: Y: XLV, XLVI, a

7* [illegible] Y: XLVI, b

8 [illegible] Kṣāntivādin [illegible] 27.

Jm. 28 Kṣāntivādin : Mtu. III. p. 357~361: Jā. 312 Khantivādi . [illegible] 41. [illegible] 12. [illegible] 1, 11. Sārnāth

9 [illegible] Maitribala [illegible]

Jm. 8 Maitribala : [illegible] 8: [illegible] 3: [illegible] XI

10* [illegible] Y: XII~XIV.

[illegible]10

1 [illegible] Śyāma [illegible] 17. Y: XXVIII, b, XXIX.

Jā. 540 Sāma : Cariyā 33. Mtu. II. p. 201~231 Syāmaka . [illegible] 43: [illegible] 2 . Sānchī W.

Gandhāra Ajanta 17 16 .

2 [illegible] 32. Y: XXX~XXXIV : Gr. 41

Jā. 514 Chaddanta . [illegible] 9. [illegible] 28. [illegible] II. [illegible] XII. Kalpadruma-avadāna 25. [illegible] Bhārhut, Sānchī S.

Gandhāra, Amarāvatī, Ajanta 17 3 .

[illegible]16

1 [illegible] Y: XLVI, b [illegible] 17 13*

2 [illegible] Viśvantara Vessantara [illegible] 17 9*

3 [illegible] 3. Y: XLVIII, b, XLIX

Jm. 30(Hasti).——第17章 5参照.

4 マハウシャダ Mahauṣadha(大薬叉者) [illegible] ——Y.[illegible] L～LI.

Jā. 546(Mahosadha); Mtu. II, p. 84～89; [illegible] XXVII～XXVIII.

[illegible]

1 [illegible] ——[illegible]29; Y.[illegible] LXIV～LXV, Gr. 59 C. [illegible] 第17章 9参照

2* [illegible]——[illegible]25～26; Y.[illegible] LXVI, Gh. LVII～LVIII, fig. 15 [illegible] 1, [illegible] 威あり).

3 [illegible] ——[illegible]45, Y.[illegible] X, XI.a, XII, a～b, Gr. 63W; H. XXVII 29, 30 ——第10章 2参照

4 [illegible] A [illegible] ——Y.[illegible] XI.b, XII, c～e, XIII

Jā. 407(Mahākapi); Jm. 27; [illegible]56; [illegible] 12. [illegible] Bhārhut, Sānchi W.

5 [illegible] ——Y.[illegible] XIV. [illegible] 第16章 3参照

6* [illegible] ——Y.[illegible] XV

7* [illegible] ——Y.[illegible] XVI.

8 [illegible] 46, [illegible]15, [illegible]31; Y.[illegible] XVII; Gr. 64 S; H. XXV 27, XLI 54; Gh. LXVIII, fig. 18. [illegible] 第2章 1参照

9 [illegible] [illegible]47～48, [illegible]33, Y.[illegible] XIX～XXVI; Gr. 65R; H. XXIII(25), XXXV(39), etc.; Gh. LXIX～LXXI, fig. 19

Jā. 547(Vessantara); Cariyā 9, Jm. 9 Visvantara [illegible] 14, [illegible] 3, [illegible] XIV; [illegible] XVI, [illegible]. Bhārhut, Sānchi N, Mathurā, Amarāvati, Gandhāra, Ajanta [illegible] 16 [illegible] 2, [illegible] 17 [illegible] 1.

10 [illegible] B [illegible] Y.[illegible] XXIX.a.

Jā. 516(Mahākapi); Jm. 24; [illegible]47, [illegible] XV [illegible] Bhārhut

11* [illegible] Y.[illegible] XXVII.c, XXVIII.

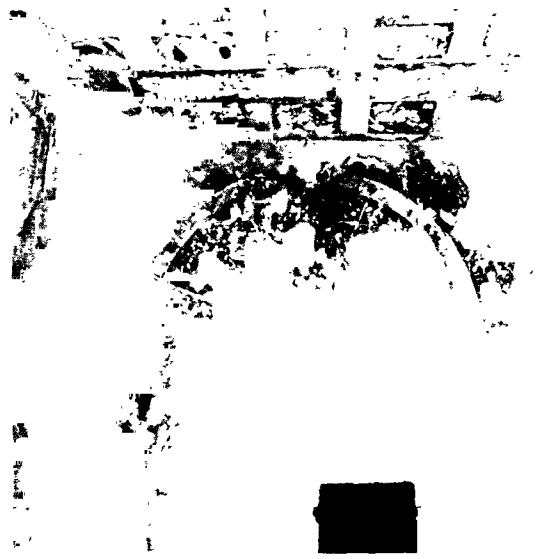
12* [illegible] Y.[illegible] XXIX.b

13 [illegible] Sutasoma [illegible] 31, 39, [illegible] 21～22, Y.[illegible] XXX～XXXVII, Gr. 66J.

Jā. 537(Mahāsutasoma); Cariyā 32, Jm. 31 Sutasoma [illegible] 11, [illegible] 8, [illegible] 32, [illegible] Ajanta [illegible] 16 [illegible] 1, Aurangabad [illegible] 3 [illegible].

14 [illegible] Śarabha [illegible] Y.[illegible] XLV.b, XLVI

Jā. 183(Sarabha); Jm. 25 (Śarabha).



30 [illegible]

15 [illegible] 13, [illegible]23. Y[illegible] XLVII~XLVIII, H. XVIII 20 ~XXI 23 ;

Jā. 455 Mātiposaka ; [illegible] 27; Mtu III p. 129~133 Hastimikā ; [illegible] 15.

16 [illegible] 12. Y[illegible] XLIX.b, H. VI 8 [illegible] 10 [illegible]

17 [illegible] Y[illegible] XLIX.a, L.a

Jā 75 Maccha ; Cariyā 30, Jm. 15 Matsya

18 [illegible] 24. Y[illegible] LI.a

Jā 278 Mahisa ; Cariyā 15, Jm 33 Mahisa ; [illegible] 30.

19 [illegible] Simhala [illegible] 50~52, [illegible] 14. Y[illegible] L.d, LI.b, LII~LXIII, LXIV, [illegible] LXV.a~b, Gr 67~79P; H. XVII 19 ; XXXVII 43~44 ;

Divy 36 Simhala-avadāna ; [illegible] XLVII~XLVIII, [illegible] 37, cf Jā. 196 Vāhassa

20 [illegible] B [illegible] 25. Y[illegible] LXV.c, LXVI.a~c, Gr [illegible]Q, H IV 5 ; XVI [illegible] XXXIX 47 ; [illegible]

Jā 499 Sivi ; Cariyā 8, Jm 2 Śibi Mahājjātakamālā 23, Avadānaśataka 31, [illegible] 33.

21 [illegible] 54. Y[illegible] LXVI.d, LXVII

22 [illegible] Y[illegible] L.b~c, LXVIII, Gr 83T, H. VIII 10 [illegible] 2 [illegible]

23 [illegible] 2 [illegible] Y[illegible] LXIX.a~b, Gr. fig 28

[illegible] XLIX, [illegible] CXIV, [illegible] XV

24 [illegible] Nyagrodha [illegible] Y[illegible] LXX, Gr 84

Jā 12 Nigrodha miga ; [illegible] 18, Mtu. I. p 350~366 Nyagrodha mrga ; [illegible] 20, [illegible] 70, [illegible] XVI

Bhārhut.

25 [illegible] Gr. 142 f

Jā 432 Padakusalamānava ; [illegible] XXIX Patna, Bodhgayā, Sānchi II

26 [illegible] 30. Y[illegible] IV.c~VII.a, Gr 56~57A

Divy p 298~301 nirmāṇa mandala ; [illegible] XXXIV [illegible]

[illegible]

[illegible]

1 Nanda [illegible] 7[illegible], Y [illegible] VI~IX, Gr 46~H R & I ; H XLI 53

2 [illegible] 92, 96, 29, Y [illegible] XXVIII, XXIX, Gr [illegible]X, Gh XXVI, XXVII, fig 8

[illegible] 舎衛城(Śrāvastī)の大神変(奇跡) [illegible]前室右壁——図93; Y.[illegible] XXIII; Gr. 15 O.

[illegible]

[illegible] 兜率(Tusita)天上の菩薩の死去 左壁(第1・2房室入口の上辺)——図112; Y.[illegible] XIX; Gr. 25～26L.

[illegible] 摩耶(Māyā)夫人の夢(托胎)
[illegible]夢の報告 } 左壁(第1・2房室入口の上辺)——Y.[illegible] XVIII, b; Gr. 25.

[illegible] 左壁(第1・2房室入口側の上辺)——図113; Y.[illegible] XX～XXI, Gr. 27L.

[illegible]ンビニー Lumbinī 園における [illegible] 左壁(第1・2房室入口右)——Y.[illegible] XXIII; Gr. 28L.

[illegible] } 左壁(第1・2房室入口上部中辺)——図114; Y.[illegible] XXII; Gr. 28L

——以上1～7は一連の壁画——

[illegible] 左壁(第1・2房室入口上部下辺)——Y.[illegible] XXII [illegible]

[illegible]舎衛城の大神変 後壁右部——図124; Y.[illegible] XXVII.

[illegible]

[illegible]舎衛城の大神変 [illegible]部下段 [illegible]前室右壁——Y.[illegible] II, a

[illegible]部下段 [illegible]前室右壁——Y.[illegible] III, c, IV, b

[illegible]舎衛城の大神変(?) [illegible]部中段 [illegible]右壁——Y.[illegible] VIII, b, IX, b.

[illegible]

[illegible]の托胎(?) 後壁右部——Y.[illegible] XI, a.

[illegible]摩耶夫人の夢(?) 後壁右部——Y.[illegible] XI, b

[illegible]

[illegible]の托胎(?) 側壁右部——[illegible]31, Y.[illegible] XV, a, XVI, a [illegible]

[illegible]塔(stūpa)礼拝[illegible](?) [illegible]右部——Y.[illegible] XVI, b～c [illegible]

[illegible]者の群れ(?) [illegible]右部——Y.[illegible] XVII, a [illegible]

[illegible]迦葉(Kāsyapa)[illegible](?) [illegible]——Y.[illegible] XX, b

[illegible] [illegible]——Y.[illegible] XVIII, a

[illegible]——Y.[illegible] XVIII, b

[illegible]

[illegible]説教(?) [illegible]1, [illegible]8, Y.[illegible] XXIV, a, XXV～XXVII [illegible]

[illegible]説教(?) [illegible]——Y.[illegible] XXIV, b, XXVIII, a [illegible]

3 王の仏塔(ラーマグラマ) 左壁前——図7; Y.[3] XXIV, c.(供養図).

4 仏と弟子の比較(仏伝図) 左壁第18[illegible]後 ——図6; Y.[3] XXXVI, a.

第16窟

1 [illegible]下 [illegible]後壁左——[illegible]19; Y.[3] XLVI, a, XLVII, Gr. 52 b.

2 [illegible] 左壁第1・2[illegible] ——図19~20, [illegible]2; Y.[4] LII~LIV; H. XXXIV(37), XXXV(38); Gh III.

3* 仏説法(仏伝図) 後壁左——Y.[4] LVI, c, LVII, a.

4* 仏説法(仏伝図) 後壁右——Y.[4] LVIII.

5 四門出遊 | 右壁第3・4[illegible]
6 [illegible](jambu)樹下の瞑想 | ——Y.[4] LX; Gr. 49B[1].

7 [illegible]の乳粥施与 | 右壁第3・4[illegible]
8 2[illegible]の乞食 | ——Y.[4] LIX; Gr. 50B[1].
9 王舎城(Rājagrha)[illegible] |

——(以上5~9は一連の[illegible])——

10 摩耶夫人の夢(受胎) | 右壁第1・2[illegible]
11 夢の報告 | ——Y.[4] LXI~LXII.

12 [illegible](Asita)の[illegible] | 右壁第1・2[illegible]
13 [illegible] | ——Y.[4] LXIII; Gr. 45B.
14 [illegible] |

——(以上10~14は一連の[illegible])——

第17窟

1 [illegible] 23, [illegible]10, Y.[3] LXIII~LXIV; Gr. 62H; H. I(1), Gh. LXVI, fig. 17.

2 [illegible] [illegible]35~38, [illegible]11; Y.[4] XXXVIII~XL, a, Gr. 54L; H. XXII(24); Gh. LXXIV~LXXV, fig. 20.

3 [illegible] 39; Y.[4] XLII~XLIII.

4 [illegible] [illegible]32~33, Y.[4] XL, b, XLI, H. VI(7).

第21窟

1* [illegible] 第3[illegible] Y.[4] LXXVII.

前掲の表を総括すると、本生図・譬喩物語図(両者の区分をつけがたいので一括する)の数は、比定されているもの38(疑わしいもの4を含む)、未比定のもの14、合わせて52；また伝説図は比定36(不確かなもの10を含む)、未比定4、計40となり、ほかに仏供養図6(いずれも部分)がある。これは剝落の多い現状においてうかがわれるもので、描かれた当初の豊富さはこれに倍するほどであったのに相違ない。本生図関係では第17窟が断然多く、これに次ぐのが第1窟、第2窟であり、一方伝説図関係に多いのは第16窟、次が第2窟ということになる。もっとも窟によっては大壁面に多くの情景を配して一つのシーンを描く場合もあり、それを個別図でばらばらの情景を1図として数えることもあり、数的にその多少を比較することは困難であるが、敢えてより豊富な四つの窟について見るのに、各窟における本生図、伝説図の比重は、大体数字の示すところと一致している。

次に各窟における本生図と伝説図とのあり方については、必ずしも一定していないように見える。全体的に本生図が多くの壁面にわたって描かれているか、第16窟などは伝説図が主となり、逆に第17窟では本生図が大部分を占める。また主題の繰返しも少なくなく、本生図ではヴィシュヴァンタラ本生や六牙象本生・ハンサ本生などが重出し、伝説図では舎衛城の大神変(奇跡)・降兜・三宝宮降下が、それぞれ2ないし3に見出される。しかしこれらの本生図も伝説図も、窟ごとに壁面にそれ描かれる場所や時期の違いなどを反映していたようには見えない。このことは各説話の描写形式においても一致に見られるところである。

3) 説話画の描写形式

ここでアジャンタ壁画の過半を占める仏教説話画に、特にその構図や描写形式の特徴について述べておかねばなるまい。すなわち、一つの同じ内容でもどのように画面において描写されているかの問題である。アジャンタでは一見してもわかるように、きわめて簡略な見取り方になっていて、保存状態の比較的良好な例でも、物語の展開を追体験するようなことは容易でない。それ、アジャンタだけでなく、インド一般的にも、物語の描写に特異な特徴を与えるようなものとなっていることにおいて、これらの描写の省略や、その間に見られる類型的なパターンをとっておくことは、敢えて言うまでもなく、必要な基礎条件であるわけである。ただしこれを具体的にいうためには、それぞれの説話について、一体、何を示すものであるか模写の類を用いるのがふさわしいであろうが、それはそれとしかねる。よってここでは、上述において紹介された描写上の特質に関し、一般的に述べられたことを、(以下例示する中で、これに掲げた表の表における各窟の番号を参照されたい。)

（1） アジャンタでは、一主題で大規模にわたり多数の情景を配して描写される長編の説話画もあれば、一を異にする幾つかの図を一壁面に並べ描いて一セットの図を比較的簡単なものもあるなど、一様ではないが、比較的簡単なものに比定されている図について見るのに、簡単なものにおいても、1構図1情景という最も単純な形式にまで（ただし魚本生〔第17窟17〕は1図1場面）、ないしは物語の展開に応じて2景以上にこれを描写するものとなっている。たとえば第24窟の水牛本生（第17窟18）はそのきわめて簡素な描写の一例であるが、それでも、こちらから彼に目語しているかのように見える水牛と、彼を捕らえて落とし穴で突き殺そうとする水牛との2景から成っているのが認められる。同様に病伝中の一挿話を扱ったもの23の酔象降伏図（第17窟1）も、町中の人々を恐怖に陥れた狂暴な酔象と、右端に立つ仏（この図では見えない）の前でおとなしくなって跪くに至るまでを、左から右へと連続的に描いて、説話の進行を示しているのである。

（2） 一つの説話を二つ以上の情景で示す場合、横に長くフリース式に配してゆくものと、上下左右迷宮に置いて構成するものとの2形式が見られるが、いずれの場合も情景の配置と物語の展開とが必ずしも一致しないフリース式では左から右へ情景の移行する場合が多いが、ときにはその反対の場合もあり、また情景も逐次移行するとはかぎらず、したがって右繞礼拝しながら眺められる配置になっているとはいいがたい。一方上下左右に迷宮情景を配するのは、壁面が高く上下にも広がったことと関連する。しかし迷宮といっても、たとえば天上の景を上方に、海に関する情景を下方に配するなど、合理的な配置への考慮はもちろん払われたようである。

例示すれば、既述の酔象降伏図などは情景の左から右へ逐次移行する典型を示しており、また第2窟右廊の仏伝図数景（第2窟1～7）では、天上の帝釈天を右上方に、次に托胎の夢に関する2景を右下方に配し、続く誕生は上方に置き、ルンビニー行と生誕との景は下方に描いていて、情景の配置としては上下と左右移行との混用といえるが、しかしこれらはなお簡単な部に属するもので、第17窟のシンハの物語図（第17窟19）やウィシュヴァンタラ本生図（第17窟9）、また第2窟のパドマパニ菩薩本生（第2窟3）やフールナ向上物語（第2窟4）などにおいては、説話の展開に応ずる情景の数はずっと多く、しかもそれらは画面に区画された舞台別に配置され、必ずしも一定方向への逐次移行をとらないものである。

（3） 上述の情景配置と関連して、説話の中の事件の画面に区画された舞台別に、ときには宮殿内と山中などの別に、描写されたそれぞれの場面ごとの場合が多いが、等しく特色とすべきは、ここには物語の展開の序を合致しない配置も見られるかのごとくである。先に触れた第17窟右廊のウィシュヴァンタラ本生図のごとき、われわれは6場面の場合を第30図を通じてある程度区別することもできるが、これを推して知るべ

きてあろう。本書の図版でこれに類する多数情景のほとんど全構図が見られるが、図80以下、マハージャナカ王本生図(第1窟4)で、画面の保存もっともよく図版も鮮明であるが、ここに描写されている多くの情景が、一体として南伝『ジャータカ』の中に伝えられている説話によって、十分説明されることが、いささか疑いなくとしない。さらに図84、87～89に示した同じ窟の後壁左部を占める数景、図(第1窟5～6)も、マハーナラ本生図に続きものとする提説があり、しかしこれまた解明いきわめてもすぐれた業績である。

(4) さらに説話画の描写においては、相異る情景と背景とを区分する手段もまたはっきりしない。一般に各シーンは登場人物や動物の動作・事物の配置などでそれぞれ構図的にまとまりを持っており、このようなシーンから区別するのに、アジャンタでは特別に多線を引いたり仕切ったりすることなくなることが、ほとんどない。それは次々と連続的に左右または上下に描いてゆくやり方である。しかしそれにも、今見たように情景を連続し、ないしは一部を重ねてゆく場合と、多くとも情景を区分する工夫をしているが、今まで見に例示した六牙本生図や酔象降伏図などとは別者の例である。図45、六牙象本生図(第17窟3)も、これまでとられた範囲の情景に関するかぎり、同じく連続的描写、例をかかげてきた。もっともこの場合、1枚の中に3景を連続的に描いており、ほかの場合とやや趣きを異にするが、牙を自分の足もとにつき伏して懇願する猟師、すでに牙を切って大象が引き上げようとする猟師と、同じ猟師を3度描き、これにつづいて、ここで直ちに事件、経過を説明することはしないとしても、古代初期以来の説話にはまず特異な簡明さを入れられる。ここにもまたアジャンタの工夫がある。

情景を区分するためのもう一工夫としては、一種、仕切り、例えば樹木・山・建造物などを用いることが、中でも建造物の柱や屋根で情景を仕切る場合が少なくない。一つは、図76～77、シビ王本生図(第1窟1)や図94、チャンパヤ本生図(第1窟8)などにみられるもの。さらに建造物でも特に門を強調した場合、一例としては図81の中央右寄り下方や図86で、ここに門はいずれも閉じられていない。これに対し、出ることのない描写で次の情景に始まっている。

(5) またアジャンタの説話画は、多数、出来るだけ簡単に、しかもはっきりと、一つの場面をこれ以上簡単にできないほどの人物や動物、ないし樹々や建造物などを、時には、ただ一本だけ描き、情景描写においては、画師の自由に必要な人物に事欠いたことはない。九人分を、ただ一つ、きっちりきちんと一つの場面にまとめたことも関連のあったはずである。上、右内、シーンの中に、一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、六つ、七つ、八つ、九つ、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百、百一、百二、百三、百四、百五、百六、百七、百八、百九、百十、百十一、百十二、百十三、百十四、百十五、百十六、百十七、百十八、百十九、百二十、百二十一、百二十二、百二十三、百二十四、百二十五、百二十六、百二十七、百二十八、百二十九、百三十、百三十一、百三十二、百三十三、百三十四、百三十五、百三十六、百三十七、百三十八、百三十九、百四十、百四十一、百四十二、百四十三、百四十四、百四十五、百四十六、百四十七、百四十八、百四十九、百五十、百五十一、百五十二、百五十三、百五十四、百五十五、百五十六、百五十七、百五十八、百五十九、百六十、百六十一、百六十二、百六十三、百六十四、百六十五、百六十六、百六十七、百六十八、百六十九、百七十、百七十一、百七十二、百七十三、百七十四、百七十五、百七十六、百七十七、百七十八、百七十九、百八十、百八十一、百八十二、百八十三、百八十四、百八十五、百八十六、百八十七、百八十八、百八十九、百九十、百九十一、百九十二、百九十三、百九十四、百九十五、百九十六、百九十七、百九十八、百九十九、二百、二百一、二百二、二百三、二百四、二百五、二百六、二百七、二百八、二百九、二百十、二百十一、二百十二、二百十三、二百十四、二百十五、二百十六、二百十七、二百十八、二百十九、二百二十、二百二十一、二百二十二、二百二十三、二百二十四、二百二十五、二百二十六、二百二十七、二百二十八、二百二十九、三百、三百一、三百二、三百三、三百四、三百五、三百六、三百七、三百八、三百九、三百十、三百十一、三百十二、三百十三、三百十四、三百十五、三百十六、三百十七、三百十八、三百十九、三百二十、三百二十一、三百二十二、三百二十三、三百二十四、三百二十五、三百二十六、三百二十七、三百二十八、三百二十九、四百、四百一、四百二、四百三、四百四、四百五、四百六、四百七、四百八、四百九、四百十、四百十一、四百十二、四百十三、四百十四、四百十五、四百十六、四百十七、四百十八、四百十九、四百二十、四百二十一、四百二十二、四百二十三、四百二十四、四百二十五、四百二十六、四百二十七、四百二十八、四百二十九、五百、五百一、五百二、五百三、五百四、五百五、五百六、五百七、五百八、五百九、五百十、五百十一、五百十二、五百十三、五百十四、五百十五、五百十六、五百十七、五百十八、五百十九、五百二十、五百二十一、五百二十二、五百二十三、五百二十四、五百二十五、五百二十六、五百二十七、五百二十八、五百二十九、六百、六百一、六百二、六百三、六百四、六百五、六百六、六百七、六百八、六百九、六百十、六百十一、六百十二、六百十三、六百十四、六百十五、六百十六、六百十七、六百十八、六百十九、六百二十、六百二十一、六百二十二、六百二十三、六百二十四、六百二十五、六百二十六、六百二十七、六百二十八、六百二十九、七百、七百一、七百二、七百三、七百四、七百五、七百六、七百七、七百八、七百九、七百十、七百十一、七百十二、七百十三、七百十四、七百十五、七百十六、七百十七、七百十八、七百十九、七百二十、七百二十一、七百二十二、七百二十三、七百二十四、七百二十五、七百二十六、七百二十七、七百二十八、七百二十九、八百、八百一、八百二、八百三、八百四、八百五、八百六、八百七、八百八、八百九、八百十、八百十一、八百十二、八百十三、八百十四、八百十五、八百十六、八百十七、八百十八、八百十九、八百二十、八百二十一、八百二十二、八百二十三、八百二十四、八百二十五、八百二十六、八百二十七、八百二十八、八百二十九、九百、九百一、九百二、九百三、九百四、九百五、九百六、九百七、九百八、九百九、九百十、九百十一、九百十二、九百十三、九百十四、九百十五、九百十六、九百十七、九百十八、九百十九、九百二十、九百二十一、九百二十二、九百二十三、九百二十四、九百二十五、九百二十六、九百二十七、九百二十八、九百二十九、千、千一、千二、千三、千四、千五、千六、千七、千八、千九、千十、千十一、千十二、千十三、千十四、千十五、千十六、千十七、千十八、千十九、千二十、千二十一、千二十二、千二十三、千二十四、千二十五、千二十六、千二十七、千二十八、千二十九、千三十、千三十一、千三十二、千三十三、千三十四、千三十五、千三十六、千三十七、千三十八、千三十九、千四十、千四十一、千四十二、千四十三、千四十四、千四十五、千四十六、千四十七、千四十八、千四十九、千五十、千五十一、千五十二、千五十三、千五十四、千五十五、千五十六、千五十七、千五十八、千五十九、千六十、千六十一、千六十二、千六十三、千六十四、千六十五、千六十六、千六十七、千六十八、千六十九、千七十、千七十一、千七十二、千七十三、千七十四、千七十五、千七十六、千七十七、千七十八、千七十九、千八十、千八十一、千八十二、千八十三、千八十四、千八十五、千八十六、千八十七、千八十八、千八十九、千九十、千九十一、千九十二、千九十三、千九十四、千九十五、千九十六、千九十七、千九十八、千九十九、二千、二千一、二千二、二千三、二千四、二千五、二千六、二千七、二千八、二千九、三千、三千一、三千二、三千三、三千四、三千五、三千六、三千七、三千八、三千九、四千、四千一、四千二、四千三、四千四、四千五、四千六、四千七、四千八、四千九、五千、五千一、五千二、五千三、五千四、五千五、五千六、五千七、五千八、五千九、六千、六千一、六千二、六千三、六千四、六千五、六千六、六千七、六千八、六千九、七千、七千一、七千二、七千三、七千四、七千五、七千六、七千七、七千八、七千九、八千、八千一、八千二、八千三、八千四、八千五、八千六、八千七、八千八、八千九、九千、九千一、九千二、九千三、九千四、九千五、九千六、九千七、九千八、九千九、万、万一、万二、万三、万四、万五、万六、万七、万八、万九、十万、十万一、十万二、十万三、十万四、十万五、十万六、十万七、十万八、十万九、百万、百万一、百万二、百万三、百万四、百万五、百万六、百万七、百万八、百万九、千万、千万一、千万二、千万三、千万四、千万五、千万六、千万七、千万八、千万九、億、億一、億二、億三、億四、億五、億六、億七、億八、億九、十億、十億一、十億二、十億三、十億四、十億五、十億六、十億七、十億八、十億九、百億、百億一、百億二、百億三、百億四、百億五、百億六、百億七、百億八、百億九、千億、千億一、千億二、千億三、千億四、千億五、千億六、千億七、千億八、千億九、兆、兆一、兆二、兆三、兆四、兆五、兆六、兆七、兆八、兆九、十兆、十兆一、十兆二、十兆三、十兆四、十兆五、十兆六、十兆七、十兆八、十兆九、百兆、百兆一、百兆二、百兆三、百兆四、百兆五、百兆六、百兆七、百兆八、百兆九、千兆、千兆一、千兆二、千兆三、千兆四、千兆五、千兆六、千兆七、千兆八、千兆九、京、京一、京二、京三、京四、京五、京六、京七、京八、京九、十京、十京一、十京二、十京三、十京四、十京五、十京六、十京七、十京八、十京九、百京、百京一、百京二、百京三、百京四、百京五、百京六、百京七、百京八、百京九、千京、千京一、千京二、千京三、千京四、千京五、千京六、千京七、千京八、千京九、垓、垓一、垓二、垓三、垓四、垓五、垓六、垓七、垓八、垓九、十垓、十垓一、十垓二、十垓三、十垓四、十垓五、十垓六、十垓七、十垓八、十垓九、百垓、百垓一、百垓二、百垓三、百垓四、百垓五、百垓六、百垓七、百垓八、百垓九、千垓、千垓一、千垓二、千垓三、千垓四、千垓五、千垓六、千垓七、千垓八、千垓九、秭、秭一、秭二、秭三、秭四、秭五、秭六、秭七、秭八、秭九、十秭、十秭一、十秭二、十秭三、十秭四、十秭五、十秭六、十秭七、十秭八、十秭九、百秭、百秭一、百秭二、百秭三、百秭四、百秭五、百秭六、百秭七、百秭八、百秭九、千秭、千秭一、千秭二、千秭三、千秭四、千秭五、千秭六、千秭七、千秭八、千秭九、穣、穣一、穣二、穣三、穣四、穣五、穣六、穣七、穣八、穣九、十穣、十穣一、十穣二、十穣三、十穣四、十穣五、十穣六、十穣七、十穣八、十穣九、百穣、百穣一、百穣二、百穣三、百穣四、百穣五、百穣六、百穣七、百穣八、百穣九、千穣、千穣一、千穣二、千穣三、千穣四、千穣五、千穣六、千穣七、千穣八、千穣九、溝、溝一、溝二、溝三、溝四、溝五、溝六、溝七、溝八、溝九、十溝、十溝一、十溝二、十溝三、十溝四、十溝五、十溝六、十溝七、十溝八、十溝九、百溝、百溝一、百溝二、百溝三、百溝四、百溝五、百溝六、百溝七、百溝八、百溝九、千溝、千溝一、千溝二、千溝三、千溝四、千溝五、千溝六、千溝七、千溝八、千溝九、澗、澗一、澗二、澗三、澗四、澗五、澗六、澗七、澗八、澗九、十澗、十澗一、十澗二、十澗三、十澗四、十澗五、十澗六、十澗七、十澗八、十澗九、百澗、百澗一、百澗二、百澗三、百澗四、百澗五、百澗六、百澗七、百澗八、百澗九、千澗、千澗一、千澗二、千澗三、千澗四、千澗五、千澗六、千澗七、千澗八、千澗九、正、正一、正二、正三、正四、正五、正六、正七、正八、正九、十正、十正一、十正二、十正三、十正四、十正五、十正六、十正七、十正八、十正九、百正、百正一、百正二、百正三、百正四、百正五、百正六、百正七、百正八、百正九、千正、千正一、千正二、千正三、千正四、千正五、千正六、千正七、千正八、千正九、清、清一、清二、清三、清四、清五、清六、清七、清八、清九、十清、十清一、十清二、十清三、十清四、十清五、十清六、十清七、十清八、十清九、百清、百清一、百清二、百清三、百清四、百清五、百清六、百清七、百清八、百清九、千清、千清一、千清二、千清三、千清四、千清五、千清六、千清七、千清八、千清九、阿、阿一、阿二、阿三、阿四、阿五、阿六、阿七、阿八、阿九、十阿、十阿一、十阿二、十阿三、十阿四、十阿五、十阿六、十阿七、十阿八、十阿九、百阿、百阿一、百阿二、百阿三、百阿四、百阿五、百阿六、百阿七、百阿八、百阿九、千阿、千阿一、千阿二、千阿三、千阿四、千阿五、千阿六、千阿七、千阿八、千阿九、僧、僧一、僧二、僧三、僧四、僧五、僧六、僧七、僧八、僧九、十僧、十僧一、十僧二、十僧三、十僧四、十僧五、十僧六、十僧七、十僧八、十僧九、百僧、百僧一、百僧二、百僧三、百僧四、百僧五、百僧六、百僧七、百僧八、百僧九、千僧、千僧一、千僧二、千僧三、千僧四、千僧五、千僧六、千僧七、千僧八、千僧九、祇、祇一、祇二、祇三、祇四、祇五、祇六、祇七、祇八、祇九、十祇、十祇一、十祇二、十祇三、十祇四、十祇五、十祇六、十祇七、十祇八、十祇九、百祇、百祇一、百祇二、百祇三、百祇四、百祇五、百祇六、百祇七、百祇八、百祇九、千祇、千祇一、千祇二、千祇三、千祇四、千祇五、千祇六、千祇七、千祇八、千祇九、劫、劫一、劫二、劫三、劫四、劫五、劫六、劫七、劫八、劫九、十劫、十劫一、十劫二、十劫三、十劫四、十劫五、十劫六、十劫七、十劫八、十劫九、百劫、百劫一、百劫二、百劫三、百劫四、百劫五、百劫六、百劫七、百劫八、百劫九、千劫、千劫一、千劫二、千劫三、千劫四、千劫五、千劫六、千劫七、千劫八、千劫九、無、無一、無二、無三、無四、無五、無六、無七、無八、無九、十無、十無一、十無二、十無三、十無四、十無五、十無六、十無七、十無八、十無九、百無、百無一、百無二、百無三、百無四、百無五、百無六、百無七、百無八、百無九、千無、千無一、千無二、千無三、千無四、千無五、千無六、千無七、千無八、千無九、不可思議、不可思議一、不可思議二、不可思議三、不可思議四、不可思議五、不可思議六、不可思議七、不可思議八、不可思議九、十不可思議、十不可思議一、十不可思議二、十不可思議三、十不可思議四、十不可思議五、十不可思議六、十不可思議七、十不可思議八、十不可思議九、百不可思議、百不可思議一、百不可思議二、百不可思議三、百不可思議四、百不可思議五、百不可思議六、百不可思議七、百不可思議八、百不可思議九、千不可思議、千不可思議一、千不可思議二、千不可思議三、千不可思議四、千不可思議五、千不可思議六、千不可思議七、千不可思議八、千不可思議九、無量、無量一、無量二、無量三、無量四、無量五、無量六、無量七、無量八、無量九、十無量、十無量一、十無量二、十無量三、十無量四、十無量五、十無量六、十無量七、十無量八、十無量九、百無量、百無量一、百無量二、百無量三、百無量四、百無量五、百無量六、百無量七、百無量八、百無量九、千無量、千無量一、千無量二、千無量三、千無量四、千無量五、千無量六、千無量七、千無量八、千無量九、無辺、無辺一、無辺二、無辺三、無辺四、無辺五、無辺六、無辺七、無辺八、無辺九、十無辺、十無辺一、十無辺二、十無辺三、十無辺四、十無辺五、十無辺六、十無辺七、十無辺八、十無辺九、百無辺、百無辺一、百無辺二、百無辺三、百無辺四、百無辺五、百無辺六、百無辺七、百無辺八、百無辺九、千無辺、千無辺一、千無辺二、千無辺三、千無辺四、千無辺五、千無辺六、千無辺七、千無辺八、千無辺九、阿僧祇、阿僧祇一、阿僧祇二、阿僧祇三、阿僧祇四、阿僧祇五、阿僧祇六、阿僧祇七、阿僧祇八、阿僧祇九、十阿僧祇、十阿僧祇一、十阿僧祇二、十阿僧祇三、十阿僧祇四、十阿僧祇五、十阿僧祇六、十阿僧祇七、十阿僧祇八、十阿僧祇九、百阿僧祇、百阿僧祇一、百阿僧祇二、百阿僧祇三、百阿僧祇四、百阿僧祇五、百阿僧祇六、百阿僧祇七、百阿僧祇八、百阿僧祇九、千阿僧祇、千阿僧祇一、千阿僧祇二、千阿僧祇三、千阿僧祇四、千阿僧祇五、千阿僧祇六、千阿僧祇七、千阿僧祇八、千阿僧祇九、那由他、那由他一、那由他二、那由他三、那由他四、那由他五、那由他六、那由他七、那由他八、那由他九、十那由他、十那由他一、十那由他二、十那由他三、十那由他四、十那由他五、十那由他六、十那由他七、十那由他八、十那由他九、百那由他、百那由他一、百那由他二、百那由他三、百那由他四、百那由他五、百那由他六、百那由他七、百那由他八、百那由他九、千那由他、千那由他一、千那由他二、千那由他三、千那由他四、千那由他五、千那由他六、千那由他七、千那由他八、千那由他九、不可説、不可説一、不可説二、不可説三、不可説四、不可説五、不可説六、不可説七、不可説八、不可説九、十不可説、十不可説一、十不可説二、十不可説三、十不可説四、十不可説五、十不可説六、十不可説七、十不可説八、十不可説九、百不可説、百不可説一、百不可説二、百不可説三、百不可説四、百不可説五、百不可説六、百不可説七、百不可説八、百不可説九、千不可説、千不可説一、千不可説二、千不可説三、千不可説四、千不可説五、千不可説六、千不可説七、千不可説八、千不可説九、不可説不可説、不可説不可説一、不可説不可説二、不可説不可説三、不可説不可説四、不可説不可説五、不可説不可説六、不可説不可説七、不可説不可説八、不可説不可説九、十不可説不可説、十不可説不可説一、十不可説不可説二、十不可説不可説三、十不可説不可説四、十不可説不可説五、十不可説不可説六、十不可説不可説七、十不可説不可説八、十不可説不可説九、百不可説不可説、百不可説不可説一、百不可説不可説二、百不可説不可説三、百不可説不可説四、百不可説不可説五、百不可説不可説六、百不可説不可説七、百不可説不可説八、百不可説不可説九、千不可説不可説、千不可説不可説一、千不可説不可説二、千不可説不可説三、千不可説不可説四、千不可説不可説五、千不可説不可説六、千不可説不可説七、千不可説不可説八、千不可説不可説九、

る構図を作り上げるのが普通となっている。それはちょうど、[illegible]物やそと
まで忠実に写生に描写されているが、[illegible]
79 ことにもなる。たとえばシビ王本生話において、(79)[illegible]
して何を表わしているのかはっきりしないものとされている。

（6） ここで説話画の典拠についても触れておく。[illegible]に掲げた表で、比定されている本生話・因
物語などにそれぞれ典拠を注記しておいた。[illegible]
(1)に基づいたものと解釈されているが、[illegible]
典の中でも
もみられるが、[illegible]
または[illegible]
また[illegible]
典拠によって、十分に説明しえないものもあるが、[illegible]
説話の変化、[illegible]
ーラ[illegible]（本生経）やサンスクリット[illegible]ーラ[illegible] *Jātakamālā*（[illegible]）に比べてパーリ
語に比較的多く残っているが、これら[illegible]数でもかなり多数[illegible]
[illegible]必ずしもこれらの[illegible]
[illegible]図2写真、[illegible]
本生話(図2写真8)のように、[illegible]
ちろん[illegible]典に収められている[illegible]
727 [illegible]
[illegible]7[illegible]673～685A.D.)[illegible]
[illegible]ーラ[illegible]
[illegible](Candragomin)[illegible]
[illegible]本生[illegible]
[illegible]2[illegible]3[illegible]
好[illegible]

3 様式と技法

[illegible]

31 第9窟 左壁 菩薩の化粧（西面）

における特異性とに関して眺めた。最後に残されたのは、この壁画の様式・技法という全面的には最も重要課題だけとなった。

さて、アジャンタ壁画については、技法的にフレスコであるかテンペラ画であるかという根本的な問題がある。第2以来一般にフレスコであるとされてきたが、現在では壁画の下地塗りを科学的に調査した結果、テンペラ tempera 画の技法によったものであると判定されるに至っている。長年その壁面に当たったタリフィスによると、彫成された粗面の岩肌を全面泥土で塗り、まんべんなく圧しつけてまず下地を作る。泥は大体粘土・牛糞・火山岩粉をこねあわせたもので、天井などの場合はさらに糊料をも混ぜる。厚さは岩肌の状態にもよるが約[illegible]mm ないし 20mm。次にその上にこまかい土質の石灰を薄く塗って平滑にし、これで下地ができ上がるとされる。彼はその上に彩画する技法をテンペラとフレスコとの結合されたインド特有のものと見ていたのであるが、その後の学者はたいてい、石灰(chunam)の上塗りが湿潤に保たれている間に彩色がおこなわれたものとして、フレスコ(fresco buono)の技法に属するものとした。これに対してテンペラ説は約ホーンブロウが主張し、[illegible]年後インド考古局の調査班によって実施されたのであった。これによると、下地塗りはシリカ(二酸化珪素)を主成分とした泥土で、まず粗泥で塗りこめ、さらに上質のこまかい泥土で約2～3mmの厚さに上塗りしていたとされ、石灰は検出されず、したがって顔料または膠を接着剤として描くテンペラ[illegible]の技法によったものと解されるというのである。なお76頁、[illegible]氏の論文を参照されたい。

次に顔料についても山崎氏の記されているとおり、おもな色は赤・黄・緑・黒・白とそれらの混色とで、色数は少ない。[illegible]煙黒・[illegible]などの鉱物質であるが、その中で青色は、外国産の色彩とやはりラピスラズリ lapis lazuli を用いていたことが注目される。これに対して[illegible]であるとされた褐色(酸化鉄)や黄色(土)は、ふつうこれや褐色などに色味にはふくまれているものであるが、[illegible]にも記したように14世紀頃、[illegible]世紀にはワニスを加えて色調をそろえ、今世紀の20年代にはワニスを筆頭とした代りにシェラックなどを加えて保護し、さらにこれに[illegible]で単色の褐色化を防止するようにしたことなどが、[illegible]年代学的にもこの[illegible]やシェラック筆法がおこなわれ、[illegible]の色調に役立つ努力が進行中であるが、下地に[illegible]色[illegible]を塗ることができ、それが壁面全体に[illegible]の色調を[illegible]ものであったことなどを、[illegible]の考証に、[illegible]の[illegible]、[illegible]に本書の[illegible]は第46[illegible]ヤスタ[illegible]に[illegible]の[illegible]、[illegible]を[illegible]ることができる。

なお顔料、[illegible]後に[illegible]の場合、[illegible]見られていないものであるとされる。[illegible]は本来、色に生命[illegible]項目[illegible]、第9[illegible]

色の変るものがある。第2図の場合にはこのような例が見られます。女性の多くは(男性の一部も)下唇に白い彩
図19,74,78 の跡をなでたけである。*これにはピンク bimba の実に譬えられるべきものとして紅唇が見られないのはいささか
異とすべきで、あるいはこれは当時の婦人の美意識外を出ていたのではないかとも思われる。しかし第1
図85,86 窟のものは図85～86などでは、口唇に赤を含んだ色に見えることも指摘しておこう。

彩色については、実際に手がけたハーランド夫人によると、例えばあるべき人体にのプラスター（白色の下地
塗りの上に赤の線描でチョーキングし、ときには土(terra verde)を塗り全体にうすくぬる。それぞれの固有色を塗り
次いで黒または紺色の仕上げをしてゆく。必要にあるいは陰影法を用いているとしている。最初のテンペラは、
図37,83,87 上塗りの彩色や筆取りなどにはにじみやすくなっている場合もあるとしても、図37、83、87などでは歴然として
おり、堅固な線描きの線描であったことが知られる。この場合、どちらの色でも用いているように、下絵ある
いは型を用いて、構図にあり形をとってゆくことが一般的である。ことに多くの人を相手にする簡単な人
物の肖像などを描く場合、ふつうにはこの下絵ではいっそう容易であったろうと思われるからである。し
かし紙もまた用いられていたらしい。例えば、インドで、ときとして布などに描いた下絵をふるいしの用意したかどう
か、またそれをどのように使用したかは、全然分っていない。ただもしこれが、壁画の描写かきまわ
で効率し、筆線の展開も必ずしも意図されを通っていないのであるとすれば、工師は、壁上で自由に模
図111 し、またそれをなしうるだけの熟練をもっていたことになる。また図111で見るように、幾何的な図形などを
描いている例も少くない。これは用いられた彩料のことでもあるのであろう。ただ技法に関することは、第2
図の場合について述べる際に、必要にあって述べることにしよう。

以下、第1図の古層から始まって、第2図における第1窟などの壁画に見られる技・技法上の特色を検討してゆこう。

まず、ほぼ第10窟から第9窟にかけての古層初期の数百年に属するものとして、識別される
のは、技法のほかに、ことばの形式の変化などに、何かの理由があるのは、驚かされる状態にあ
図1,図47,48 ることである。しかも主や貴人・貴女などの表情・姿態などにはっきりと好ましい表情が見られる。一方、本生譚における人物や動
図17,92 物の形態などは、*ときとして誇張されていることがある。これらは、人物の表情の明確に形にとらえら
れており、それらを前後に重ねる場合の空間的な、立体的なものの表現はハーロットの浮彫(前2世紀)
のそれなどにもまさっている。ただしこれらの人物の顔は、ときどきまるい顔、男性はターバン、女性は頭布をかぶり、

図

1 第10窟 左側廊 菩提樹供養 部分

2 左廊 ナンタ出家物語 部分

3 窟前廊 象本生 部分

4 第16窟 左廊 母天

色の異なるものがある。第2期の壁画にはこのような例が見られず，女性の多くは(男性の一部も)下唇に白い彩色
図19,74,78 の跡を残すだけである。* しばしばビンハ bimba の実に譬えられる女性の美しい紅唇が見られないのはいささか
異とすべきで，あるいは白の地に何か有機質の赤色顔料を用いていたのではないかとも想像される。しかし第1
図85,86 窟のたとえば図85～86などでは，直接唇に赤色を塗ったように見えることも指摘しておこう。

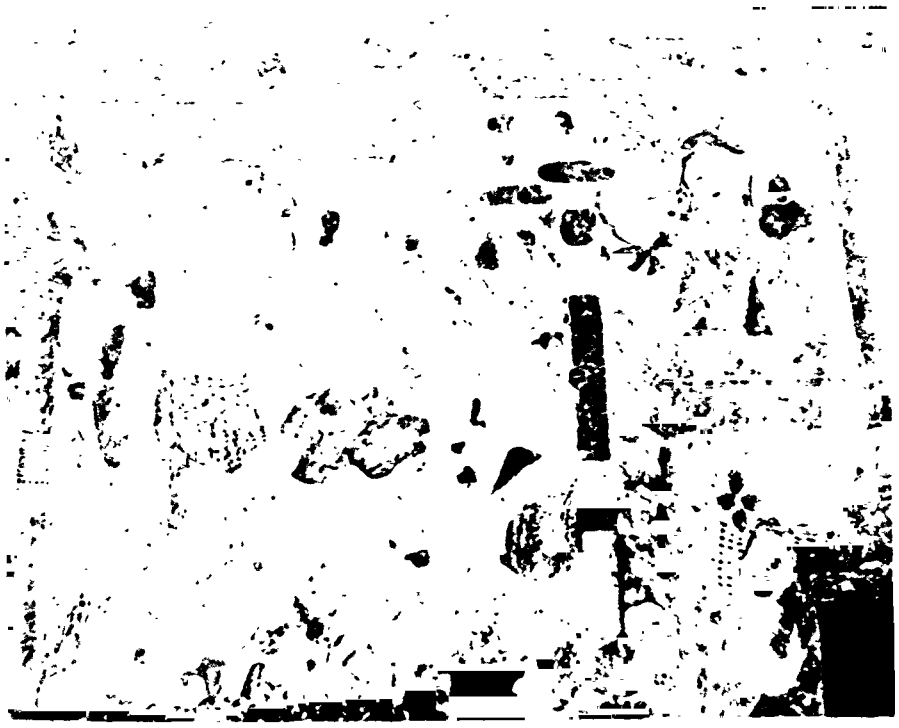
彩色については，模写に当たったハーリンガム夫人によると，例外もあるが大体白のプラスター（石灰の下地塗り）の上に赤い線描でデッサンし，次に緑土(terra verde)を薄く全体にかけてから，それぞれの固有色を施し，次いで黒または褐色の仕上げの線でくくり，必要に応じて陰影法を用いているとしている。[73] 最初のデッサンは，
図37,83,87 上塗りの彩色や縁取りなどのために見えなくなっている場合も少なくないが，図37，83，87などでは歴然としており，大胆な早描きの線描であったことも認められる。この場合，近世の壁画で用いているように，下絵あるいは型を用意して，構図したり彩画したりしたかどうかの問題がある。ことに多くの情景を配して成る複雑な大画面の説話画などを描く場合，ぶっつけに壁面に下筆してゆくのは容易でなかったろうと思われるからである。しかし紙のまだ用いられていなかった当時のインドで，はたして布などに描いた下絵をあらかじめ用意したかどうか，またそれをこのように壁面に写しとったかなどは全然知られていない。いなむしろ，説話画の描写がきわめて錯綜し，情景の展開も必ずしも説話のそれを追っていないなどのことから考えても，絵師は壁上で自由に構図
図111 し，またそれをなしうるだけの熟練さを持っていたとしたい。また図111で見るように，類型的な尊像などを並べ描いている例も少なくないが，型が用いられた形跡はここでも認められない。なお技法に関することは，第2期の壁画について眺める際に，必要に応じて記述することとする。

以下，第1期の古画から始めて，第2期における主要4窟などの壁画に及ぶ様式・技法上の特色を検討してゆこう。

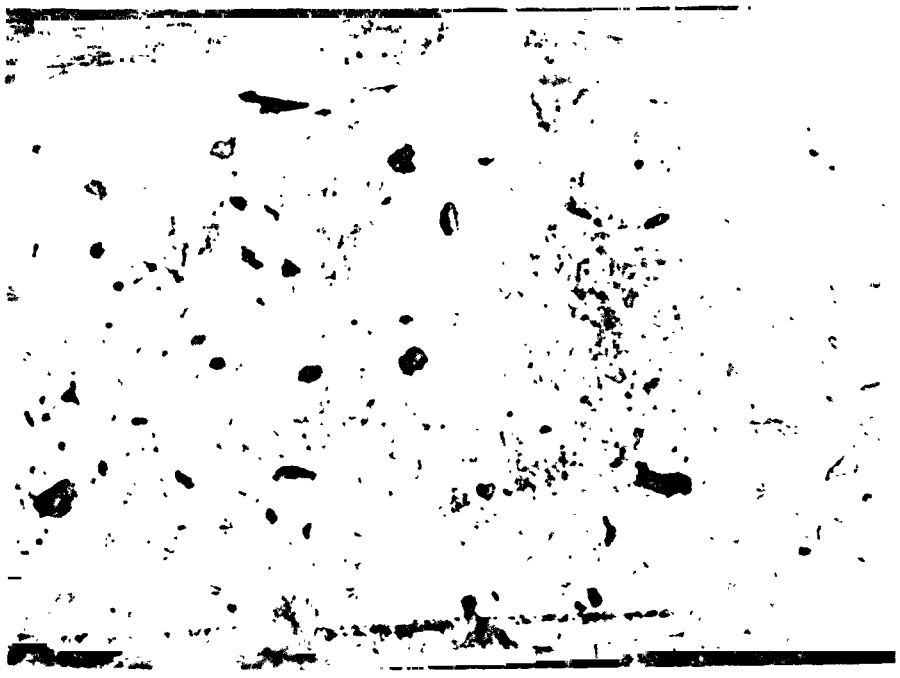
まず，最古の第10窟および第9窟に見る古い，古代初期の仏教浮彫に対応する絵画遺品として注目されるものであるが，既述のとおり，ひどいあれ劣化のために，図はもはしかたはたの読かわしい状態にある
図1,47,8 それでも王や貴人・貴女ないし兵士の並べて供養にのぼる行列や花担ぎの景，* また本生図における人物や動
図17,32 物の所作など，* かろうじて跡づけることができる。とくに本生図においては，人物や動物の形態は的確に彫まくとらえられており，それらを前後に重複記する空間構成も，遠近法的ではないが決してハールフットの浮彫(前2世紀)のような幼稚なものではない。とくに人物が斜め横向きに表わされ，男性はターバン，女性は頭布をかむり，

別　図

1　第10窟　左側廊　菩提樹供養　部分



2　第16窟　左廊　ナンタ出家物語　部分



3　第16窟　前廊　象本生　部分

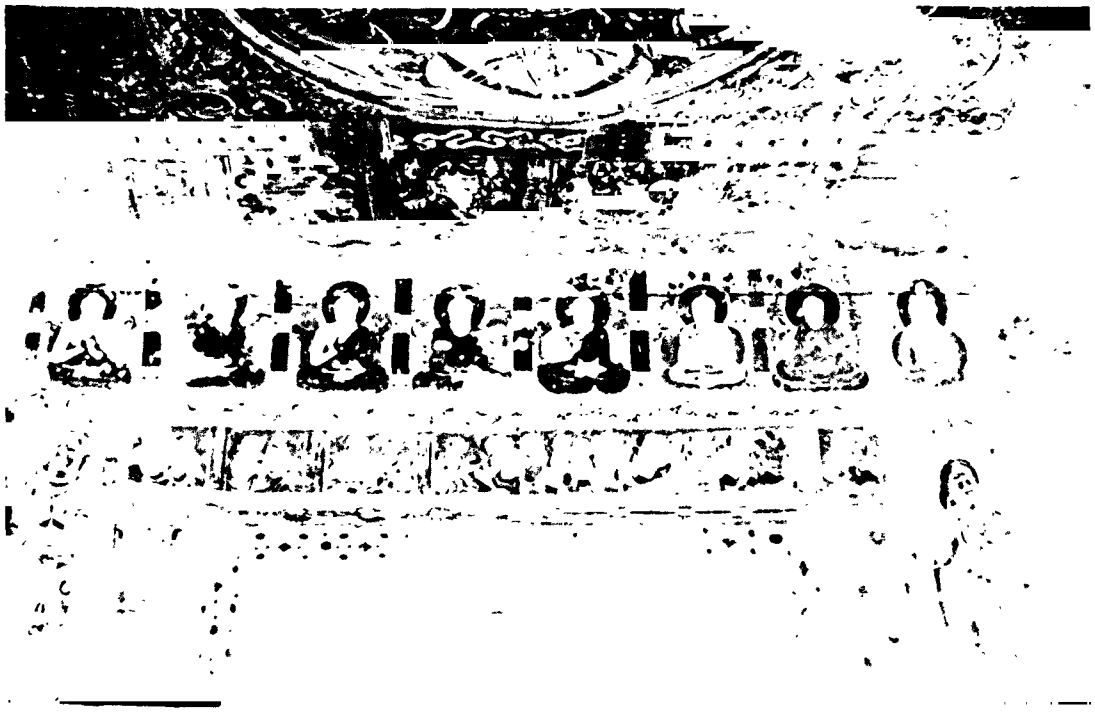
4　第16窟　左廊　飛天

5 第17窟 正面廊 後壁と天井

6 第17窟 正面廊 天井装飾画

7 第17窟 正面廊 天井装飾画 部分

8 第17窟 正面廊 飛天

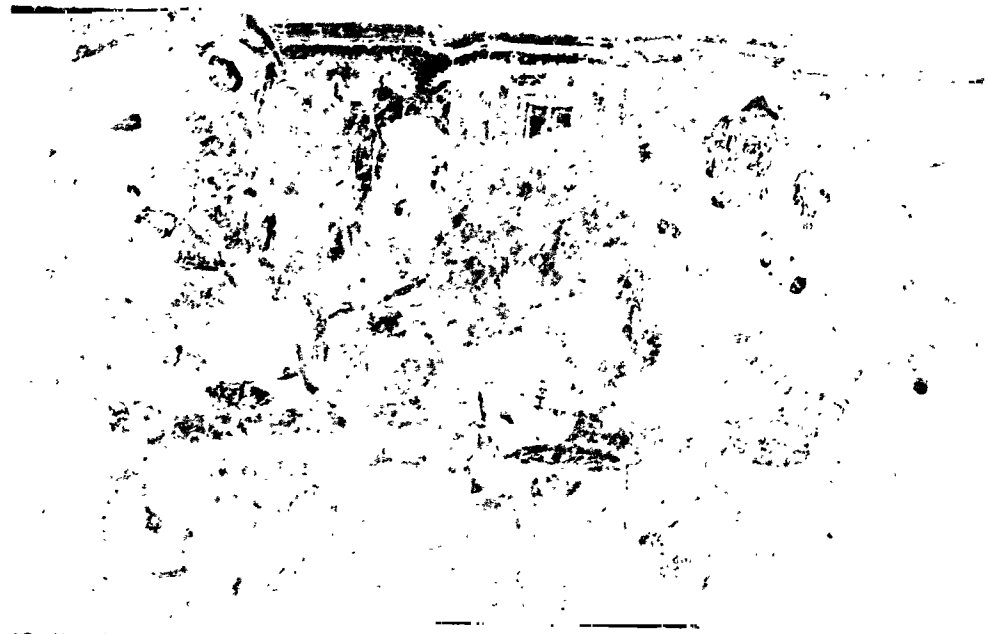


9 第17窟 中央入口上部

10 第17窟 正面廊 醉象降伏 部分

11 第17窟 佛堂前室左壁　三道宝階降下　部分

12 第17窟 後廊　シュヤーマ本生



13 第17窟 後廊　母扶養象本生　部分

14 第17窟 右廊　シンハラ物語　部分

15 第17窟 前廊左壁　ハンサ本生　部分

16 第Ⅰ窟 佛堂前室左壁　降魔　部分

17 第Ⅰ窟 後廊右部　菩薩供養者

18 第Ⅰ窟 後廊左部 アマラー物語

19 第1窟 広間 天井装飾 男女飛天

20 第1窟 広間 天井装飾 男女飛天

21 第1窟 広間 天井装飾

22 第1窟 広間 天井装飾 飲酒

23 第2窟 右廊 ウィトゥラ賢者本生 部分

24 第2窟 右廊 フールナ商主物語 部分

25 第11窟 正面廊 蓮華手菩薩

26 第2窟 佛堂右壁 佛並坐

27 第2窟 正面廊 後壁と天井

28 第13窟 前廊 柱頭と天井

29 第26窟 前庭右 佛立像（浮彫）

32 第10窟 [illegible]

装身具と腰衣とを着ける以外ほとんど裸かであるなども、古代初期浮彫に共通する特色であるが、人物の姿態や大小の象群の巧みな描写などは、すでに相当水準の相当高い発展段階にあったことを示しており、様式的には大体サーンチー塔門の浮彫(前1世紀後期ないし後1世紀前期)に近いとすることができよう。もっとも彩色においてはまだ単純な平塗りだけで、濃淡はつけても隈取りやハイライトの法は知らず、全体に素朴な彩色であったようで、これは比較的保存のよい第9窟前廊壁の龍王礼拝図*などからも窺うことができる。 pl.31

ところで、これら2窟の古画は必ずしも同時の制作であったようには見えない。それは、第10窟左側窓の供養図*や第9窟の前廊龍王礼拝図・同左側窓の仏塔供養図などが、動きの少ない類型的な人物の羅列に終っているのに対 1
し、第10窟右側廊の2種の本生図*では、動的で変化のあるやや進んだ表現が見られるからである。そこに当然制 pl.17,32
作時期に若干の差が想定されるであろう。先にサーンチー塔門の浮彫に比較されるといったのは古い方のグループにほかならない。年代づけはまだはっきりしないが、一部の学者のように、第10窟の開掘を前2世紀と見てそこまで遡らせるのは無理であり、[24] また一方おそい方の2本生図を、アマラーヴァティー Amarāvatī の大塔浮彫(後2世紀後半)まで引き下げようとするのも行きすぎであると思う。[25] しかしサーンチー塔門にしてもアマラーヴァティー大塔にしても、ともにアンドラ王朝と密接に関連していることに注意すべきで、アジャンタの古画がこれら2箇所の浮彫の様式と比較されるものを持っているのも、ふるい要素ではないかもしれない。

アジャンタでは約四百年に及ぶアジャンタ期において、第2期の各窟は[illegible]時代を通じて、それは既述のように、クシャン時代における造窟の再興とされるもので、次々と開掘されるとともに、[illegible]師たちの競争によって一画に彩色され、現存する大部分の壁画がここに作られることになっている。第1期の古い窟に比べて格段の進歩が見られるのはいうまでもないことで、[illegible]4個院窟から眺めてゆくことにする。これらの4窟はすでに右窟の中で述べたように、第16、17、2窟から5世紀、第4窟は半世紀に開掘され、これに続いて第1窟が6世紀前半に成り、さらに少しおくれて第[illegible]窟が完成したとされる。壁画もまた大体この頃に描かれたというのが通説になっている。[illegible]ここにそれぞれの4窟の[illegible]を様式的に検討し、その先後関係や[illegible]諸窟との関係をも[illegible]

まず第16窟は既述のように、その造営[illegible]中にも[illegible]開掘直後に描かれたと見てほぼ[illegible]全部[illegible]別問題である。さて壁画は4窟中最も保存[illegible]中で[illegible]ナンタ王の物語*[illegible]特に宮殿 pl.19,20

し、[illegible]年代を代表する[illegible]2[illegible]も黄褐色から黒褐色へと褐色の色調が支配的で、さらにこれに黒化が進み、[illegible]なかにはかなり黒ずんでしまっているものさえあるが、作品では彩色も大部分消えかけているが、元来は大きい画面を縦横に多数の[illegible]が、独特の自様した画面を構成していたものである。ともかくパーツ[illegible]ンには異[illegible]ることもあるが、細部では人物や建物などのかなりはっきりした描写を見ることができる。ことにナン[illegible]の中央に[illegible]した[illegible]が実神するという、きわめて[illegible]的な光景を描いた場[illegible]のこと、[illegible]にもそれ女[illegible]の表出においても特別に注目されるところ、図19はその部分である。女性の肉身はいずれも[illegible]に塗られており、[illegible]に[illegible]を施し、また必要に応じて[illegible]にハイライトを用い、肉身[illegible]丸みを[illegible]している。さらにそのときのような衣容やしなやかな美しい姿態、表現に、第1[illegible]のようなやさしさがやはりあるのであれば異なり、[illegible]に富む。作家の[illegible]中にはかなり郎夫人の[illegible]を投[illegible]ているとみられる。延内のシーンでも、[illegible]の侵攻[illegible]に描かれた女性像を見[illegible]ることができる。一方、[illegible]や[illegible]などの男性も、これらのすべてを表現した穏やかで[illegible]の[illegible]色[illegible]ており、全体に落ち着いたムードに表わされている。

[illegible]ところ、[illegible]でも、中[illegible]郎夫人の右に描かれている[illegible]降下する[illegible]や後景の中央部左寄りの[illegible]は、[illegible]に[illegible]ている。上記した[illegible]などやや趣きを異にしていること[illegible]が看取される。さ[illegible]に[illegible]の[illegible]になると、太くて粗く力強い線描で[illegible]に描いており、彩色も[illegible]独特の例[illegible]、キンタ出[illegible]品などに比べ多少の[illegible]のように見える。

次に第17[illegible]は[illegible]の[illegible]で、[illegible]は[illegible]が[illegible]、[illegible]的な様式には[illegible]、[illegible]の各[illegible]に[illegible]に特色[illegible]、[illegible]に描[illegible]。[illegible]、彩色も[illegible]的な[illegible]の[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]の[illegible]。[illegible]中央[illegible]の[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]。[illegible]、[illegible]。[illegible]。[illegible]。

33　第17図「五」ウィシュウ　シラヤ生

右隅に展開する大画面のシンハラ物語図とも、また後廊左のスタソーマ本生図やウ[illegible]の大子本生図とも異い、さらに伸張前室の左右壁を占める[illegible]宮殿陣営下の[illegible]図・舎衛城の大神変図[illegible]も、それ自身を主題とする[illegible]的な[illegible]を持つ一々の図について詳しく述べるわけにはゆかないが、内壁はすべて説話画で満ちあふれ、[illegible]までに多数の情景で塡められていること、そのためもあって、たいていの場面は上下左右ともに接続されていて[illegible]を呈し、見るもいい印象をひとく与えていること、しかし一々の場面ないし部分をとれば、それぞれに好もしい情趣を示すものが少なくないことなどをまず指摘しておこう。大画面で最も鮮彩としているのは、左壁のウィシュヴァンタラ本生図と右壁のシンハラ物語図とを対比とする。前者は各情景の描写がやや平板的であるが、人物や建物などの内部を、くっている細部の色彩が目にあざやかで、ために表現を固くしませないものを生じているなどの難点がある[illegible](ただし図47の王子と妃とを描いた部分などは強力的だ)。これに対して後者のシンハラ物語図[illegible]のほうは、各場人物が多く情景の枠内を縦横に駆けまわるかにもいわゆる各情景ごとにおいて[illegible]に評してあり、ことに女鬼(羅刹女)の群れの王宮襲撃や、軍兵以下大軍の[illegible]行進[illegible]などは[illegible]ふる動的で生彩に富み、筆力、最も充実している画面といえよう。

また伸張前室の左宮殿陣営下図は、上中下3段にそれぞれ左右を占める大祭、毎夜、[illegible]に行[illegible]で、[illegible]や国王以下の市俗信者などに出会い、人生[illegible]、きっと果[illegible]出[illegible]、[illegible]を[illegible]を与えていて興味深い。なおこの図で注方に[illegible]、また右下方、[illegible]は[illegible]化学的な表面処理の途中であることを示す。表面が処理されてきれいになった好例に、[illegible]図があることについては前にも述べた。[illegible]ウィシュヴァンタラ本生図と[illegible]、[illegible]表現なども両者相通じているが、[illegible]や充実した力のある描写など、彼にまさるとも劣らぬものを示し、彩色[illegible]。そのほか[illegible]、六牙象本生、後廊のスタソーマ本生[illegible]、シュヴー[illegible]本生、両壁右の[illegible]本生[illegible]、説話[illegible]本生[illegible]説話[illegible]、さらに他[illegible]、[illegible]自ら[illegible]図もあり、彩色[illegible]の大作[illegible]で興味尽きないものがある。

[illegible]第1窟の[illegible]ロック的な表現に比べて大きな色[illegible]にもっぱ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、中央両側を占める大きな2作、両者とも、[illegible]に比べて[illegible]、[illegible]、[illegible]、右壁に[illegible]大[illegible]、マハーシャマ本生に比定されている[illegible]、[illegible]、[illegible]を別にして、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

34 [illegible]

図66～68, 巻19 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

3470～72 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

3471,73 [illegible]

3472,74 [illegible]

3471,72,3,17 [illegible]

3492,3416,3426 [illegible]

[illegible]

[illegible]

3480～83,85,86 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

3477 [illegible]

35 第2窟 [illegible]

36 第2窟 [illegible]

第2窟にさて、これらの説話画を並べて描かれた少なからず描かれているところにも特色がある。正面壁や後
124 壁、中央部左右にまとまって、特に、[illegible]に[illegible]大半を占めているが*、左側壁右部や[illegible]
[illegible]の[illegible]は、[illegible]中央部左右[illegible]に比較的保存がよい。もっともこれらはいずれも相当
106, 110, 111 的[illegible]なかに[illegible]保存[illegible]。その中でも[illegible]†は、数の多
いことで[illegible]が、素描的な線[illegible]。このようなほぼ同じ[illegible]を並べ描
く場合、中央アジアや敦煌などでは[illegible]ているが*、ここアンティータでは粗雑な[illegible]
128 [illegible]。[illegible]、ここでは[illegible]。これら[illegible]に寄進者を伴うものが[illegible]こと*から見
ても、[illegible]†として依頼した寄進者[illegible]。
126 [illegible]†[illegible]、同[illegible]。[illegible]、色もおそらく[illegible]
[illegible]。

[illegible]第2窟[illegible]、[illegible]
105, 106 [illegible]ハーリティー(鬼子母)[illegible]。[illegible]、数人の女性を[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
102, 103 [illegible]。[illegible]。[illegible]。[

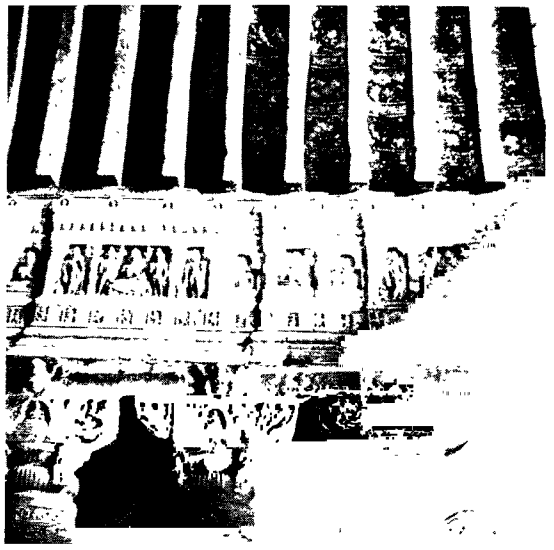
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



37　第26窟の小壁と天井の装飾画

既述第2窟は奥内の図と酷似しており、同時期の制作とすることができる。なおこの窟では身舎の天井にも小さな仏像坐像その他の装飾画があり、前室の天井にも蓮華文様などがあるが、第2窟の天井画と比べてはるかに見劣りがするのは、第19窟の開掘に関連して述べたように、第16、17の2窟に続く比較的早いものであったにしても、壁画がかなりおくれて描かれたことを示すものである（6世紀後半）。第26窟身舎の天井にも動物の装飾画があり、これらの壁画である第19窟および第26窟の内部を彩画で飾るに至ったのは、おそらく、第9、10の2礼拝窟に仏像が新たに描かれたことと関連するものであろう。第1期の両窟を変遷している第10窟と第9窟とに、仏像を主とする第2期壁画やそれに少なからず影響していることについては前にも述べた（27頁参照）。八角形、丸柱の各面に描かれている仏像は、図5、9で見るように菩薩像と坐像とを交え、細長い楕円形の台座を伴うものが多く、類型的な手法であるが、中にはランターラ風の装飾線で特徴づけられるものもあり、菩薩ではないが足下に小さく供養者を配するものなどを描いている。図6はやや様相を異にするもので、坐って説法する仏と盲目の比丘名並びに跪坐する供養者を描く。これらの仏像や供養者などの形態描写はいずれも粗雑な形式化したもので、第17窟や第1窟の作等とはとうてい比べられないが、しかも両窟とも仏絵の側像に菩薩像を伴うものが少なくなく、菩薩像は第2期の作品によってかく描かれたことを示しているのに注意すべく、しかも第2窟の左壁や北壁前室にある菩薩の名を生格をはじめ、ヤラもってよったことがわかる。これに対して第9窟の後壁に描かれている釈迦仏図像は、インドやパキスタンの作品に酷似し、第2窟の正面壁に所用的にある供養者と比べ極めて時代的な並行を示すものである。

一方円筒窟では、既述の4窟を除くと、壁画を有するものはきわめて少ない。ただ第7窟は乾燥損傷のため、第11窟の正面後壁全体にある菩薩坐像の存部に関するかぎり彩色の保存もよく、第1期の作品であることに似た特徴を備えていることを示している。注目されるのは、形式化した彩色手法であるとしても、既述第2窟の作品とは比較にならぬほど後の作品であることである。第6窟の階上階下にある仏像や菩薩像や供養者像などは、おそらく、ずっと後に描かれたものであり、一般的に見て、仏像を主とする第1期の壁画が数多くあるのに対して、第2期の壁画は、第1期のものに比べ、数量的に少ないことなどから、壁画の制作は、第1期に多く、第2期に少なくなったものと思われる。第2期の作品は、第7窟、第22窟、第26窟の3窟のみとなるが、しかし、これら3窟のいずれもが、第1期の作品とは、はるかに下がるものであることは、

38　第10窟　右手第6柱間の　仏立像

4　インド絵画史とアジャンタ

さて、このアジャンタ壁画がインド絵画史上いかなる地位を占めるかについては、もはや語るまでもないように見える。なぜならば上来見てきたように、アジャンタが紀元前後に遡る古画と、インド古典文化の最も高調に達した時期の豊富な壁画とを擁していて、ほとんどインド古代絵画の全体を代表し、ほぼ匹敵するものが2～3の石窟に存しているだけにすぎないからである。もちろんインドでも古くから絵画がおこなわれ、相当の水準に達していたらしいことは、文献の上から窺うことができる。叙事詩や古い仏典などには、王宮の中にある舎(citraśālā, cittāgāra)すなわち画廊が存し、人々が訪れて楽しんだことさえ見えており、[30] おそらく壁画で飾られた建物であったのに相違ない。仏教でいつ頃から彩画をその聖建造物の荘厳に適用するようになったかは明らかでないが、現存する仏教美術で最も古いバールフット Bhārhut の浮彫(前2世紀、シュンガ Śunga 時代)にみるかぎりでは、仏教の堂舎内に仏教的な題材の彩画を施すようになったのは、この浮彫よりおそい頃ではなかったかと見られる。[31] そして当時の絵画の実際は、アジャンタの古画を通して窺い知ることができる。

もっともインドにおける絵画遺品では、ラームガルフ Rāmgarh 丘(マディヤプラデーシュ州東北端)のジョーギーマーラー Jogīmārā 窟壁画が最も古いとされる。古画の上に後世彩色を加えるなどして変化することを拒んでいるが、それでも古代初期の浮彫に見るような、男女や動物樹木また建造物の中にたたずむものとして跡づけられるという。古プラークリット文字の銘がふり、中に女生(神に仕える女)の名と工人のことをしるしてある。銘も壁画も紀元前に遡るものらしいが、孤立的なもので、絵画史的にはあまり重視されない。[32]

これに対してアジャンタの古画は、インドの古代初期美術をリードした仏教、造形的には、その一環として、典型的な仏教聖建造物(祠堂窟)の内部を荘厳するために描かれたもので、ほぼ紀元前後にはじまった初期仏教絵画が、どのような水準にあったかを具体的に示してくれる唯一の貴重な遺品である。これら、古いものとされる第10窟および第9窟に見る初期の壁画は、前にも述べたとおり、やや古い様式を示すものと、これ、ちょっと新しいと思われる第10窟の本尊仏とは、2種に区別され、前者ではサーンチー塔門とほぼ同時代(紀元前後)、後者ではこれよりいくぶんおくれた時代(後1世紀)を見て大過ない。ただ制作におもむくこと遅い初期アジャンタ窟にあっては、これらが同時に行われていたかもしれない。

インドにおいて、紀元後数世纪、笈多時代をおいて、ついに再び興ることなかった、いわばいにしえのアジャンタ、昨日のアジャンタ、第2期の壁画については、前にもふれたように、それが第5窟、第6窟、第7

[illegible]期にわたったものと、そして、特に栄えてゆったのは、第16—17—1—2窟に描かれたと見られる最も重要な4窟の壁画、彫刻された時期は、大体5世紀末頃から6世紀中葉に至る間であったとすることができる。

[illegible]方、南天を支配していたヴァーカータカ王朝は、ハリシェーナ王(約475～500A.D.)——その治世間に第16、17、2窟が開鑿されたことが知られる——を最後として、以後の系譜が全然伝わらなくなり、6世紀の中葉にはマガダ国に取ってかわられたらしい。この王朝はもっぱら石窟の開鑿に熱心であったらしく不明であるが、これに仕えた[illegible]名匠、[illegible]有力者が積極的に造営を推進していることからすれば、前記の4窟を中心とするアジャンタ第2[illegible]の制作・[illegible]は、この王朝の繁栄とほぼ並行し、その衰退とともに、[illegible]後、[illegible]的衰退の中にあったとはいえ、決して偶然ではなかったと思われる。

[illegible]アジャンタ第2[illegible]窟は、インド文化の黄金期グプタ時代の産であるところに、インド全[illegible]

[illegible]ろん、グプタ時代とはいっても、前記したアジャンタの栄えた時期は、政治史的に[illegible]は既に繁栄を誇ったグプタ帝国もすでに解体し始め、政治的な統一が失われつつあった、この帝国の末期である。後グプタ時代に属するが、文化史上では、グプタ王朝の最盛時から醸成されてきたインド古典文化が、文学・哲学・科学・宗教・芸術の各分野において、特に顕著な発展を見せきわめて重要な時期に当たる。仏教彫刻においては、マトゥラーやサールナートが確立したと考えられた技法を受けつぐ、インド的な造形美を成熟させ、やがて[illegible]頃、5世紀に後期グプタ様式が成立した。アジャンタの壁画もまさしくインド古典時代の[illegible]最高水準に位置するものであったことは、ほかに比較される遺品のほとんどない現状で、明白しがたいが、ことに文化の中心地の一つであり、やがて[illegible]にしても、グプタ文化の最も高揚したと見られるこの時期に、大部分が[illegible]されたものであったことからすればアジャンタ壁画の占めるべき全時史上の位置が示唆されたものということができよう。

[illegible]グプタ時代[illegible]、全インドを通じてもっとも[illegible]に値する有名な詩人カーリダーサ Kālidāsa[illegible]マスドゥ[illegible]女子に、[illegible]に関する[illegible]記載が多くみられる。[illegible]の中世[illegible]書[illegible]カーマスートラ *Kāmasūtra*[illegible]、[illegible]ヴィシュヌダルモッタラ *Viṣṇudharmottara*[illegible]に関しても[illegible]書の[illegible]Rasa[illegible]に関する記述[illegible]、グプタ時代[illegible]アジャンタ壁画以外、[illegible]、[illegible]シギリヤ Sigiriya[illegible]を除き、[illegible]バーグ Bāgh[illegible]

ルコラー Pitalkhorā 第3窟の柱などをあげるにすぎないのであり、いずれも貴重な遺構であるが、豊富な壁画を擁するアジャンタとは比べものにならない。

まずバークはマディヤプラデーシュ州の旧グワーリオール Gwalior 藩王国にあり、ヴィンドヤ Vindhya 山脈の南斜面に位置する(北緯22°22′、東経74°48′)。9窟が並ぶが祠堂窟はなく、アジャンタ第1窟などと同じプランになる大きい僧院窟二つ(第2、4窟)がいずれも顕著なもので、ともに奥壁の本尊を仏塔(stūpa)としているが、ほかに類例を見ない。その一つ第4窟と隣りの第5窟(礼堂)との連続する正面玄関後壁に壁画が部分的にある。正面部の列柱や天井は崩壊しており、ために壁画の保存がはなはだ悪い上に、さらに発見以後、来訪者による落書かこれをとこし、図様もあまり明らかでないという。またその細部が失われたかもしれず、模写によって窺うほかはないが、壁画の主部を占めているのは本生話(Jātaka)あるいは譬喩物語(Avadāna)を描いたものらしく、騎馬・騎象の男女のはなやかな行進や、美しい御姫が女性楽団の伴奏で踊る場面などと、いずれも世俗的な情景を描いた大きい構図の部分で、しかしなんの説話を図しているかは明らかにもされない。テンペラ画、それにより、隈取りやハイライトの手法も大体アジャンタと同じであるが、仕上げの高揚はやきつけ、表現が写実的であってもむしろ精神性に乏しいところがあるようで、アジャンタの末期、6世紀後半頃に属するものとされる。窟内の柱の意匠や仏像彫刻も様式的にそれ頃を指すものとみてよい。なおこれら僧院窟が大きいこと(第4窟で27.89×29.87m、アジャンタ最大の第4窟よりも大きい)、奥壁の本尊がアジャンタのように、ただちに仏像でなくて仏塔であり、古来の祠堂形式を残していることなどは、特に指摘するに値しよう。

これとほぼ同時頃と見られるのは、アジャンタの西北西約80kmにあるセタルコラーの第3窟になお一点ある。この窟はアジャンタ第10窟とほぼ同時代の古い祠堂窟であり、第2期に入り角柱、体部に仏・菩薩像を描いた点でも一致する。それら、窟内はいずれも暗い空間に属し、従って、アジャンタ第10窟や第9窟、本尊とは全く画題を異にしており、それらより信仰と落ち、年代的にも下る傾向、特に、これを最後として以後ここに窟内を見ない。

ところで壁画は、仏教、ヒンドゥー教やジャイナ教、在俗信者が寄進したもので、すでに6世紀後半、明らかにグプタ朝時代に、バーダーミ Bādāmi(〜Vātāpi)、第3窟に、菩薩などの彫刻とともにおかれたものとされる。正面部、天井に描かれた壁画は、フレスコ(fresco secco)、テンペラによるものとされ、アジャンタと、基本的には同様であるとされている。それ以後、エローラ Ellora のカイラーサナータ Kailāsanātha に一つあり、これが第8窟以後のものとされ、エローラ、ジャイナ窟である第32〜33窟

2窟に描かれた多数の天井画(9世紀)とかぶり、また南インドでも8世紀から11世紀頃の壁画断片を、ヒンドゥー教およびジャイナ教に属するいくつかの寺院において見ることができるが、これら中世の壁画はいずれもバーダーミに始まるフレスコ画法による系統のものである。

V 結　び

アジャンタの石窟と壁画とに関する大要は、大体以上のとおりである。

要するに、それは人里離れた山間の断崖に開鑿された仏教石窟群である。紀元後2世にわたる合計30ヶ所ほどの窟は、古いもので前1世紀まで遡り、おそいものでも7世紀前半を下らないと見られる。第1期窟と第2期窟とでは形態でも様式でも相違があり、必ずしも一様には論じられないが、いずれも岩山架構の建造物としてのみに成る堂舎を断崖の中に彫成し、且つ建築として、効率美と安定感とをそなえきっている点で、変わりが、西インドに多く散在する仏教石窟群の中でも、各々として、規模の大きさ、各窟の全然として構成、美しさで、抜きんでているということができる。第2期における各部の装飾浮彫やその彫刻、豊富さ・優秀さもまた指摘するに値する。しかもアジャンタの重要性は特にその壁画にある。第1期の壁画は、小乗仏教時代に、また第2期のそれは、インド古典文化の最高潮に達したきわめて重要な作品で、東洋に誇りうる宝庫に存していることで、世界的に大重視される。確かにアジャンタで造成された造形的な美は、その他の仏教寺院においても見られるような聖建造物を岩石の中にみごとに彫成したことにあるが、さらにその内部を彩色で飾ることによって、建築・彫刻・絵画のいわゆる総合体、すなわち、ともかくも一つの統一するものを作り上げたところにある。

しかもそれは王侯や富豪の邸宅でも、大寺院や学校でも、舎宅・講堂でもなく、一般の人々が礼拝するための本尊としてまつる堂舎と、専門に教学を研究する僧侶、住まう僧院とをそなえた、教団施設であった。聖建造物であるがゆえに、岩石を掘り開き、もっぱら彫刻によるとしても、その永続不朽を念願としていたが、また仏教説話中の場面に壁画を描き、もしくは神聖なる高貴な人々をここに招入することによって、ここに住む僧たち自身、勇みやすく者に役立てるとともに、なお隠遁している在俗の者、教化されようとしている人々をいうち第1期では仏塔をまつる礼拝堂に主力を致し、内部を説話に移したが、第2期に特色ある、僧院が、主面目であるのは、時代の推移によるものであろう。仏教の生命・理念に対応するものであったことを示している。それは、本尊であるかの部分を教団にとって、造形表現の中心に尊重されたのであり、仏の安定感を表現しようとしたものであると指摘した。

これに対して第2期窟、仏を中心とする教団の、仏を本尊とする礼拝堂と、僧院窟と、壁画による内部装飾とで、[illegible]第7窟[illegible]第16、17窟[illegible]以下多く、石窟の仏の彫刻[illegible]

[illegible]として崇拝される者たちの仏教信仰、すなわち小乗的な仏教の思想体系に属していたことはまちがいない。詳しいことは述べるゆとりはないが、インドで、漢訳された大乗経典などを通して想像するほどに大乗が普通していたかどうかは、遺跡や作品からみるかぎり、大乗の証跡がきわめて少ないことに注意したい。なお第2部第[illegible]章に、内外に仏像を多数彫刻した中、壁一杯のなかに仏像を並べ描いているなども、大小天の別を見たり、[illegible]として造られては[illegible]もので、もっとも注意すべきは[illegible]が[illegible]する[illegible]であったことが、一部に随伴する[illegible]が窺われる。おそらく、これらの、多力な寺主がおこなった伽藍、造像事業に参加した[illegible]を及ぼしたものであるものが[illegible]ことに、[illegible]比丘[illegible]の僧侶が多いのを示すものとみてよいであろう。

[illegible]にしてもアショーカ王の第2摩崖、特に呼[illegible]の四十人僧院跡や、[illegible]彫刻の[illegible]に施されている[illegible]ことき、[illegible]であるのに[illegible]化することが[illegible]にしても、何かの[illegible]にしても大きな[illegible]僧院として、[illegible]に[illegible]されなければならない。[illegible]来訪して来る[illegible]の[illegible]を予定し、その人たちを[illegible]教化し、[illegible]であろう。[illegible]このような[illegible]の[illegible]に、[illegible]位を迎えていたかどうかは、その[illegible]多数の人々が来[illegible]ことが[illegible]もられたとも思えない。それとも[illegible]なものを迎えることにより、[illegible]の[illegible]の大きいことが[illegible]、[illegible]この[illegible]院を人々[illegible]、[illegible]、[illegible]、インドに多数[illegible]仏教信[illegible]院、中でも[illegible]、[illegible]、[illegible]、アジャンタ[illegible]、[illegible]で放棄されたとも、実際の生[illegible]数[illegible]に[illegible]

註　記

I 序　説

(1) 二世紀の Ajanṭā の[illegible]その[illegible]は、[illegible]であるらしいが[illegible]。M. N. Deshpande は、[illegible] *Mahāmayūrī*(マハーマユーリー)に[illegible]る Ajitañjaya [illegible] Ajantā に[illegible]る(Ajitañjaya-sthāna, Ajantā)[illegible]るが、はたしてどうか。——A. Ghosh, Ajanta Murals, p. 15, note 3.

II 沿　革

(2) [illegible]については、*Dīpavaṃsa*, VIII; *Mahāvaṃsa*, XII; *Samantapāsādikā*, I, p. 63 f., [illegible] 23, p. 684 f.)[illegible]。なお、E. Lamotte, Histoire du Bouddhisme Indien, Louvain, 1958, p. 320 f. [illegible]

(3) [illegible] 10 [illegible]は、"Vāsiṭhiputasa Katahādino gharamukha-dānam." とあって(「[illegible]」)、[illegible](gharamukha)を Vāsiṭhī [illegible] Katahādi [illegible]ようだけである。[illegible] 12 [illegible] (uvavaraka) と区[illegible](upāsaya) とを[illegible](vihāraka)[illegible]、Ghanāmadada [illegible](vaṇija)[illegible]([illegible])[illegible]——Lüders List 1197, 1198, [illegible] 1, 2.

(4) [illegible]には、[illegible]、Nāsik(Lüders 1122~1126, 1144, 1146, 1147, [illegible] 724, 732~736, 745)、Kārlā(Lüders 1100, 1106, [illegible] 515, 521)、Kanheri (Lüders 987, 994, 1024, [illegible] 464, 467, 485) [illegible]

(5) Burgess(Fergusson-Burgess, Cave Temples, p. 293)[illegible] 10 [illegible] "Vāsiṭhiputa Katahādi" [illegible]、Nāsik [illegible] Vāsiṭhīputa Siri-Pulumāyi [illegible] 2 [illegible] 10 [illegible] (32)[illegible]

なお、[illegible] Deshpande in Ajanta Murals, p. 14)、[illegible]

(6) [illegible]については、V. V. Mirashi, Inscriptions of the Vākāṭakas, (Corpus Inscriptionum Indicarum, Vol. Ootacamund 1963, p. 103~111. [illegible]

(7) Mirashi, [illegible], p. 112~119. [illegible]

(8) Mirashi, [illegible], p. 120~129. [illegible]

(9) [illegible]については、A. S. Altekar, The hist. of the Vākāṭakas (in the Early Hist. of the Deccan, ed. by G. Yazdani, Oxford, 1960, Pt. III, p. 149~200) [illegible] V. V. Mirashi, [illegible], Introduction, p. i~xxxiii. [illegible]

(10) [illegible]については、B. Ch. Chhabra, The revised inscriptions of Caves XX~XXVI, (G. Yazdani, Ajanta, IV, Appendix, p. 114~120) [illegible]

(11) [illegible] 10, なお T. Watters, On Yuan Chwang's Travel in India, London, 1905, Vol. II, p. 239~241. [illegible]

(12) [illegible]は、Ācāra [illegible]

(13) B. Ch. Chhabra, [illegible] (Ajanta, IV, Appendix, p. 121~124). [illegible] 1946 [illegible]

(14) [illegible]については、William Erskine, Observations on the remains of the Buddhists in India, (Trans. Literary Soc. of Bombay, III, London, 1823, p. 520), Fergusson-Burgess, Cave Temples, p. 281, Griffiths, Paintings, p. 2; Singh, Ajanta, p. 7, Ghosh, Ajanta Murals, p. 2. なお[illegible] 10 [illegible] 1819 [illegible] (Ghosh, p. 2, note 2).

(15) Singh, p. 7~8 [illegible] 16 [illegible] (490) [illegible]

(16) Gill, Griffiths, Herringham [illegible]については、Griffiths, Herringham (India Society), Ghosh [illegible]

(17) [illegible] 329, [illegible] 6 (1917), [illegible] 336, [illegible] 7 (1918), [illegible] 341, [illegible] 342, [illegible] 1 [illegible] 345, [illegible] 8 (1919), [illegible] 2 [illegible] 347, [illegible] 355, [illegible] 9 [illegible] 366, [illegible] 9 (1920), [illegible] 10 [illegible] 374, [illegible] 10 (1921), [illegible] 1 [illegible]

(18) [illegible] 7 [illegible] 1~3, [illegible]

(19) [illegible] 15 [illegible] 1 [illegible] 17 [illegible]

(20) [illegible] Lalit Kala Academi, UNESCO Mentor & Fortnightly UNESCO [illegible]

(21) Singh [illegible]

えばイ[illegible]なともてるのであり、あえておいてここにとどめておく。

(22) Yazdani, Ajanta, I, Preface, A. Ghosh, Ajanta Murals, p. 56, note 1.

(23) Dr. B. B. Lal in Ajanta Murals, p. 56～57.

(24) ハイデラバード氏のアジャンタ[illegible]については, Yazdani, in Ann. Bibl. Ind. Archaeol., VII, 1932, Introduction; ——do., in J. Cumming, Revealing India's Past, London, 1939, p. 254～255. なお[illegible].

(25) Indian Archaeology — a Review, 1955～54. [illegible]この年[illegible]。

(26) Dr. B. B. Lal, op. cit., p. 57～59.

III 石窟

(27) [illegible]については, Fergusson-Burgess, The Cave Temples of India, London, 1880; ——do., Hist. of Indian and Eastern Architecture, Vol. I, London, 1910; P. Brown, Indian Architecture, Buddhist and Hindu Period, 5th ed., Bombay, 1965; [illegible] (1928), [illegible] 41, [illegible] 34 (1959), p.1～34, [illegible] 44), p. 89 f. [illegible]

(28) Indian Archaeology — a Review, 1955～56, p. 72. この[illegible]は上[illegible]の大きさ[illegible]3.65m [illegible]。

(29) [illegible] 1 [illegible]については, [illegible] 6, [illegible] 25, p. 89) [illegible]

(30) P. Brown は Bhājā, Kondāne, Pitalkhorā, Ajantā X を [illegible], Bedsā, Ajantā IX, Nāsik XVIII, Kārlā [illegible] 1 [illegible]とし, [illegible] Bhājā を 150 [illegible], Kārlā を 50 [illegible]とし[illegible] (Indian Architecture, Buddhist and Hindu Period, Bombay, 1965, p. 21～22, pl. XXV). Pitalkhorā III [illegible]は, Deshpande [illegible] (Ancient India, 15, 1959, p. 70～82.

(31) [illegible] 10 [illegible], [illegible] 5 [illegible] 2 [illegible] (Yazdani, III, p. 1, D. Mitra, Ajanta, p. 31, Deshpande in Ajanta Murals, p. 18). [illegible]は Bhājā [illegible] Brāhmī [illegible] (Pitalkhorā [illegible] A. H. Dani [illegible] 10, 12 [illegible] 1 [illegible] (Indian Paleography, Oxford, 1963, p. 66～68).

なお, [illegible] 10[illegible]の[illegible]に[illegible] Brāhmī 文字の[illegible]の[illegible]がある (Lüders List 1199). Yazdani (III, p. 1, n. 1) によれば, Lüders はこれを [illegible]まで[illegible]で字とした由である。しかし, Yazdani や N. P. Chakravarti (in Yazdani, III, App., p. 91) は[illegible]に Lüders の[illegible]にしたがって, その[illegible]とし[illegible]作[illegible]。そのものの[illegible]については[illegible]。なお[illegible] (74)[illegible]。

(32) Walter Spink, On the development of early Buddhist art in India, (The Art Bulletin, 1958, p. 95～104). これは彼の[illegible]位[illegible] (Rock-cut Monuments of the Andhra Period: their Style and Chronology, Harvard Univ., 1954, ——未刊) の要旨を公表したもの。[illegible]の[illegible]は, [illegible]インドにおけるアンドラ王[illegible]とのつながりをも[illegible]している。なお H. Zimmer, The Art of Indian Asia, 2 vols., New York, 1955. の[illegible]における年代は, その[illegible]によったものである。

(33) [illegible]では, 10[illegible]とされたが, これはおもにの上, 10[illegible]の[illegible]に[illegible]で, [illegible]である。[illegible] (5) [illegible] Spink [illegible]では [illegible]50～[illegible]50年[illegible] (Zimmer, pl. 162).

(34) [illegible] 12[illegible]の[illegible]の大きさは 11.05m [illegible]そのプラン および セクション は Fergusson Burgess, Cave Temples, pl. XXVII. に出た[illegible]。

(35) [illegible] (3) [illegible] Chakravarti (Yazdani, III, App., p. 85～86) は [illegible] 10[illegible]は[illegible]やや[illegible]としている[illegible]には[illegible]しかないようである (Dani, op. cit.).

(36) [illegible] 13 [illegible]は [illegible] 4.11, [illegible] 5.03, [illegible] 52.13m.

(37) [illegible]は [illegible] 13.34, [illegible] 5.64m なお[illegible]は, この[illegible]の[illegible] 25 [illegible]に[illegible]の[illegible]とが[illegible]されている[illegible]。[illegible] Yazdani, IV, p. 16～17. [illegible]

(38) [illegible]は[illegible]の Indian Archaeology — a Review, 1957～58, p. 56. [illegible]は[illegible]。

(39) [illegible] 10[illegible]は[illegible]。Gadh [illegible] Chhabra (Yazdani, IV, App. p. 113～114). これは年代は 450～525 A.D. [illegible]。

(40) [illegible] 1 [illegible]は中[illegible] 2 [illegible] 34 [illegible]。[illegible]。これについて, Fergusson Burgess [illegible] 11, 14, 15 [illegible] 16～20 [illegible] 7, 6, [illegible] 21～26 [illegible] 1～5 [illegible]。また Brown は, 11, 7, 6 [illegible] 15～20, [illegible] 21～26, [illegible] 1

～5, [illegible]に未だの27～29の[illegible]を[illegible]している。——Fergusson-Burgess, History of Indian & Eastern Architecture, London, 1910, Vol. I, p. 189; Percy Brown, Indian Architecture, Buddhist and Hindu Period, p. 57. 参[illegible]。

(41) アジャンタの窟院については, Burgess, Report on the Buddhist Cave Temples, ASWI, IV, London, 1883; [illegible]「アジャンター石窟寺における[illegible]」(同, 第351, 352, 355, 360, 361, 巻8～9頁), [illegible]「アジャンターの[illegible]」[illegible]巻377, 378, 383～385, 393～396, [illegible]410～412頁; ——[illegible]昭和7年[illegible]), [illegible]アジャンタの[illegible]昭和33年(私[illegible])など参[illegible]。

(42) 柱等を飾った壁面に[illegible]が[illegible]していることは[illegible]9, 10[illegible]の[illegible]に行われたが, [illegible]5～6, [illegible]2[illegible]柱[illegible]110～111および287[illegible]), [illegible]とされる。[illegible]については[illegible]。

IV 壁　画

(43) Griffiths および Yazdani の[illegible]には, [illegible]Gは Griffiths の[illegible], Yは Yazdani の[illegible]Gの[illegible]

[illegible]1 (G4, G93', Y12), 2 (G20, G116, Y4), 6 (G135, Y4), 9 (G36, G136', Y12), 10 (G40, Y22), 16 (G44, Y14), 17 (G53, G139', Y4), 19 (G150), 22 (G90)

(44) [illegible]10[illegible]については, [illegible] S. Ahmad [illegible]は A. Ghosh, Ajanta Murals, [illegible]

(45) [illegible]31, Yazdani, pl. XV, a)と, Griffiths [illegible], Griffiths, I, p. 31; Yazdani, III, p. 15.

(46) [illegible]9[illegible]Yazdani, pls. XVIII, a～b), Foucher [illegible] Foucher, Lettre d'Ajanta, JA, 1921, p. 225[illegible]

(47) [illegible] Nāsik の Kudā [illegible] Amarāvatī [illegible]

(48) [illegible] "Vaiśvantarah" [illegible] "Indrah [illegible] "Yu[ja]kah" [illegible] Jūjaka) [illegible]——[illegible], N. P. Chakravarti, A note on the painted inscriptions in Caves VI～XVII, (Yazdani, III, Appendix, p. 96, pl. VIII, d, e

(49) この[illegible]は, 27×37cm. General James Edwin Wilhams [illegible]で, 19[illegible]に[illegible]として[illegible], 1921年[illegible]Sotheby [illegible]で, [illegible]に[illegible]された。A. K. Coomaraswamy, A fragment of fresco from Ajanta, (Museum of Fine Arts, Boston, Bulletin, XX, 1922, p. 70～72[illegible]。

(50) Yazdani, IV, pls. XLII～XLIII. なお[illegible]。

(51) [illegible]は2[illegible]1[illegible]76, 79)[illegible]を[illegible]とし, [illegible]Yazdani, IV, pl. LXVII, e [illegible]425), [illegible]"Śiva-rājā" [illegible]——[illegible], Chakravarti, op. cit., p. 96, pl. IX, b. なお[illegible]63)を[illegible]。

(52) [illegible]1[illegible]Sāsān [illegible]。これは Mathurā [illegible]67, [illegible]22).

(53) Griffiths [illegible]2[illegible]1[illegible]

(54) [illegible] H. Lüders, Ārya Śūra's Jātakamālā and the frescoes of Ajantā, Nachr. Königl. Gesellschaft d. Wiss. zu Göttingen, 1902, translated, Ind. Ant., 1903, p. 326～329), John Allan, A Note on the inscriptions of Cave II, (Yazdani, II, Appendix, p. 58～60), [illegible]

(55) Yazdani, II, pls. XV～XVI [illegible], Griffiths, pl. 64, Herringham, pls. XXV, XXXIII [illegible]

(56) J. Allan, op. cit., (Yazdani, II, Appendix), p. 64, No. 9, fig. 6 [illegible]——op. cit., p. 66, No. 8, fig. 5

(57) Allan, op. cit., p. 64, No. 11, fig. 8. [illegible]

(58) N. P. Chakravarti, op. cit., Yazdani, IV, Appendix, p. 111～112, fig. 1 [illegible] Krakucchanda [illegible] śirīsah, udumbarah, nyagrodhah [illegible]

[illegible]

(59) [illegible] (1941 [illegible]

(60) J. Burgess, Notes on the Bauddha Rock temples of Ajantā, (ASWI, No. 9), Bombay, 1879, S. F. Oldenburg, Notes on Buddhist art, (translated, JAOS, XVIII, 1897, p. 195~196), [illegible]

(61) A. Foucher, Les représentations de Jātaka dans l'art bouddhique, (Mém. conc. l'Asie Orientale, III, 1919, p. 1~52), Lettre d'Ajantā, (J.A. 1921, p. 201~212), Preliminary report on the interpretation of the paintings and sculptures of Ajantā, (J. Hyderabad Arch. Soc. for 1919~20, publ., 1921, p. 50~111) [illegible] Yazdani [illegible]

(62) [illegible] 20~2, 1956), p. 179~189) [illegible]

(63) [illegible] p. 151~152 [illegible] A [illegible] B [illegible] (A [illegible] Gandhāra, Mathurā, Amarāvatī [illegible] B [illegible] 51

(64) Yazdani [illegible] 46 [illegible] 10 [illegible] pl. XXXIV [illegible] XLIX [illegible]

(65) [illegible] Yazdani [illegible] I, text, III, p. 74), Deshpande [illegible] Ghosh, p. 46~47 & pls. LVII~LVIII, explanation)

(66) [illegible]

(67) [illegible] *Jātakamālā* [illegible] Harsacarita and Śīlāditya, [illegible] 606~648) [illegible] *Jātakamālā* [illegible] *Jātakamālā* [illegible]

Āryaśūra [illegible] 4世紀 [illegible] (M. Winternitz, [illegible] 1923), p. 278). [illegible] (Candragomin) [illegible] (Viśvantara) [illegible] [illegible]

(68) J. Griffiths, Paintings, p. 18 [illegible] chunam) [illegible] Ajanta [illegible]

(69) A. K. Coomaraswamy, Museum of Fine Arts Boston, Bull. 1922, p. 72, ——do., Hist. of Indian and Indonesian Art, London–New York, 1927, p. 89; V. Goloubew, Documents pour servir à l'étude d'Ajanta, Paris–Bruxelles, 1927, p. 11; Yazdani, I, p. 2, [illegible]

(70) Sir John Marshall in the India Soc., (ed.), The Pagh Caves, London, 1927, p. 16

(71) Dr. B. B. Lal, The murals: their composition and technique, in Ghosh, Ajanta Murals, p. 53~55. [illegible] D. Barrett and B. Gray, Painting of India, Skira, 1963, p. 26, [illegible]

(72) Yazdani in Hist. of the Deccan, I, Pt. VIII, Fine Arts, Oxford, 1952, p. 48.

(73) V. A. Smith, Hist. of Fine Art in India & Ceylon, Oxford, 1911, p. 98, Herringham in the India Soc., Ajanta Frescoes

(74) [illegible] Yazdani, III, p. 1, n. 1,—do., Hist. of the Deccan, I, Pt. VIII, p. 48. [illegible] Yazdani [illegible] Lüders [illegible] (31)

(75) D. Barrett (Painting of India, p. 24) [illegible] Amarāvatī [illegible]

(76) [illegible] 156, 1959), p. 1~15) [illegible]

(77) [illegible] (56~57)

(78) [illegible] 9 [illegible] (Nos. 2~7, 9~11, [illegible] 10 [illegible] 18 Nos. 3~12, 14~21) [illegible] Chaitavartti, in Yazdani, III, App., p. 88~94.

(79) Yazdani, Text, III, pls. XV.b, XVII.a~b [illegible] 9 [illegible], Yazdani, II, pls. V, IX [illegible] 2 [illegible]

(80) *Vinaya*, IV, p. 298 [illegible] Kosala [illegible] Pasenadi (Prasenajit) [illegible] (uttāgāra) [illegible]

に対して反対する「であった」ことを示している（[illegible]2, p.482～483）。また *Jātaka* VI, p. 132(No. 546, Mahā-ummagga) には，大地震を打ち，その[illegible]に絵師(cittakāra)がいるというのを[illegible]たことがある（[illegible]89, p. 172）。そのほかにも[illegible]ことが(*SN*, II, p. 101; III, p. 152)や，[illegible]を[illegible]すること（*Vin*. II, p. 151）なども[illegible]される。

そのほかシャイヤ[illegible]の[illegible]でも[illegible]今(citraśālā)のことを伝え(H. Zimmer, p. 384)，また *Rāmāyaṇa* にも Rāvana の[illegible]に絵を[illegible]していたことが[illegible]（E. B. Havell, Ind. Sculpture and Painting, p. 157）。

(81) Bhārhut では[illegible]，[illegible]，[illegible]，[illegible]ることができる（[illegible] III-4, 1941, p. 412）。[illegible] Bhārhut の[illegible]，[illegible]，[illegible]，

〔附載〕アジャンタ壁画の材質

アジャンタ壁画がどんな材料で描かれたのかは従来よくわからなかった。壁画を調査した人は多く、また模写に従事した人の中には日本人もあったが、下地・絵具などについての適確な記載はほとんどないといってもよかった。[1] 近時インド政府の編集した報告書が出版され、その中にやや詳細な記載[2][3]があるので、それをもとにして以下に説明を試みることとする。

1) 壁体と下地

壁画が描かれている洞窟自体は玄武岩をくりぬいたもので、壁の表面は凹凸があり、平滑でない。その上に絵を描くための下地として泥土が塗られており、それには精・粗の2層がある。粗粒からなる下層の厚さは洞窟ごとに、また岩壁の状況により異なるが、細粒の上層は2～3mm の厚さを有する。泥土の成分は、

二酸化珪素……約60%

酸化鉄および酸化アルミニウム……約27%

酸化カルシウムおよび酸化マグネシウム……2～3%

水分および有機物……10～12%

であって、鉄分の多い土に砂および植物繊維を砕[4]として加えたものである。この細粒の上層の表面に石灰を薄く塗ったのち、壁画が描かれている。

2) 顔　料

顔料のおもなものは、赤・黄・青・緑・黒および白の各色と、それらの配合であって、黒色を除き、すべて鉱物質のものである。すなわち、

赤　　不純な酸化鉄

黄　　黄土

青　　ラピスラズリ lapis lazuli(群青)

緑　　緑土

白　　白土・石灰・石膏

黒　　煤(炭素)

であるが、以上のうちでアジャンタ附近には産出しないラピスラズリを除き、ほぼすべて現地附近で採取された

ものである。鉄分の多い土を用いた赤・黄色については説明を要しないが、緑色の緑土(terre verte)について若干の説明を加えると、これは鉱物学的には海緑石(glauconite)と呼ばれる鉄を含んだ緑色の粘土状のもので、珪酸塩の1種であり、玄武岩の風化によって生じたものである。

ラピスラズリはアフガニスタンのバダフシャン Badakhshan が有名な産地で、おそらく同地から輸入されたものであろう。やや赤紫色を帯びておさやかな青色の鉱物である。現在では人工的に同一成分のものが合成されて使用されているが、緑土とラピスラズリ(群青)とは中国本土および日本の壁画には用いられていない。

白色としては3種のもの、白土・石灰・石膏がおかれているが、これら時代あるいは洞窟によって使い分けられているのか、否かは原文に記載がない。

興味があるのは、中国および日本の壁画に多く用いられている石緑青・石群青などの鉱物、辰砂などの水銀鉱物、また鉛丹などの人造品が存在しないことである。

顔料の接着剤としては動物質の膠が用いられたと記載されており、化学的に検出されたようである。

原文の記載は一般的で、個々の洞窟あるいは一つにについては全く触れていない。

3) 技　法

1)および2)で述べたような下地に顔料で線もしくは文様が描かれているが、その技法はいわゆるテンペラ系統のものであって、イタリアなどのフレスコ、すなわち、いわゆるフレスコは石灰下地を塗った直後、まだ乾燥しないうちに描くもので、顔料が下地の中に浸入しているのが特徴である。アジャンタ壁画の下地が混ぜ合わされ、顔料の層は全く表面にのみ存在します、厚さ約0.1 mm である。また膠が接着剤として用いられており、技法は明らかにテンペラに属するものである。

4) 考　察

以上1)・2)および3)にアジャンタ壁画の技法および材質について報告書をもとにして記述したが、前述のように、全般的なことであって、細部については不明である。また年代による変化についても記載がない。筆者自身は現地の壁画を見たことがないので、細部のことは分からない。ただ、ニューデリー国立ミュージアムや博物館で数点の壁画について、これを見たが、まだこの保存のことはエスキスしかされておらず、顔料などについても前述の2)以上のことを知ることは不可能である。

[illegible]後に壁画の保存については、長年月の間における壁画の損傷・剥落に加えて、鳥類・コウモリ等による汚損、19世紀における焚火の煤やワニス塗布による被害などによって憂慮すべき状態にあるものとみられる。第2次大戦後、1953年以後各種の合成樹脂による保存法が検討され、一部実施されている様子であるが、具体的な効果については十分記載されていない。

技術的にもなお多くの課題があるものと推察される。

1 [illegible] 212 [illegible] 35 [illegible] R. B. Kahn, Journ. Oil and Colour Chemists' Association, London, Vol. 32, p. 24 (1949), Abstracts of Technical Studies in Art and Archaeology 1943~52, No. 1038 [illegible]

2 AJANTA MURALS. Edited by A. Ghosh, Archaeological Survey of India, New Delhi, 1967.

3 [illegible], Dr. B. B. Lal, Murals, Their composition and technique, p. 53~55.

4 [illegible] 21-1286 [illegible] 35cm [illegible] Conversion of Nanda, Ajanta XVI, 6th Century [illegible]

5 [illegible], B. B. Lal, Murals, Their preservation, p. 56~59.

(出崎 一郎)

図版解説

1 [illegible]

[illegible]

2,3 図10 [illegible]

[illegible] Katahādi [illegible]
16 [illegible]

4 8～10 [illegible]

[illegible]

5,6 図10 [illegible]

[illegible]

7,8 図10 [illegible]

[illegible] stūpa [illegible]

[illegible]，彫像は[illegible]であるが，[illegible]で[illegible]なお[illegible]にあるようにはたらき，[illegible]ターンキーパーの[illegible]と[illegible]両後する[illegible]に置いてきてあるが，[illegible]としての有効性になる2[illegible]図(図17,32)は，[illegible]ここには[illegible]やや[illegible]したものとみてある（26，56〜57頁参照）

9, 10, 11　第9[illegible]の[illegible]と[illegible]面

[illegible]として[illegible]であるが，[illegible]に[illegible]をしてきたチャ[illegible]，[illegible]，[illegible]には[illegible]ほとんど[illegible]のきかが見られない[illegible]ているなど，第10[illegible]は[illegible]を[illegible]に[illegible]，[illegible]に[illegible]と見たい。[illegible]には[illegible]や[illegible]に[illegible]の[illegible]を[illegible]し，[illegible]にも[illegible]を[illegible]している。これらは[illegible]であるが，[illegible]にある[illegible]中(図4,11)や，[illegible]の[illegible]に[illegible]の[illegible]9[illegible]は[illegible]第2[illegible]の作で，後者には[illegible]を[illegible]もの[illegible]ある。[illegible]も第10[illegible]の[illegible]である

12　第12[illegible]

第1[illegible]の[illegible]は[illegible]も大きく[illegible]もの[illegible]であり，[illegible]の[illegible]は[illegible]である。[illegible]の大きさ11.05m[illegible]，[illegible]。この[illegible]に合わせて12[illegible]の[illegible]に[illegible]する。その人目の[illegible]には[illegible]や[illegible]の[illegible]を[illegible]している。[illegible]は[illegible]に[illegible]を[illegible]。[illegible]の[illegible]である。[illegible]は[illegible]，[illegible]Ghanāmadada[illegible]。図7，17[illegible]6[illegible]

13, 14　第16[illegible]

[illegible]第2[illegible]は[illegible]と見られるが，[illegible]，[illegible]，5[illegible]第4，4[illegible]に[illegible]。13[illegible]，[illegible]に[illegible]，[illegible]，[illegible]，[illegible]，[illegible]14[illegible]，[illegible]4.12m，[illegible]。[illegible]2[illegible]1[illegible]，[illegible]，[illegible]，[illegible]20，23[illegible]

15, 16, 17　第16[illegible]の[illegible]

前[illegible]の天井には図15で見るように[illegible]の[illegible]の形を[illegible]し，[illegible]に[illegible]，[illegible]やや女[illegible]の[illegible]または[illegible]を，いずれも下から見上げた形で[illegible]している。天井にあるにもかかわらず，[illegible]もすべてにモデリングが成り，特に[illegible]の[illegible]姿態表現が注目される。図16〜17はそのうちの2種の飛天一対で，片足を屈し片足を伸ばして飛翔する形の男性神と，これに寄り添って両足をその[illegible]の上に載せたり，肩に手を置いてしなだれ掛かったりする婀娜の女性神を配している。このようなカップルはクプタ時代から一般化した一種のミトゥナ形式で，アジャンタでも入口の装飾浮彫(図127〜128)や天井画(図43,121,図19〜20)にもしばしば見え，そこでは[illegible]的な表現に成るが，本[illegible]の彫刻ではまったくそれが強調されておらず，彫法もすぐれていて，全体に[illegible]な[illegible]に富み，挿12〜13に示したような童児形ヤクシャや，長槍を手に，可憐なキンナラ(半人半鳥)の[illegible]もある。24頁参照。

18　第16[illegible]の[illegible]　飛天

第16[illegible]の左[illegible]に掛けられた[illegible]の大きな[illegible]図（ほとんど[illegible]している）の中で，その[illegible]を[illegible]する飛天が2[illegible]だけ[illegible]している。女性[illegible]が少なくなく[illegible]も[illegible]しているが，右図の飛天では[illegible]の[illegible]を[illegible]の髪を[illegible]するように描いているほか，太く[illegible]の[illegible]を[illegible]して[illegible]をくくっている[illegible]のある描写が目[illegible]。図4の[illegible]天も[illegible]の[illegible]になり，両者とも[illegible]の[illegible]に大きな[illegible]に[illegible]している。これらに[illegible]した[illegible]にあるキンナラ出[illegible]物語の[illegible]図(図19〜20)や右[illegible]の[illegible]に見られるように，[illegible]で[illegible]品に富んだ，すぐれた[illegible]のものとは[illegible]を[illegible]にする。[illegible]，[illegible]のほかの[illegible]は，[illegible]とともに，やや[illegible]で描[illegible]にもっと見るべきものがある（58頁参照）

19, 20　第16[illegible]キンナラ[illegible]

[illegible]，[illegible]，[illegible]，[illegible]，

化した者と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

25, 26 [illegible] 17 [illegible]

[illegible] 30, 58 [illegible]

27 [illegible] View point [illegible] 3 ~ 4 [illegible]

28 [illegible]

29 [illegible] 17 [illegible] 47, 48, 30 [illegible]

30, 31, 32 [illegible] 17 [illegible] 2.66m. [illegible] 2 [illegible] chauri [illegible] 23 [illegible]

33 [illegible] 17 [illegible] 32 [illegible] Rāhula [illegible]

34 [illegible]17 [illegible]

35, 36, 37, 38 [illegible]17 [illegible]

Māyā [illegible] 36 [illegible] 11 [illegible]

Sāṅkāsya [illegible] 8 [illegible] 3 [illegible] 32, 59 [illegible]

39 [illegible]17 [illegible]

Śrāvastī [illegible]

Kośala [illegible] Jetavana [illegible] 1, 2, 6 [illegible] 91 [illegible]17 [illegible] *Divyāvadāna*, XII, p. 161～162 [illegible] XXVI, *Jātaka*, I, p 88, IV, p 265 [illegible] 32 [illegible]

40, 41, 42, 43 [illegible]17 [illegible]

41～42 [illegible]

43 [illegible] 1 [illegible] 53, 63 [illegible]

44　第17[illegible]

[illegible]20[illegible]2[illegible]

45　第17[illegible]

[illegible]

46　第17[illegible]

[illegible]

[illegible]

47, 48　第17[illegible]

[illegible]

[illegible]場合にかぎって約30の情景を出してあり，まことに，[illegible]で，一見したところでは四角に欠けるところがあるが，[illegible]においては，品を変えたシーンが[illegible]あるとみてよいであろう。図47さながらの[illegible]，[illegible]，[illegible]，

Jātaka Valāhassa

30

11

4

2 3

51

32, 59

53 17

54 17

Śibi

33, 25

55, 56, 60, 61 1

1 16, 17, 2 6

2

3 2

56

kirtimukha

20, 21–25

57, 58 1

2 17

16, 17

[illegible]

[illegible] 4.04m. [illegible] 17 [illegible] 2 [illegible] 23 [illegible]

62 [illegible] 1 [illegible]

16, 17 [illegible] makara [illegible] 1 [illegible] 1.7~1.8 [illegible]

63, 64, 65 1 [illegible] 1 [illegible] 17 [illegible] 64 [illegible] 2 [illegible] 63 [illegible] kirrmakk [illegible] 64 [illegible] 65 [illegible] Atlantes [illegible] 2 [illegible] 59 [illegible] 2 [illegible] 69~70

66, 67, 68 1 [illegible] 1 [illegible] 19~20 [illegible] 2 [illegible] 21 [illegible] 2 [illegible] 2 [illegible] 1 [illegible] 97 [illegible] 2 [illegible] 2 [illegible] Kubera [illegible] 75 [illegible]

[illegible]（36，63頁）

69，70　第1[illegible]

[illegible]，84，88～89，[illegible]71，73頁）。[illegible]2[illegible]

71，73　第1[illegible]（[illegible]1）

[illegible]70[illegible]1.765m[illegible]，右手に[illegible]

[illegible]1.36m，[illegible]

[illegible]Potalaka[illegible]35，60頁）

72，74　第1[illegible]（[illegible]2）

[illegible]，630[illegible]

[illegible]35，60頁）

75　第1[illegible]

[illegible]67，22[illegible]2[illegible]

[illegible]

76, 79 [illegible] 1 [illegible]

[illegible] 2 [illegible] *Jātaka* [illegible] 17 [illegible] 54 [illegible] *Mahābhārata* [illegible] *Jātaka* [illegible] 2～3 [illegible]

76. [illegible]

79. [illegible]

75. [illegible] 1 [illegible] 34, 61 [illegible]

77 [illegible] 1 [illegible]

78 [illegible] 1 [illegible] 81 [illegible] *Jātaka* [illegible] Magadha [illegible] 1 [illegible]

80, 81, 82, 83, 85, 86 1

Videha

Mithilā

Sīvali

4 pussaratha,

81

81

86

82

85

86

34, 60

84 1

69~70

88~89

18

1 *Jātaka*

18

16 35

87 1

[illegible]

89. 1 [illegible]

[illegible] 69 [illegible] 84 [illegible]

[illegible] 3 [illegible]

[illegible] 4 [illegible] 2 [illegible] 1 [illegible] Makhādeva [illegible] 35 [illegible]

90, 94 [illegible] 1 [illegible]

[illegible] 94 [illegible] Sumanā [illegible] 94 [illegible]

[illegible] 91 [illegible] 90 [illegible] 2 [illegible] 91 [illegible] 35 [illegible]

91, 95 [illegible] 1 [illegible] 91 [illegible]

[illegible] 36, 61 [illegible]

95. [illegible]

92 1 [illegible]

[illegible] Māra [illegible]

[illegible] 35, 60 [illegible]

93 1 [illegible]

Śrāvasti [illegible] 39. [illegible] 17 [illegible]

17 [illegible]

96 2 [illegible]

[illegible] 27 [illegible] 27 [illegible] 36. [illegible]

97, 98, 99 [illegible] 2 [illegible]

[illegible] 14.50, [illegible] 14.73m. [illegible] 1 [illegible] 12 [illegible] 1 [illegible] 61 [illegible] 2 [illegible] 124. [illegible] 20～21. [illegible]

100, 101 2 [illegible]

[illegible] 2 [illegible] 2 [illegible] 2.73m [illegible] Kubera [illegible]

[illegible] 21, 62 [illegible]

[illegible] 2 [illegible] 2 [illegible]

[illegible] 2 [illegible] 2 [illegible] 2.45m [illegible] 2 [illegible] 2 [illegible]

103, 104 [illegible] 2 [illegible] 103 [illegible] 2 [illegible] 39, 62 [illegible] 103 [illegible] 102 [illegible] Garuda [illegible] 2 [illegible] 40 [illegible]

105, 106 [illegible] 2 [illegible] 1 [illegible] 2 [illegible] 2 [illegible]

[illegible] 110 [illegible] 110~111 [illegible] 105 [illegible] 121 [illegible]

107 [illegible] 2 [illegible] 3.30m [illegible] 1 [illegible] 2 [illegible] 105~106, 109 [illegible]

108, 109 [illegible] 2 [illegible] 4.18, [illegible] 3.45, [illegible] 3.63m [illegible] cherubim [illegible] 1 [illegible] 2 [illegible] 1 [illegible] 1 [illegible]

110, 111 [illegible] 2 [illegible]

[illegible] 110 [illegible]

[illegible] 106 [illegible] 17

[illegible] 111 [illegible]

[illegible] 2

～3 [illegible]

[illegible] 28, 37, 62 [illegible]

112, 113, 114 [illegible] 2 [illegible]

[illegible] 1, [illegible] 2 [illegible] 1 [illegible] 112 [illegible]

Tusita [illegible] 1

[illegible] 1, [illegible] 2 [illegible] 113 [illegible]

[illegible] 2 [illegible] 2 [illegible]

[illegible] 2 [illegible]

[illegible] Lumbini [illegible]

[illegible] 111 [illegible]

[illegible] Brahmā [illegible]

Indra [illegible] 1 [illegible]

115, 116, 118, 119, 120 [illegible] 2 [illegible]

[illegible] Kuru [illegible] Dhanamjaya [illegible]

[illegible] 1 [illegible]

[illegible] Irandati [illegible]

[illegible] 119～120, [illegible]

[illegible] 2, [illegible] 1 [illegible] 11 [illegible]

[illegible] 5 [illegible]

[illegible] 3 [illegible] 120, [illegible]

[illegible]

124 [illegible]

125, 126 [illegible]

127, 128 [illegible] vyālaka [illegible] ārdūla [illegible]

[illegible]

129, 130, 131, 132 [illegible] 26.52m [illegible] 6. 4. [illegible] 4.06m. [illegible]

133, 134 [illegible]

135, 136, 137, 138 [illegible] 16.15 15.21 3.36m. [illegible]

[illegible] 135,137. [illegible] 2 [illegible] 第4 [illegible] 138. [illegible] 20, 23. 参

139, 140, 141, 142, 143 第7 [illegible]

第7 [illegible] 4 [illegible] 19.15 4.14 4.11m. [illegible] 139. [illegible] 140〜141, 143. [illegible] 140 [illegible] 2 [illegible] 1 [illegible] 111 [illegible] 39.9.9 [illegible] 第2 [illegible] 142). [illegible] 2 [illegible] 第6 [illegible] 8 [illegible] 第6 [illegible] 18〜19 参

146, 149, 150, 151, 152 第19 [illegible]

[illegible] 第19 [illegible] 第2 [illegible] 第17 [illegible] 5 [illegible] 139. [illegible] 18〜19 参

144, 145 第11 [illegible]

[illegible] 第10 [illegible] 第12 [illegible] 第2 [illegible] 145 [illegible] 2 [illegible] 141 [illegible] 25, 20, 64. 参

147, 148 第19 [illegible]

第19 [illegible] 第2 [illegible] 第17 [illegible] 5 [illegible] 139. [illegible] 18〜19 参

[illegible] 147 [illegible] 149～150. [illegible] 152 [illegible]

166, [illegible] 150. [illegible] 147. [illegible] 2 [illegible]

[illegible] 19 [illegible] 151. [illegible] 152 [illegible] 7 [illegible] 152 [illegible] 2 [illegible] — Kubera [illegible] 19, 22 [illegible]

153, 154 [illegible] 19 [illegible]

[illegible] 153 [illegible] 2 [illegible] 28 [illegible] 3. [illegible] 2 [illegible] 18 [illegible]

155, 156 [illegible] 20 [illegible]

[illegible] 20 [illegible] 8.59 7.73 3.81m [illegible] 2m [illegible] 155 [illegible] 2 [illegible] 2 [illegible] 156 [illegible]

157, 158 [illegible] 21 [illegible]

[illegible] 15.70 15.54m. [illegible] 157 [illegible] 2 [illegible] 12 [illegible] 32 [illegible]

159, 160 [illegible] 23 [illegible]

[illegible] 23 [illegible] 15.39 15.75 3.76m. [illegible] 21 [illegible] 21 [illegible] 160 [illegible] 2 [illegible] 155～156 [illegible] 21 [illegible] 16 [illegible]

161, 162, 163, 164 [illegible] 21

[illegible] 161. [illegible] 6 [illegible]

[illegible]

163 [illegible] 161 [illegible] 23 [illegible]

[illegible]3, 176, 177 [illegible] 26 [illegible]

[illegible] 2 [illegible] 19 [illegible] 166 [illegible] 26 [illegible] 175 [illegible] 19 [illegible]

[illegible]65, 167, 168, 169 [illegible] 26 [illegible]

[illegible] 19 [illegible] 19 [illegible] 168) [illegible] 3 [illegible] 167 [illegible] 165 [illegible] 19 [illegible] 37 [illegible] 19, 22 [illegible]

170, 171, 172, 173, 174 [illegible] 26 [illegible]

[illegible] 26 [illegible] 170 [illegible] 171 [illegible] 7.27 m [illegible] Kusinagara [illegible] 1 m [illegible] 11 [illegible] Ānanda. [illegible] 172 [illegible] 1 [illegible]

[illegible] 173～174. [illegible] 173 [illegible] 2 [illegible] 22～23 [illegible]

175 [illegible] 26 [illegible] 13.34 5.64 m. [illegible] 25 [illegible] 26 [illegible]

[illegible]の色とされた[illegible]小[illegible]をもって，重要木に属し第27参[illegible]，最後の[illegible]，大[illegible]の第28[illegible]は普通では[illegible]ない。

178 [illegible]

第28で[illegible]ることから，[illegible]の大きく[illegible]した頭部，第17参[illegible]のうち[illegible]の[illegible]，左右に[illegible]する[illegible]を[illegible]もの[illegible]第27参[illegible]右[illegible]に[illegible]て第23，24，26等との[illegible]から見て，[illegible]の[illegible]の[illegible]なった[illegible][illegible]。また[illegible]，[illegible]を見れば，[illegible]から第1[illegible]以下第9[illegible]まで，[illegible]の前に開いた通路が白く光っている。さるか向こうの[illegible]にあるのは[illegible]である。

179 [illegible]村

七段の[illegible]の上に出ると，[illegible]川は再び平坦な川筋となり，そこに「石宮村」という意味の名を持つレーナーフルの小村がある。附近からアントラ朝時代の土器が発見されたといい，この石宮群の初期から存したことを思わせるが，古い遺跡は今のところ見出されていない。

別図解説

1 第10[illegible]の[illegible]の部分

前1[illegible]にも[illegible]の部分である。名称[illegible]のように[illegible]はっきりしないが，図8の模写によってその大[illegible]ることができる。（7～8頁参照）

2 第16[illegible]ナンタ出土物の一部分

第19に示したこの[illegible]の一部分，ナンタの[illegible]の[illegible]その[illegible]の[illegible]の[illegible]であり，その[illegible][illegible]に[illegible]される。（第19～20頁参照）

3 第16[illegible]の[illegible]の部分

[illegible]多数の[illegible]で，[illegible]の[illegible]，[illegible]の[illegible]。（29頁参照）

4 第16[illegible]

第18[illegible]（第18[illegible]参照）

5 第17[illegible]

[illegible]25～26[illegible]

6，7 第17[illegible]

三面[illegible]の天井中央，入口の[illegible]にある円形装飾（第9参照）。円形に[illegible]で六弁花の形を作り，その各弁に一体ずつの男神を彼[illegible]に[illegible]ており，相[illegible]の[illegible]が重なって[illegible]になっているのかもしれない。おそらく[illegible]の天人を意味する装飾であろうか。[illegible]，この正面壁のとの図の[illegible]。31頁参照。

8 第17[illegible]

[illegible]の右部に[illegible]の部分，2[illegible]は押[illegible]男女神の[illegible]，右[illegible]の2神を示したもので，特に[illegible]色の肌色をした[illegible]女[illegible]を[illegible]。[illegible]，手に小さい花を[illegible]，[illegible]の[illegible]は，[illegible]。[illegible]色が多く用いられ，[illegible]色の肌色[illegible]。（30，58頁参照）

9 第17[illegible]

[illegible]（第[illegible]6[illegible]）[illegible]21～22[illegible]8[illegible]8[illegible]。（21～22[illegible]）

〈17〉[illegible]

[illegible]

11　第17[illegible]

[illegible]（Trayastrimśat）[illegible]

12　第17[illegible]

[illegible]

13　第17[illegible]

[illegible]

14　第17[illegible]

[illegible]

15　第17[illegible]

[illegible]

16　第1[illegible]

[illegible]

17　第1[illegible]

[illegible]72[illegible]

18　第1[illegible]

[illegible]84[illegible]6[illegible]Mahausadha[illegible]Visākhā[illegible]84[illegible]

19, 20　第1[illegible]

[illegible]2[illegible]1[illegible]1[illegible]20[illegible]36, 63[illegible]

21　第1[illegible]

[illegible]66〜68[illegible]20, 22[illegible]36[illegible]66〜68[illegible]

22　第1[illegible]

[illegible]3[illegible]

[illegible]3[illegible]36[illegible]67[illegible]

23　第2[illegible]

[illegible]115〜116, 118〜120[illegible]29[illegible]23[illegible]3[illegible]2[illegible]

24　第2[illegible]

[illegible]29[illegible]24[illegible]29[illegible]39[illegible]

25　第11[illegible]

[illegible]1[illegible]11, 61[illegible]

26　第2[illegible]

[illegible]2[illegible]

[illegible] 2[illegible]

[illegible] 12 [illegible]

[illegible] 11 [illegible] 5 [illegible] 17 [illegible] 20[illegible] 36[illegible]

28 第19[illegible]

[illegible] 2[illegible]

[illegible] 18[illegible]

29 第26[illegible]

第26[illegible] 175[illegible] 2[illegible] 15[illegible]

参考文献

Allan, John. A note on the inscriptions of Cave II. (Yazdani's Ajanta II, 1933, Appendix, p. 57~65).

Barrett, D. and Gray, B., Painting of India. (Skira's Treasures of Asia Series), Cleveland, 1963.

Bose, P. N., Principles of Indian Śilpaśāstra, Lahore, 1926

Brown, Percy, Indian Architecture, Buddhist and Hindu Period, 5th ed., Bombay, 1965, p. 56~59

Burgess, James, Notes on the Bauddha Rock temples of Ajanta, their paintings and sculpture, (Archaeological Survey of Western India, No. 9), Bombay, 1879

—— do., Report on the Buddhist Cave Temples and their Inscriptions, Archaeological Survey of Western India, IV, London, 1883.

Chakravarti, N. P., A note on the painted inscriptions in Caves VI~XVII. (Yazdani's Ajanta, III, 1946, Appendix, p. 85~96).

——do., Notes on the painted inscriptions of Caves XX~XXVI. (Yazdani's Ajanta, IV, 1955, Appendix, p. 111~112).

Chhabra, B. Ch., Notes on the incised inscriptions of Caves XX~XXVI. (Yazdani's Ajanta, IV, 1955, Appendix, p. 112~124).

Coomaraswamy, Ananda K., Fragment of fresco from Ajanta, (Museum of Fine Arts, Boston, Bulletin, XX, 1922, p. 70~72).

——do., History of Indian and Indonesian Art, London-New York, 1927, pp. 38, 39, 75~77, 87~91.

—— do., Vishnudharmottara, Chapter XLI, (transl.), (J. Am. Or. Soc., 1932, p. 13~21).

—— do., The Transformations of Nature in Art, Cambridge, Mass., 1934.

Dey, Mukul Chandra, My Pilgrimages to Ajanta and Bagh, 2nd ed., Oxford, 1950.

Erskine, William, Observations on the remains of the Buddhists in India, quoting a memorandum of Captain Morgan on the discovery by the officers who visited the caves in 1819, (Trans. of the Literary Soc. of Bombay, III, London, 1823, p. 520).

Fergusson, James, On the rock cut temples of India, (J. Roy. As. Soc., 1845, p. 56~66).

—— do., On the identification of Chostoes II among the paintings of Ajanta, (J. Roy. As. Soc., 1879, p. 155~170).

Fergusson, J. and Burgess, J., The Cave Temples of India, London, 1880, p. 280~346

do., History of Indian and Eastern Architecture, London, 1910, Vol. I, pp. 143~158, 148~155.

Foucher, Alfred, Preliminary report on the interpretation of the paintings and sculptures of Ajanta, (J. Hyderabad Archaeol. Soc. for 1919-20, ed., 1921).

—— do., Lettre d'Ajanta, (J. As., 1921, p. 201~242).

Ghosh, A., (ed.), Ajanta Murals, New Delhi, 1967, with the chapters in the text contributed by the following scholars:

Adil, J., Ajanta: An artistic appreciation, and, The murals: their art.

Deshpande, M. N., The caves: their historical perspective, The caves: their sculpture, and, The murals: their theme and content.

Lal, Dr. B. B., The murals: their composition and technique, and The murals: their preservation.

Goloubew, Victor, Documents pour servir à l'étude d'Ajanta, les peintures de la première grotte, Ars Asiatica, X, Paris and Bruxelles, 1927.

Griffiths, John, The Paintings in the Buddhist Cave-temples of Ajanta, Khandesh, (India), 2 vols., London, 1896~97.

Gupte, R. S. and Mahajan, B. D., Ajanta, Ellora and Aurangabad, Bombay, 1962.

Havell, E. B., Indian Sculpture and Painting, 2nd ed., London, 1928, p. 166~175.

India Society, (ed.), Ajanta Frescoes, being reproductions in colour and monochrome of frescoes in some of the caves at Ajanta after copies taken in the year 1909~1911, by Lady Herringham and her assistants, Oxford, 1915, with essays by various members of the India Society:

The editor, Note on previous copyings of the frescoes,

Herringham, Sir Wilmot, The expedition;

Herringham, Lady, Note on the history and character of the paintings,

Larcher, Miss, Note on the manner of taking copies;

Binyon, Laurence, The place of the Ajanta painting in Eastern art,

Rothenstein, William, The import of the Ajanta paintings in the history of art,

Thomas, F. W., Buddhist cave temples and their paintings.

——do., (ed.), The Bagh Caves, London, 1927, with text by Sir John Marshall, M. B. Garde, J. Ph. Vogel, E. B. Havell, and James H. Cousins.

Khandalawala, Karl, Indian Sculpture and Painting, Bombay, 1938.

Kramrisch, Stella, Vishnudharmottaram, part III, (transl.), Calcutta, 1924.

Lalit Kala Akademi and Department of Archaeology, (ed.), Ajanta Paintings, New Delhi, 1956

Luders, H., Ārya Śūra's Jātaka mālā and the frescoes of Ajanta, (Eng. transl., Indian Antiquary, 1903, p. 326~329).

——do., A List of Brāhmī Inscriptions, (Epigraphia Indica, X, 1912, Appendix).

Mirashi, Vasdev Vishnu, Inscriptions of the Vākāṭakas, Corpus Inscriptionum Indicarum, V, Ootacamund, 1963

Mitra, Debala, Ajanta, 3rd ed., New Delhi, 1964.

Oldenburg, Sergej F., Notes on Buddhist art, (Vostocnyja Zametki, 1895, Eng. transl., J. Am. Or. Soc., 1897, p. 195~196).

Rowland, Benjamin and Coomaraswamy, A. K., The Wall Paintings of India, Central Asia and Ceylon, Boston, 1938

Shukla, D. N., Hindu Canons of Painting, with the text of Citralakṣanam, Lucknow, 1957.

Singh, Madanjeet, Ajanta, painting of the sacred and the secular, New York, 1965

Smith, Vincent A., A History of Fine Art in India and Ceylon, 2nd ed. by K. de B. Codrington, Oxford, 1930, 3rd ed. by K. Khandalawala, Bombay, 1962

Spink, Walter, On the development of early Buddhist art in India, (Art Bulletin, 1958, p. 95~104)

UNESCO, (arranged), India, Paintings from Ajanta Caves, New York, 1954

do., (arranged), The Ajanta Caves, two editions: Fontana UNESCO

and Mentor UNESCO Art Book, with the text by B. Rowland, 196[illegible].

Pope, R. S., Buddhist Cave Temples of India, Calcutta, 19[illegible], p. 96~105.

Ghulam, Ajanta, the colour and monochrome reproductions of the Ajanta frescoes based on photography, 4 pts., Oxford, 1930, 1933, 1946, 1955.

——, Notes on frescoes discovered at Ajanta, Annual Bibliography of Indian Archaeology for 1932, VII, Leyden, 1934, p. 31~32.

——, History of the Deccan, Vol. I, Pt. VIII, Fine Arts, Oxford, 1952.

Zimmer, Heinrich, The Art of Indian Asia, its mythology and transformations, 2 vols., New York, 1955, p. 185~190.

[illegible] 89, 1913[illegible].

——[illegible], 1961, p. 90~101.

[illegible], 1916[illegible], p. 259~303[illegible]

[illegible] 160, 1918[illegible].

——[illegible] 351, 352, 355, 360, 361, 1919~1920[illegible], 1922[illegible]

——[illegible] 377, 378, 383~385, 393~396, 1921~1923[illegible]

[illegible], 1940

[illegible], 1943, p. 110~133.

——[illegible] 20 [illegible] 1, 1956[illegible] 1969, p. 161~191[illegible]

——[illegible] 41, 1959[illegible], p. 89~119[illegible]

[illegible] 322~325, 1917[illegible]

——[illegible] 8~9, 1919[illegible].

——[illegible] 312, 1918[illegible].

[illegible] 1928.

[illegible], 1920, p. 358~381.

[illegible], 1958.

撮影雑感

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

図版・別図・挿図目録

図　版

1 [illegible]
2 第10[illegible]
3 第10[illegible]
4 第8～10[illegible]
5 第10[illegible]
6 第10[illegible]
7 第10[illegible]
8 第10[illegible]
9 第9[illegible]
10 第9[illegible]
11 第9[illegible]
12 第12[illegible]
13 第16[illegible]
14 第16[illegible]
15 第16[illegible]
16 第16[illegible]
17 第16[illegible]
18 第16[illegible]
19 第16[illegible]1
20 第16[illegible]2
21 第17[illegible]
22 第17[illegible]
23 第17[illegible]
24 第17[illegible]
25 第17[illegible]
26 第17[illegible]
27 [illegible]
28 [illegible]
29 第17[illegible]
30 第17[illegible]
31 第17[illegible]
32 第17[illegible]
33 第17[illegible]
34 第17[illegible]2
35 第17[illegible]1
36 第17[illegible]
37 第17[illegible]2
38 第17[illegible]3
39 第17[illegible]
40 第17[illegible]
41 第17[illegible]1
42 第17[illegible]2
43 第17[illegible]3
44 第17[illegible]
45 第17[illegible]
46 第17[illegible]
47 第17[illegible]1
48 第17[illegible]2
49 第17[illegible]
50 第17[illegible]1
51 第17[illegible]2
52 第17[illegible]3
53 第17[illegible]
54 第17[illegible]
55 第1[illegible]
56 第1[illegible]
57 第1[illegible]
58 第1[illegible]
59 第1[illegible]
60 第1[illegible]
61 第1[illegible]
62 第1[illegible]
63 第1[illegible]
64 第1[illegible]

65 [illegible]
66 [illegible]
67 [illegible]
68 [illegible]
69 [illegible]
70 [illegible]
71 [illegible]
72 [illegible]
73 [illegible]
74 [illegible]
75 [illegible]
76 [illegible]
77 [illegible]
78 [illegible]
79 [illegible]
80 [illegible]
81 [illegible]
82 [illegible]
83 [illegible]
84 [illegible]
85 [illegible]
86 [illegible]
87 [illegible]
88 [illegible]
89 [illegible]
90 [illegible]
91 [illegible]
92 [illegible]
93 [illegible]
94 [illegible]
95 [illegible]
96 [illegible]
97 [illegible]
98 [illegible]
99 [illegible]
100 [illegible]
101 [illegible]
102 [illegible]
103 [illegible]
104 [illegible]
105 [illegible]
106 [illegible]
107 [illegible]
108 [illegible]
109 [illegible]
110 [illegible]
111 [illegible]
112 [illegible]
113 [illegible]
114 [illegible]
115 [illegible]
116 [illegible]
117 [illegible]
118 [illegible]
119 [illegible]
120 [illegible]
121 [illegible]
122 [illegible]
123 [illegible]
124 [illegible]
125 [illegible]
126 [illegible]
127 [illegible]
128 [illegible]
129 [illegible]
130 [illegible]
131 [illegible]
132 [illegible]
133 [illegible]
134 [illegible]
135 [illegible]
136 [illegible]
137 [illegible]
138 [illegible]
139 [illegible]
140 [illegible]
141 [illegible]
142 [illegible]
143 [illegible]

144 [illegible]

145 [illegible]

146 [illegible]

147 [illegible]

148 [illegible]

149 [illegible]

150 [illegible]

151 [illegible]

152 [illegible]

153 [illegible]

154 [illegible]

155 [illegible]

156 [illegible]

157 [illegible]

158 [illegible]

159 [illegible]

160 [illegible]

161 [illegible]

162 [illegible]

163 [illegible]

164 [illegible]

165 [illegible]

166 [illegible]

167 [illegible]

168 [illegible]

169 [illegible]

170 [illegible]

171 [illegible]

172 [illegible]

173 [illegible]

174 [illegible]

175 [illegible]

176 [illegible]

177 [illegible]

178 [illegible]

179 [illegible]

別　図

1 [illegible]

2 [illegible]

3 [illegible]

4 [illegible]

5 [illegible]

6 [illegible]

7 [illegible]

8 [illegible]

9 [illegible]

10 [illegible]

11 [illegible]

12 [illegible]

13 [illegible]

14 [illegible]

15 [illegible]

16 [illegible]

17 [illegible]

18 [illegible]

19 [illegible]

20 [illegible]

21 [illegible]

22 [illegible]

23 [illegible]

24 [illegible]

25 [illegible]

26 [illegible]

27 [illegible]

28 [illegible]

29 [illegible]

挿　図

1　[illegible]……4頁
2　[illegible]　5頁
3　第10窟[illegible]　8頁
4　[illegible]……11頁
5　[illegible]化[illegible]　第17窟[illegible]……15頁
6　第12窟[illegible]……17頁
7　第2窟[illegible]……18頁
8　第1窟[illegible]……19頁
9　第27窟[illegible]……20頁
10　第5窟入口左[illegible]　21頁
11　第26窟[illegible]……23頁
12　第16窟[illegible]形ヤクシャ[illegible]……24頁
13　第16窟[illegible]……24頁
14　第4窟[illegible]観音菩薩像……24頁
15　第26窟[illegible]観音菩薩像……24頁
16　第23窟[illegible]堂[illegible]……25頁
17　第10窟[illegible]……27頁
18　第19窟[illegible]……28頁
19　第16窟[illegible]……29頁
20　第17窟[illegible]……30頁
21　第17窟[illegible]……30頁
22　第17窟[illegible]……31頁
23　第17窟[illegible]　31頁
24　第17窟[illegible]　31頁
25　第17窟[illegible]……33頁
26　第1窟[illegible]　35頁
27　第2窟[illegible]（Kṣāntivādin）……36頁
28　第2窟[illegible]……37頁
29　第2窟[illegible]
（[illegible]）……38頁
30　第17窟[illegible]……48頁
31　第9窟[illegible]（[illegible]）……55頁
32　第10窟[illegible]（[illegible]）……57頁
33　第17窟[illegible]……59頁
34　第17窟[illegible]（[illegible]）……60頁
35　第2窟[illegible]（[illegible]）……62頁
36　第2窟[illegible]（[illegible]）……62頁
37　第26窟[illegible]……64頁
38　第10窟[illegible]第6柱柱[illegible]……65頁

別図写真撮影者一覧

[illegible]　2,3,5,9,10,12,19,20,25,28
[illegible]　1,4,23,24,26,27,29
[illegible]　6,7,8,11,13,14,15,16,17,18,21,22

索　引

ア 行

アジャータシャトルー（Ajātaśatru）　[illegible]
81，100，[illegible]
アジャンター（Ajaṇṭā〜Ajinṭhā）　3,5
——の（View-point）　3,4,82，[illegible]
——の[illegible]　4,[illegible]*1*
——[illegible]（Ajanta or Sahyadri Range）　3
アショーカ[illegible]　3,4,7,10,11,16
[illegible]　79[illegible]，82[illegible]，96，100，[illegible]
1,27,134,178
[illegible]　21,57
[illegible]　11
[illegible]　11,13,14,15
1[illegible]　4,16,17,19,22,69,79[illegible]
2[illegible]　4,10,18,19,21,22,69
[illegible]2[illegible]　97，[illegible]
[illegible]1　19,20,21,23,24,33,43,45,48,
51,63,86，[illegible]〜92，[illegible]，101，102
1[illegible]　*8*
1[illegible]　[illegible]，*57*，*58*
[illegible]2[illegible]　19〜21,23,36,37,42,43,45,
51,61〜63,92，[illegible]〜96，[illegible]，102
2[illegible]　93[illegible]〜94，[illegible]，*105*，*109*
3[illegible]　21
[illegible]4　18〜21,23,24,96
5[illegible]　21
[illegible]6　18〜20,22,23,40,49,96
7[illegible]　20〜22,40,42,49,97
[illegible]8　16,17
9　17,18,22,42,49,56,57,64,65,
79，[illegible]80[illegible]
10　7,16〜18,42,46,49,56,57,64,65,
79，[illegible]100，[illegible]，*1*
11　20,21,24,41,43,64,97，[illegible]102
12　16,17,22,80[illegible]，[illegible]*6*
13　16,18
14　21
15 A　16,17
16　9,19〜21,23,24,42,46,50,51,57,
63,80，[illegible]〜81，[illegible]100，[illegible]，*2*,*3*
16[illegible]　20,80，[illegible]，*14*
17　9,19〜21,23,25,33,42,43,47,50,
51,58,63,81，[illegible]〜86，[illegible]100，[illegible]〜101
17[illegible]　82，[illegible]，*30*,*32*
19　8,9,18,19,21,24,42,63,64,
97[illegible]，98[illegible]，103
20[illegible]　20,98
21　19,21,41,42,50,98
22[illegible]　21,41
23　19,21,25,98
24　10,19,21,98
25[illegible]　21
26　18,19,21,42,64,99，[illegible]103
27　19〜21
28　21
29　10,18
アジャンター[illegible]　22,25
アジャンター[illegible]
9[illegible]　22
19[illegible]　22
26[illegible]　22
アジャンター[illegible]　5,6,11,12,14,26,41,51,55,
60,62,63,65,66,70,79
[illegible]　79
[illegible]　15,[illegible]5
[illegible]　55,76
[illegible]　13
[illegible]　28,41
[illegible]　12,13
[illegible]　12,13,26
[illegible]　13
1[illegible]　26,27
2[illegible]　27,66,79
1[illegible]　28,33,59
2[illegible]　28,39,49,64,62
9[illegible]　27,59,64
10[illegible]　11,26,27,59,64
16[illegible]　28,37,38
17[illegible]　28,30,38,39
19[illegible]　27,64
22[illegible]　42
26[illegible]　28,64
[illegible]　40
アショーカ（Aśoka）　7
アチャラ（Acala）　9,10
アナンダ（Ānanda）　81，99
アパラーンタ（Aparānta）　7
アブ・アルマド（Abū Almad）　13
アムラー[illegible]
35,45,99，[illegible]102，[illegible]，*84*，*18*
アムラーヴァティー（Amarāvatī）　57
アンドラ・シャータヴァハナ（Andhra Śātavāhana）　7,8,57,65
[illegible]　10
インドラ（Indra）[illegible]　81，91
[illegible]　87，[illegible]，65
[illegible]　25,81，[illegible]，[illegible]，
62,*127*,*128*,*155*
[illegible]　9,[illegible]6,87，[illegible]102，[illegible]，*67*，[illegible]22
ヴァサダタ（Vāsadatta）
7〜10,18,20,[illegible],80
ヴィシャカ[illegible]（Viśākha[illegible]）　8
ヴィシャンテラ（Viśantera）
29〜[illegible]1,46,47,52,54,58,59,82，[illegible]81，[illegible]
29,*47*,*48*,[illegible]*33*
ヴィシャカ[illegible]（*Viśākha[illegible]*）
[illegible]
ヴィ[illegible]（Vi[illegible]）　8
ヴァカタカ（Vākāṭaka）
[illegible]，5，9,13,60,88，[illegible]96，[illegible]102
[illegible]
[illegible]1，[illegible]，[illegible]96，[illegible]100，[illegible]，*14*,*15*
[illegible]（Major R. Gr[illegible]）　12
[illegible]（Ki[illegible]）
[illegible]1，9，[illegible]，5，41,80，[illegible]102，[illegible]，*13*
[illegible]（Je[illegible]）　8[illegible]
[illegible]　53,81

[illegible] 70
[illegible] 62, [illegible]28
[illegible] 20, 96[illegible]
[illegible] 10 7, [illegible]3
[illegible] 7, 18, 80[illegible]
[illegible] 16 7, 8
17 7, 8
26 7, 9, 10
26～27 10, 19
[illegible] (kīrtimukha) 10, 86 [illegible] 87 [illegible], 93[illegible]
[illegible] 29, 50
[illegible] Kusumagara 99
[illegible] Gupta [illegible]
18, 25, 27, 41, 66, 81 [illegible], 87 [illegible], 98[illegible]
[illegible] 8
[illegible] 9, 22
[illegible] Kubera 87 [illegible], 92 [illegible], 98 [illegible]
[illegible] J. Griffiths 11, 12, 14, 55
[illegible] 26, 27, 48, 51, 57, 64, 65, 79 [illegible], 100 [illegible], [illegible]7, [illegible] *1*
[illegible] 30, 37
[illegible] (stūpa) [illegible] 19
[illegible] 49
[illegible] 33, 48
[illegible] 33, 59, [illegible] *53*
[illegible] 7, 9, 10, 97
[illegible] A. Ghosh 14, 63
[illegible] 35, 40, 48, 49, 60, 86 [illegible], 92 [illegible], 99 [illegible], 101 [illegible], *92*, *16*, [illegible]*26*
——[illegible] [illegible] 23, [illegible]*56*, *172*
[illegible] 11, 31, 48, [illegible]*30*
[illegible] 23 Kapilavastu 81[illegible]

サ 行

[illegible] Sūraya 8
[illegible] Sārnāth 9, 22, 66, 87 [illegible], 98 [illegible]
[illegible] Sārīrāśya [illegible] 84[illegible]
[illegible] Śaṅkhapāla (Śaṅkhapāla) 34, 45, 89 [illegible], *78*
[illegible] Sāncī 27, 57, 65
(Kāśyapa) 19
(Śrīchanga) 60, 88
Trayastriṃśa 29, 84 [illegible], 101
[illegible] 29, 32, 50, 58, 59, 8[illegible] [illegible], 101[illegible], *35*～*38*, *11*, *19*
[illegible] Sīgiriya 66
[illegible] Śūra [illegible]
34, 45, 5[illegible], 54, 61, 89 [illegible], *76*, *79*
[illegible] Śūra B 3, 48, 86 [illegible] 25
[illegible] Śūra [illegible] 84
[illegible] Jāta[illegible] 11
[illegible] *Jātaka* 11, 54
Jātakamālā [illegible] 54
[illegible] Śārdūla (urga 32, 47
Śārdūla vyāl[illegible] 96
[illegible] Śyāma Sāma [illegible]
26, 32, 46, 48, 59, 101 [illegible], *12*, [illegible]*17*
[illegible] — Jogīmārā 65
[illegible] Simhala [illegible]
2, 48, 52, 59, 85 [illegible], 101 [illegible], *50*～*52*, *14*
[illegible] Sat kund[illegible] 4, 100 [illegible], [illegible]2
[illegible] 19
caitya cave 4, 16, 18, 19, 22, 26, 79 [illegible], 97 [illegible], 99 [illegible], *3*, *9*, *147*, *166*
[illegible] 25, 29, 50, 86
[illegible] — Śrāvastī [illegible] 83 [illegible], 92 [illegible]
——[illegible] 32, 35, 37, 40, 42, 49, 50, 59, 83 [illegible], 92 [illegible], 96 [illegible], 97 [illegible], *39*, *93*
[illegible] 23, 42, 69, 92 [illegible]
[illegible] 81
[illegible] 29, 50
[illegible]
25, 87 [illegible], 95 [illegible], 98 [illegible], 99 [illegible], 100 [illegible], [illegible] *165*
[illegible] 42
[illegible] 42
[illegible] 69
[illegible] 92 [illegible], 99
[illegible] 19, 87 [illegible]
[illegible] Sutasoma [illegible]
29, 31, 46, 47, 59, 85 [illegible], [illegible]*49*, [illegible]*21*, *22*
[illegible] W. Spink 17
[illegible] 32, 48, 52, [illegible]*24*
[illegible]
0, 50, 52, 58, 81 [illegible], 101 [illegible], [illegible]*23*, *10*
[illegible]
[illegible] 6
[illegible] 16, 21
[illegible] 5, 16, 17, 41
[illegible] 22, 79
[illegible] 12, 97 [illegible]
[illegible] 42
[illegible] Asita [illegible] 29, 50
[illegible] 23, 97 [illegible], *140*
[illegible] 62, 64, 92 [illegible], 94 [illegible], *111*, [illegible]*28*
[illegible] 37, 42, 62
[illegible] 5
(vihāra cave)
4, 17～21, [illegible], 24, 28, 80 [illegible], 86 [illegible], 96 [illegible], 97 [illegible], *12*, *13*, *21*, *55*, *96*, *127*, *155*, *157*, *159*, *162*
[illegible] 29
[illegible] 8
[illegible] 29, 1, 46, 47, 100 [illegible], 3
[illegible] 48
[illegible] 28, 11, 1[illegible], 56, 62

タ 行

[illegible] 1[illegible]
[illegible] 69
[illegible] 23
[illegible] 69
[illegible] 29, 37, 40, 49, 50, 52, 94
[illegible] 30, 35, 36, 41, 82 [illegible], 92 [illegible], 102
[illegible] caitya 16, 26, 97 [illegible], 99 [illegible]
[illegible] 17, 80 [illegible], 97 [illegible], 99
[illegible] Cālukya [illegible] 9, 10, 34, 67
[illegible] Candragupta [illegible] 8
[illegible] Campeyya [illegible]
35, 45, 53, 61, 91 [illegible], [illegible]*90*, *94*
[illegible] tempera 55, 67, 77
[illegible] Devadatta [illegible]
81 [illegible], 100
[illegible] Devarāja 9
[illegible]
1 [illegible] 36, 63, 87 [illegible], 102 [illegible], *59*, *66*～*68*, *19*～*22*
2 36, 39, 63, 92 [illegible], 93 [illegible], 95 [illegible], *104*, *108*, *121*, *122*, [illegible] *27*
[illegible] 16 [illegible] 30, 62
17 [illegible] 31, 33, 63, 83 [illegible], 100 [illegible], [illegible]*40*～*43*, [illegible]*5*～*7*, [illegible]*20*
[illegible] 19 [illegible] 64, 98 [illegible], [illegible]*18*
26 [illegible] 64, [illegible]*37*
[illegible] 22, 23, 42
[illegible] Festus [illegible] 37, 49, 94 [illegible], [illegible]*112*

ナ 行

[illegible] nāga 8
[illegible] Nāsik 17, 20
[illegible] Nanda [illegible] 80
[illegible] 29, 30, 48, 50, 57, 58, 80 [illegible], 89 [illegible], 100 [illegible], *19*, *20*, [illegible] 2
[illegible] Nyagrodha mṛga [illegible] 33, 48
[illegible] 29, 50
pissaratha [illegible] 90
[illegible] (Kṣānuvādin) [illegible] 37, 46, 54, [illegible]*27*
[illegible] 23, 99 [illegible], *171*, [illegible]*11*

ハ 行

[illegible] Harisena 7～9, 66, 80 [illegible]
[illegible] Hārītī [illegible] 24, 39, 62, 92 [illegible], *100*, *101*
[illegible] Herringham Lady 12, 56
[illegible] Hamsa [illegible] 31, 37, 45, 47, 58, 59, 84 [illegible], 101 [illegible], *16*, *15*, *34*
[illegible] Bhavanāja 9
Bāgh 66, 6[illegible]
J. Burgess 11
Bhavanī Vatsagulma 9
[illegible] Bhāja 17
[illegible] Badalḍisham 77
Bidamu = Vatāpo 67
Bārāṇasī [illegible]
85 [illegible], 101 [illegible]
Bhārhut 27, 65

Pathan(～Pratiṣṭhāna) 7
Pāñcika(Pañcika) 24,92, *100*
17,18
27,62,64,67,79, *5,6,34,44,124,138*
32,48,59,101 *13,123*
31,85
Pitalkhorā 17,67
22～24,29,30,33,35～37,40,41,58,63,80,81,82,83,88,92,93,100,102, *16～18,24,4,8,19,20*
(Avadāna) 39,41
45,51,54
J. Fergusson 11,12
Fardāpur 4
A. Foucher 44
(fresco buono) 55,68
Buddhabhadra 9
Brahmā 94
Pulakeśin 2 10,31,88
Pūrna 39,46,52,61,96,102, *24,129*
44
44
13,28,34,41,44,51～54,56
23,24,40,43,86,93,97, *30,57,107,131,145*
24,27,29,31,37,40,41,42,50,53,58,64,99, *173*
32,50,81
49
22
19,20,22,23,42,67,70,79,80,97,99, *4,130,136,142,146,149,150,174,176,177,* 29
27,28,39,41,42
37,49,52,94, *114*
(Nidāna) 32,44
41
24,27,29,35,42,48,51,52,57,58,61,94,99,
22
Bedsā 17
61,88, *75*
86,96,98, *53,125,126,160,161*
29,50
Khosrou 2 34,87,88
37
41,43
Potalaka 60,88
10
29,50
44,54
32,33,37,45,51,54,57,59,65
44
20,23,80,82,96,97, *14,58,106,132,136,142,144,149*

マ 行

(Maitrībala)
37,46
Magadha 89
Makhādeva 91,
makara 25,40,87
Mathurā 9,66
Manibhadra 31,43
Mahausadha(～Mahosadha, 29,35,47,90,102
Mahājanaka 34,45,53,59,60,90,91, *80～89*
Mahārattha(～Mahārāstra) 7
Māra 92
(Mahārāṣtra) 9,10
(makara)
(Māyā) 29,37,49,50,58,83,94
Mithilā 90
mithuna 25,30,38,81,87,93,100,102, 22
(Maitreya)
25,30,39,41～43,81,100,
35,40,43,64

ヤ 行

G. Yazdani 11,13
Yakṣī 25,81,87,10
Yakṣa 22,23,31,33,36,39,40,43,83,87,92,93,95,96,98,102, *34,102,149,152,172*
Yamunā 25

ラ 行

Rāṣṭrakūṭa 10
lapis lazuli 55,76,77
Rāhula 82
Rāmgarh 65
32,85,101
2,85
8,22,24,40,44,89,91,92,93,94,95,98, *151*
49,55,57, *131*
terra verde 56,76,77
23,82,87,93,96,97
Ruru mrga 33,39,46,48,59
Lumbinī 37,49,94
Lenāpur 4,100, *179*
16,19,20,21,24,27,43,79,80,84,86,87,88,92,95,96,97,98,103, *44,55,56,61,63,64,97,99,123,124,129,133,139,148,158,162,163,* 28
(Pacinepīnī)
23,35,39,41,43,61,88,102, *71～74,* 25
26,27,31,46,47,53,59,84, *45,* 32

ワ 行

Wagborā 3
12,82,87,93

AJANTA Cave-temples and Murals

Contents

Preface By Osamu Takata

Plates 1 –179

Supplementary Plates 1 –29 56

Text

I Introduction 3

1 Topography of the Ajanta Cave-temples 3

2 Ajanta Murals and their Importance 5

II History 7

1 Excavations of the Cave-temples 7

2 After the Discovery 11

1) The Discovery 11

2) Copying of Murals and the Publications 12

3) Preservation 14

III The Cave temples 16

1 The Earlier Group 16

2 The Later Group 18

1) Caitya Caves 18

2) Vihāra Caves 19

3 Sculptures 21

IV The Murals 26

1 Brief Description of Murals 26

1) In Caitya Caves 26

Cave 10 (26) Cave 9 (27) Cave 19 (27)

2) In Vihāra Caves 28

Cave 16 (28) Cave 17 (30) Cave 1 (33) Cave 2 (36) Other Caves (40)

2 Themes and Contents 41

1) Image Paintings 42

Buddhas (42) Bodhisattvas (43) Other Deities (43)

2) Buddhist Narrative Paintings 44

Jātaka-and Avadāna-Scenes (45) Scenes from the Life of Buddha (48)

3) Representation Methods of the Narrative Paintings 51

3 Their Style and Technique 54

4 Ajanta Murals in the History of Indian Paintings 65

V Conclusion 69

Notes 71

Appendix: Painting Materials of the Ajanta Murals By Kazuo Yamasaki 76

Description of Plates and Supplementary Plates 79

Bibliography 104

Miscellaneous Impressions in Taking Pictures in and around the Secluded Caves of Ajanta By Mikihiro Taeda 106

List of Plates, Supplementary Plates and Text Figures 109

Index 113

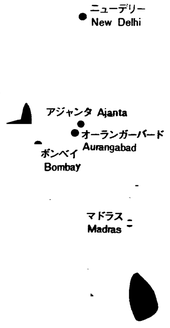
Rough Plans of the Caves, with Positional Indices to the Plates

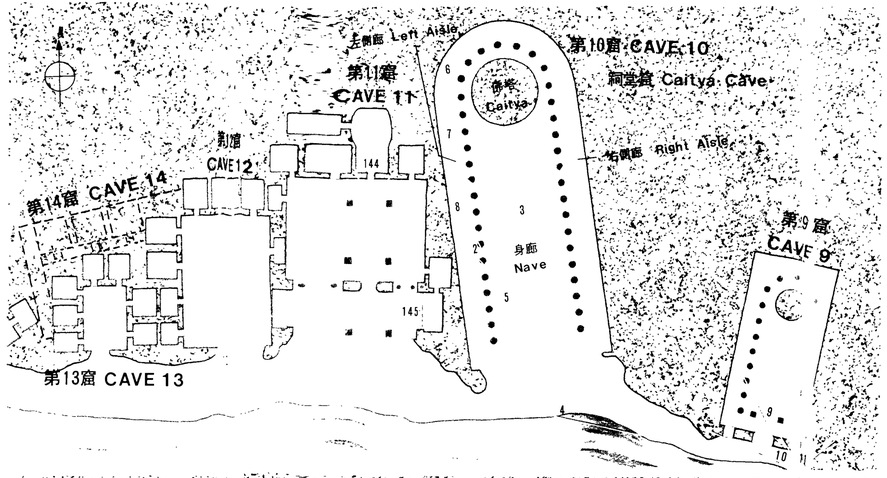
List of Plates, Supplementary Plates and Text Figures

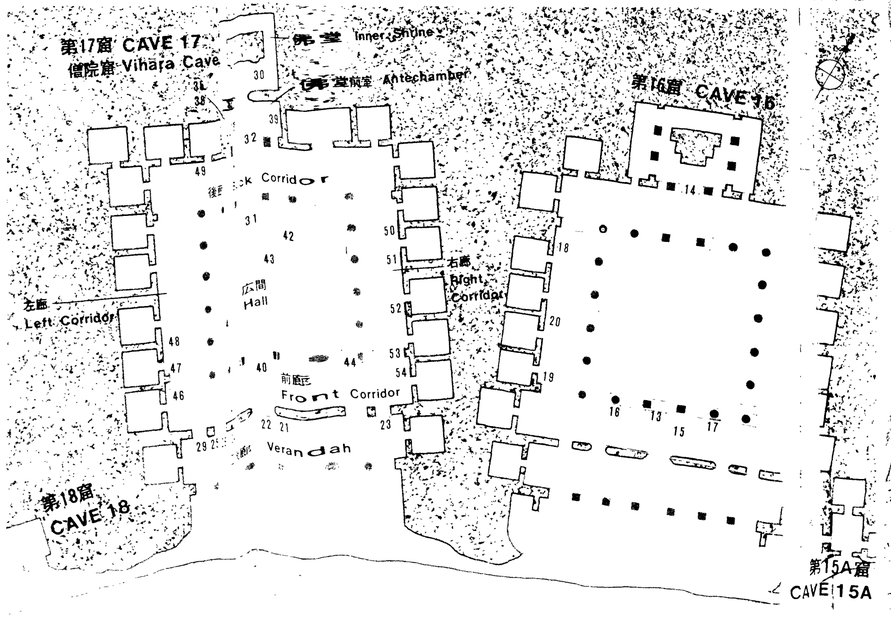
List of Plates

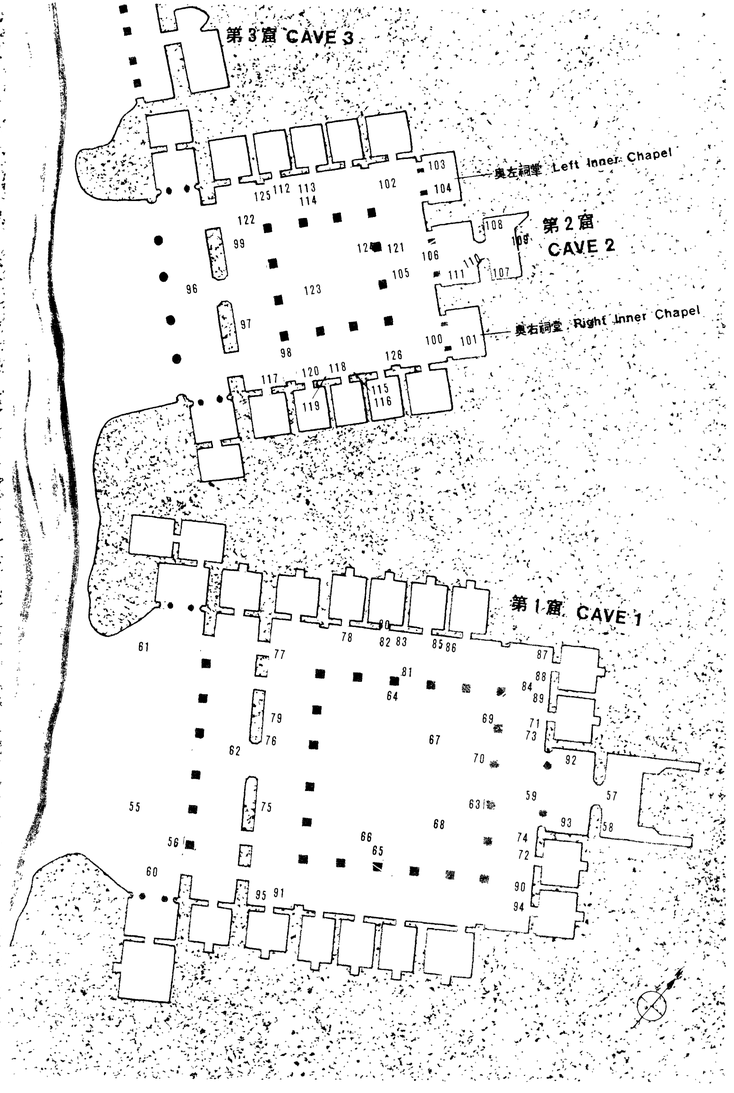
1 Central Part of the Caves
2 Left Aisle, CAVE 10.
3 Nave and Caitya (Interior, CAVE 10 (Caitya Cave)
4 Sculptured Façades of CAVES 8–10
5 Buddhas (Painted on Octagonal Pillars, Left Row, CAVE 10.
6 Preaching Buddha and One-eyed Monk. Painted on a Pillar behind the Caitya, CAVE 10
7 Worship of Stūpa, Part (Copy). Left Aisle, CAVE 10
8 Worship of Bodhi-tree, Part (Copy). Left Aisle, CAVE 10
9 Nave and Caitya. Interior, CAVE 9 (Caitya Cave)
10 Façade, CAVE 9
11 Upper Right of the Façade, CAVE 9.
12 CAVE 12 (Vihāra Cave).
13 Interior, CAVE 16 (Vihāra Cave)
14 Buddha Seated with Legs down (Sculpture). Inner Shrine, CAVE 16
15 Ceiling of the Front Corridor, CAVE 16
16 A Flying Celestial Couple (Sculpture). Ceiling, Front Corridor, CAVE 16
17 A Flying Celestial Couple (Sculpture). Ceiling, Front Corridor, CAVE 16.
18 A Flying Apsaras. Left Corridor, CAVE 16.
19 Story of the Conversion of Nanda, Part 1. Left Corridor, CAVE 16
20 Story of the Conversion of Nanda, Part 2. Left Corridor, CAVE 16
21 Upper Right of the Main Entrance, CAVE 17 (Vihāra Cave).
22 Seven Past Buddhas and Couples, Part (Above the Main Entrance, CAVE 17
23 Subjugation of the Mad Elephant. Verandah, CAVE 17.
24 Flying Deities. Verandah, CAVE 17
25 A Royal Procession. Verandah, CAVE 17
26 A Royal Love Scene. Verandah, CAVE 17.
27 Panorama (View of the Caves from the View Point)
28 General Plan of the Caves, with Positional Indices of Our Pictures
29 The *Viśvantara Jātaka* (?), Part. Verandah, CAVE 17
30 Buddha Triad (Sculpture). Inner Shrine, CAVE 17
31 Interior, CAVE 17
32 Inner Shrine and Antechamber, CAVE 17
33 Buddha Receiving Alms from a Mother with a Child. Back Wall, Antechamber, CAVE 17
34 Two Corpulent Yaksas. A Left Pillar, Antechamber, CAVE 17
35 Descent from the Heaven, Part 1. Left Wall, Antechamber, CAVE 17.
36 Descent from the Heaven, Left Wall, Antechamber, CAVE 17
37 Descent from the Heaven, Part (2). Left Wall, Antechamber, CAVE 17
38 Descent from the Heaven, Part (3). Left Wall, Antechamber, CAVE 17.
39 The Great Miracle at Śrāvastī, Part. Right Wall, Antechamber, CAVE 17.
40 Ceiling Decoration. Central Part, Front Corridor, (from the Main Entrance), CAVE 17
41 Ceiling Decoration (1). Hall, CAVE 17.
42 Ceiling Decoration (2). Hall, CAVE 17
43 Ceiling Decoration (3). Hall, CAVE 17
44 Right Row of Pillars, Hall, CAVE 17.
45 The *Ṣaḍdanta Jātaka*, Part. Left Part, Front Corridor, CAVE 17.
46 The *Haṃsa Jātaka*, Part. Left Wall, Front Corridor, CAVE 17.
47 The *Viśvantara Jātaka*, Part (1). Left Corridor, CAVE 17.
48 The *Viśvantara Jātaka*, Part (2). Left Corridor, CAVE 17.
49 The *Sutasoma Jātaka*, Part. Left Part, Back Corridor, CAVE 17
50 The *Siṃhala Avadāna*, Part (1). Right Corridor, CAVE 17.
51 The *Siṃhala Avadāna*, Part (2). Right Corridor, CAVE 17.
52 The *Siṃhala Avadāna*, Part (3). Right Corridor, CAVE 17.
53 Toilet Scene. Pilaster, Right Corridor, CAVE 17.
54 A *Jātaka* or *Avadāna* Scene, Part. Right Wall, Front Corridor, CAVE 17.
55 Left Part of the Façade, CAVE 1 (Vihāra Cave)
56 Decorative Reliefs (Māra's Attack). Capital and Brackets of a Pillar, Façade, CAVE 1.
57 Buddha Triad (Sculpture). Inner Shrine, CAVE 1
58 Seated Buddha (Sculpture), Part. Inner Shrine, CAVE 1.
59 Ceiling Decoration, Antechamber, CAVE 1.
60 Decorative Reliefs. Upper Part of a Pillar and Part of Entablature, Façade, CAVE 1.
61 Row of Pillars, Façade, CAVE 1
62 Decorative Reliefs. Left Part, Main Entrance, CAVE 1.
63 Decorative Reliefs (Kīrtimukha). Lower Part of a Pillar, Back Corridor, CAVE 1
64 Decorative Reliefs. Upper Part of a Pillar, Left Corridor, CAVE 1
65 Decorative Reliefs (Four Deer with a Common Head). Upper Part of a Pillar, Right Corridor, CAVE 1
66 Ceiling Decoration (1). Hall, CAVE 1
67 Ceiling Decoration (2) (Drinking Scene). Hall, CAVE 1.
68 Ceiling Decoration (3). Hall, CAVE 1
69 Left Part (1), Back Corridor, CAVE 1.
70 Left Part (2), Back Corridor, CAVE 1.
71 Padmapāṇi (1). Left Part, Back Corridor, CAVE 1
72 Padmapāṇi (2). Right Part, Back Corridor, CAVE 1.
73 Padmapāṇi (1), Part. Left Part, Back Corridor, CAVE 1.
74 Padmapāṇi (2), Part. Right Part, Back Corridor, CAVE 1
75 "Persian Ambassador." Right Part, Front Corridor, CAVE 1.
76 The *Śibi Jātaka*. Left Part, Front Corridor, CAVE 1

77 Scenes from an *Avadāna* or the Buddha's Life. Left Part, Front Corridor, CAVE 1.
78 The *Sankhapāla Jātaka*. Left Corridor, CAVE 1.
79 The *Śibi Jātaka*, Part. Left Part, Front Corridor, CAVE 1.
80 The *Mahājanaka Jātaka*, Part (1). Left Corridor, CAVE 1.
81 The *Mahājanaka Jātaka*, Part (2). Left Corridor, CAVE 1.
82 The *Mahājanaka Jātaka*, Part (3). Left Corridor, CAVE 1.
83 The *Mahājanaka Jātaka*, Part (4) Left Corridor, CAVE 1.
84 (Upper) The *Mahājanaka Jātaka* (?); (Lower) Story of Amarā Left Part, Back Corridor, CAVE 1.
85 The *Mahājanaka Jātaka*, Part (5). Left Corridor, CAVE 1
86 The *Mahājanaka Jātaka*, Part (6). Left Corridor, CAVE 1.
87 The *Mahājanaka Jātaka* (?), Part (1). Left End, Back Corridor, CAVE 1.
88 The *Mahājanaka Jātaka* (?), Part (2). Left Part, Back Corridor, CAVE 1.
89 The *Mahājanaka Jātaka* (?), Part (3). Left Part, Back Corridor, CAVE 1.
90 The *Campeyya Jātaka*, Part. Right Part, Back Corridor, CAVE 1.
91 A *Jātaka* or *Avadāna* Scene, Part. Right Wall, Front Corridor, CAVE 1.
92 Māra's Attack. Left Wall, Antechamber, CAVE 1
93 The Great Miracle at Śrāvastī. Right Wall, Antechamber, CAVE 1.
94 The *Campeyya Jātaka*. Right Part, Back Corridor, CAVE 1.
95 A *Jātaka* or *Avadāna* Scenes. Right Wall, Front Corridor, CAVE 1.
96 Right Half, Verandah, CAVE 2 (Vihāra Cave).
97 Two Pillars, Front Corridor, CAVE 2.
98 Hall, (from the Right Corridor), CAVE 2
99 Hall, (from the Front Corridor), CAVE 2.
100 Pañcika and Hāritī (Sculpture) Right Inner Chapel, CAVE 2.
101 Hāritī (Sculpture), Part. Right Inner Chapel, CAVE 2.
102 Two Seated Yakṣas (Sculpture). Left Inner Chapel, CAVE 2.
103 Female Worshippers Left Wall, Left Inner Chapel, CAVE 2.
104 Ceiling Decoration, Part. Left Inner Chapel, CAVE 2.
105 Antechamber and Inner Shrine, CAVE 2
106 Antechamber and Buddha in the Inner Shrine, CAVE 2.
107 Buddha Triad (Sculpture), Part. Inner Shrine, CAVE 2
108 Ceiling Decoration, Part. Inner Shrine, CAVE 2
109 Interior, Inner Shrine, CAVE 2
110 Right Part, Antechamber, (from the Inner Shrine), CAVE 2.
111 Thousand Buddhas, Part Right Wall, Antechamber, CAVE 2
112 Bodhisattva in the Tuṣita Heaven Left Corridor, CAVE 2.
113 Interpretation of Māyā's Dream Left Corridor, CAVE 2
114 Buddha's Birth Left Corridor, CAVE 2
115 The *Vidhura paṇḍita Jātaka*, Part (1) Right Corridor, CAVE 2
116 The *Vidhura paṇḍita Jātaka*, Part (2) Right Corridor, CAVE 2
117 A *Jātaka* or *Avadāna* Scene Right Wall, Front Corridor, CAVE 2
118 The *Vidhura paṇḍita Jātaka*, Part (3). Right Corridor, CAVE 2
119 The *Vidhura paṇḍita Jātaka*, Part (4) Right Corridor, CAVE 2
120 The *Vidhura paṇḍita Jātaka*, Part (5) Right Corridor, CAVE 2.
121 Ceiling Decoration Back Corridor, CAVE 2
122 Ceiling Decoration Front Corridor, CAVE 2
123 Right Corridor and a Pillar, (from the Hall), CAVE 2
124 Back Corridor and a Pillar, (from the Hall), CAVE 2
125 Decorative Reliefs, Left Pilaster, Part Left Corridor, CAVE 2.
126 Decorative Reliefs, Left Pilaster, Part. Right Corridor, CAVE 2.
127 Reliefs. Left Part of the Main Entrance, CAVE 4 (Vihāra Cave).
128 Reliefs Right Part of the Main Entrance, CAVE 4.
129 Interior, CAVE 4.
130 Two Standing Buddhas (Relief) Left Wall, Antechamber, CAVE 4.
131 Buddha Triad (Sculpture), Part Inner Shrine, CAVE 4
132 Seated Buddha (Sculpture). Inner Shrine, (from the Hall), CAVE 4
133 Row of Pillars, Façade, CAVE 6 (Vihāra Cave)
134 A View of the Caves from CAVE 6
135 Sculptured Back Corridor and Inner Shrine, (from the Hall), Upper Story, CAVE 6
136 Seated Buddha, etc. (Sculpture) Inner Shrine, Upper Story, CAVE 6
137 Left Corridor, (from the Hall), Upper Story, CAVE 6
138 Buddha and Two Attendant Buddhas (Sculpture). Right Chapel, Front Corridor, Upper Story, CAVE 6
139 Row of Pillars, Façade, CAVE 7 (Vihāra Cave).
140 Thousand Buddhas (Relief), Part Left Wall, Antechamber, CAVE 7.
141 Left Part, Antechamber, CAVE 7.
142 Seated Buddha and Attendant Buddhas and Bodhisattvas (Sculpture). Inner Shrine, CAVE 7
143 Right Part, Antechamber, CAVE 7.
144 Seated Buddha (Sculpture). Inner Shrine, CAVE 11 (Vihāra Cave)
145 Three Varieties of Buddha Triad (Relief). Right Wall, Verandah, CAVE 11
146 Two Standing Buddhas (Sculpture). Right Wall, Court, CAVE 19
147 Façade, CAVE 19 (Caitya Cave).
148 Caitya and Rows of Pillars Interior, CAVE 19.
149 Yaksa and Multiple Buddhas (Sculpture) Upper Right, Façade, CAVE 19.
150 Multiple Buddhas in Various Attitude (Sculpture). Lower Right, Façade, CAVE 19
151 Nāga King and His Consort (Sculpture) Left Wall, Court, CAVE 19
152 Corpulent Yaksa (Sculpture) Upper Left, Façade, CAVE 19.
153 Decorative Reliefs of the Right Triforium Nave, CAVE 19.
154 Wall and Ceiling Left Aisle, CAVE 19
155 Inner Shrine and Antechamber, CAVE 20 (Vihāra Cave).
156 Reliefs Upper Left Corner, Façade, Antechamber, CAVE 20
157 Left Corridor, (from the Hall), CAVE 21 (Vihāra Cave)
158 Interior, (from the Right Corner, Left Corridor), CAVE 21
159 Right Part, Front Corridor, CAVE 23 (Vihāra Cave)
160 Decorative Reliefs, Left Pilaster, Part Left Corridor, CAVE 23
161 Decorative Reliefs, Right Pilaster, Part Verandah, CAVE 24
162 Façade, CAVE 24 (Vihāra Cave)
163 Left Part, Verandah, CAVE 24
164 Unfinished Part of the Floor, Hall, (from the Front Corridor), CAVE 24
165 Woman under Tree of a Pillar Bracket, Front Corridor, CAVE 26


ニューデリー
New Delhi
カルカッタ
Calcutta
アジャンタ Ajanta
オーランガーバード
Aurangabad
ボンベイ
Bombay
マドラス
Madras


左側廊 Left Aisle
第11窟
CAVE 11
第10窟 CAVE 10
祠堂窟 Caitya Cave
仏塔
Caitya
右側廊 Right Aisle
第12窟
CAVE 12
第14窟 CAVE 14
身廊
Nave
第9窟
CAVE 9
第13窟 CAVE 13


第17窟 CAVE 17
僧院窟 Vihara Cave
内堂 Inner Shrine
内堂前室 Antechamber
第16窟 CAVE 16
後廊 Back Corridor
広間
Hall
右廊
Right Corridor
左廊
Left Corridor
前廊
Front Corridor
Verandah
第18窟
CAVE 18
第15A窟
CAVE 15A


第3窟 CAVE 3
奥左祠堂 Left Inner Chapel
第2窟
CAVE 2
奥右祠堂 Right Inner Chapel
第1窟 CAVE 1

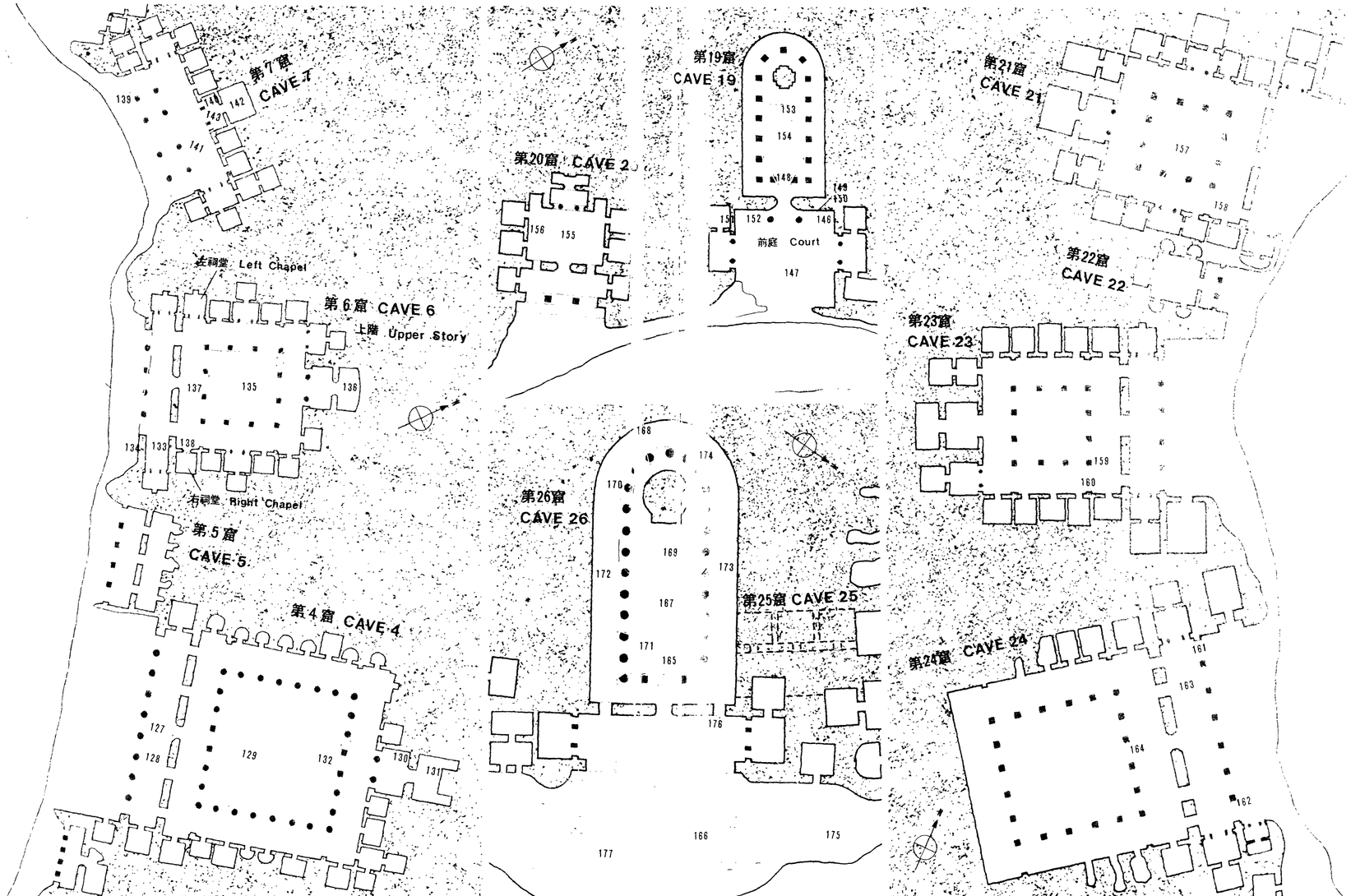
166 Façade, CAVE 26 (Caitya Cave).
167 Nave and Caitya — Interior, CAVE 26
168 Left Rear Side of the Caitya, CAVE 26.
169 Decorative Reliefs (Row of Seated Buddhas) of the Right Triforium, Nave, CAVE 26
170 Reliefs, Left Aisle, CAVE 26.
171 Buddha in Nirvāna, Part. Reliefs (1), Left Aisle, CAVE 26.
172 Māra's Attack. Reliefs (2), Left Aisle, CAVE 26.
173 Two Niches with Buddha Triad. Reliefs (1), Right Aisle, CAVE 26.
174 Multiple Buddhas — Reliefs (2), Right Aisle, CAVE 26.
175 A View of the Leftmost Caves beyond CAVE 26.
176 Buddhas, etc. (Relief). Upper Right, Façade, CAVE 26.
177 Multiple Buddhas (Relief). Upper Left, Façade, CAVE 26.
178 A Distant View of the Caves
179 Lenāpur Hamlet along the Source of the Waghorā River

Supplementary Plates

1 Worship of Bodhi-tree, Part — Left Aisle, CAVE 10
2 Story of the Conversion of Nanda, Part — Left Corridor, CAVE 16
3 The *Hasti Jātaka*, Part. Front Corridor, CAVE 16
4 A Flying Apsaras — Left Corridor, CAVE 16
5 Back Wall and Ceiling, Verandah, CAVE 17.
6 Ceiling Decoration, Part — Verandah, CAVE 17.
7 Ceiling Decoration, Part — Verandah, CAVE 17.
8 Flying Deities, Part. Verandah, CAVE 17.
9 The Upper Part of the Central Entrance, Verandah, CAVE 17.
10 Subjugation of the Mad Elephant, Part. Verandah, CAVE 17
11 Descent from the Heaven, Part — Left Wall, Antechamber, CAVE 17.
12 The *Śyāma Jātaka*. Back Corridor, CAVE 17
13 The *Mātṛposaka Jātaka*, Part. Back Corridor, CAVE 17.
14 The *Siṃhala Avadāna*, Part. Right Corridor, CAVE 17.
15 The *Haṃsa Jātaka*, Part. Left Corridor, CAVE 17.
16 Māra's Attack, Part — Left Wall, Antechamber, CAVE 1
17 Worshippers of Padmapāṇi (2) — Right Part, Back Corridor, CAVE 1.
18 Story of Amarā, or an Episode of the Story of Mahausadha — Left Part, Back Corridor, CAVE 1.
19 A Flying Celestial Couple (1) — Ceiling Decoration, Hall, CAVE 1.
20 A Flying Celestial Couple (2) — Ceiling Decoration, Hall, CAVE 1
21 Ceiling Decoration, Part. Hall, CAVE 1
22 Drinking Scene, Ceiling Decoration, Hall, CAVE 1
23 The *Vidhura paṇḍita Jātaka*, Part. Right Corridor, CAVE 2
24 The *Pārṇa Avadāna*, Part — Right Corridor, CAVE 2
25 Padmapāṇi — Left Part, Verandah, CAVE 11
26 Icons of the Seated Buddhas — Right Wall, Inner Shrine, CAVE 2
27 Left Part of the Back Wall and the Ceiling, Verandah, CAVE 2
28 A Pillar Capital and the Ceiling, Front Corridor, CAVE 19
29 Standing Buddhas — Relief — Right Corner, Court, CAVE 26

Text Figures

1 Ajanta Village: its Wall and the South Gate.
2 Sat kund, or Waterfall of Seven Leaps
3 The Earliest Inscription, CAVE 10
4 A Fragment of the Murals. (Probably from the CAVE 16) Museum of Fine Arts, Boston.
5 Chemical Treatment for the Murals. (Back Corridor, CAVE 17
6 Left Part, Back Wall of the Hall, CAVE 12
7 Caves of the Second Period
8 CAVE 1. Plan — (After J. Burgess).
9 Seated Buddha, Inner Shrine, CAVE 27
10 Left Part of the Entrance, CAVE 5.
11 Mourning Lay People. Relief on the Side of the Couch of the Buddha in Nirvāna. Left Aisle, CAVE 26.
12 A Pair of Dwarfish Yakṣas. Ceiling, Front Corridor, CAVE 16.
13 A Couple of Kiṃnaras — Ceiling, Front Corridor, CAVE 16.
14 Avalokiteśvara and Eight Scenes of Peril. Verandah, CAVE 4
15 Avalokiteśvara and Eight Scenes of Peril. Right Corner, Court, CAVE 26
16 Façade of the Left Chapel, Verandah, CAVE 23.
17 The *Śyāma Jātaka* (Earlier Painting). Right Aisle, CAVE 10
18 Right Triforium and Ceiling Decoration — Nave, CAVE 19
19 Descent from the Heaven — Left End, Back Wall, Verandah, CAVE 16
20 Flying Deities and the Ceiling Decoration — Verandah, CAVE 17.
21 The *Sutasoma Jātaka* — Consecration — Back Corridor, CAVE 17
22 The *Sutasoma Jātaka* — Hunting — Back Corridor, CAVE 17.
23 The *Mātṛposaka Jātaka*. Back Corridor, CAVE 17
24 The *Mahiṣa Bāhul Jātaka*. Right Wall, Back Corridor, CAVE 17.
25 The *Śibi Jātaka* (Alms giving of His Eyes) — Right Wall, Front Corridor, CAVE 17
26 Māra's Attack. Left Wall, Antechamber, CAVE 1
27 Painted Inscription ("Kṣāntivādih"). Left Chapel, Verandah, CAVE 2
28 Thousand Buddhas and Painted Inscriptions. Right Part, Back Wall, Antechamber, CAVE 2
29 (Upper and Left) The *Vidhura paṇḍita Jātaka* (Lower and Right) The *Pārṇa Avadāna* — Right Corridor, CAVE 2
30 The *Nirvāṇa maṇḍala*, or the "Wheel of Life". Left Wall, Verandah, CAVE 17
31 Worship (of Bodhi-tree?) by a Nāga King (Earlier Painting) Front Aisle, CAVE 9
32 The *Sadhanta Jātaka* (Earlier Painting) — Right Aisle, CAVE 10
33 The *Viśvantara Jātaka* — Left Corridor, CAVE 17.
34 The *Haṃsa Jātaka* — Left Wall, Front Corridor, CAVE 17
35 Female Worshippers — Left Wall, Inner Right Chapel, CAVE 2
36 Female Worshippers and Children — Right Wall, Inner Right Chapel, CAVE 2
37 Right Triforium and Ceiling Decoration — Nave, CAVE 26
38 Standing Buddha, painted on Pillar 6 of the Right Row, CAVE 10


第7窟
CAVE 7
第19窟
CAVE 19
第21窟
CAVE 21
第20窟 CAVE 2
前庭 Court
第22窟
CAVE 22
左祠堂 Left Chapel
第6窟 CAVE 6
上階 Upper Story
第23窟
CAVE 23
右祠堂 Right Chapel
第5窟
CAVE 5
第26窟
CAVE 26
第25窟 CAVE 25
第4窟 CAVE 4
第24窟 CAVE 24

高田 修

1907年[illegible]生まれ。1931年[illegible]東京帝国大学文学部考古学科[illegible]卒業。[illegible]立文化財研究所[illegible]を歴任、文化博士、[illegible]。

主な著書

『[illegible]』	1948
『[illegible]』(一)	1959
『[illegible]』	1967
『[illegible]』	1969

田枝幹宏

1920年[illegible]生まれ。1943年[illegible]

主な著書

『[illegible]』	1961
『[illegible]』	1965
『[illegible]』	1966
『[illegible]』	1966

アジャンタ　石窟寺院と壁画

昭和46年10月16日　第1版発行

定価　14,000円

著　者　高田　修
　　田枝幹宏

発行者　下中邦彦

発行所　株式会社　平凡社
　　東京都千代田区[illegible]1
　　郵便番号102
　　電話(03)265-0451(代表)

[illegible]

© 著者[illegible] 1971　© 平凡社[illegible] 1971

0071-237010-7600

14/6/76

"A book that is shut is but a block"

ARCHAEOLOGICAL LIBRARY

GOVT. OF INDIA
Department of Archaeology
NEW DELHI

help us to keep
d moving